

いち はら し だい い せき ち てん
市 原 市 台 遺 跡 B 地 点

(本 文 編)

2 0 0 3

市 原 市 教 育 委 員 会

序 文

市原市の北部、房総半島の中央を流れる養老川下流域北岸には、奈良時代に建立された上総国分寺があることから国分寺台と呼ばれる台地があります。この地には、縄文時代の西広・祇園原貝塚をはじめ数多くの遺跡があることが知られ、古来より生活の適所として市原の政治・文化の中心的な役割を担ってきた場所でした。

国分寺台に土地区画整理事業が計画されたのは、昭和45年のことです。これに伴って昭和47年から遺跡の発掘調査が始まりました。寺院、貝塚、古墳、集落と43の遺跡が調査され、この土地ばかりでなく、市原の歴史を解明するために役立つ数多くの成果を得ることができました。

台遺跡は市原市役所の北西に位置する、海岸平野に面した台地上にあり、三角形の台地上全面にわたって遺跡が広がっており、弥生時代から古墳時代後期にかけて続いた集落は、遺跡全体で700軒以上の住居跡となって残っていました。また、弥生時代の有力者の墓とされる方形周溝墓、地下式墳と呼ばれる中世の人々の墓やこれに伴う遺物も数多く発見されました。今回報告するのは、台遺跡B地点の発掘調査成果です。発掘調査は、遺跡の範囲が広いことから、いくつかの地点に分けて行うことになりましたが、B地点は遺跡の南西の一角にあたり、昭和50年に最初に調査を始めた場所になります。

遺跡の全体像は別地点の成果をまとめた、あと数冊の調査報告書を待たなければ明らかにできませんが、貴重な資料を少しでも早く世に送り出したいとの意図から、B地点の成果のみ先に刊行いたしました。本書が、研究者ばかりでなく、市民の方々に広く活用され郷土の歴史への理解を深めるための一助となることを願ってやみません。

最後に、遺跡の調査ならびに報告書刊行にあたって、多大なご尽力をいただきました文化庁文化財保護部記念物課、千葉県教育庁文化財課、旧市原市国分寺台土地区画整理組合、旧上総国分寺台遺跡調査団および財団法人市原市文化財センターをはじめとする関係各位に対しまして、深く感謝の意を表します。

平成15年11月

市原市教育委員会
教育長 山中 齊

例 言

- 1 本書は、市原市国分寺台土地区画整理事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 本書に所収したのは、千葉県市原市加茂字台地区（現市原市根田三丁目）所在の台遺跡B地点である。
- 3 発掘調査は市原市教育委員会が国庫補助事業として計画し、上総国分寺台遺跡調査団が昭和50・51年にわたって実施したものである。整理事業は、文化庁の国庫補助事業として国庫および県費の補助を受けた市原市教育委員会の委託により、財団法人市原市文化財センターが実施した。なお、報告書刊行については市原市教育委員会が行った。
- 4 発掘調査は滝口宏調査団長の指導のもとに、以下の期間、担当者がおこなった。
1次調査 調査期間 昭和50年9月～昭和51年3月 担当 米田耕之助・須田勉
2次調査 調査期間 昭和51年4月～昭和51年8月 担当 須田勉・半田堅三
- 5 整理作業は平成11・12・14年度にわたって半田堅三が担当しておこなった。
原稿の執筆は、第2章4d「台遺跡出土の縄文時代の土器」を、米田耕之助が、他を半田が行った。また中世陶磁器については、実測、時期判定等をセンター職員櫻井敦史が行った。
- 6 遺跡の調査コードは、058でB地点では058Bとなる。
- 7 遺物の注記番号は、058B-xxxxと調査コードの後に4桁の数字を付けて行っている。土器は図面内にポイントを落としているものに1001から、一部のカマド内出土土器は6100番台で取り上げているものもある。遺構一括資料として取り上げたものは袋単位で6001から、石器は2001から、鉄製品には3001から、土製品には4001から発見順に付けているが土器以外のものが6000番台で取り上げられているものも多い。また、破損したり擦れて消えているものもある。
- 8 本書で示す方位は磁北である。ただし、墳墓、溝の方位については座標北である。
- 9 本書で掲載した挿図の縮尺は、遺構に関しては住居跡・地下式竈1/80、カマド1/40、その他の遺構1/160、遺物に関しては、土器・土製支脚・砥石の一部1/4、その他の遺物1/2、第171図中世陶磁器1/3である。
- 10 本書で使用した地形図は、市原市発行1/25,000地形図1、1/3,000地形図21である。
- 11 調査の実施にかかる書類については良好なものが残されていないところから、事実経過については遺漏がある。その責については、整理担当者が負うものである。
- 12 出土遺物については市原市埋蔵文化財センターで保管している。
- 13 挿図中のスクリーントーンについては、今回の整理期間以前にスクリーントーンの張り込みが終わっている図はそのまま使用しており同一のスクリーントーンを全てに使うことができなかった。それぞれの図に応じて判断していただきたい。基本的には以下の通りである。

カマド (001号住居跡17ページ参照) カマドかの確定ができていなかったものについては粘土と同様

炉 (005号住居跡23ページ参照) 掘り込みが無いもの、2基の内浅く小さなものについては焼土と同様

焼土 細かいドット (001号住居跡17ページ参照)

粘土 円の散布 (027号住居跡39ページ参照)

貝層 三角の散布 (026号住居跡39ページ参照)

土器赤彩範囲は表面に、須恵器・陶磁器は断面にスクリーントーンを貼っている。

本文目次

序 文	序 文	1
例 言	例 言	1
目 次	目 次	1
序 章	序 章	1
1	遺跡の位置と環境	1
2	調査に至る経緯	5
第1章	住居跡	15
1	住居跡と出土土器	16
2	カマド	227
3	土器以外の住居跡出土遺物	261
a	土製支脚	261
b	管状土錘	268
c	土玉	268
d	紡錘車	269
e	棒状土製品	269
f	磨製石鏃	269
g	滑石製模造品	270
h	石製管玉	270
i	石製小玉	270
j	鉄製品	270
k	砥石	278
l	軽石	288
第2章	住居跡以外の遺構と遺物	291
1	墳墓	291
2	中世遺構	311
a	台地整形区画	311
b	地下式墳	312
c	中世陶磁器類について	320
3	溝状遺構	322
4	遺構外の遺物	325
a	土器片錘	325
b	石鏃等	325
c	石器	328
d	台遺跡出土の縄文時代の土器	340
終 章	終 章	350

表目次

表 1	周辺遺跡一覧表	2
表 2	遺構番号変更一覧表	9
表 3	土製支脚観察表	265
表 4	管状土錘観察表	271
表 5	土玉観察表	271
表 6	紡錘車観察表	272
表 7	石製品・土製品観察表	272
表 8	玉類観察表	272
表 9	鉄製品観察表	272
表10	砥石一覧表	281
表11	軽石一覧表	288
表12	墳墓一覧表	300
表13	墳墓出土土器観察表	301
表14	地下式墳一覧表	314
表15	中世遺構・溝出土土器一覧表	314
表16	石臼一覧表	314
表17	銭貨一覧表	314
表18	土器片錘一覧表	325
表19	石鏃等一覧表	325
表20	石器一覧表	329
表21	縄文式土器一覧表	342
表22	住居跡一覧表	353
表23	カマド一覧表	364
表24	住居跡出土土器観察表	371
表25	中世陶磁器観察表	429

挿図目次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第2図	遺跡の立地と調査区	4
第3図	調査区のグリッド配置	6
第4図	台遺跡全体図（折り込み）	7
第5図	遺構配置図（1） 1次調査南東部	11
第6図	遺構配置図（2） 1次調査南西部	12
第7図	遺構配置図（3） 1次調査北部・2次調査北西部	13
第8図	遺構配置図（4） 2次調査南東部	14
第9図	001号住居跡と出土土器	17
第10図	002号住居跡と001・002号住居跡出土土器	18
第11図	003・004号住居跡と003号住居跡出土土器	20
第12図	003・004号住居跡出土土器	21
第13図	005・006・012号住居跡と006号住居跡出土土器	23
第14図	007・008号住居跡と005・008・012号住居跡出土土器	24
第15図	009・011号住居跡と007・009・011号住居跡出土土器	26
第16図	010・013～016号住居跡	29
第17図	010・013～015号住居跡出土土器	30
第18図	016号住居跡出土土器	31
第19図	017号住居跡と出土土器	32
第20図	018～021号住居跡と018・019・021号住居跡出土土器	34
第21図	022～024号住居跡と022・024号住居跡出土土器	36
第22図	025号住居跡と025・026号住居跡出土土器	38
第23図	026～028号住居跡と026・027号住居跡出土土器	39
第24図	029～031号住居跡と028・029号住居跡出土土器	41
第25図	032号住居跡と030～033号住居跡出土土器	43
第26図	033～035・037・039・042～044号住居跡	45
第27図	034号住居跡出土土器	46
第28図	034・035・037・043号住居跡出土土器	47
第29図	036・041号住居跡と036・039・042号住居跡出土土器	49
第30図	038・040号住居跡と040号住居跡出土土器	51
第31図	045・046・048号住居跡と038・048号住居跡出土土器	52
第32図	045・046号住居跡出土土器	53
第33図	047・049・062・188号住居跡と047号住居跡出土土器	56
第34図	047号住居跡出土土器	57
第35図	047・049・062・188号住居跡出土土器	58
第36図	050～052号住居跡と050・051号住居跡出土土器	60
第37図	053・055号住居跡と052・053・055号住居跡出土土器	61
第38図	056・057号住居跡と055～057号住居跡出土土器	63
第39図	058・063・064号住居跡と058・064号住居跡出土土器	65
第40図	059～061号住居跡と059号住居跡出土土器	67
第41図	059～061号住居跡出土土器	68
第42図	066号住居跡と061・065～067号住居跡出土土器	70
第43図	068A・B～070号住居跡と068・069号住居跡出土土器	71
第44図	071・072A・B号住居跡	73
第45図	071・072・074号住居跡出土土器	74
第46図	073～077号住居跡	77
第47図	079号住居跡と075～077・079・080号住居跡出土土器	78
第48図	080～082号住居跡と081・082号住居跡出土土器	80
第49図	083・085～087号住居跡と083・085号住居跡出土土器	82
第50図	084号住居跡と084・089・092・093・096号住居跡出土土器	83
第51図	089・090・092～097号住居跡と097号住居跡出土土器	86
第52図	091・098・099・197号住居跡と091・098・099号住居跡出土土器	88
第53図	100号住居跡と出土土器	90
第54図	101・102・104号住居跡と出土土器	91
第55図	103号住居跡と103・106～108号住居跡出土土器	93
第56図	106～111・226号住居跡	95
第57図	109～111号住居跡出土土器	96
第58図	112・158～160・202号住居跡	99
第59図	112・158～160・202号住居跡出土土器	100
第60図	113～117・142号住居跡	103
第61図	114・115号住居跡出土土器	104
第62図	115・116・118・119・123・142号住居跡出土土器	105
第63図	118～124・205号住居跡	108

第64図	120～122・124・207号住居跡出土土器	109
第65図	125・126・206・207・335号住居跡と125号住居跡出土土器	111
第66図	127・128号住居跡と127・128・131・206・335号住居跡出土土器	113
第67図	129～132・208号住居跡と130・208号住居跡出土土器	115
第68図	129・132号住居跡出土土器	116
第69図	133・134・229号住居跡と出土土器	118
第70図	135・136・342号住居跡と136・342号住居跡出土土器	121
第71図	137・153・209・210・222・227号住居跡	123
第72図	138・139・151・152・225号住居跡と137・138・209号住居跡出土土器	125
第73図	140・141・150・228号住居跡と140・141号住居跡出土土器	127
第74図	144・150・161・228号住居跡出土土器	128
第75図	143・144・147・161・201・203・204号住居跡と147・203号住居跡出土土器	131
第76図	145・146・162・163・200号住居跡と201・204号住居跡出土土器	133
第77図	145・146号住居跡出土土器	134
第78図	148・149・162・163号住居跡出土土器	135
第79図	148・149・164号住居跡と164・200号住居跡出土土器	137
第80図	154・165～167号住居跡と166号住居跡出土土器	139
第81図	165・167号住居跡出土土器	140
第82図	155～157・168・169号住居跡と155号住居跡出土土器	143
第83図	156・168～170・220号住居跡出土土器	144
第84図	170・220・221号住居跡と171・172号住居跡出土土器	146
第85図	171・172・211・224号住居跡と211・224号住居跡出土土器	148
第86図	174～177号住居跡と174号住居跡出土土器	150
第87図	175・176号住居跡出土土器	151
第88図	178～180・214号住居跡と177号住居跡出土土器	153
第89図	181・182号住居跡と178～181・214号住居跡出土土器	155
第90図	182・184～186号住居跡出土土器	156
第91図	184～187・230号住居跡	158
第92図	189・190号住居跡と187・189・190号住居跡出土土器	160
第93図	191～193号住居跡と190・191・193号住居跡出土土器	162
第94図	194号住居跡と出土土器	164
第95図	195号住居跡と194号住居跡出土土器	165
第96図	196号住居跡と出土土器	166
第97図	212・213号住居跡と198・212・213号住居跡出土土器	168
第98図	215～217号住居跡と215・217号住居跡出土土器	170
第99図	219号住居跡と216号住居跡出土土器	172
第100図	218号住居跡と出土土器	174
第101図	236 A・B・241号住居跡と241号住居跡出土土器	176
第102図	236・243・244号住居跡出土土器	177
第103図	243・244 A・B・246～248号住居跡と247号住居跡出土土器	179
第104図	254・255・261号住居跡と254・261号住居跡出土土器	181
第105図	260・270・271・273号住居跡と260・273号住居跡出土土器	183
第106図	274号住居跡と270・271・274号住居跡出土土器	185
第107図	275～277号住居跡と出土土器	186
第108図	278・279号住居跡と278・280・283号住居跡出土土器	188
第109図	280 A・B・283～286号住居跡	191
第110図	284～287・289号住居跡出土土器	192
第111図	287～290号住居跡	194
第112図	291～293号住居跡と290・291号住居跡出土土器	196
第113図	295～299号住居跡と292・295～298号住居跡出土土器	198
第114図	300～302号住居跡と299号住居跡出土土器	200
第115図	300～302・306号住居跡出土土器	201
第116図	303～307号住居跡と303・304号住居跡出土土器	203
第117図	308～313号住居跡と308・313号住居跡出土土器	206
第118図	314～316号住居跡と311・312・316号住居跡出土土器	208
第119図	314・317～319・344号住居跡出土土器	209
第120図	317 A・B～321 A・B・344号住居跡	212
第121図	322・323号住居跡と321～323号住居跡出土土器	214
第122図	324・325・328・330号住居跡と330号住居跡出土土器	216
第123図	324・327号住居跡出土土器	217
第124図	327・336・347号住居跡と331号住居跡出土土器	219
第125図	331・332・334号住居跡と334号住居跡出土土器	221
第126図	337・338号住居跡と334・337・338号住居跡出土土器	223
第127図	340・341・343・345・346・348号住居跡と340・341・343号住居跡出土土器	225
第128図	001・002・004・007・009・010号住居跡カマド	229

第129図	012・015・016・018・022・025号住居跡カマド	231
第130図	026・030・033・034・035・038・045号住居跡カマド	233
第131図	046・047・050・053・060・068B号住居跡カマド	235
第132図	072B・073・076・079・081・085・091号住居跡カマド	238
第133図	097・098・100・101・102・103号住居跡カマド	240
第134図	104・106・107・110・112・115・116号住居跡カマド	243
第135図	122・123・125・128・131・139号住居跡カマド	245
第136図	140・144・145・149・163・165・172号住居跡カマド	247
第137図	182・184・186・189・190・192・193・194号住居跡カマド	251
第138図	195・196・216・218・236A・236B・243号住居跡カマド	253
第139図	247・248・255・261・270・274・284号住居跡カマド	255
第140図	286・291・295・299・301・302号住居跡カマド	257
第141図	322・323・324・327・341・342号住居跡カマド	259
第142図	土製支脚（1）	266
第143図	土製支脚（2）	267
第144図	管状土錘（1）	273
第145図	管状土錘（2）	274
第146図	土玉（1）	275
第147図	土玉（2）、石製紡錘車、土製紡錘車、石製品、土製品、玉類、鉄製品（1）	276
第148図	鉄製品（2）	277
第149図	砥石（1）	282
第150図	砥石（2）	283
第151図	砥石（3）	284
第152図	砥石（4）	285
第153図	砥石（5）	286
第154図	砥石（6）	287
第155図	軽石製品（1）	289
第156図	軽石製品（2）	290
第157図	1・9号方形周溝墓・1号墳	302
第158図	2・3・12号方形周溝墓	303
第159図	4・5号方形周溝墓・2・3号墳	304
第160図	6～8・10・11号方形周溝墓	305
第161図	13・14・20・21号方形周溝墓	306
第162図	15号方形周溝墓	307
第163図	16～18号方形周溝墓	308
第164図	1～3・5～7号方形周溝墓出土土器	309
第165図	9・13～16・18・19号方形周溝墓、1・2号墳出土土器	310
第166図	19号方形周溝墓、1～5号台地整形区画、1～5号地下式墳	315
第167図	2・4・5号台地整形区画出土遺物	316
第168図	1～4号地下式墳、1・3号地下式墳出土遺物	317
第169図	溝出土遺物	318
第170図	石臼、銭貨	319
第171図	台遺跡B地点出土の中世陶磁器	321
第172図	土器片錘	326
第173図	表採土器、打製石鏃等	327
第174図	石器（1）	330
第175図	石器（2）	331
第176図	石器（3）	332
第177図	石器（4）	333
第178図	石器（5）	334
第179図	石器（6）	335
第180図	石器（7）	336
第181図	石器（8）	337
第182図	石器（9）	338
第183図	石器（10）	339
第184図	縄文式土器（1）	343
第185図	縄文式土器（2）	344
第186図	縄文式土器（3）	345
第187図	縄文式土器（4）	346
第188図	縄文式土器（5）	347
第189図	縄文式土器（6）	348
第190図	縄文式土器（7）	349

図版編目次

図版1	001号住居跡（北から） 002号住居跡（南東から） 003号住居跡（東から） 004号住居跡（東から）	001号住居跡遺物出土 002号住居跡カマド 003号住居跡遺物出土 005号住居跡（東から）
図版2	006号住居跡（南東から） 009・010号住居跡（南東から） 011・018号住居跡（南東から） 012号住居跡（南東から）	007・008号住居跡（南東から） 011号住居跡（北東から） 011号住居跡遺物出土 012号住居跡遺物出土
図版3	013・015・016号住居跡（南西から） 013号住居跡遺物出土 015号住居跡（南東から） 016号住居跡（北西から）	013号住居跡（南東から） 013・015号住居跡（北東から） 016号住居跡（南東から） 016号住居跡カマド・遺物出土
図版4	014号住居跡（南東から） 019～021号住居跡（南東から） 022号住居跡カマド 025号住居跡遺物出土	017号住居跡（南東から） 022～024号住居跡（南東から） 025号住居跡（南東から） 025号住居跡カマド
図版5	026号住居跡（南東から） 026号住居跡カマド・遺物出土 028号住居跡（南東から） 030・031号住居跡（南東から）	026号住居跡貝層・カマド・遺物出土 027号住居跡（南東から） 029号住居跡（南東から） 030号住居跡遺物出土
図版6	032・034～037・040～044号住居跡（南東から） 045～049・062・188号住居跡（南東から）	
図版7	032号住居跡（南西から） 033・039号住居跡（南東から） 033～035号住居跡カマド 035号住居跡カマド	032号住居跡（南東から） 034～036・040・041号住居跡（南東から） 034号住居跡遺物出土 039号住居跡炉・遺物出土
図版8	037・044号住居跡（南東から） 038号住居跡カマド・遺物出土 043号住居跡（南から） 042号住居跡遺物出土	038号住居跡（南東から） 042・043号住居跡（南東から） 042号住居跡（南西から） 042号住居跡遺物出土
図版9	046・048・049号住居跡（南西から） 047・062・188号住居跡（南西から） 047号住居跡遺物出土 050・051・052号住居跡（南東から）	046号住居跡カマド 047号住居跡遺物出土 047号住居跡カマド・遺物出土 053号住居跡（南東から）
図版10	055号住居跡（南東から） 056・057号住居跡（西から） 058号住居跡（南東から） 064号住居跡から南東の遺構	056・057号住居跡（南東から） 058・063・064号住居跡（南東から） 058号住居跡遺物出土 056～058・063・064号住居跡（南西から）
図版11	063・064号住居跡（南東から） 064号住居跡（東から） 060号住居跡（南西から） 059・061号住居跡（南東から）	063号住居跡（北東から） 059～061号住居跡（南東から） 060号住居跡カマド 065・067号住居跡（東から）
図版12	066号住居跡（南西から） 068B号住居跡（北東から） 071・072号住居跡（東から） 072A号住居跡（南から）	066号住居跡（北西から） 068～070号住居跡（南東から） 072B号住居跡（南から） 072B号住居跡カマド
図版13	073号住居跡（南東から） 074・075号住居跡カマド・遺物出土 076・077号住居跡（東から） 079号住居跡（南から）	074・075号住居跡（南東から） 076・077号住居跡（北東から） 079号住居跡（南東から） 080～082号住居跡（南東から）
図版14	053・054・081～084号住居跡（南東から） 083・085～087・089～099・191～193・196・197号住居跡（東から）	
図版15	084号住居跡（南東から） 085号住居跡カマド 091号住居跡（南東から） 094～097号住居跡（南東から）	085号住居跡（南東から） 089・090・092・093号住居跡（南東から） 091号住居跡カマド 097号住居跡（南東から）
図版16	097号住居跡カマド・遺物出土 098号住居跡（南東から） 099・197号住居跡（西から） 101号住居跡（南東から）	097号住居跡カマド・遺物出土 098号住居跡カマド 100号住居跡（南西から） 101号住居跡遺物出土
図版17	101号住居跡カマド 102号住居跡（南東から） 102号住居跡カマド 103・195号住居跡（南東から）	101号住居跡カマド 102号住居跡カマド 102号住居跡カマド 103号住居跡カマド

図版18	106～111・226号住居跡・13号方形周溝墓（南東から）	
	040・112～117・127・128・142・158～160・185～187・230号住居跡（北東から）	
図版19	106号住居跡（南西から）	108～111・226号住居跡（南から）
	112号住居跡（南東から）	112号住居跡周辺の遺構
	113～117号住居跡（南東から）	118号住居跡（南西から）
	119号住居跡（北東から）	120・122号住居跡（南西から）
図版20	119～126・205号住居跡（南東から）	
	122・124・205号住居跡（南東から）	122号住居跡貝層
	122号住居跡カマド	122号住居跡カマド
図版21	125・126・206・207号住居跡（南東から）	127・128号住居跡（北東から）
	129～132・208号住居跡（南西から）	133・134・229号住居跡（北東から）
	133・134・229号住居跡（南東から）	134号住居跡遺物出土
	135～137・209・210・222号住居跡（南西から）	135・136・342号住居跡（南東から）
図版22	138・139号住居跡（南東から）	140号住居跡（南東から）
	140号住居跡カマド	140号住居跡カマド
	141・150・228号住居跡（南東から）	142～144A・B号住居跡（南東から）
	145・162・163号住居跡（南東から）	146号住居跡（南東から）
図版23	145号住居跡カマド	145号住居跡カマド
	145号住居跡カマド	147・203号住居跡（南東から）
	148・164・200号住居跡（南西から）	148・164・200号住居跡（南東から）
	149号住居跡（南東から）	149号住居跡カマド
図版24	149号住居跡カマド	149号住居跡カマド
	151・152・225号住居跡（西から）	153・222号住居跡（南東から）
	154・165～167・227号住居跡（南東から）	154・166・167号住居跡（南西から）
	155・156号住居跡（南東から）	157・168・169号住居跡（南東から）
図版25	158・159A・B・160・202号住居跡（南東から）	
	159A・B・160号住居跡（南西から）	158・159A・B号住居跡（南から）
	161・203・204号住居跡（南西から）	161号住居跡遺物出土
図版26	154・166・167号住居跡（南東から）	
	174～177・219号住居跡（南西から）	
図版27	165号住居跡（南西から）	168・169号住居跡（北西から）
	171・172・211・224号住居跡（南西から）	170・171・221号住居跡（南東から）
	174・177号住居跡（南西から）	176号住居跡（南西から）
	178号住居跡（南東から）	179A・B・180号住居跡（南東から）
図版28	181・182号住居跡（南西から）	182号住居跡カマド
	182号住居跡カマド	182号住居跡カマド
	184～187・230号住居跡（南東から）	184号住居跡（南西から）
	185・186号住居跡（南東から）	187・230号住居跡（南東から）
図版29	189・190号住居跡（南西から）	189・190号住居跡カマド
	190号住居跡カマド・断面	190号住居跡カマド
	194号住居跡（南東から）	194号住居跡（北東から）
	194号住居跡遺物出土	194号住居跡遺物出土
図版30	212・213号住居跡（南西から）	212号住居跡（南東から）
	214号住居跡（南東から）	215号住居跡（南東から）
	216・217号住居跡（南東から）	216号住居跡（南東から）
	216号住居跡遺物出土	216号住居跡カマド・遺物出土
図版31	218号住居跡（南西から）	218号住居跡カマド・遺物出土
	218号住居跡カマド・遺物出土	218号住居跡カマド・遺物出土
	218号住居跡カマド	218号住居跡カマド
	219号住居跡（南東から）	220号住居跡（南東から）
図版32	236A・B号住居跡（南東から）	236A号住居跡カマド・遺物出土
	241号住居跡（南東から）	243号住居跡（南東から）
	244A・B号住居跡（南東から）	246・247号住居跡（南東から）
	248号住居跡（南東から）	254・255号住居跡（南東から）
図版33	254・255号住居跡（北西から）	260号住居跡（南西から）
	261号住居跡（南東から）	261号住居跡（西から）
	270号住居跡（北西から）	270号住居跡（南西から）
	270号住居跡壁柱穴	270号住居跡壁柱穴
図版34	270号住居跡カマド	270号住居跡カマド
	270号住居跡カマド	270号住居跡カマド
	270号住居跡カマド	271号住居跡（南東から）
	273号住居跡（南東から）	271・273・274号住居跡（南東から）
図版35	274号住居跡（南東から）	274号住居跡カマド
	274号住居跡カマド	274号住居跡カマド
	275号住居跡（南東から）	276・277号住居跡（南東から）
	278・279号住居跡貝層	278・279号住居跡（南東から）

図版36	280A・B・283号住居跡（南東から） 284号住居跡（南西から） 284号住居跡遺物出土 284号住居跡カマド	280B号住居跡遺物出土 284号住居跡遺物出土 284号住居跡遺物出土 284号住居跡カマド
図版37	284～286号住居跡（南西から） 285号住居跡（南東から） 287・289号住居跡（東から）	286号住居跡（南東から） 288号住居跡（南東から） 289号住居跡遺物出土
図版38	289号住居跡遺物出土 290号住居跡（南東から） 293号住居跡（東から） 296号住居跡（南東から）	291・292号住居跡（東から） 295号住居跡（南東から） 297号住居跡（南東から） 299号住居跡（南東から）
図版39	298号住居跡（南から） 299号住居跡（北西から） 301号住居跡（南西から） 301号住居跡（南東から）	299～301号住居跡（南西から） 300・301号住居跡（南東から） 301号住居跡貯蔵穴 301号住居跡カマド
図版40	301号住居跡カマド 302号住居跡（南東から） 304・306・307号住居跡（南東から） 306・307号住居跡（南東から）	303号住居跡（南東から） 305号住居跡（南東から） 308・309号住居跡（南東から） 310～313号住居跡（南西から）
図版41	310～312号住居跡（南東から） 311号住居跡（南東から） 312・313号住居跡（南東から） 314号住居跡（南東から）	311・312号住居跡（南西から） 313号住居跡（南東から） 315・316号住居跡（南東から）
図版42	315～321・344号住居跡（南東から） 317A・B号住居跡（南東から） 319・320号住居跡（南西から）	318・344号住居跡（南東から） 321A・B号住居跡（南東から） 322号住居跡（南西から）
図版43	321A・B～323号住居跡（東から） 323号住居跡（南東から） 327・328号住居跡（南東から） 327号住居跡カマド	324・325号住居跡（南東から） 327・336号住居跡（南東から） 327号住居跡カマド
図版44	330号住居跡（南東から） 331・332号住居跡（南東から） 335号住居跡（南から） 337号住居跡遺物出土	331・332号住居跡（北西から） 334・343・346号住居跡（南東から） 337・338号住居跡（南東から） 340・341・345号住居跡（南東から）
図版45	1・9号方形周溝墓・1号墳・104号住居跡（南西から） 1号墳（南東から） 1号方形周溝墓北西溝 2号方形周溝墓（南東から）	1号墳（南西から） 1号墳東溝 2号方形周溝墓（南から） 3・12号方形周溝墓（南東から）
図版46	2号方形周溝墓主体部 3号方形周溝墓（南東から） 4・5号方形周溝墓・2号墳（東から） 5号方形周溝墓・2号墳（北東から）	12号方形周溝墓北溝 4・5号方形周溝墓・2号墳（西から） 5号方形周溝墓・2号墳（北西から） 5号方形周溝墓北東溝・2号墳北溝
図版47	5号方形周溝墓西溝・2号墳南溝 2号墳土層断面 6・7・8号方形周溝墓（北東から）	11号方形周溝墓北東溝・2号墳南溝 6号方形周溝墓北東溝（北東から） 6号方形周溝墓遺物出土
図版48	6号方形周溝墓遺物出土 6号方形周溝墓遺物出土 13号方形周溝墓南東溝 13号方形周溝墓北東溝	7・8号方形周溝墓（西から） 13号方形周溝墓北西溝 15号方形周溝墓（南から）
図版49	15号方形周溝墓（西から） 16号方形周溝墓（北西から） 16号方形周溝墓（南西から） 16・18号方形周溝墓	16号方形周溝墓（西から） 16号方形周溝墓遺物出土 18号方形周溝墓（南西から） 19号方形周溝墓北西溝（南東から）
図版50	17号方形周溝墓主体部（北東から） 19号方形周溝墓北西溝（北西から） 3号墳（南西から） 1号溝（北東から）	20・21号方形周溝墓（南西から） 1・7号溝（南西から） 2号溝西端（南西から）
図版51	2号溝中央部（東から） 3号溝中央部（南西から） 4号溝北側（南から） 11・12号溝（南西から） 12号溝（南西から）	3号溝北端（南西から） 10号溝（南西から） 11号溝（南西から） 12号溝土層断面
図版52	1・2・3・4号台地整形区画（北西から） 2号台地整形区画土層断面 2号台地整形区画・3号地下式墳（北東から）	6号溝・1・2号台地整形区画・4号地下式墳縦坑 1・2号台地整形区画・3号地下式墳（南西から） 2号台地整形区画・3号地下式墳（南西から）
図版53		

図版54	2号台地整形区画・3号地下式墳（北西から） 1号地下式墳（北東から） 1号地下式墳（北西から） 3号台地整形区画内ピット	3号地下式墳（北東から） 1号地下式墳縦坑（南西から） 2号台地整形区画内土坑・ピット 2号地下式墳（南東から） 4号地下式墳縦坑（北西から）
図版55	2号地下式墳土層断面（北東から） 4号地下式墳東壁北側 4号地下式墳北壁東側上 4号地下式墳北壁東側下 4号地下式墳西壁南側	4号地下式墳東壁南側 4号地下式墳北壁西側上 4号地下式墳北壁西側下 4号地下式墳西壁北側 4号地下式墳南壁西側上 4号地下式墳南壁西側下 4号地下式墳天井北側内 4号地下式墳天井南側外
図版56	4号地下式墳南壁東側上 4号地下式墳南壁東側下 4号地下式墳天井北側外 4号地下式墳天井南側内	3号台地整形区画土層断面 3号台地整形区画（西から） 3・4号台地整形区画（北東から） 5号台地整形区画・5号地下式墳（北西から）
図版57	3号台地整形区画（南西から） 3号台地整形区画（北西から） 3・4号台地整形区画（南東から） 5号台地整形区画（南から）	
図版58	001・002・003号住居跡出土土器	
図版59	003・004・005・006・007・011・012・013号住居跡出土土器	
図版60	013・014・015・016・017・019号住居跡出土土器	
図版61	022・024・025・026・027・028号住居跡出土土器	
図版62	029・030・031・032・033・034号住居跡出土土器	
図版63	034・035・037・038・039・040・042号住居跡出土土器	
図版64	042・043・045・046・047号住居跡出土土器	
図版65	047号住居跡出土土器	
図版66	048・050・051・052・053・055・056・057・058・059号住居跡出土土器	
図版67	060・061・062・064・065・066・067・068号住居跡出土土器	
図版68	068・072・074・075・076・077・079・080・081・082号住居跡出土土器	
図版69	083・084・085・091・092・097・100号住居跡出土土器	
図版70	100・101・102・104・106・107・108・109・110号住居跡出土土器	
図版71	112・114・115・116号住居跡出土土器	
図版72	116・118・119・120・121・122・123・124・125・127号住居跡出土土器	
図版73	128・129・131・132・136号住居跡出土土器	
図版74	134・137・140・142・144・145号住居跡出土土器	
図版75	145・146・148・149号住居跡出土土器	
図版76	149・150・155・156・158・159・161・162・163号住居跡出土土器	
図版77	163・165・169・170号住居跡出土土器	
図版78	166・167・168・172・174・175・176号住居跡出土土器	
図版79	176・177・178・179・180・181・182・184号住居跡出土土器	
図版80	185・186・187・188・189・190・191・193号住居跡出土土器	
図版81	194号住居跡出土土器	
図版82	194・196・201・202号住居跡	
図版83	198・200・203・204・206・209・211・212・214・216号住居跡出土土器	
図版84	216・218号住居跡出土土器	
図版85	218・220・224・228・229・236・241・243・244・247号住居跡出土土器	
図版86	247・260・270・271・274・276・278・280・283号住居跡出土土器	
図版87	284・286・287・289・290・291・292・295・297・300・301号住居跡出土土器	
図版88	299・302・303・306・308・311・312・313・314・316・317・318号住居跡出土土器	
図版89	318・319・321・322・324・327号住居跡出土土器	
図版90	330・331・334・335・338号住居跡出土土器	
図版91	337・342・343・344号住居跡、3・5・6・7・13号方形周溝墓出土土器	
図版92	9・14・15・16号方形周溝墓、1・2号墳、溝、地下式墳出土土器	
図版93	土製支脚（1）	
図版94	土製支脚（2）、管状土錘	
図版95	土玉、土製品、石製品、玉類、石臼	
図版96	鉄製品	
図版97	砥石（1）	
図版98	砥石（2）	
図版99	軽石製品	
図版100	中世陶磁器、銭貨	
図版101	土器片錘、石器（1）	
図版102	石器（2）	
図版103	縄文式土器（1）	
図版104	縄文式土器（2）	
図版105	縄文式土器（3）	

序 章

1 遺跡の位置と環境

東京湾に流入する養老川が大きく南に屈曲する部分の北側で、西は海岸平野に面する南北2.8km、東西2kmほどの範囲は上総国分寺が所在することから国分寺台と呼ばれ区画整理事業に先立つ発掘調査で多くの遺跡が明らかになっている。その中で、台遺跡はJR内房線五井駅から2kmほど離れた標高20m弱の台地上に位置する（第1図1）。台地は北から南に入る谷と西から東への谷に区画された南北500m、東西380mの三角形で中央を北西から南東に道路で二つに分けられている。この道路から南をB地点、北をA地点として調査を始め、後に台地東の付け根部分をC地点、A地点北西の小さな区域をD地点、さらに北側の台地先端までをE地点として調査が行われた（注1）。

周辺の遺跡としては南西に隣接する南北200m、東西250mの独立丘陵上にある根田代遺跡（第1図2）、谷を挟んだ南の御林跡遺跡（第1図3）、さらにその南の根田遺跡（第1図4）、南東には長平台遺跡（第1図5）、加茂遺跡C地点（第1図6）がある。東の谷を挟んだ台地上には加茂遺跡A・B地点（第1図7）がある。根田代遺跡は弥生時代中期の環濠が調査され当該期の住居から古墳時代前期までの集落と古墳時代前期以後の墓域になっている。御林跡遺跡は弥生時代中期から古墳時代後期の集落を中心に方形周溝墓があり、南には根田古墳群がある。南東の長平台遺跡は弥生時代中期から古墳時代前期の集落と弥生時代後期以後の方形周溝墓、初期の古墳が検出されている。加茂遺跡C地点は古墳時代前期の方墳1基と弥生時代後期の住居跡がわずかに検出されている。御林跡遺跡と長平台遺跡は間が調査されていないが地形から見て一つながりの集落と考えられ東西500mを超える大集落となる。加茂遺跡C地点がその東端である。

東の谷を隔てた台地上の加茂遺跡A・B地点は弥生から古墳時代後期までの集落と中世の遺構が検出されている。加茂遺跡については近年南東に離れた地点で加茂遺跡D地点（第1図9）の調査が行われ、加茂遺跡A・B地点と同様の集落遺跡であることから加茂遺跡の広がり把握されている。

南に1kmほど離れた養老川に面する台地上に諏訪台古墳群・天神台遺跡（第1図8）がある。弥生から古墳時代の集落と古墳群が調査され、南から入る谷に面した斜面に台地整形が認められ上段に2基の地下式壙を中心とした土坑群、谷底に近いところに銭貨を伴う長方形の土坑群が検出されている。

長平台遺跡の南東から広がる上総国分僧寺跡（第1図10）は伽藍跡の下層から西の一帯に弥生時代から古墳時代にかけての集落が広がる。また東側には僧寺造営を担ったといわれる荒久遺跡がある。

僧寺の南、天神台遺跡の北東では古墳時代前期の集落を中心とする蛇谷遺跡（第1図11）がある。

加茂遺跡の東には上総国分尼寺跡（第1図12）があり、下層に祇園原貝塚（第1図13）がある。ここでは縄文期の集落・貝塚の後に弥生時代中期を中心とした集落が営まれている。この弥生からの集落は南東の南祇園原遺跡（第1図14）まで続いている。ここには弥生時代後期から古墳時代前期にかけての方形周溝墓も見つかっている。また尼寺の北側には坊作遺跡がある。弥生時代後期の集落と奈良・平安時代の集落遺跡で奈良三彩の小壺の出土で有名である。

加茂遺跡の所在する台地の北東に隣接する台地上には向原台遺跡（第1図15）・東向原遺跡（第1

図16)がある。弥生時代中期から始まる集落が主体の遺跡である。

さらに東に移ると「王賜銘」鉄剣で有名な稲荷台遺跡・古墳群（第1図17）がある。

南の、現在は山倉ダムとなっている谷の上に表通（第1図18）・大山台（第1図19）・大塚台（第1図20）の3遺跡がある。地籍と調査年度などで三つに分かれるが谷を抱え込む形で形成された弥生時代からの集落遺跡である。谷に下った斜面部まで住居跡が続いている。

東向原遺跡の北西に、人面付土器が出土していることで有名な三島台遺跡（第1図21）がある。

北の独立丘陵上にある白船城跡（第1図22）は、地下式壙、土坑といった中世遺構が多く検出されているが、丘陵中心の平坦面に弥生期の集落がある。白船城跡の南から南下する谷の奥には唐崎台遺跡（第1図23）がある。弥生時代後期を中心とした集落遺跡である。また、南東に1.8kmほど離れた西広貝塚は古墳時代前期の集落遺跡でもあり、この方向への集落の分布を知る資料となっている。

根田代遺跡の環濠集落の墓域としては、台遺跡B・C地点にある方形周溝墓が、台遺跡B・C地点にある環濠内の集落については台遺跡A・E地点の方形周溝墓が考えられる。御林跡遺跡を南西から北東に抜ける古代の溝は谷を越えて台遺跡C地点で直角に東に曲がる。台遺跡B・C地点で3本の溝で構成される区画溝も北の台遺跡A地点まで続いている。

台遺跡B地点で弥生時代中期に始まった集落は、弥生時代後期で遺構数を最大にし、古墳時代前期に続くが古墳時代中期にかけて遺構が見られなくなる。古墳時代中期後葉にまた集落が営まれ、8世紀初頭まで続く。集落はこの後、荒久遺跡や坊作遺跡などに移動するのか姿を見せなくなる。以後は東側のA地点に近い部分で中世の台地整形区画と地下式壙などの中世遺構が認められる。

A地点はB地点から続く集落が広がるとともに、中央に中世の遺構が数多く検出される広い台地整形がある。地下式壙、長方形土坑の他、人骨を納めた常滑大甕を埋納した円形土坑、火葬骨を灰、木炭とともに納めた大形の長方形土坑などがあった。

E地点は北端まで南から続く集落があるが、古墳時代に円墳、方墳、前方後円墳で構成される古墳群が築造されている。また北端の古墳に囲まれた範囲が中世以降の墓域になっており、人骨の残る土坑、火葬跡、甕棺墓等多種の遺構が見られるが地下式壙はない。

C地点は、B地点から続く集落が広がり、南東部で遺構の密度が薄くなることから、北と西から入る谷により幅の狭くなっているこの付近が集落の限界となる。南東では谷の斜面で数段の台地整形が行われ、上段に地下式壙と長方形土坑、下まで土坑などの中世の遺構が造られている。

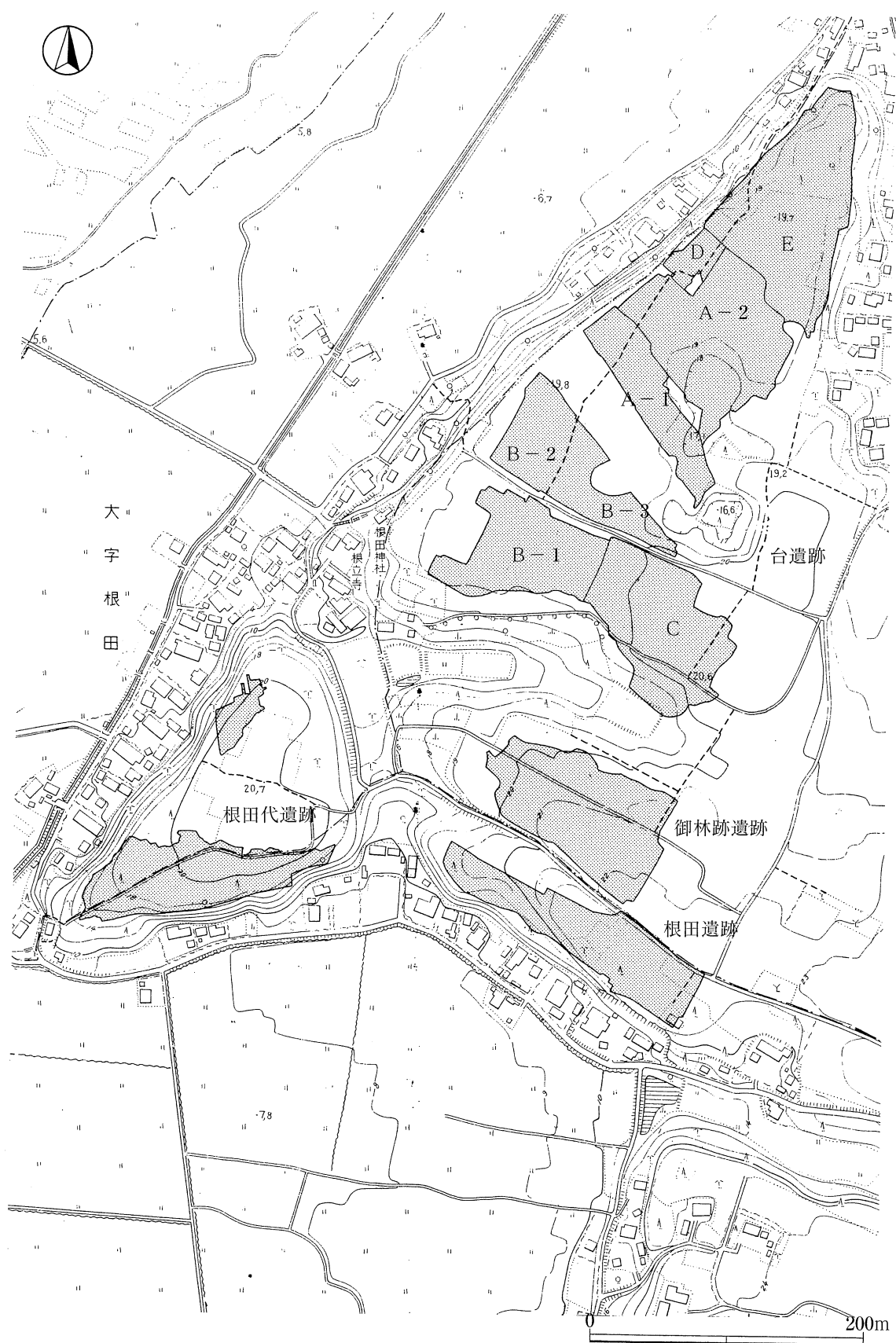
このように南を養老川、西を白船城跡から山倉ダムに向かう谷に区画された台地上は、弥生から奈良・平安時代の集落遺跡が他の地区とは比べることのできないほどの密度で集中しており、各時代の変遷をたどることのできるどころである（注2）。市原市の中心として開発が進み、多くの遺跡が調査されているがわずかの遺跡が報告されただけで、大部分の整理報告の作業は始まったばかりで以後の展開を待つばかりである（注3）。

表1 周辺遺跡一覧表

	遺跡名	性格		遺跡名	性格		遺跡名	性格
1	台遺跡B地点	集落・墳墓	9	天神台遺跡	寺跡・集落	17	稲荷台遺跡	集落・墳墓
2	根田代遺跡	集落・墳墓	10	上総国分僧寺跡	寺跡・集落	18	表通遺跡	集落
3	御林跡遺跡	集落・墳墓	11	蛇谷遺跡	集落・墳墓	19	大山台遺跡	集落・墳墓
4	根田遺跡	集落・墳墓	12	上総国分尼寺跡	寺跡・集落	20	大塚台遺跡	集落・墳墓
5	長平台遺跡	集落・墳墓	13	祇園原貝塚	貝塚・集落	21	三島台遺跡	集落
6	加茂遺跡C地点	集落・墳墓	14	南祇園原遺跡	集落・墳墓	22	白船城跡	城跡・集落
7	加茂遺跡A・B地点	集落・墳墓	15	向原台遺跡	集落・墳墓	23	唐崎台遺跡	集落
8	加茂遺跡D地点	集落・墳墓	16	東向原遺跡	集落・墳墓	24	西広貝塚	貝塚・集落



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 遺跡の位置と調査区

2 調査に至る経緯

上総国分寺が台地上にあることから、国分寺台地区と称して区画整理が始まったのは昭和40年代後半のことだった。上総国分僧寺、上総国分尼寺をはじめ西広、祇園原の大規模な貝塚、多くの古墳群とともに台地上の平坦地ほぼ全てにわたり集落跡があることがわかり、市原市国分寺台遺跡調査会が設立され調査を開始したのは昭和47年のことだった。開発の進捗にあわせ、台地の西の大字加茂の台地区を中心とした地の調査が昭和50年に始まった。

調査は1次調査を50年9月に始め、翌51年度に2次調査を行った。50年11月までが米田耕之助、以後を須田勉が担当した。

昭和50年度の調査は、表土の除去の都合によって細い道路の南側から調査を開始し001号住居跡から住居跡を中心に掘りはじめた（第2図B-1）。104号住居跡まで調査したところで道路の北側へ調査の場を移し187号住居跡までを調査した（第2図B-2）。作物の都合でできなかった部分をはじめ各遺構の間に見落としがないかを探し189から230号住居跡までを掘り上げた。

昭和51年度は道路の入口に近い北側部分を調査し231号遺構から348号遺構までを調査した（第2図B-3）。初年度は住居跡とそれ以外の遺構の遺構番号を変えて付けていたが、2年度目は確認した順に全ての遺構に通し番号を付けている。

遺構番号を、調査の順序に従って付けていることと遺構数が多く、変更すると照合が困難になることから、報告書作成にあたり住居跡の番号については変更しなかった。ただ当時一桁から三桁まで使っていたものを001の様に頭に0を付けて桁を統一した。

住居以外の遺構については1号溝が250号遺構、16号方形周溝墓では溝に252・258、主体部に265号遺構などと番号が付けられているなど同じ遺構に複数の遺構番号が割り当てられているため、報告書作成にあたって1号墳、1号方形周溝墓、1号溝などと遺構の性格別に遺構番号を設定した。

整理作業によって、当初2軒としていたものが1軒になったもの、逆に1軒が2軒になった住居跡がある。1軒になったものについては、若い番号を優先させ後の番号を欠番としている。また2軒になったものは、新番号を付けずにA・Bを遺構番号の後に付けた。また柱穴の建て替えなどは別の遺構とはせず、遺構説明の中で適宜行っている。

遺構番号の変更については、1次調査は後の検討で変更になったもの、2次調査は住居跡以外の番号変更をその理由とともに表にしている（表2）。

第3図で公共座標に基づくグリッドがあるようだが、当時は平板で五百分の一の遺構分布図を作っている部分、基準杭を任意に打ってそれを平板で測量したものと遺構図を合成するようにした部分などがありそこから漏れている遺構もある。地図へ入れ込むにも地境杭や電柱などを平板に入れそれをもとに図をつないでいた。空中写真の撮影も行っていない。

後にC地点・E地点調査の際に公共座標に基づく杭が設置されたのでその間で案分して図を地形図に収めグリッドを被せたものでどの程度の誤差があるのかは実証できない。

遺物は発掘直後に水洗・注記がされており報告書への掲載は遺構番号通りにした。ただ重複する複数の遺構で明らかに遺構に伴わない遺物もあり、それについては出土遺物の項で記述している。

遺構実測図に標高の記入がなく、絶対高はほとんどの遺構で明らかにできない。また一部引き継ぎの際の不手際でレベルを計測していない図面もある。またレベルを測っていても、エレベーションを



第3図 調査区のグリッド配置

予定したラインのみの例もある。遺構の深さはそのために写真で見ての深いか浅いかの段階で終わるものもある。カマドの実測を行ったものではカマドの高さを住居跡の深さとしている。

カマドについては残りのよいものはほとんど実測を行ったが遺構の実測、写真等が終わってから行っており、大部分で実測のポイントなどは遺構平面図に入っていない。水平は水準器で合わせている。

できるだけ多くの資料を残そうという方針で、今回の整理以前に実測していた住居跡出土の土器については遺構番号の明記してあるもの全てを掲載することにした。しかし、遺物が全て残されていれば旧実測図と照合できるのだが、昭和56年度に調査事務所の移転があり、昭和62年には房総沖地震で、復元の済んでいた土器の多くが割れるという事故が起こるなど所在が不明瞭になったものもある。底部破片や坏口縁部破片などは小片で同定できないものもあった。できるだけ照合作業は行ったが、遺物と照合できなかったものについては、同一個体を複数回実測しているもの、接合前と接合後に実測しているものがあり、一部に確定したものもあるが、不確定なものは双方ともに掲載している。このような図の誤認などの可能性のあるものについても巻末の表24に記述している。

表2 遺構番号変更一覧表

旧番号	変更理由		
040・105号住居跡	道を隔てた大形の住居跡であることが分かり040号住居跡として105は欠番とする		
068号住居跡	カマドが北東壁から北西壁に造り替えられており、068A・068B号住居跡の2軒とする		
072号住居跡	柱穴・カマドともに一回り大きく建て替えられており、072A・072B号住居跡の2軒とする		
078号住居跡	076号住居跡南東部の削平を住居跡として番号を付けたが台地斜面の傾斜のために欠番とする		
084・088号住居跡	住居掘形と奥壁の段を一段深い住居跡と誤認。084号住居跡として088は欠番とする		
144号住居跡南東部	143号住居跡の南東コーナーと考え番号がなかったが図面から別の住居とする。144B号住居跡とする		
159号住居跡	炉に貼床をし東に移動。柱穴も東に移す。159B・159A号住居跡の2軒とする		
173号住居跡	グリッド1ー24の黒色土を住居跡として掘ったが遺構ではなく埋め戻している。欠番とする		
179号住居跡	北西壁側に小形の住居跡が重複していることが分かり179A・179B号住居跡の2軒とする		
183号住居跡	住居跡としたが輪郭は浅い擾乱で下に溝状遺構が出て調査をやめた。14号方形周溝墓の北西溝の一部であることが分かった。欠番とする		
223号住居跡	どの遺構に付けたか分からない。欠番とする		
236号住居跡	北東カマドの住居跡を北西カマドの小形の住居跡が削平していることが分かり、236A・236B号住居跡の2軒とする		
244号住居跡	拡張のある弥生時代中期の住居跡上に古墳時代前期の住居跡があることが図と遺物の検討で分かり、244A・244B号住居跡の2軒とする		
280号住居跡	床面レベルのほとんど同じ住居跡の重複で、280A・280B号住居跡の2軒とする		
317号住居跡	炉上に焼土があり、北東側が一段高くピットがある。床面の軟弱な古墳時代前期の住居跡のため317A・317B号住居跡の2軒とする		
321号住居跡	左奥柱穴に接して炉があり、南西壁外に床が続く、重複する新しい時期の住居跡として321A・321B号住居跡の2軒とする		
旧番号	新名称	旧番号	新名称
231号遺構	6号溝	258号遺構	16号方形周溝墓西溝
232号遺構	19号方形周溝墓	259号遺構	7号溝
233号遺構	1号台地整形区画	262号遺構	18号方形周溝墓西溝
234号遺構	2号台地整形区画	263号遺構	17号方形周溝墓北東溝
235号遺構	1号地下式竈	264号遺構	7号溝と重複するピット、欠番とする
237号遺構	2号地下式竈	265号遺構	16号方形周溝墓主体部
238号遺構	3号台地整形区画	266号遺構	17号方形周溝墓主体部1
239号遺構	3号地下式竈	267号遺構	17号方形周溝墓主体部2
240号遺構	4号地下式竈	268号遺構	17号方形周溝墓南西溝
242号遺構	4号台地整形区画	269号遺構	4号溝
245号遺構	5号台地整形区画	272号遺構	9号溝
249号遺構	浅い擾乱状の土坑、欠番とする	281号遺構	15号方形周溝墓主体部
250号遺構	1号溝	282号遺構	15号方形周溝墓溝
251号遺構	5号地下式竈	294号遺構	10号溝
252号遺構	16号方形周溝墓北溝	326号遺構	11号溝
253号遺構	時期不明のピット、欠番とする	329号遺構	13号溝
256号遺構	8号溝	333号遺構	12号溝
257号遺構	18号方形周溝墓南溝	339号遺構	14号溝

注・引用・参考文献

注1 国分寺台地区の遺跡については、調査年度ごとに「上総国分寺台調査概要」「上総国分寺台調査概報」の2種の概報に各年度の概要が載せられている。ここでは主要なもののみを挙げている。

米田耕之助・半田堅三 1976 「台遺跡B地点の調査」『上総国分寺台調査概要Ⅱ』 上総国分寺台遺跡調査団

半田堅三 1976 「台遺跡B地点の調査」『上総国分寺台調査概要Ⅲ』 上総国分寺台遺跡調査団

半田堅三 1977 「台遺跡B地点の調査」『上総国分寺台調査概報』 上総国分寺台遺跡調査団

矢島一馬 1979 「御林跡遺跡の調査」『上総国分寺台調査概要』 上総国分寺台遺跡調査団

浅利幸一 1981 「根田遺跡の調査」『上総国分寺台調査概報』 上総国分寺台遺跡調査団

半田堅三・白井久美子 1982 「長平台遺跡の調査」『上総国分寺台調査概報』 上総国分寺台遺跡調査団

注2 上総国分寺台の調査報告書は、調査期間には4冊しか上梓できず、それぞれ早稲田大学出版から刊行されている。以後については財団法人市原市文化財センターから順次刊行されている。

米田耕之助他 『西広貝塚』 上総国分寺台遺跡調査報告Ⅲ 上総国分寺台遺跡調査団

須田勉・新田栄治 『蛇谷遺跡』 上総国分寺台遺跡調査報告Ⅳ 上総国分寺台遺跡調査団

忍澤成祝 1999 『祇園原貝塚』 上総国分寺台遺跡調査報告Ⅴ 財団法人市原市文化財センター

小出紳夫 2002 『坊作遺跡』 上総国分寺台遺跡調査報告Ⅵ 財団法人市原市文化財センター

高橋康男 2002 『市原市向原台遺跡・東向原遺跡』 上総国分寺台遺跡調査報告Ⅶ 財団法人市原市文化財センター

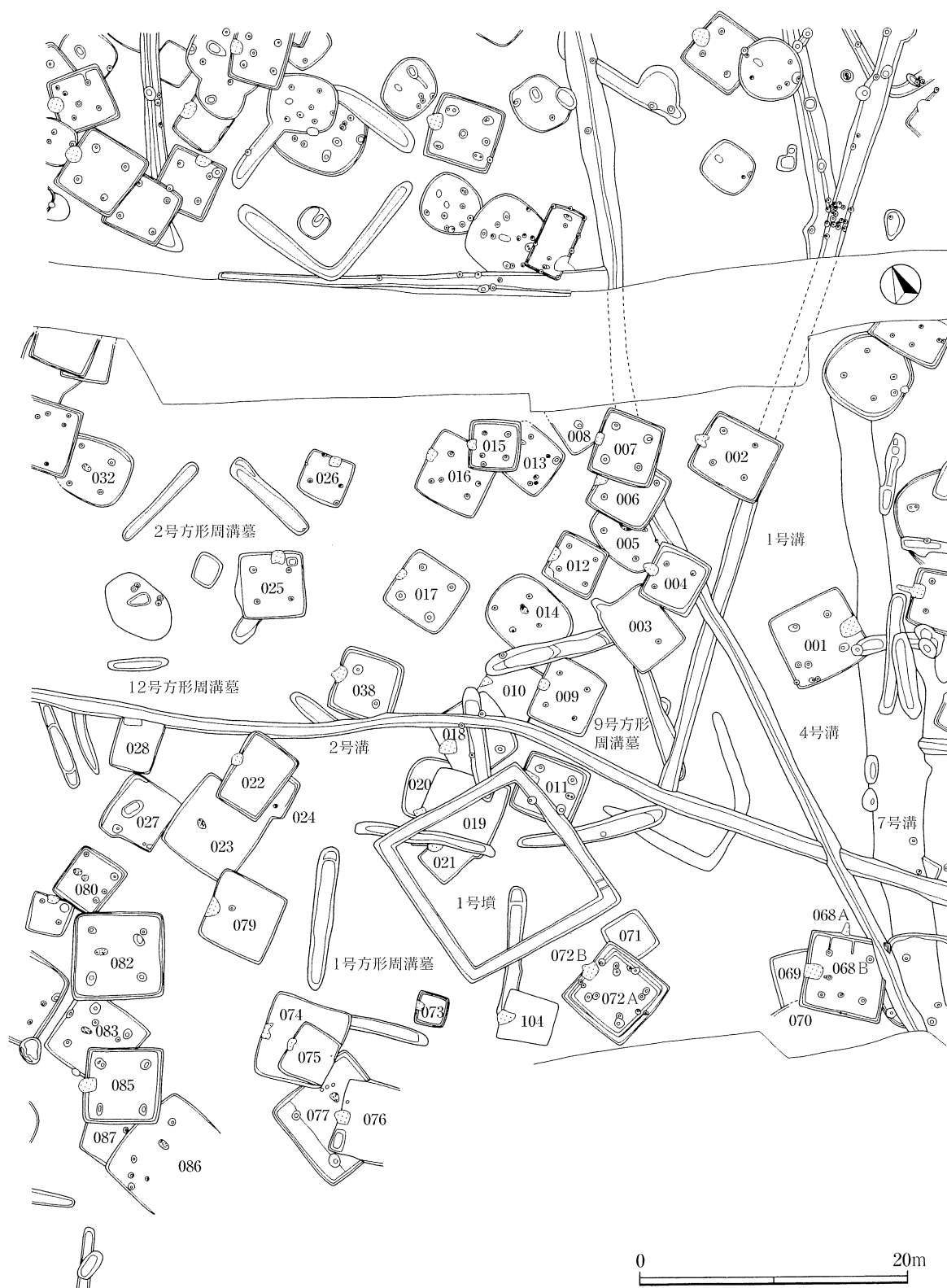
赤橋康男・櫻井敦史 2002 『市原市南祇園原遺跡・持塚5号墳・上神台塚群』 上総国分寺台遺跡調査報告Ⅷ 財団法人市原市文化財センター

浅利幸一 2003 『市原市稲荷台遺跡』 上総国分寺台遺跡調査報告Ⅸ 財団法人市原市文化財センター

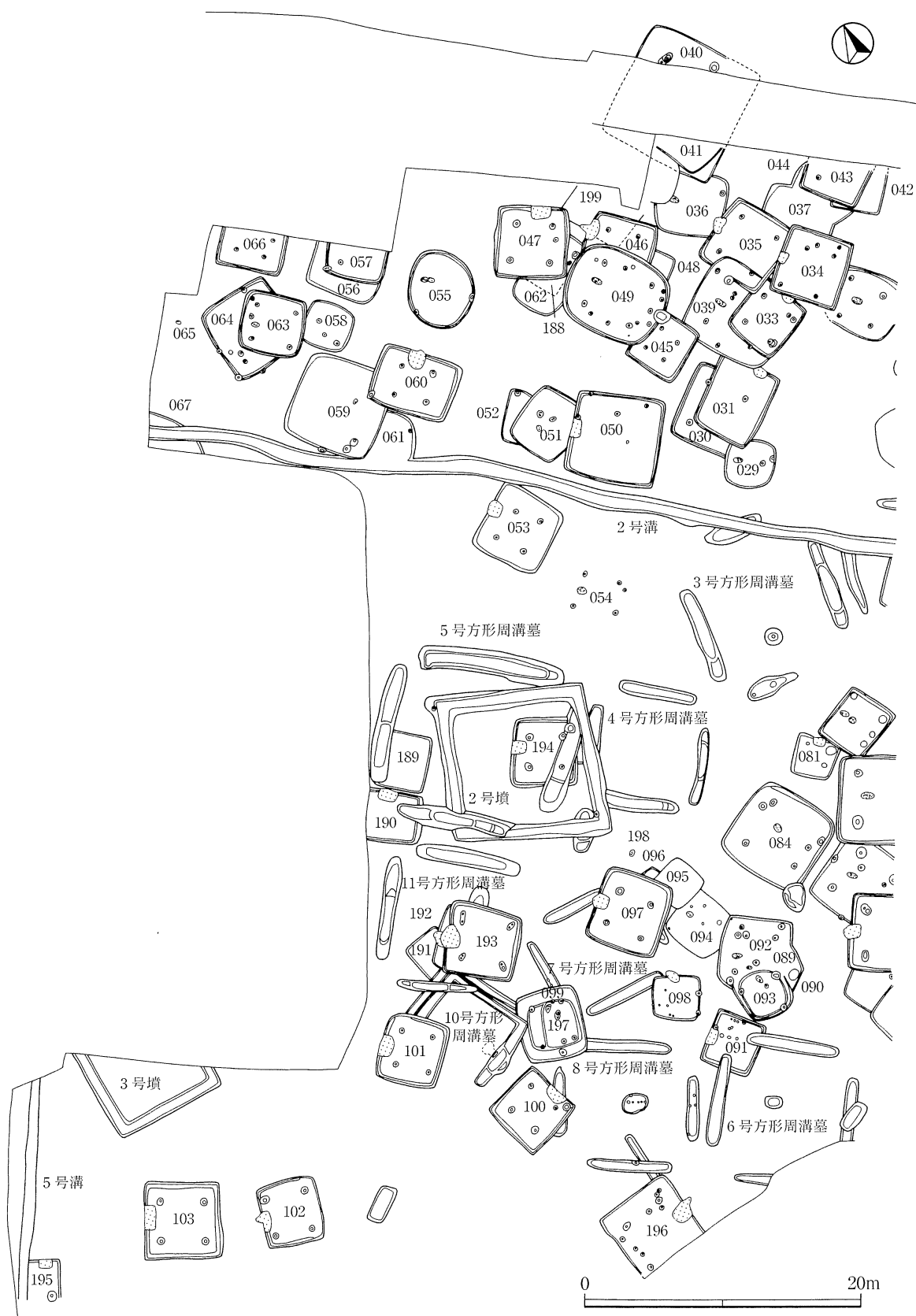
注3 周辺遺跡の概要や変遷などについては上記上総国分寺台遺跡調査報告のシリーズや下記の「市原市加茂遺跡D地点」などに詳しく載っている。本書では簡単な概要を述べるに終わっており、詳細はそれらの報告書を参照されたい。また周辺遺跡表中の2・4・7・19・24については、平成14年度現在整理報告作業が行われており、近々報告書が刊行される。

小橋健司 2002 『市原市加茂遺跡D地点』 財団法人市原市文化財センター調査報告書 第82集 財団法人市原市文化財センター

近藤敏 2000 「山田橋大山台遺跡」『市原市文化財センター年報 平成9年度』 財団法人市原市文化財センター



第5図 遺構配置図(1) 1次調査南東部



第6図 遺構配置図(2) 1次調査南西部



第7図 遺構配置図(3) 1次調査北部・2次調査北西部



第8図 遺構配置図(4) 2次調査南東部

第 1 章 住居跡

台遺跡B地点で調査された住居跡は、弥生時代中期9軒、弥生時代後期108軒、古墳時代前期43軒、古墳時代中期後葉43軒、古墳時代後期77軒、所属時期不明4軒の総数で317軒である。重複が激しいため1軒あたりの遺物出土数が少なく、時期の決定には重複関係・遺構の形態なども考慮に入れた。

挿図は住居跡と出土土器を同一図に掲載し、掲載の順は、重複関係が分かる範囲でその中で遺構番号の若い順にしている。カマド実測図、少数の土器以外の遺物はそれぞれ後にまとめ、遺構番号の若い順に並べている。

文中の記述の中で、遺跡内での位置は、第3図のグリッドで表記している。グリッドKL-13<14といった表記で、これは、東西方向でK・Lグリッドにまたがり、南北で13・14にあるが14の方に寄っていることを表している。

主軸は、炉のある住居跡では中央から炉の偏る方向を奥として、4本の柱穴を持つものは、奥の2本の柱穴の中間点と前2本の柱穴の中間点を結んだ線を主軸とした。柱穴の無いものでは炉の偏る方向で遺構を二等分する線を主軸とした。柱穴が欠けるものでは、前2者の方法を案分して行った。なお、方位は当時現場で平板上に方位磁石を置いて書き込んだ北の方向を用いている。

カマドのある住居跡では、カマドの附設されている壁を奥として同じ方法をとった。

遺構の規模は、主軸上とそれに直交する中心線の位置で上端を図上で計測している。上端がないものでは、下端を用いているが特に断っていない。また長さを測れないものでは、床面や壁が続く範囲を計測しm以上と表記し、巻末の表では数値の後に+を付け、推定長は用いていない。

柱穴は図中に特に番号を付けることをせず、前述した主軸の方向から左奥を基準に右回りに表に載せ、記述も左奥、右奥、右前、左前としている。柱穴は、断面の観察などを行っておらず、柱穴の当たりや柱痕を確認していないため柱間の距離などは下端のほぼ中心を基準にした。

出入口ピットは、弥生時代から古墳時代前期までは、前2本の柱穴の中間でやや前壁に寄ったところにあるのが通例のピットで外傾していることもある。柱穴のない住居跡や、炉と柱穴の配置が90度、45度等ずれるなどやや違和感があるものでも、位置的にこの付近にあるものに付いては出入口ピットとしている。古墳時代中期後葉以降のカマドを持つ住居跡では、前者と同位置のものもみられるが、カマド脇に壁下が踏み固められそこにピットがある場合もある。踏み固めの面がなくとも、この位置のものも出入口ピットとした。

貯蔵穴は、弥生時代から古墳時代前期までは、前壁際の右側に掘られることが多く、古墳時代中期後葉以降はカマド右側のコーナーに位置することが多い。経験的にこれらと同様と思われるピットを貯蔵穴とした。

時期不明のものは、炉、カマド等が確認できず。遺物でも時期決定できないものについて、さらに重複関係からも一時期に絞れないものである。

巻末に住居跡の一覧表を載せるが、表1段目の1から始まる数字は、以下に文章で説明している遺構番号の前に括弧書きで示されている数字で、住居跡をはじめ以下各遺構に対して、記述順に住居跡が1から317、墳墓が318から341、中世遺構が342から351、溝が352から365と連番で付けてある。

1 住居跡と出土土器

(1) 001号住居跡 第9図 図版1-1・2

主軸6.03m、直交5.93m、深さ0.26mの方形で、主軸方位は東に99度を測る。

B地点1次南調査区東端、グリッドMN-13に位置する。東壁の南側を7号溝が削平し、南東コーナーを貯蔵穴の部分まで中世の土坑に削平されるが他の住居跡との重複はない。確認面は浅いが遺構の残存状態はよく、床面も硬かった。カマド、貯蔵穴は調査区域外にあったが後年C地点調査の際に追加調査を行い、実測図にはその成果も加えている。

カマド(第128図)は東壁右寄りに造られている。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りで60・60・54・51cm、柱間は奥302・右312・前306・左296cmと整っている。カマドの右側に65×56cm、深さ56cmの貯蔵穴がある。遺構の西側に寄ってピットが7基検出されている。深さは20～50cmとまちまちで用途は不明である。カマドの前1mに30×40cmの焼土がある。

出土遺物(第9・10図)18点の土器を図示した。1～4は坏・碗で、4の碗が外面下部を残す以外内外ともに赤彩されている。2は平底で完形。3は丸底の完形。5～7は須恵器で、5は蓋坏の端部のみ。6は高台付坏で底部中央が欠損する。8～11は高杯で、8は完形で坏内部のみ赤彩が残る。9は杯部の破片で内外を赤彩。10・11は脚部で外面を赤彩している。12～18は甕で、12・13は完形。14～16は胴部を欠損している。17は底部を欠損。18は頸部以上と底部中央を欠損している。

カマド内に、9の高杯。14の甕。カマド前に15の甕。右奥の柱穴と壁の間に11の高杯。右側柱穴間に13の甕。右前の柱穴と壁の間に8の高杯。左前の柱穴脇に17の甕が出土している。ポイントを落としていないがカマド脇から貯蔵穴にかけて7の須恵器。18の甕がC地点調査時での際に検出された。

土器以外の遺物として第155図1の軽石が出土している。

(2) 002号住居跡 第10図 図版1-3・4

主軸5.84m、直交5.07m、深さ0.46mの縦長の方形で、主軸方位は西に36度を測る。

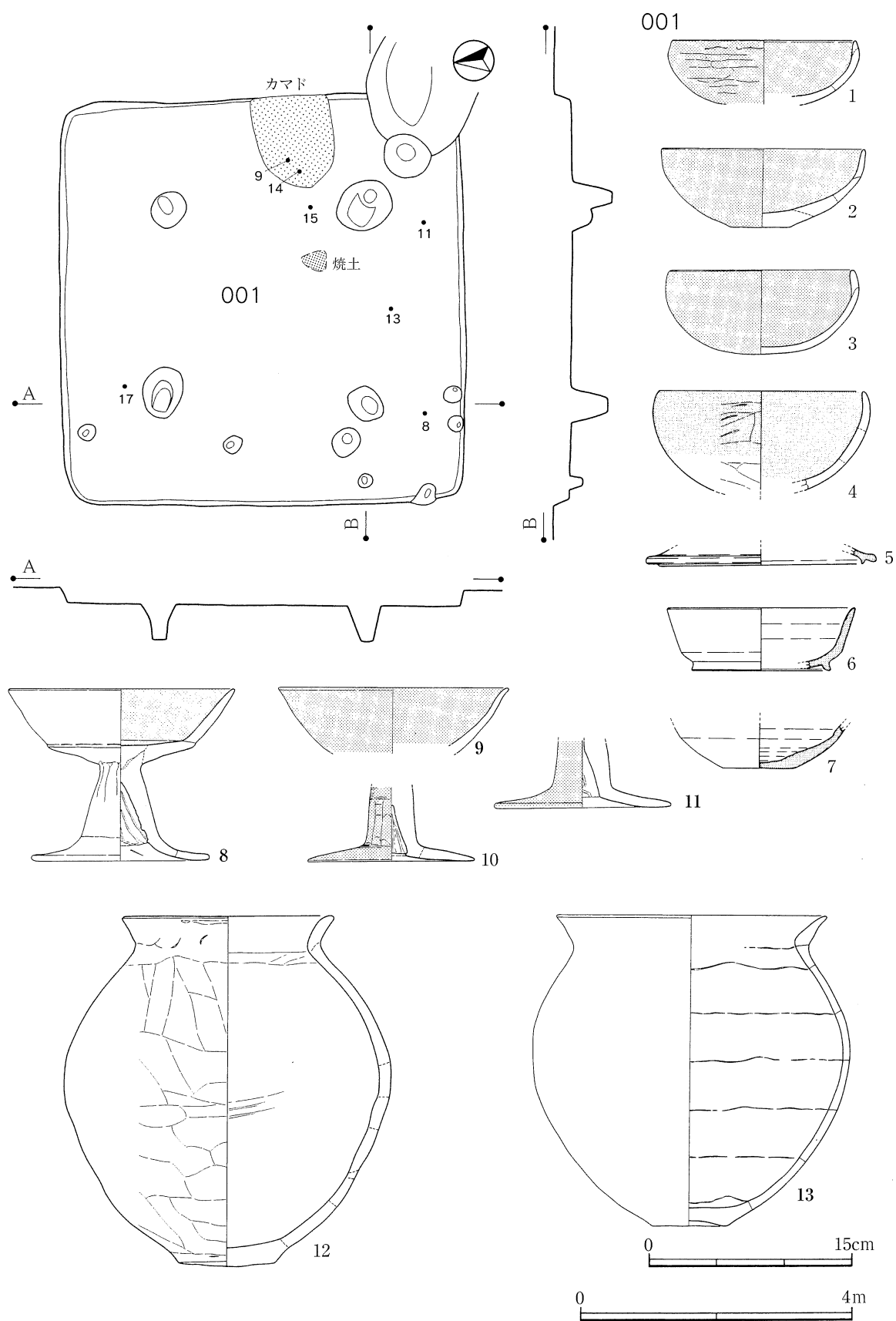
B地点1次南調査区東端、グリッドMN-14>15に位置する。南東を北東から南西に1号溝が削平するが他の住居跡との重複はない。1号溝は本遺構の床面をわずかに削平している。

カマド(第128図)は北西壁中央に造られる。カマドの形に掘り出されているためカマド内の埋土の一部と、周辺の覆土はカマド実測前に失われている。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りで57・51・42・66cm、柱間は奥255・右265・前255・左265cm、右側が北にずれる菱形の配置になっている。壁溝は全周する。貯蔵穴はない。床面は堅く小ピットなどは検出されていない。

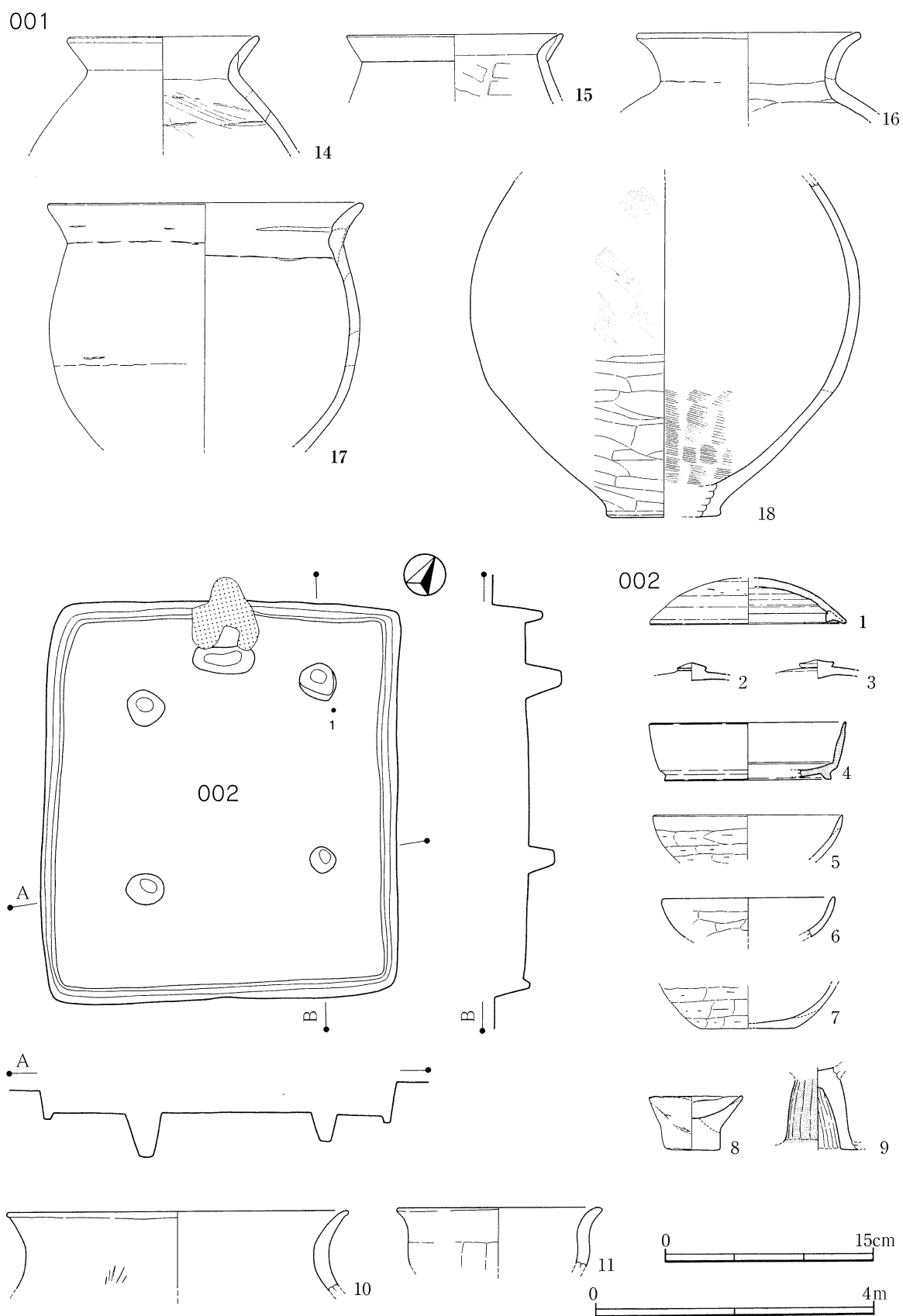
出土遺物(第10図)11点の土器を図示した。1～4は須恵器で、蓋坏の破片と高台付坏である。1はつまみを欠損。2・3はつまみ部分だけ。4は高台付坏で、底部中央を欠損する。5・6は坏破片。7は甕底部。8は手捏で厚底の杯状である。9は高杯の脚部で、外面を赤彩する。10・11は甕の口縁部破片である。

カマド周辺を中心に土器が出土しており、右奥の柱穴脇に1の須恵蓋坏が出土している。4の高台付坏は、32m南の068号住居跡出土品と接合した。

土器以外の遺物として第148図8・25・28の鉄製品と、第149図1の砥石が出土している。8は鉄鏃、25は鉄片、28は両端に孔があり留め金具と思われる。砥石は平坦で幅の広いものの断片である。



第9図 001号住居跡と出土土器



第10図 002号住居跡と001・002号住居跡出土土器

(3) 003号住居跡 第11図 図版1-5・6

主軸5.60m、直交4.32m、深さ0.20mの縦長の方形で、主軸方位は西に7度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドLM-13>14に位置する。南・西壁で9号方形周構墓の周構を削平し、北東コーナーを004号住居跡が削平する。他の遺構との重複があるほか、南側を中心に帯状の攪乱が多い。カマド等は存在せず、北西コーナーに奥行き130cm、幅120cmの突出部がある。前壁から約1mに径35cm、深さ20cmのピットがある。貯蔵穴、壁溝は存在しない。北西コーナーの突出部は直前に土器が集中して出土していることからカマドに代わる施設かもしれない。

出土遺物(第11・12図)13点の土器を図示した。1・2は須恵器の広口甕で、1は口縁下に2段に波状の沈線がめぐる完形。2は口縁部と胴下半を欠損する大形破片である。3は胴以下欠損の甕。4は完形の丸底の坏。5は底部欠損の坏。6は完形の碗で底部が若干上げ底され、その底部まで内外全て赤彩されている。7・8は須恵器を模倣した甕で胴部と底部の2点は同一個体だが接合しない。9から12は甕である。突出部前の床面で2の須恵器、4の坏、7の甕が出土した。

(4) 004号住居跡 第11図 図版1-7

主軸4.57m、直交4.30m、深さ0.48mの方形で、主軸方位は西に44度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドM-13<14に位置する。東側は4号溝上に貼り床をしている。北西で005号住居跡、南西で003号住居跡を削平している。南西壁から南東壁にかけて中央を大きく攪乱されている。また床面を4号溝上に構築しているために壁溝は部分的に不明瞭になり、床面中央は写真でもわかるように色が違い低くなっている。

カマド(第128図)は北西壁中央に造られる。柱穴は攪乱で南西側の柱穴が確認できず、四本柱の内3本を検出した。深さは左奥から右回りで20・64・36cm、柱間は奥200・右210cm。比較的整った配置である。貯蔵穴は存在しない。壁溝は攪乱部分を除き全周し、各コーナーでは幅広くなっている。

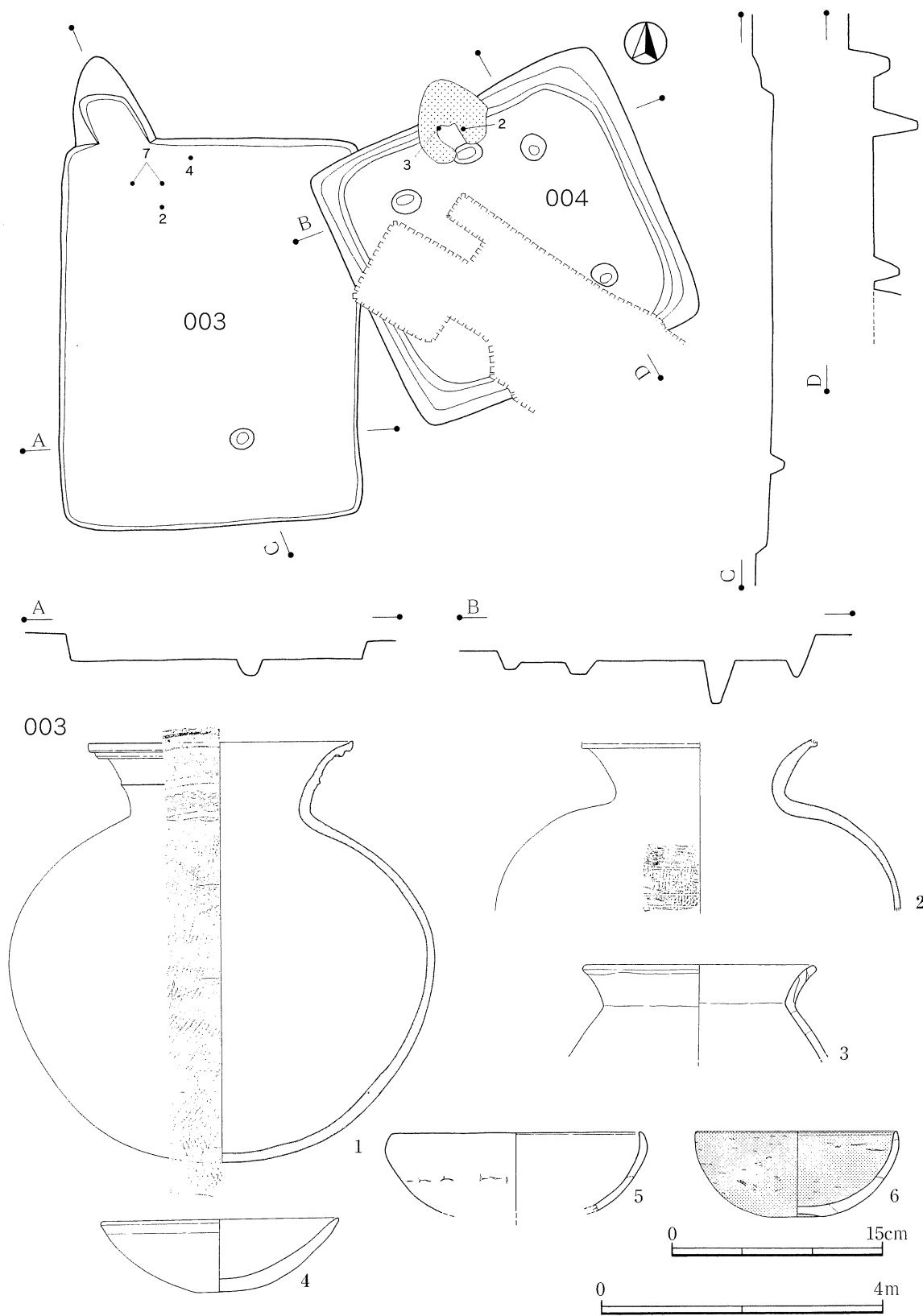
出土遺物(第12図)4点の土器を図示した。1は須恵蓋坏で端部のみ。2は完形の平底の坏。3は完形の暗文のある坏。4は完形の小型甕。2・3の坏はカマド内(第128図)から出土している。

(5) 005号住居跡 第13図 図版1-8

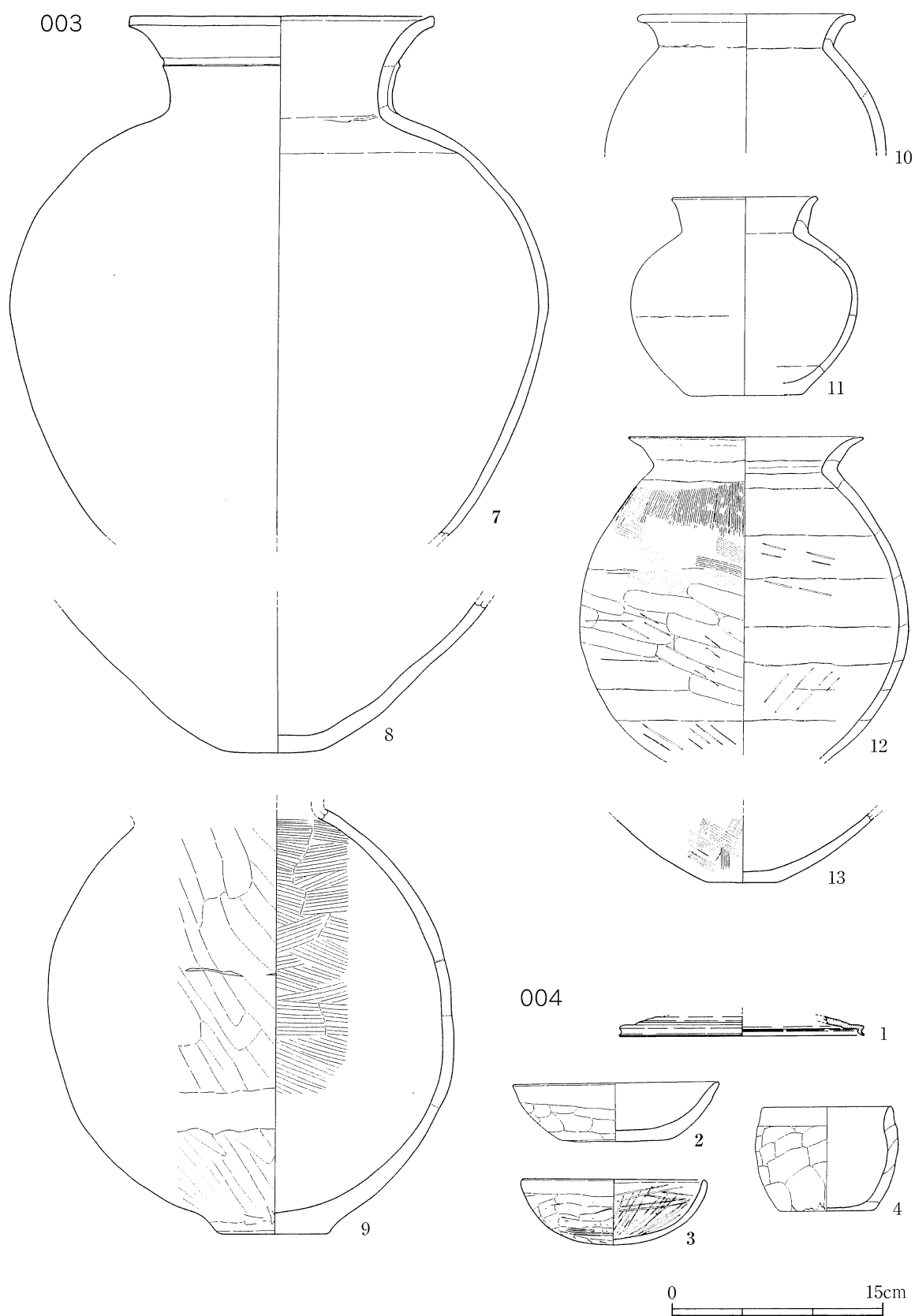
主軸5.4m以上、直交3.8m以上、深さ0.1mの小判形で、主軸方位は西に12度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドM-14に位置する。4号溝に南東側を削平される他、南を004号住居跡、北東部を炉まで006号住居跡、北西を012号住居跡に削平されている。他の遺構との重複のため、輪郭等不明瞭な点が多い。写真では壁がしっかりとしているようだが、図では点線で表しているように確信の持てる状態ではないようだ。床面も土器の出土、炉・柱穴の検出で確認できるが堅くはなかった。

遺構の北寄りに楕円形の炉がある。006号住居跡に北東半分を削平されている。88×45cm以上、深さ14cmで、中央南寄りに土器片が2枚埋め込まれている。柱穴は四本柱の内左側の2本を検出した。他の2本は004号住居跡、4号溝により削平されている。深さは左奥105cm、左前109cm、柱間315cm。貯蔵穴は確認されていない。炉の南東にほぼ主軸方向に深さ24~27cmの小ピットが2基並



第11図 003・004号住居跡と003号住居跡出土土器



第12图 003・004号住居跡出土土器

んでいる。

出土遺物（第14図）5点の土器を図示した。1は炉の南東2mほどでまとまって出土した長頸壺で、全てを接合することはできなかったが左側の拓本の破片から復元実測した。頸部から胴最大径以下まで縄文を施文し、3本一組の工具で波状と平行の沈線を描いている。2の壺底部は木の葉底。3は波状の沈線のある壺胴部。4・5は口唇に刻みのある甕口縁である。

（6） 006号住居跡 第13図 図版2－1

主軸4.98m、直交4.83m、深さ0.30mの方形で、主軸方位は西に24度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドM-14>15に位置する。南西で005号住居跡を削平し、東側で4号溝上に貼り床し、カマドを含め北を東007号住居跡が削平する。北西から南東にかけて帯状に攪乱される。

カマドは北西壁中央に造られる。北西側を007号住居跡に削平されている。柱穴は四本柱の内2本を検出した。右奥は007号住居跡、左前は攪乱で不明となる。深さは左奥27cm・右前43cm。壁溝は攪乱部分を除き全周している。貯蔵穴は確認されていない。

出土遺物（第13図）16点の土器を図示した。1～6は須恵器で1・2は蓋坏で1はつまみ付きの完形。2は中央を欠損。3・4は完形の坏。5は完形の高台付坏。6はハソウで上部欠損。7～10は坏・碗で、7・10は暗文がある。11は甕底部。12は坏破片。13は鉢底部欠損。14・15は模倣坏の破片で外面下を除き、内外を赤彩している。16は高杯接合部で内外とも赤彩される。

土器以外の遺物として第148図14・20・23・26の3点の鉄製品が出土している。14は鉄鏝の基部と思われる棒状の製品。20は断面方形の棒状でU字形にひねられている。23はほぼ六角形で一端に飾りが付いている。26は薄い鉄板を折り曲げたものである。他に第155図2の軽石が出土している。表裏を欠損し、一部に刃物痕がある。

（7） 012号住居跡 第13図 図版2－7・8

主軸4.12m、直交4.12m、深さ0.31mの方形で、主軸方位は西に31度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドL-14に位置する。東で005号住居跡をわずかに削平する。

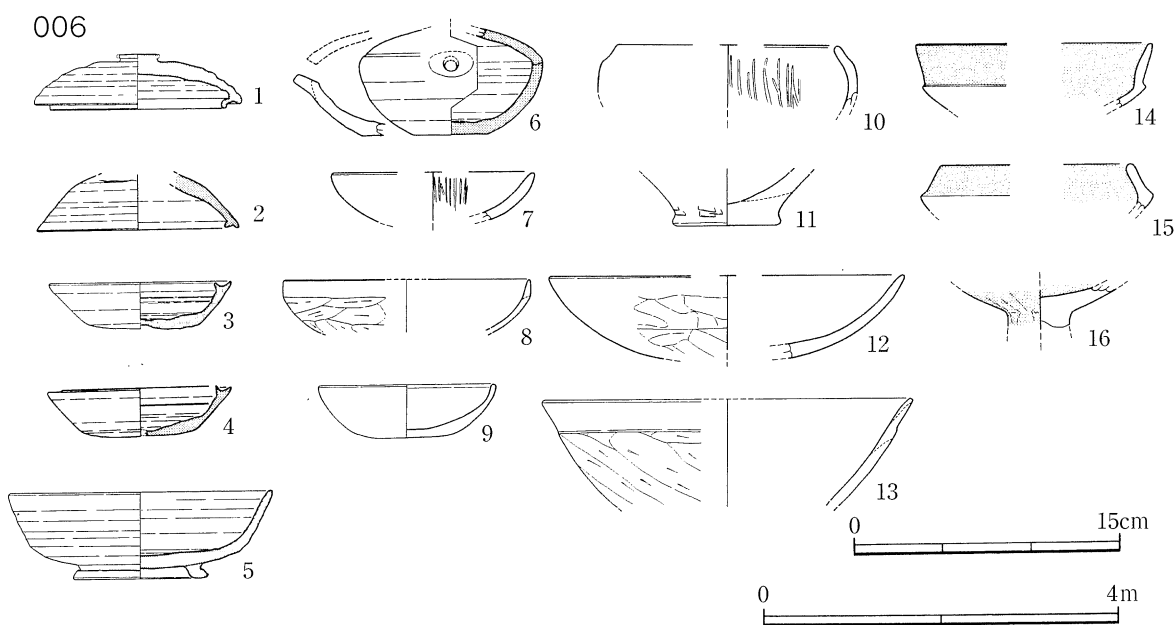
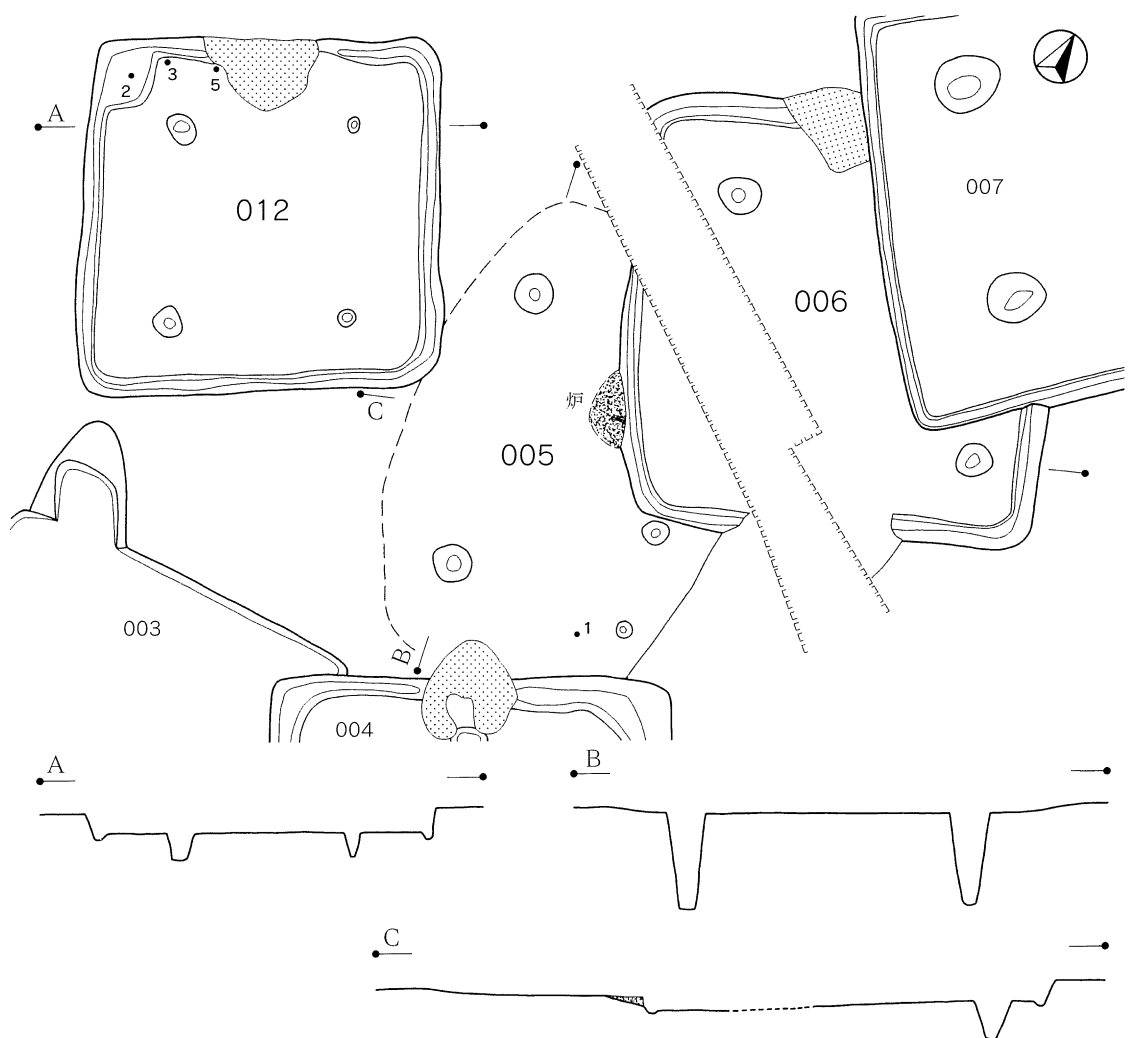
カマド（第129図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ31・28・42・55cm、柱間は奥205・右220・前200・左230cm。遺構の輪郭に沿ってやや菱形の配置になる。貯蔵穴は存在しない。壁溝は全周し、西コーナーで方形に広がりこの部分から遺物が検出されている。貯蔵穴と同じ用途かもしれない。

出土遺物（第14図）5点の土器を図示した。1は須恵坏の口縁部破片。2は平底の坏完形。3は坏底部欠損。4は高杯脚部。5は甕底部。西コーナーからカマド西にかけて、2・3・5の3点が出土している。

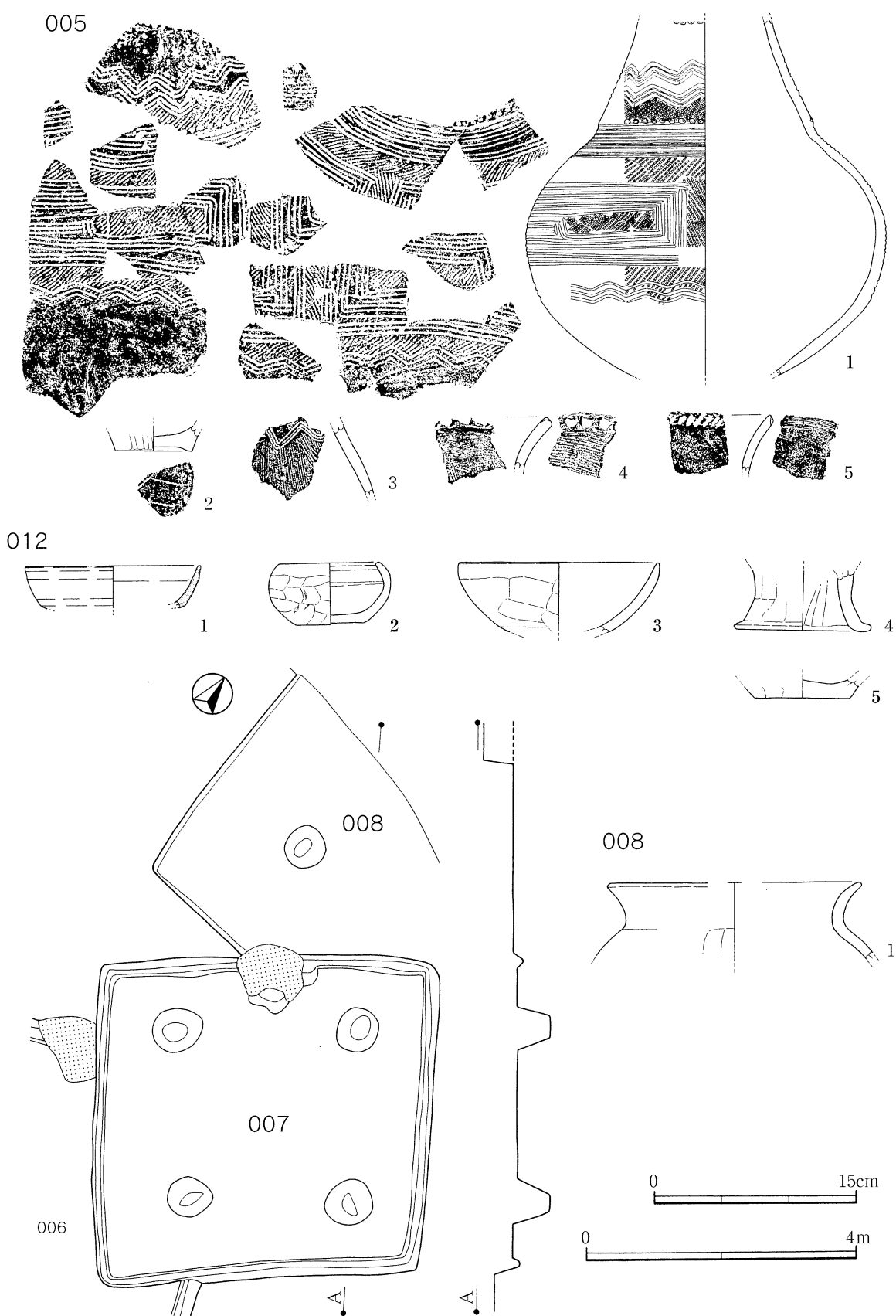
（8） 007号住居跡 第14図 図版2－2

主軸4.84m、直交5.12m、深さ0.30mの方形で、主軸方位は西に39度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドM-14<15に位置する。遺構の東側は4号溝上に貼り床している。



第13図 005・006・012号住居跡と006号住居跡出土土器



第14図 007・008号住居跡と005・008・012号住居跡出土土器

南西で006号住居跡、北で008号住居跡を削平している。斜めに4号溝があるが、その部分がやや窪むほか貼床は硬く全体によく残っている。遺構の輪郭は南北に延びた菱形になる。

カマド（第128図）は北西壁わずかに右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ38・51・53・53cm、柱間は奥275・右265・前236・左250cm。前が狭い台形の配置である。貯蔵穴は存在しない。壁溝は全周しカマド右で幅が広がる。

出土遺物（第15図）8点の土器を図示した。1は須恵高台付坏の底部。2は底部欠損の坏破片。3は高杯の杯部で内外赤彩。4は完形の碗で、外面下部以外を赤彩。5は甕で下半欠損。6は甕の底部破片。7は高杯の脚部で脚端を欠損する。外面を赤彩。8は高杯の杯部で内外面を赤彩する。

土器以外の遺物として第149図2の砥石が出土している。軟質で小破片である。表に擦痕が残る。

(9) 008号住居跡 第14図 図版2-2

1辺3.7m以上、深さ0.15mの方形の住居跡の南西コーナーを検出した。

B地点1次南調査区東、グリッドM-15に位置する。南東側を007号住居跡が削平し、北東側の大部分が区域外にある。検出された部分では床面は堅緻で平坦である。

炉・カマドなどは調査範囲に存在しない。遺構南西部の深さ71cmのピットは柱穴の内の1本であろう。貯蔵穴は確認されていない。壁溝は存在しない。

出土遺物（第14図）1の甕の頸部から上の破片が出土している。

(10) 009号住居跡 第15図 図版2-3

主軸4.60m、直交5.20m、深さ0.10mの横長の方形で、主軸方位は西に33度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドL-13に位置する。北東で9号方形周構墓北溝を削平し、西で010号住居跡を削平している。掘り込みが浅く、遺構の残存状態はよくなかった。遺構の輪郭は前がやや狭い台形になる。

カマド（第128図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥250・右252・前236・左244cm。遺構の輪郭と同じ、前がやや狭い台形の配置である。貯蔵穴は存在しない。壁溝は全周する。

出土遺物（第15図）2点の土器を図示した。1は平底坏で底部欠損。2は甗で下部を欠損する。

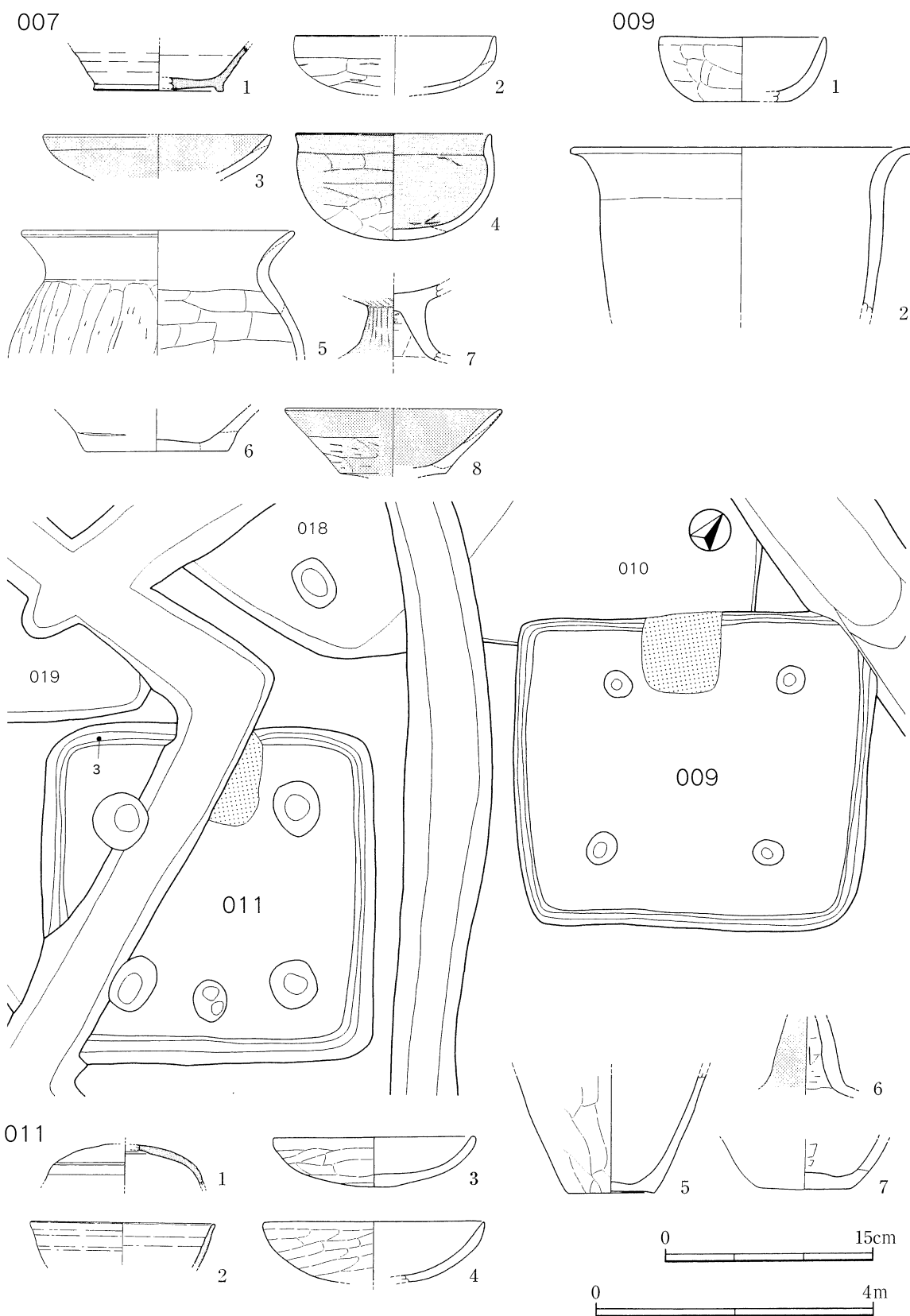
土器以外の遺物として第153図39が西の壁溝上から出土している。砥石に分類しているが、研磨した痕跡はなく、何かを加工するための台石であろう。

(11) 011号住居跡 第15図 図版2-4～6

主軸4.97m、直交4.82m、深さ0.26mの方形で、主軸方位は西に35度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドKL-12<13に位置する。中央を1号墳に削平されるが、他の住居跡との重複はない。

カマドは北西壁中央に造られる。右袖の一部を残し1号墳に破壊されている。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥240・右250・前240・左250cm。貯蔵穴は存在しない。前壁中央から70cmに出入口ピットがある。壁溝は全周するが北東壁中央は狭く浅くなっている。



第15図 009・011号住居跡と007・009・011号住居跡出土土器

出土遺物（第15図） 7 点の土器を図示した。1 は須恵蓋坏で上下欠損。2 は須恵坏の破片。3 は丸底で完形の坏である。4 は坏で底部欠損。5 は甕の底部。6 は高杯脚部で外面を赤彩。7 は甕の底部破片である。西コーナーで 3 の完形の坏が出土した。

土器以外の遺物として第147図 5 の土製紡錘車が出土している。1/3 程が残り、径に比べ厚みがある。

(12) 010号住居跡 第16図 図版 2 - 3

主軸4.70m、直交4.1m以上、深さ0.16mの方形で、主軸方位は西に33度を測る。

B 地点 1 次南調査区東、グリッドKL-13<14に位置する。西と北で 9 号方形周構墓上に貼床し、東で009号住居跡、西で018号住居跡、南で 2 号溝に削平されている。カマドと壁の一部を残すのみで、浅く攪乱され詳細は不明瞭である。

カマド（第128図）は北西壁中央に造られる。柱穴、壁溝は存在しない。9 号方形周構墓北溝西端に50×35cmの貯蔵穴がある。

出土遺物（第17図） 6 点の土器を図示した。1 は須恵坏の破片。2 は坏の破片。3 は鉢の破片。4 は甕の口縁部。5・6 は小形の甕で下半を欠損する。

(13) 014号住居跡 第16図 図版 4 - 1

主軸6.62m、直交5.16m、深さ0.15mの縦長の小判形で、主軸方位は西に15度を測る。

B 地点 1 次南調査区東、グリッドL-14に位置する。南西で 9 号方形周構墓北溝上に貼床しているためこの部分は不明瞭である。

主軸線上奥壁から180cmに70×63cmの炉がある。炉の北側に新しいピットが重複している。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ30・36・25・31cm、柱間は奥265・右225・前220・左220cm。遺構の輪郭と大きく食い違い北西に寄った配置になっている。貯蔵穴、壁溝は存在しない。

出土遺物（第17図） 2 点の土器を図示した。1 は甕で底部を欠損している。遺構東南コーナー近くから出土した。2 は筒状の土器の破片で下半は欠けている。

(14) 013号住居跡 第16図 図版 3 - 1 ~ 4

主軸4.20m、直交4.28m、深さ0.20mの隅円方形で、主軸方位は西に22度を測る。

B 地点 1 次南調査区東、グリッドL-15に位置する。北西を015号住居跡に削平される。北東壁北側は攪乱のためか壁が不明瞭である。

遺構奥右寄りに50cm以上×40cmの炉がある。奥の一部を015号住居跡が削平している。柱穴は四本柱の内 3 本を検出した。左奥は015号住居跡に削平される。右奥から右回りに深さ31・12・19cm、柱間は右192・前248cm。左前の柱穴の右の 2 本のピットは柱穴の立て替えか補助の柱穴であろう。貯蔵穴は南東コーナーにあり50×54cm、深さ30cmの楕円形である。壁溝は存在しない。

出土遺物（第17図 1 - 9） 図示した 9 点の内、北東壁際中央で 6・7 が出土している他は、7 点が貯蔵穴上（図版 3 - 3）に集中して出土している。1 は完形の器台。2 は器台で脚を欠損する。3・5・6 は完形の甕。4 は頸部を欠損した甕。7 は底部欠損の甕。8 は完形の壺。9 は完形の埴である。

(15) 015号住居跡 第16図 図版3-1・4・5

主軸3.86m、直交3.73m、深さ0.20mの方形で、主軸方位は西に60度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドL-15に位置する。南で013号住居跡、北西で016号住居跡を削平する。遺構の輪郭は左側が狭くなる台形となる。

カマド（第129図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ38・62・57・66cm、柱間は奥175・右190・前175・左190cm。貯蔵穴は存在しない。壁溝は全周する。

出土遺物（第17図）8点の土器を図示した。1は須恵蓋坏のつまみ部分の破片。2は須恵壺の胴部破片。3・5は坏で底部欠損。4は高杯で、脚端を欠損した後、磨って台付鉢状に再利用している。6～8は甕の底部である。

(16) 016号住居跡 第16図 図版3-1・6～8

主軸5.17m、直交5.22m、深さ0.24mの方形で、主軸方位は西に39度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドK<L-15に位置する。南東を015号住居跡が削平する。南コーナーに大きな攪乱がある他残存状態はよい。

カマド（第129図）は北西壁わずかに右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ75・59・55・56cm、柱間は奥250・右255・前265・左295cm。台形に近い不整形な配置である。左奥の柱穴は内側に立て直されている。深さ67cmを測り柱間は奥200cm、左225cmとなる。前壁中央から80cmに深さ28cmの出入口ピットがある。貯蔵穴、壁溝は存在しない。

出土遺物（第18図）15点の土器を図示した。1は須恵坏で完形。2は丸底の坏で完形。3は高杯の脚部で脚端を欠損している。4は高杯の杯部で内外ともに赤彩される。5～12は甕で胴以下を欠損している。13は甕で下部を欠損。14は甕で上部を欠損している。15は完形の甕である。

カマド内（図版3-8）で5、11の甕、14の甕。カマド前で8の甕、13の甕。左奥の柱穴脇で3の高杯、9の甕が出土している。

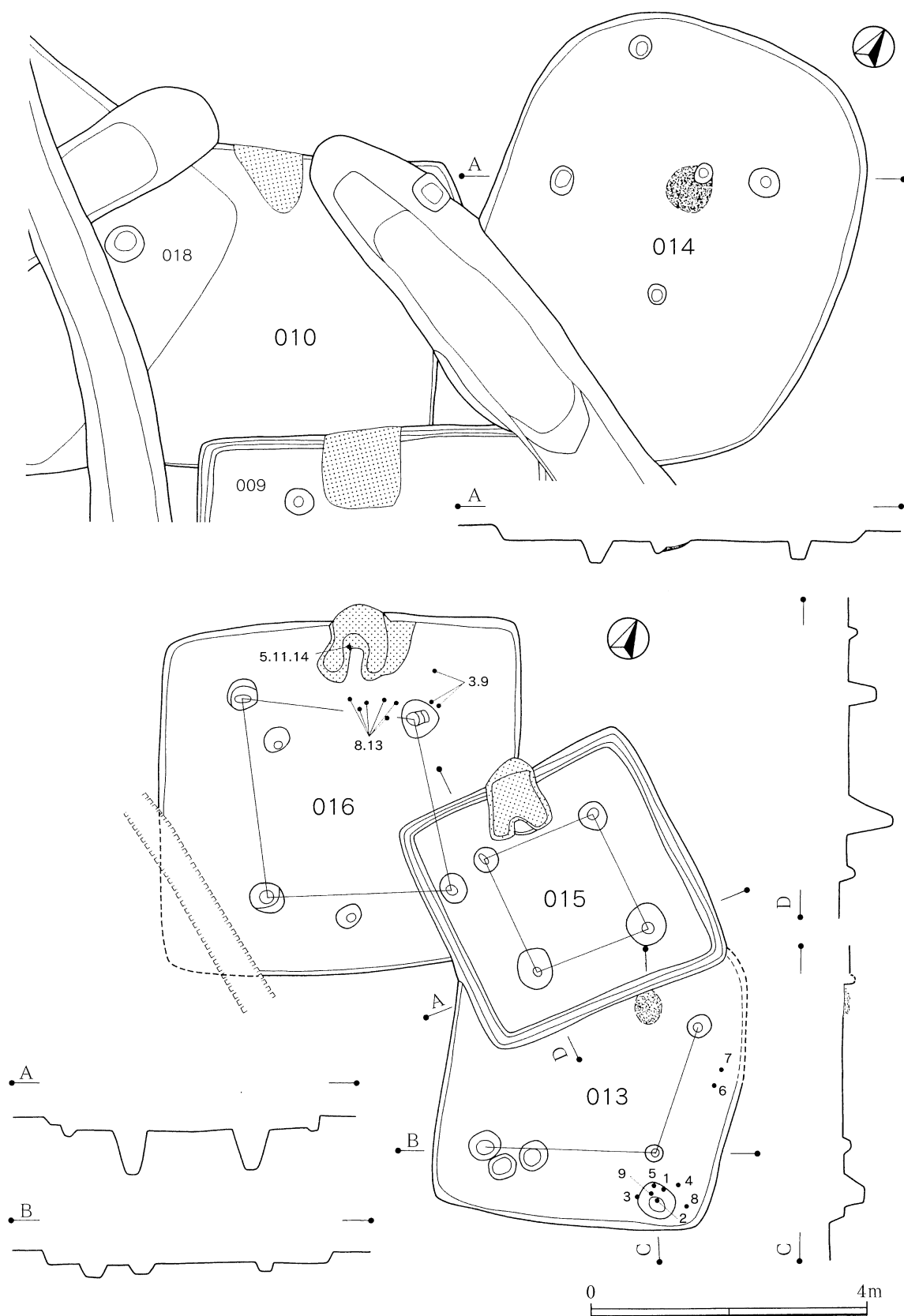
(17) 017号住居跡 第19図 図版4-2

主軸5.15m、直交5.00m、深さ0.30mの方形で、主軸方位は西に20度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドK-14>15に位置する。他の遺構との重複はないが北東壁を除き壁から住居跡中央まで攪乱が多くカマドは痕跡を残し削平されている。このため南西側は輪郭が不明瞭になっている。

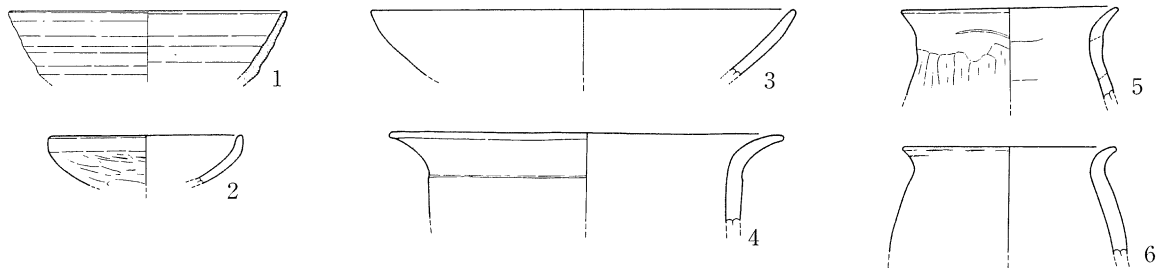
カマドは北西壁中央に造られる。大部分を攪乱される。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ70・73・74・74cm、柱間は奥248・右270・前276・左256cm。左の2本は建て替えられており、外側に拡張されている。深さ左奥55cm、左前58cm、柱間は奥266・前300・左292cm。貯蔵穴・壁溝は存在しない。東コーナーに200×95cmの範囲に焼土が堆積している。

出土遺物（第19図）8点の土器を図示した。1は完形の須恵蓋坏でつまみが付く。2は完形の須恵坏。3・4は丸底の坏で底部欠損。5は高杯の接合部のみ。6は埴口縁部で、外と内側口縁下を赤彩。7は底部。8は須恵大甕で胴部以下が残存している。

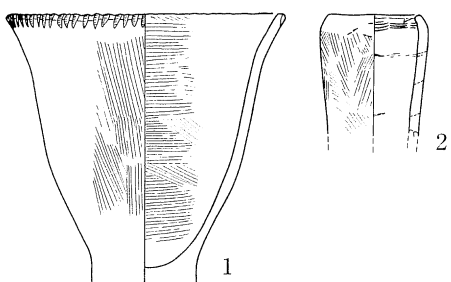


第16図 010・013~016号住居跡

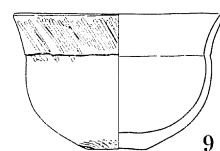
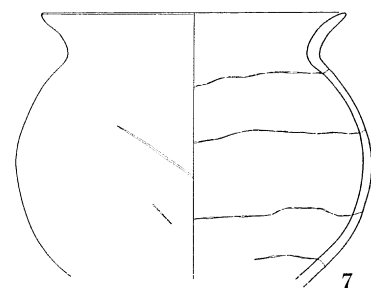
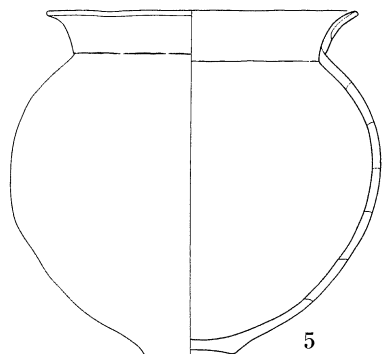
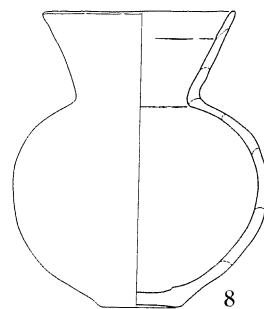
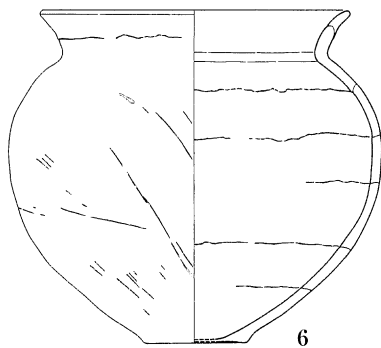
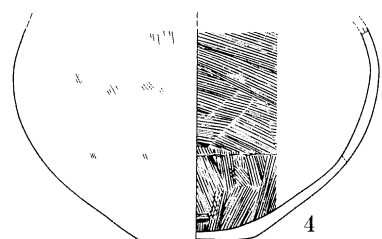
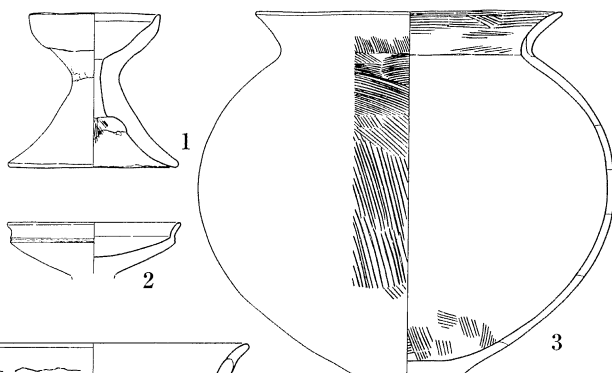
010



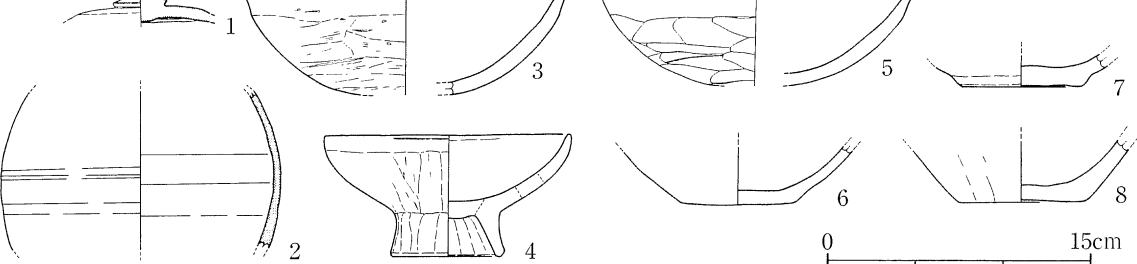
014



013

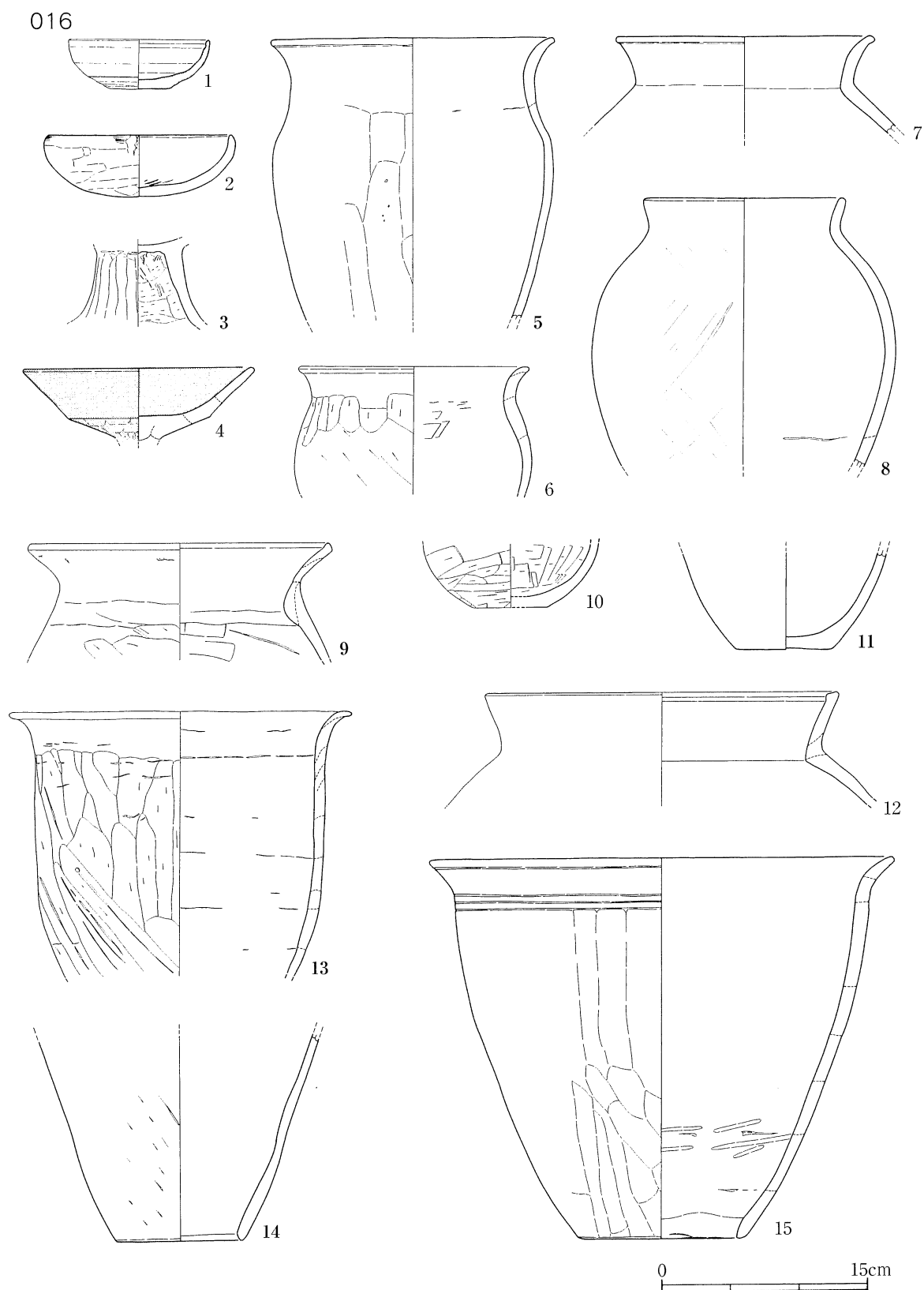


015

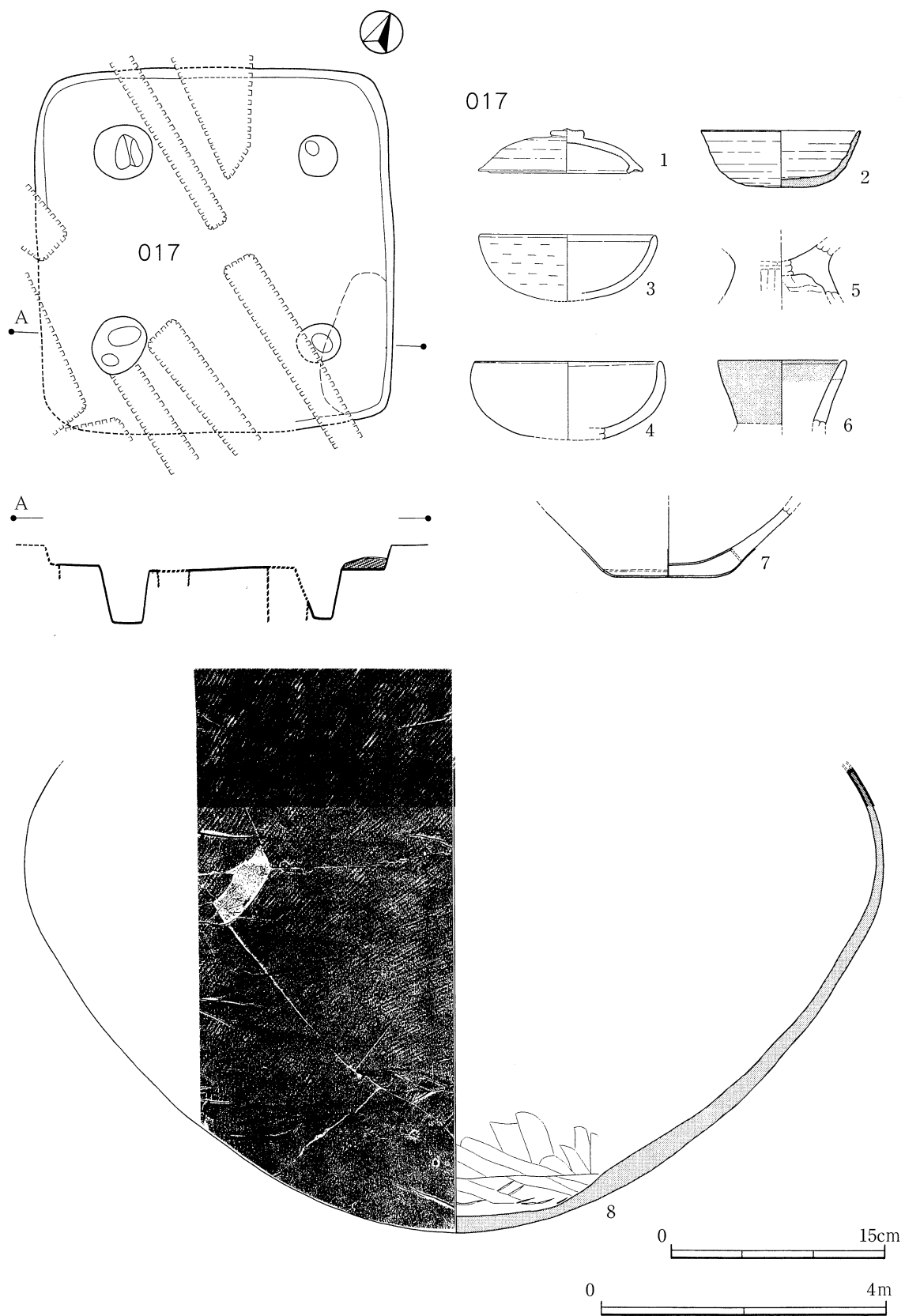


0 15cm

第17图 010・013~015号住居跡出土土器



第18図 016号住居跡出土土器



第19図 017号住居跡と出土土器

(18) 018号住居跡 第20図 図版2-5

主軸5.40m、直交5.00m、深さ0.05mの隅円方形で、主軸方位は西に83度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドK-13に位置する。9号方形周溝墓上に貼床し、西で020号住居跡を削平、南西で021号住居跡、中央を2号溝が削平する。浅い上に重複が激しく、遺構の輪郭は東西の壁を正しく捉えられず床面の確認範囲で規模を捉えた。カマドの実測で内側に古いカマドの痕跡があり、9号方形周溝墓西溝中で確認された柱穴が他の2本に比べ小さく内側に寄ることから一回り小さい住居跡から拡張されたものだが、床面を剥がして調査することが行われなかったため詳細は不明である。

カマド(第129図)は北西壁中央に造られる。手前の床下に粘土・焼土が堆積しており拡張前のカマドである。柱穴は9号方形周溝墓の溝底に旧カマドに対応するものがあり、新カマドに対応する東側2本を検出した。西側の柱穴は9号方形周溝墓、2号溝と重複し確認できなかった。レベルは計測していない。柱間は292cm。貯蔵穴、壁溝は存在しない。

出土遺物(第20図1-2) 1の坏破片、2の底部を図示するにとどまった。

(19) 019号住居跡 第20図 図版4-3

主軸5.83m、直交6.20mの隅円方形で、主軸方位は西に41度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドJK-12<13に位置する。南西で1号方形周溝墓、北東で9号方形周溝墓上に貼床し、北西で020号住居跡、北東で018号住居跡を削平。南西で021号住居跡に削平され、1号墳が中央を削平する。浅く全体に重複、攪乱が多い。遺構の輪郭を捉えきれず、床面の範囲で確認したが西側でゆがみが大きい。

カマドは北西壁左寄りにあり1号墳に南側を破壊されている。柱穴、壁溝等は存在しない。

出土遺物(第20図) 8点の土器を図示した。1~5は須恵器で、1は広口壺の口縁部、2は長頸壺の頸部、3は坏の口縁部破片、4は高台付坏の底部破片、5は高台付壺の底部である。6は坏で底部欠損。7は小形の甕の口縁部破片。8は波状口縁の甕で下半を欠損している。この内8の甕は重複する020号住居跡に所属する遺物である。また同様の重複状態にある近隣の遺構に遺物が少ないのにもかかわらず、本遺構だけ比較的遺物量が多いのは重複する1号墳の遺物である可能性が高い。

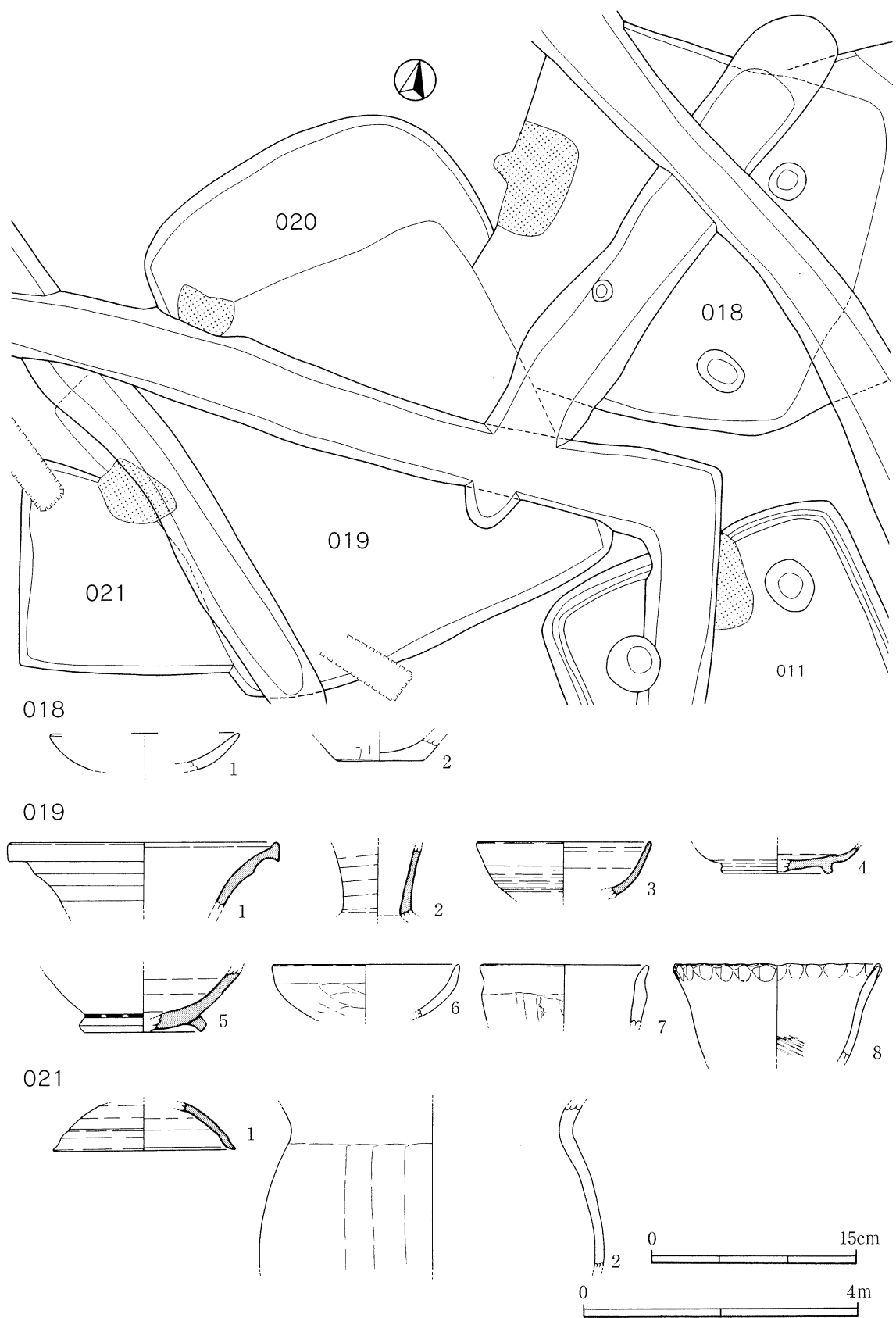
土器以外の遺物として第149図3・5の2点の砥石が出土している。3は不整形な破片だが、上の2面に擦痕、右側面に刃先による条痕が残る。5は上面に刃先による斜めの条痕があるほか、研磨痕が残る。

(20) 020号住居跡 第20図 図版4-3

主軸2.8m以上、直交4.20m、深さ0.20mの小判形で、主軸方位は西に37度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドJK-13に位置する。東で018号住居跡、南東で019号住居跡に削平される。大部分を削平され北西部がわずかに残る。炉も019号住居跡に削平されている。

出土遺物は020号住居跡の注記で図示すべき遺物はなかったが、019号住居跡8の波状口縁の甕が本遺構に伴うものである。



第20図 018～021号住居跡と018・019・021号住居跡出土土器

(21) 021号住居跡 第20図 図版4-3

主軸3.10m、直交3.2m以上の方形で、主軸方位は西に11度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドJK-12<13に位置する。北東で1号方形周構墓、019号住居跡上に貼床する。019号住居跡、1号方形周構墓上にカマドを造っているが東側は詳細不明。柱穴・壁溝等は存在しない。

出土遺物（第20図）1の須恵蓋坏中央部欠損、2の甕胴部破片の2点を図示するにとどまった。

(22) 022号住居跡 第21図 図版4-4・5

主軸4.48m、直交6.00m、深さ0.28mの横長の方形で、主軸方位は西に27度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドIJ-13<14に位置する。西で023号住居跡、南東で024号住居跡を削平し、北東コーナーを2号溝が削平している。南東側に攪乱溝、北西2号溝周辺は攪乱が多く遺構の輪郭は不明瞭である。

カマド（第129図）は北西壁右寄りに造られる。左袖の補強に甕を入れている。柱穴、壁溝等は存在しない。

出土遺物（第21図）6点の土器を図示した。1・2は同一個体の高杯でカマド内（図版4-5）で支脚として使用されたためにもろくなって接合しない。3は完形の小形甕。4は甕で胴中央から上を欠損する。5は甕の底部破片。6は甕で下半を欠損している。3の小形甕を左袖の補強として使用している。6の甕はカマド中央から出土している。

(23) 023号住居跡 第21図 図版4-4

主軸6.32m、直交6.50m、深さ0.15mの隅円方形で、主軸方位は西に24度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドI-13>14に位置する。北東を022号住居跡、南西0を79号住居跡が削平する。東側は攪乱で不明瞭。奥壁から160cmやや左寄りに68×50cmの卵形の炉がある。柱穴、壁溝等は存在しない。

出土遺物は023号住居跡の注記のある土器で図示すべきものはなかったが、024号住居跡の5の甕、9の器台は本遺構に伴うものである。

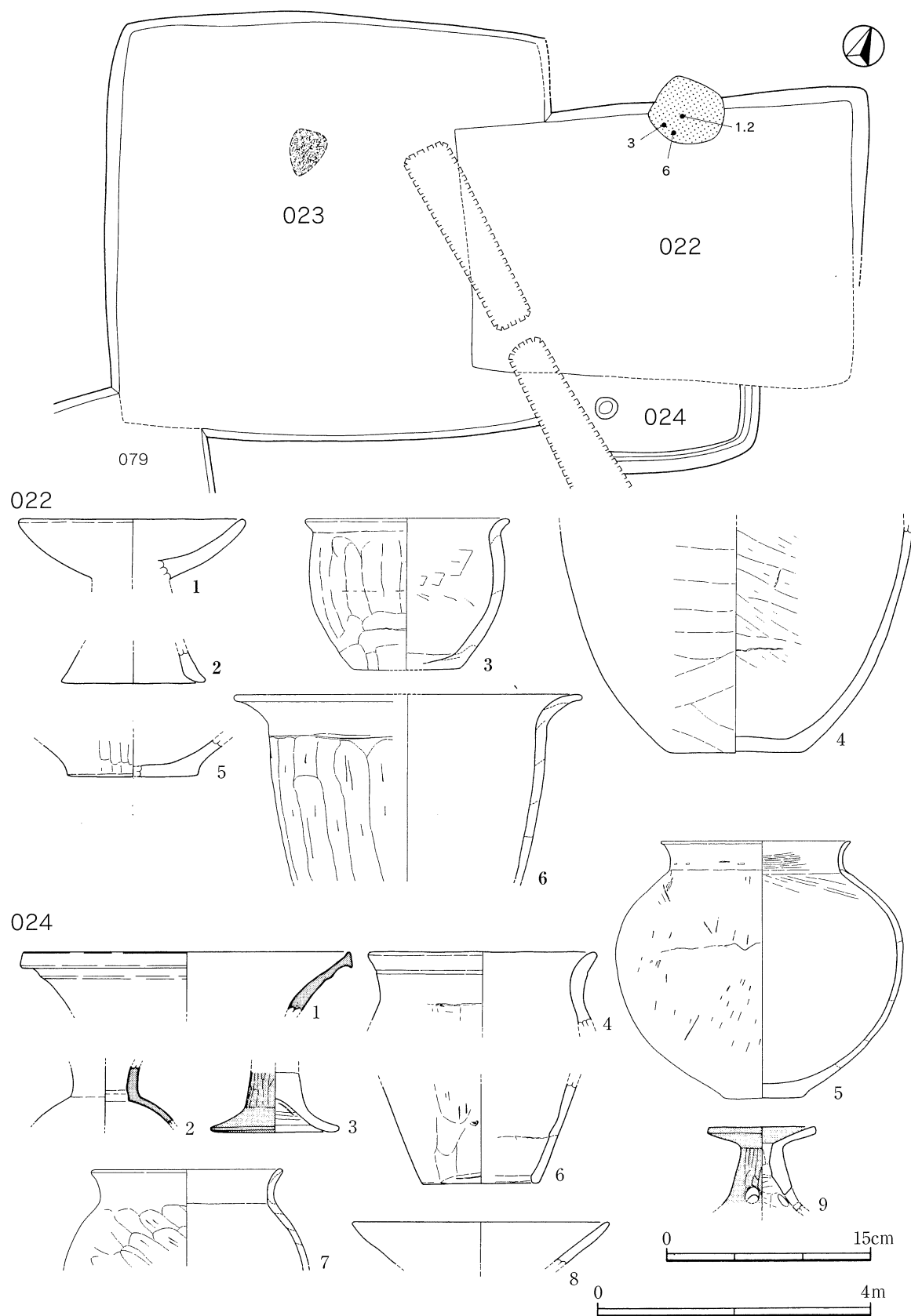
土器以外の遺物として第147図1の石製紡錘車出土している。滑石製の完形で、表面に擦痕が若干残る。

(24) 024号住居跡 第21図 図版4-4

主軸1.5m以上、直交3.5m以上の隅円方形と思われる。

B地点1次南調査区東、グリッドI-13>14に位置する。北西を022号住居跡が削平する。大部分を022号住居跡に削平され遺構の南西コーナーのみ調査した。カマドなど主要な施設は022号住居跡に削平されている。左は攪乱される。壁から76cm離れピットが1基確認された。出入口ピットの可能性はある。壁溝は調査部分で全周する。

出土遺物（第21図）9点の土器を図示した。1は須恵広口壺の口縁破片。2は須恵壺の頸部破片。3は高杯脚部で外面を赤彩している。4・7は甕口縁部破片。5は完形の甕。6は甕で上部を欠損す



第21図 022～024号住居跡と022・024号住居跡出土土器

る。8は高杯の口縁部破片。9は器台で脚端を欠損している。この内5・9は重複する023号住居跡の遺物である。

(25) 025号住居跡 第22図 図版4-6~8

主軸5.04m、直交5.03m、深さ0.30mの方形で、主軸方位は東に26度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドJ-15に位置する。南西で2号方形周構墓を削平するが、住居跡との重複はない。北西壁から大きく攪乱される。南東壁はやや弧状にふくらむ。

カマド(第129図)は北東壁右寄りに造られる。煙道部は攪乱されている。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ73・41・40・70cm。柱間は奥252・右220・前252・左252cm。横長の配置で左側が右より30cmほど深く掘られている。東コーナーに68×73cm、深さ35cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝は存在しない。

出土遺物(第22図)14点の土器を図示した。1~5は高杯の杯部でいずれも内外面を赤彩する。6は完形の碗で、内外の上部を赤彩している。7は台付甕の接合部。8は高杯脚部で外面を赤彩。9は完形の甕。10~13は甕で下部を欠損する。14は甕の底部破片。カマド内で14、カマド脇で5の高杯、右奥の柱穴と貯蔵穴の間で6の碗、南東壁中央で11の甕が出土している。

(26) 026号住居跡 第23図 図版5-1~3

主軸3.68m、直交3.63m、深さ0.26mの方形で、主軸方位は東に53度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドK-15>16に位置する。他の遺構との重複はない。帯状の攪乱が数本遺構内にある。

カマド(第130図)は北東壁やや右寄りに造られる。4本のピットが遺構内に散在しているが柱穴ではない。南コーナーに41×40cm、深さ50cmの円形のピットがあり貯蔵穴の可能性がある。壁溝は存在しない。カマド南側に85×100cmの範囲で貝層がある。

出土遺物(第22・23図)10点の土器を図示した。1は須恵壺の下半。2は須恵高台付坏の底部。3は坏で底部欠損。4は碗で底部欠損。5は高杯脚部で外面を赤彩。6は完形の高杯。7は埴の口縁部で内外赤彩。8・9は下部を欠損する甕。10は小形甕で頸部以上を欠損する。

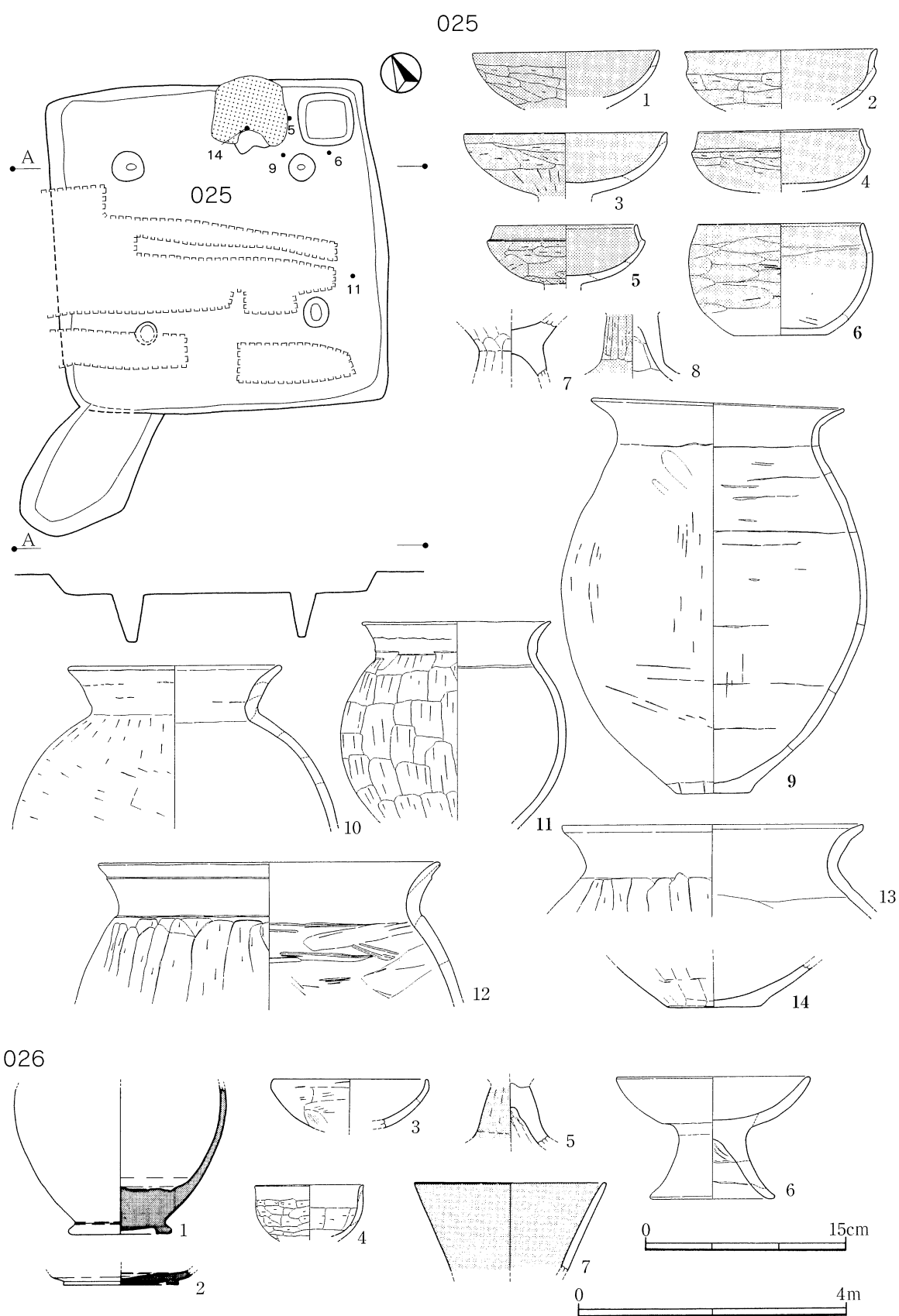
(27) 027号住居跡 第23図 図版5-4

主軸5.00m、直交4.50m、深さ0.05mの縦長の方形で、主軸方位は東に65度を測る。

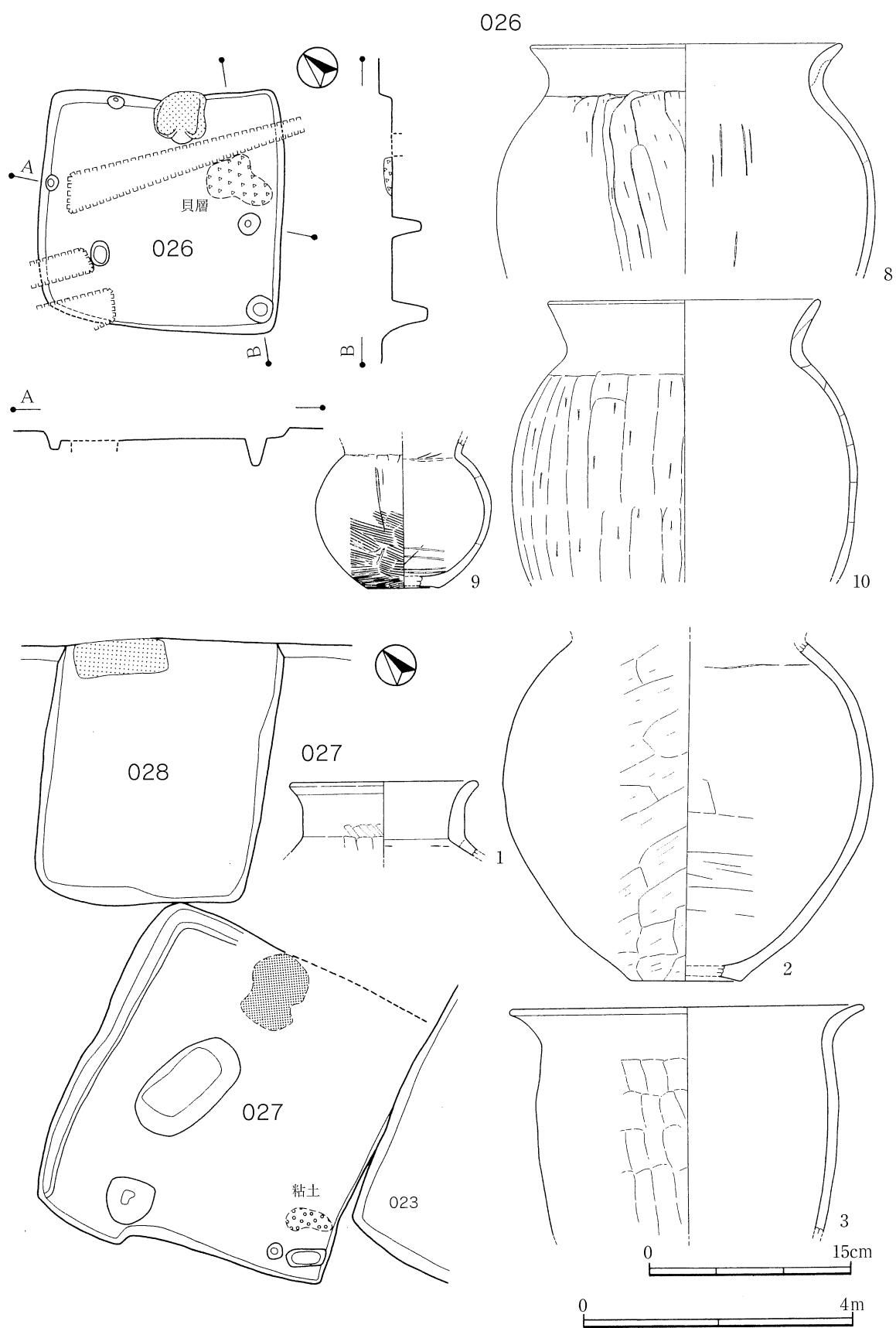
B地点1次南調査区東、グリッドHI-14に位置する。12号方形周構墓上に貼床する。遺構内に土坑状の落ち込みがあり東の壁が確認されていない部分から023号住居跡にかけて壁面に黒い溝状の断面が写真で確認できることから他の遺構が下層にある可能性がある。12号方形周構墓の南溝とも考えられる。

東北東壁中央の粘土混じりの焼土がカマドの痕跡である。南西側にピットが3基あるが柱穴はない。壁溝は北西側で検出されている。南コーナー近くに30×70cmの粘土が堆積している。

出土遺物(第23図)3点の土器を図示した。1は甕で胴部以下欠損。2は甕で頸部から上を欠損する。3は甕の上部破片である。



第22図 025号住居跡と025・026号住居跡出土土器



第23図 026～028号住居跡と026・027号住居跡出土土器

(28) 028号住居跡 第23図 図版5-5

主軸4.00m、直交3.33m、深さ0.20mの縦長の方形で、主軸方位は東に42度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドI-14に位置する。北東を2号溝が削平するが、他の住居跡との重複はない。奥壁とカマド奥を2号溝が削平する。その他の施設はない。

出土遺物（第24図）8点の土器を図示した。1は須恵器の壺で上部欠損。2は完形の小形土器で手捏である。3は坏で底部欠損。4は碗で底部中央を欠損。5は高杯脚部で外面を赤彩。6は台付鉢で上部欠損。7は台付甕台。8は甕の口縁部である。

(29) 029号住居跡 第24図 図版5-6

主軸3.57m、直交3.66m、深さ0.30mの小判形で、主軸方位は西に55度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドH-15<16に位置する。北側を030・031号住居跡が削平する。

奥壁から40cmに主軸線上よりやや右にずれ70×46cmの炉がある。柱穴は存在しない。主軸線上前壁から80cmに深さ22cmの出入口ピット。前壁下右寄りに35×60cm、深さ13cmの半円形の貯蔵穴がある。壁溝は存在しない。

出土遺物（第24図1-4）4点の土器を図示した。1は壺の頸部、沈線で区画し縄文で埋める。内面の頸部から上を赤彩。2は底部。3・4は高杯脚部で外面を赤彩する。3・4は重複する030・031号住居跡のいずれかの遺物である。

(30) 030号住居跡 第24図 図版5-7・8

主軸5.90m、直交4.73m、深さ0.38mの縦長の方形で、主軸方位は東に52度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドH-16に位置する。南で029号住居跡を削平し、北東で039号住居跡上にカマドを造る。北東で031号住居跡を削平する。039号住居跡上を除き遺存状態はよい。

カマド（第130図）は北東壁右寄りに造られる。カマド袖構築前に右奥のコーナーを奥行き70cm、幅80cmほどに区画するようにロームブロック主体の土手状の施設を造る。貯蔵穴・柱穴は存在しない。壁溝は全周する。

出土遺物（第25図）8点の土器を図示した。1は須恵蓋坏で上部欠損。2は完形の丸底坏で内外面を赤彩している。3は完形の丸底坏。4・5は下部を欠損した甕。6は上部を欠損した甕。7・8は甕の底部。南西壁中央で2の坏と8の底部が出土している。8は平面的には031号住居跡上だが本遺構へ流れ込む土層中で住居廃絶後の遺物である。

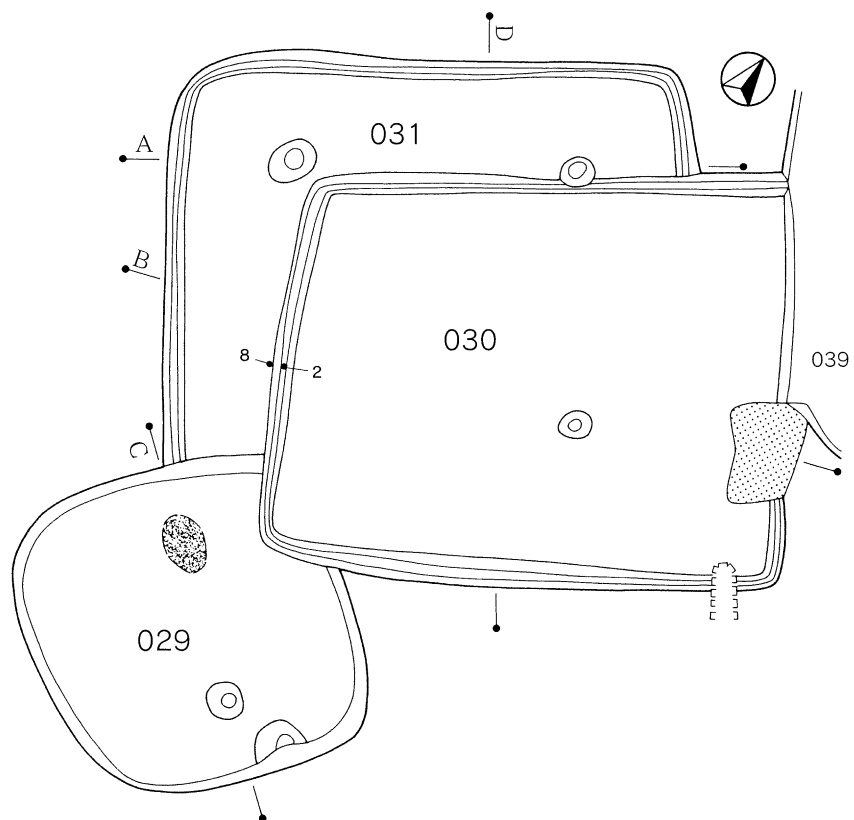
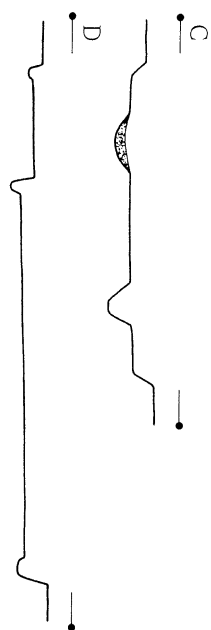
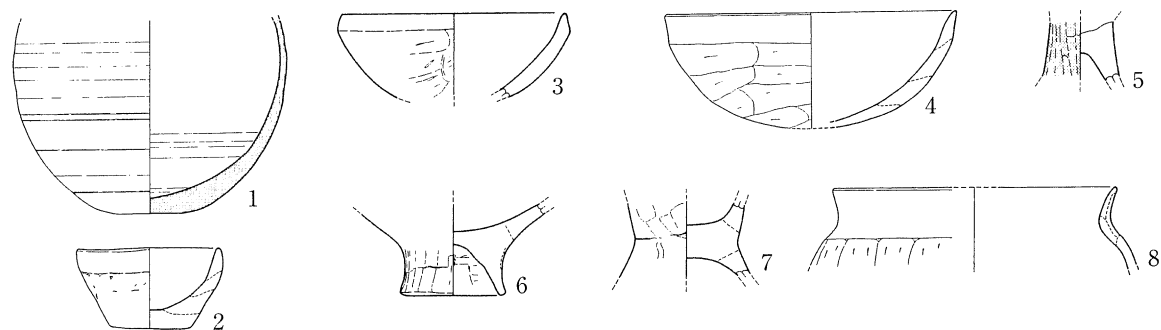
(31) 031号住居跡 第24図 図版5-7

主軸5.96m、直交4.60m以上、深さ0.15mの縦長の方形で、主軸方位は東に54度を測る。

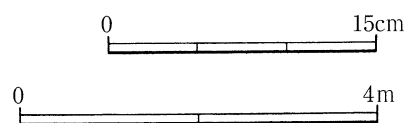
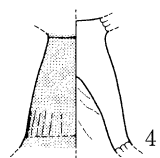
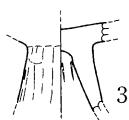
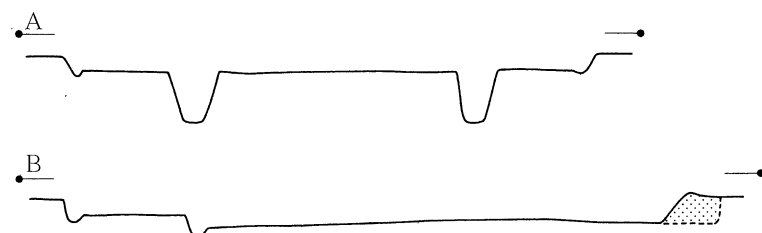
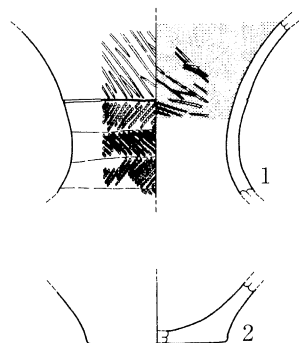
B地点1次南調査区中央、グリッドH-16に位置する。南で029号住居跡を削平し東の大部分を030号住居跡に削平される。029号住居跡上は貼床を確認していない。東は030号住居跡のため半分以上が失われているが残存部分は床面も硬く遺存がよい。

カマドは030号住居跡に削平されて残っていない。030号住居跡壁溝の位置にあるはずの右前の柱穴を除き3本の柱穴を検出した。左奥から右回りに深さ57・53・56cm。柱間は奥290・左320cm。

028



029



第24図 029～031号住居跡と028・029号住居跡出土土器

壁溝は現存部で全周する。

出土遺物（第25図） 3点の土器を図示した。1は坏の破片。2は二重口縁壺。3は底部である。

(32) 032号住居跡 第25図 図版6-1・7-1・2

主軸4.5m以上、直交4.84cmの小判形で、主軸方位は西に34度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドIJ-16<17に位置する。北西を034号住居跡が削平。左奥柱穴にかかる攪乱溝がある。

前壁から324cmに82×51cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥290・右260・前240・左250cm。貯蔵穴はない。壁溝は北東側で確認した。炉の北側に径48cmの焼土がある。

出土遺物（第25図） 3点の土器を図示した。1は壺の頸部、外面は上を赤彩している、沈線以下を縄文で埋める。2は須恵坏。3は底部欠損の埴。須恵坏は重複する034号住居跡の遺物であろう。埴は037・039号住居跡のいずれかの可能性があるが距離が離れており不明である。

(33) 033号住居跡 第26図 図版7-3・5

主軸4.72m、直交4.32m、深さ0.40mの方形で、主軸方位は東に51度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドHI-16<17に位置する。039号住居跡上に貼床をする。北東を034号住居跡が削平する。カマド前から東に攪乱溝がある。039号住居跡上は貼床端まで確認できたが壁は不明だった。

カマド（第130図）は北東壁に造られる。奥を034号住居跡に削平される。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ35・45・85・35cm、柱間は奥270・右240・前230・左240cm。右奥の柱穴が外にずれている。貯蔵穴は存在しない。壁溝は全周する。

出土遺物（第25図） 9点の土器を図示した。1は高杯の杯部で内外面を赤彩。2は頸部から上を破損した甕を再利用した無頸壺。3・4は高杯の脚部で外面を赤彩。5は高杯接合部。6は器台の脚端で外面を赤彩。7は甕で胴以下を欠損。8は甕の底部。9は甕で下部を欠損している。

(34) 034号住居跡 第26図 図版7-4～6

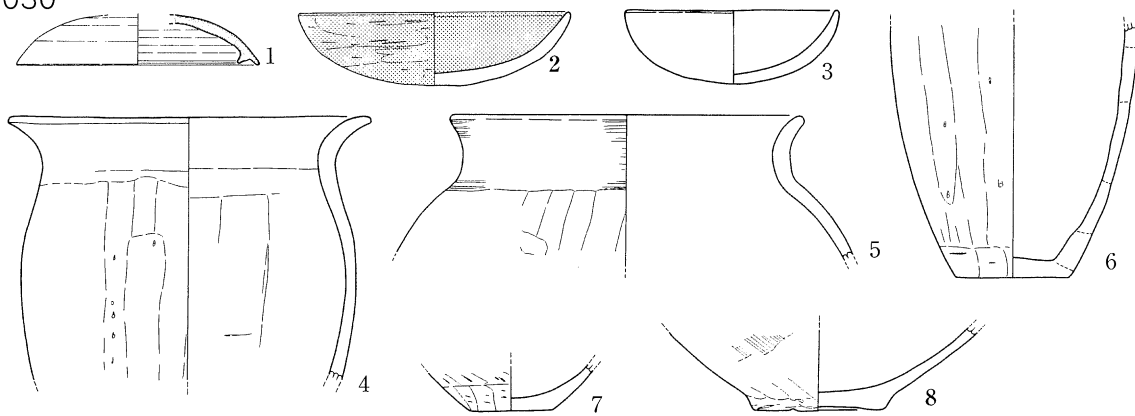
主軸5.08m、直交5.23m、深さ0.33mの方形で、主軸方位は西に40度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドI-16<17に位置する。南東で032号住居跡、北で037号住居跡、南西で033号住居跡、北西で035号住居跡を削平する。重複する遺構の中で最新の遺構で残りがよい。

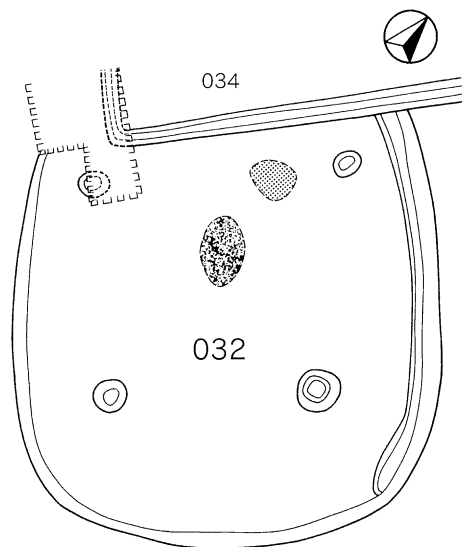
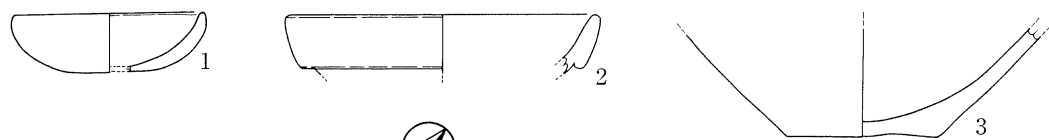
カマド（第130図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。いずれも浅く、左に寄って配置も不整形だった。左奥から右回りに深さ15・24・5・12cm、柱間は奥328・右212・前320・左276cm。北西壁近くにピット2基がある。壁溝は全周する。貯蔵穴はない。

出土遺物（第27・28図） 33点の土器を図示した。1～5は須恵器で、1は大甕の胴部、2は坏の破片、3は高台付坏の底部、4は高台付坏完形、5はハソウで上下を欠損する。8～10は坏で底部欠損。11・12は盤、完形。13は高杯の杯部。14～17は内外面を赤彩した高杯の杯部。18～20は高杯の脚部。21～23は外面を赤彩した高杯脚部。24は器台の脚部。25～29は下部を欠損した甕。30は甕の底部。

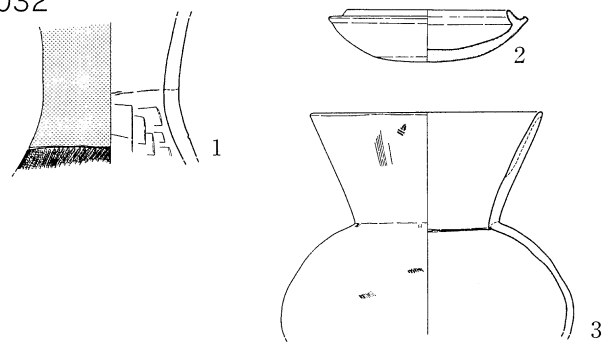
030



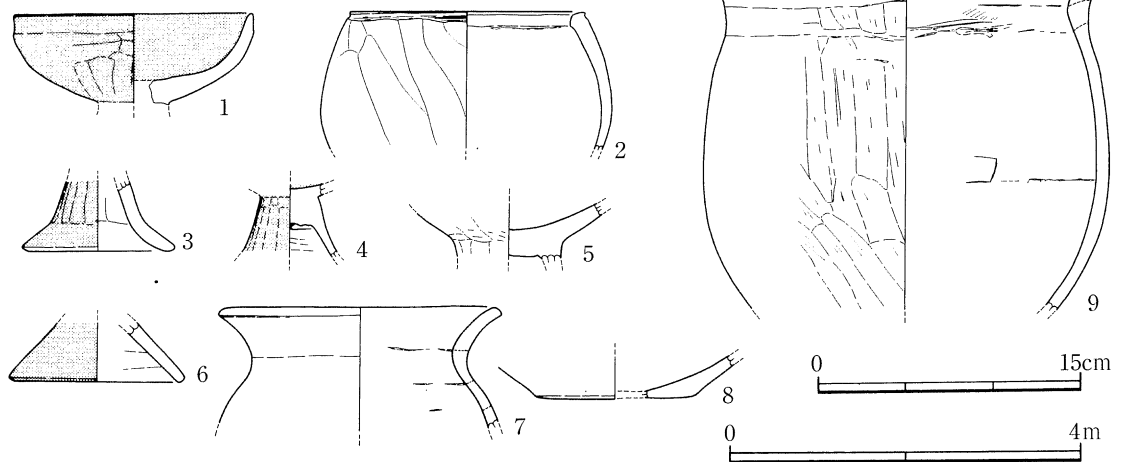
031



032



033



第25図 032号住居跡と030~033号住居跡出土土器

31・32は上部を欠損した甕。33は完形の甕である。

カマド脇・遺構南東部の2カ所に分かれて1の須恵大甕、左奥の柱穴脇で27、30の甕、北西壁寄りで33の完形の甕、南東壁中央下で19の高杯脚部が出土している。

(35) 035号住居跡 第26図 図版7-4・7

主軸5.45m、直交5.28m、深さ0.33mの方形で、主軸方位は西に41度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドHI-17に位置する。北西で036号住居跡、北で037号住居跡、南西で039号住居跡を削平し、南東を034号住居跡が削平する。重複部分を除き残りはよい。

カマド（第130図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ47・55・43・52cm、柱間は奥305・右305・前315・左295cm。ほぼ正方形に整った配置である。壁溝は全周する。貯蔵穴はない。

出土遺物（第28図）6点の土器を図示した。1は暗文のある坏。2は完形の碗。3は碗の口縁。4・5は甕底部。6は長胴甕で下部を欠損している。カマド内から6の甕が出土している。

土器以外の遺物として第144図1の管状土錘が出土している。上面が一部欠けるが完形である。

(36) 037号住居跡 第26図 図版8-1

主軸5.08m、直交2.6m以上、深さ0.20mの隅円方形で、主軸方位は西に42度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドI-17に位置する。東で044号住居跡を削平し、南西で034・035号住居跡が削平する。重複、削平が多く詳細は不明。炉などは034・035号住居跡に削平される。

出土遺物（第28図）2点の土器を図示した。1は須恵器蓋坏で中央欠損。2は埴で上下を欠損し内面頸部以下を除き内外面を赤彩している。須恵器は重複する034・035・043号住居跡いずれかの遺物である。

土器以外の遺物として第144図2の土玉が出土している。1/3程の破片である。

(37) 039号住居跡 第26図 図版7-3・8

主軸7.14m、直交5.3m以上、深さ0.40mの縦長の隅円方形で、主軸方位は西に40度を測る。

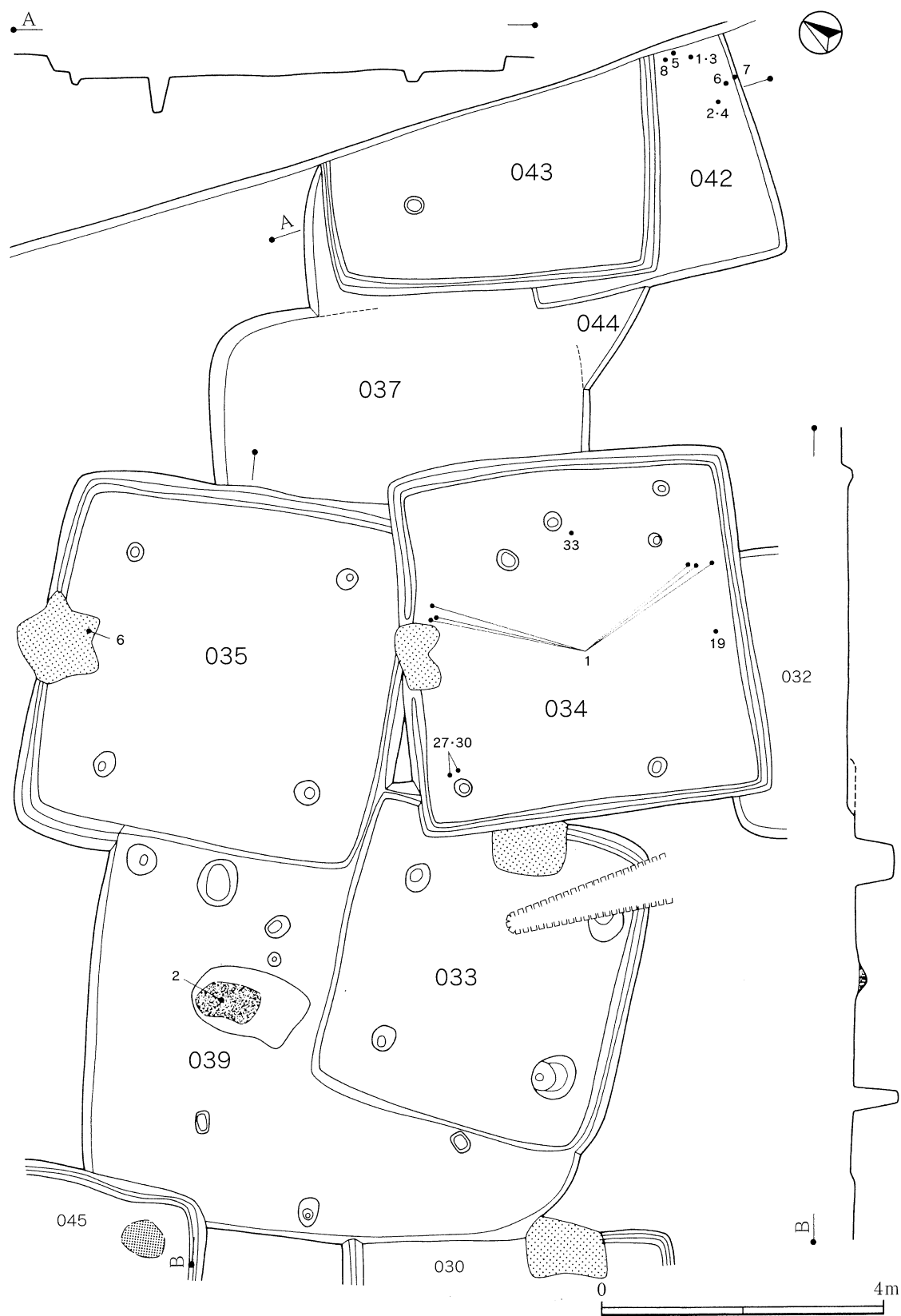
B地点1次南調査区中央、グリッドHI-16<17に位置する。南東で033号住居跡、北東で035号住居跡が貼床する。北西は045号住居跡が削平。033・035号住居跡貼床下は調査していない。

炉は奥の柱穴の中央に165×95cmの掘形で92×55cmの焼土がある。柱穴は033号住居跡下の右前の1本を除き3本を検出した。左奥から右回りに深さ59・55・40cm、柱間は奥344・左368cm。貯蔵穴は033号住居跡下の可能性がある。壁溝は存在しない。遺構内に小ピットが4カ所に散在している。用途などは分らない。

出土遺物（第29図）2点の土器を図示した。1は器台で口縁部を欠損し、脚内を除き赤彩している。2は完形の炉器台。炉中央で2が出土している。（図版7-8）

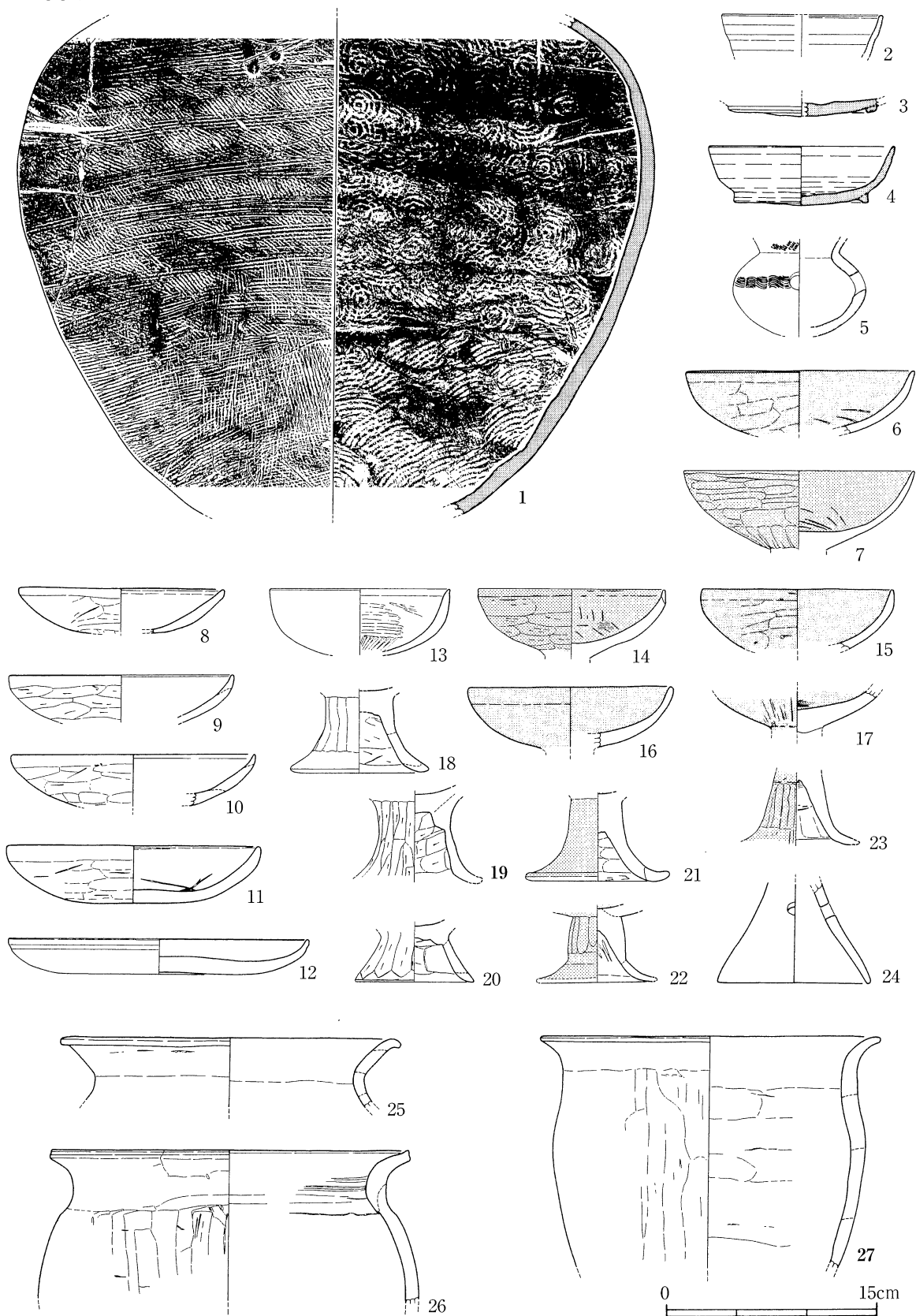
(38) 042号住居跡 第26図 図版8-4・6～8

主軸3.2m以上、直交3.70m、深さ0.25mの方形で、主軸方位は東に40度を測る。



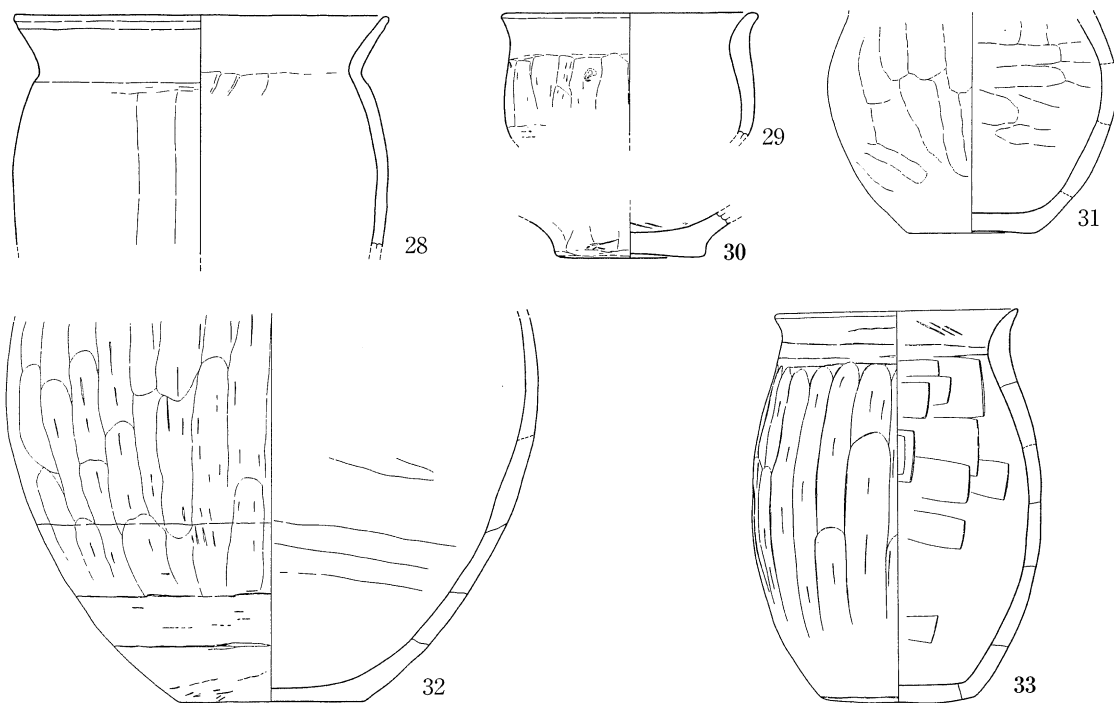
第26図 033~035・037・039・042~044号住居跡

034

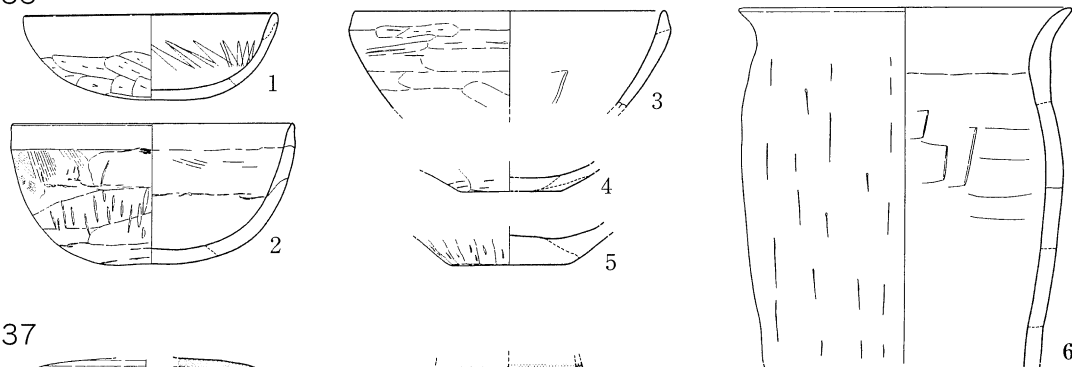


第27图 034号住居跡出土土器

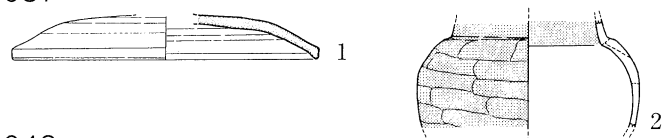
034



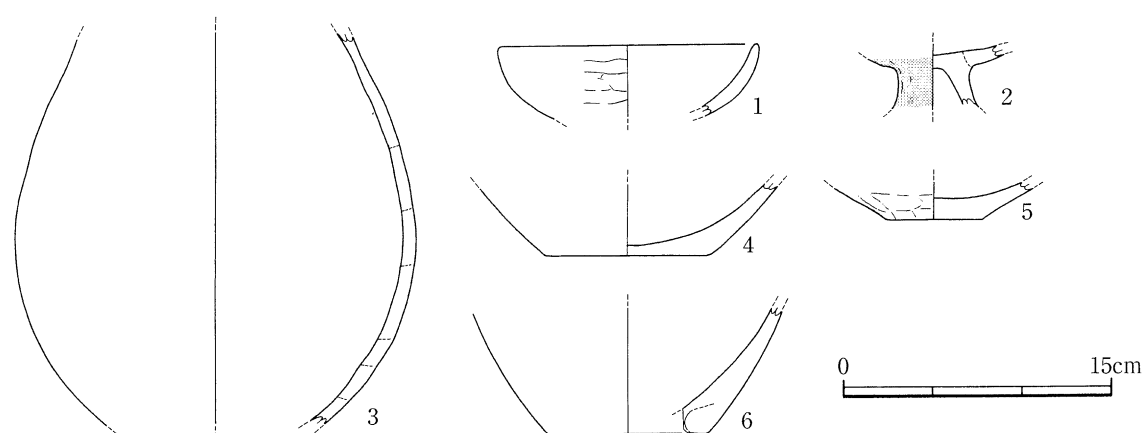
035



037



043



第28图 034・035・037・043号住居跡出土土器

B地点1次南調査区中央、グリッドIJ-17に位置する。西で037・044号住居跡を削平し、北で043号住居跡に削平される。西側は043号住居跡に削平され、北東は道路のために未調査で貯蔵穴付近から南側のコーナーを調査した。

カマドは北東壁に造られ、調査区域外にある。柱穴・壁溝は存在しない。貯蔵穴は東コーナーにあるが、一部調査区域外に続き、遺物のみを取り上げ掘り上げと実測をしていない。

出土遺物（第29図）8点の土器を図示した。1・2は完形の甕。3は底部欠損の甕。4は甕の口縁部。5・7は高杯の杯部で内外面を赤彩。6は丸底坏で底部を除き内外面を赤彩。8は丸底碗で外面の底部を除き赤彩している。図示した土器（図版8-7・8）は全て貯蔵穴周辺で出土した。

(39) 043号住居跡 第26図 図版8-4・5

主軸3.1m以上、直交4.80m、深さ0.35mの方形で、主軸方位は東に62度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドIJ-17に位置する。南で037・044号住居跡、南東で042号住居跡を削平する。北東部は調査区域外に広がりカマドも区域外で調査していない。西コーナー近くに深さ50cmの柱穴を検出した。四本柱だとすると調査範囲にあるはずの対になる柱穴が検出されていない。壁溝は調査範囲で全周する。

出土遺物（第28図）6点の土器を図示した。1は坏の破片。2は高杯の脚部で外面を赤彩。3は甕の胴部。4～6は甕の底部破片である。

(40) 044号住居跡 第26図 図版8-1

主軸5.00m、直交1m以上、深さ0.20mの楕円形で、主軸方位は不明。

B地点1次南調査区中央、グリッドI-17に位置する。西で037号住居跡、東で042・043号住居跡が削平する。壁の様子が楕円形に繋がりそうなので弥生時代の住居跡としたが、大部分を他の遺構に削平されているため詳細は不明である。

(41) 036号住居跡 第29図 図版7-4

主軸5.10m、直交4.70m、深さ0.20mの隅円方形で、主軸方位は西に49度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドHI-17>18に位置する。北東を040号住居跡、南東を035号住居跡が削平する。奥壁の右半分を攪乱されている。

前壁から380cmに70cm以上×62cmの炉がある。東コーナーに径40cm、深さ20cmの円形の貯蔵穴がある。炉の手前90cmに50×24cmの焼土がある。壁溝はない。

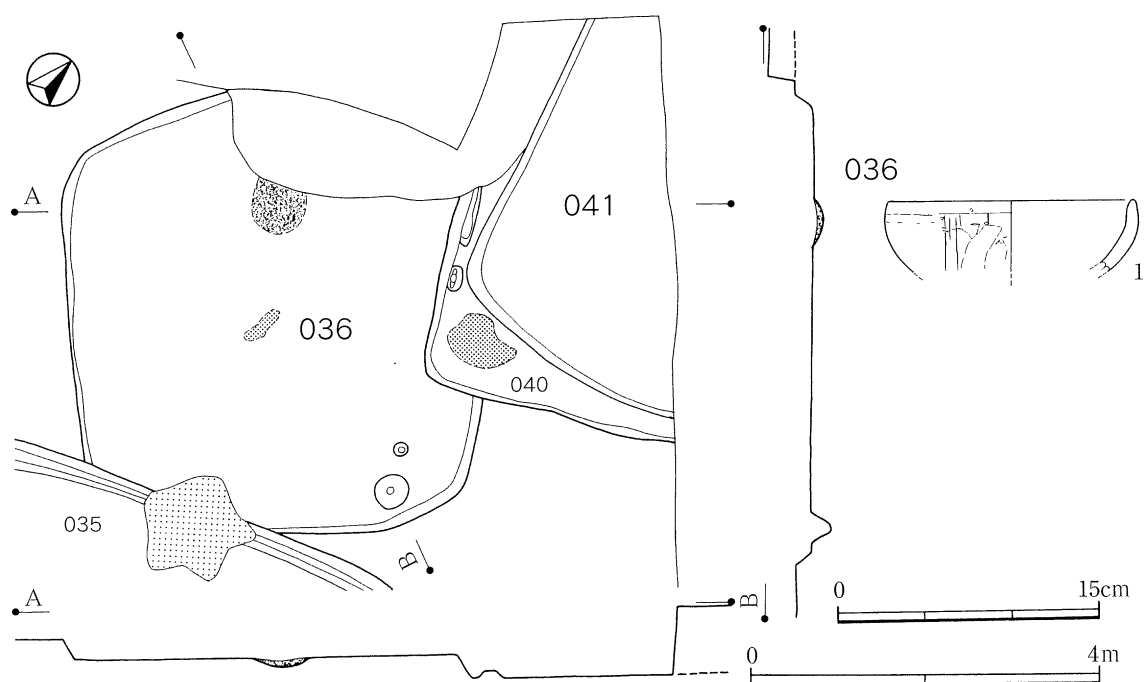
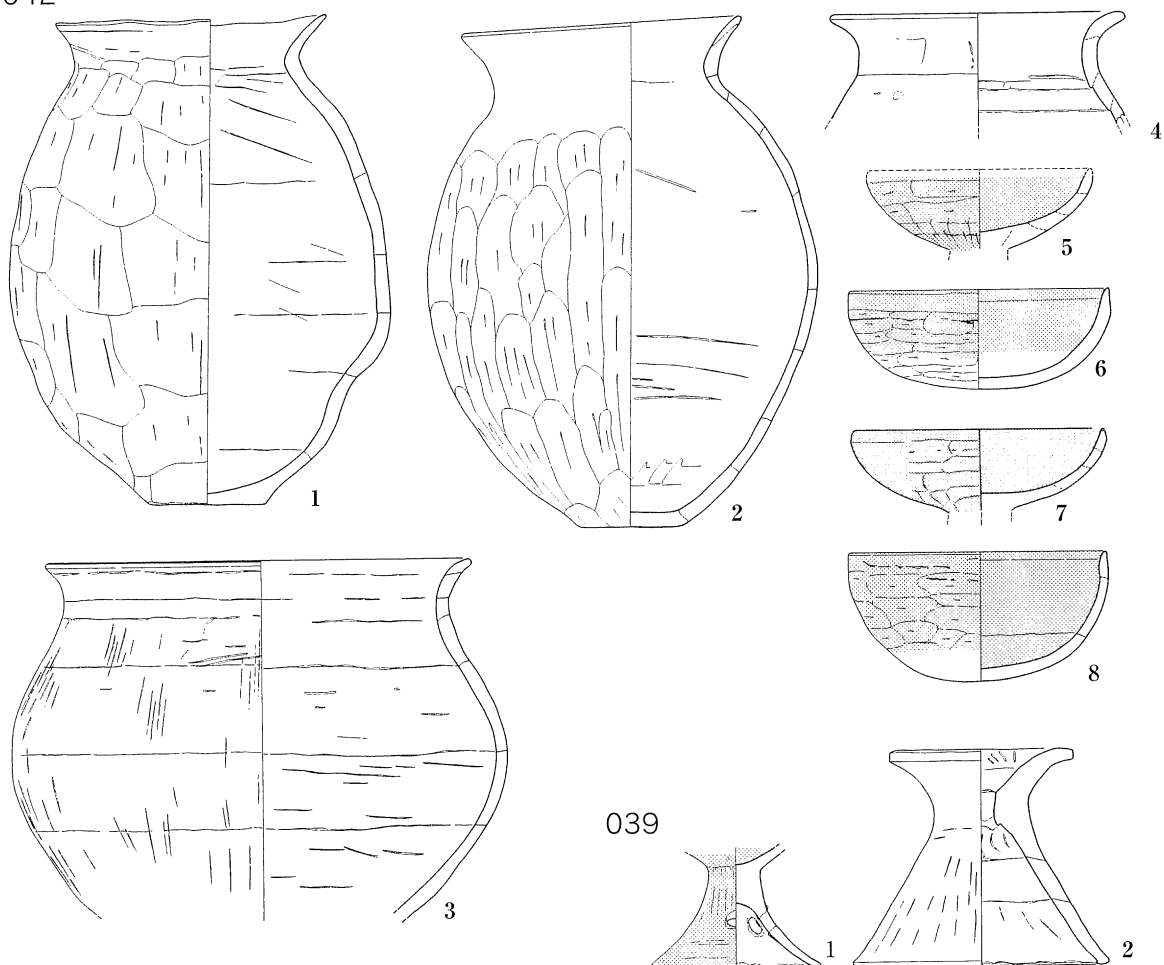
出土遺物（第29図）は1の坏破片を図示するにとどまる。遺構との時期差があり035号住居跡の遺物の可能性がある。

(42) 041号住居跡 第29図 図版6-1

主軸3.4m以上、直交3m以上、深さ0.45mの隅円方形。

B地点1次南調査区中央、グリッドI-18に位置する。040号住居跡内部を削平する。040号住居跡の中に収まり道路の反対側に出ないことから一辺5m未満の遺構であるが詳細は不明である。

042



第29図 036・041号住居跡と036・039・042号住居跡出土土器

(43) 040号住居跡 第30図 図版6-1・18-2

主軸8.80m、直交9.00m、深さ0.33mの隅円方形で、主軸方位は西に38度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドHI-18>19に位置する。南で036号住居跡を削平し中央を041号住居跡が削平する。道路のため中央部を調査できず、内部に041号住居跡があり南西側では遺物はほとんど出土していない。

炉は未調査部分にある可能性が強い。柱穴は北コーナーに1基検出、深さ66cm。北東壁南寄りに75×68cm、深さ27cmのピットが検出された。貯蔵穴の可能性はある。壁溝は南コーナー近くで一部検出。南コーナーで60×80cm、北東で88×68cmの焼土2カ所、北西で62×60cm以上の粘土を検出した。

出土遺物(第30図)8点の土器を図示した。1は埴の胴部で内外面を赤彩。2は上下欠損の小形甕。3は完形の器台で脚内も含めて内外面を赤彩。4は甕口縁部。5は完形の平底坏。6は高杯脚部。7・8は底部破片である。

北西壁寄りの粘土堆積の脇から3の器台が出土した。4～8は041号住居跡の遺物であろう。

(44) 038号住居跡 第30図 図版8-2・3

主軸4.78m、直交5.23m、深さ0.45mの方形で、主軸方位は西に35度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドJK-14に位置する。南を2号溝が削平する。住居跡との重複はない。南コーナーは2号溝、左奥、右前の柱穴は攪乱溝で検出できなかった。

カマド(第130図)は北西壁やや右寄りにある。四本柱の内2本を検出した。レベルは計測していない。壁溝は全周する。貯蔵穴はない。

出土遺物(第31図)1は完形の須恵高台付坏。2は丸底の坏。3は完形の甕。4は下部欠損の甕。

(45) 045号住居跡 第31図 図版6-2

主軸4.20m、直交4.43m、深さ0.35mの方形で、主軸方位は西に20度を測る。

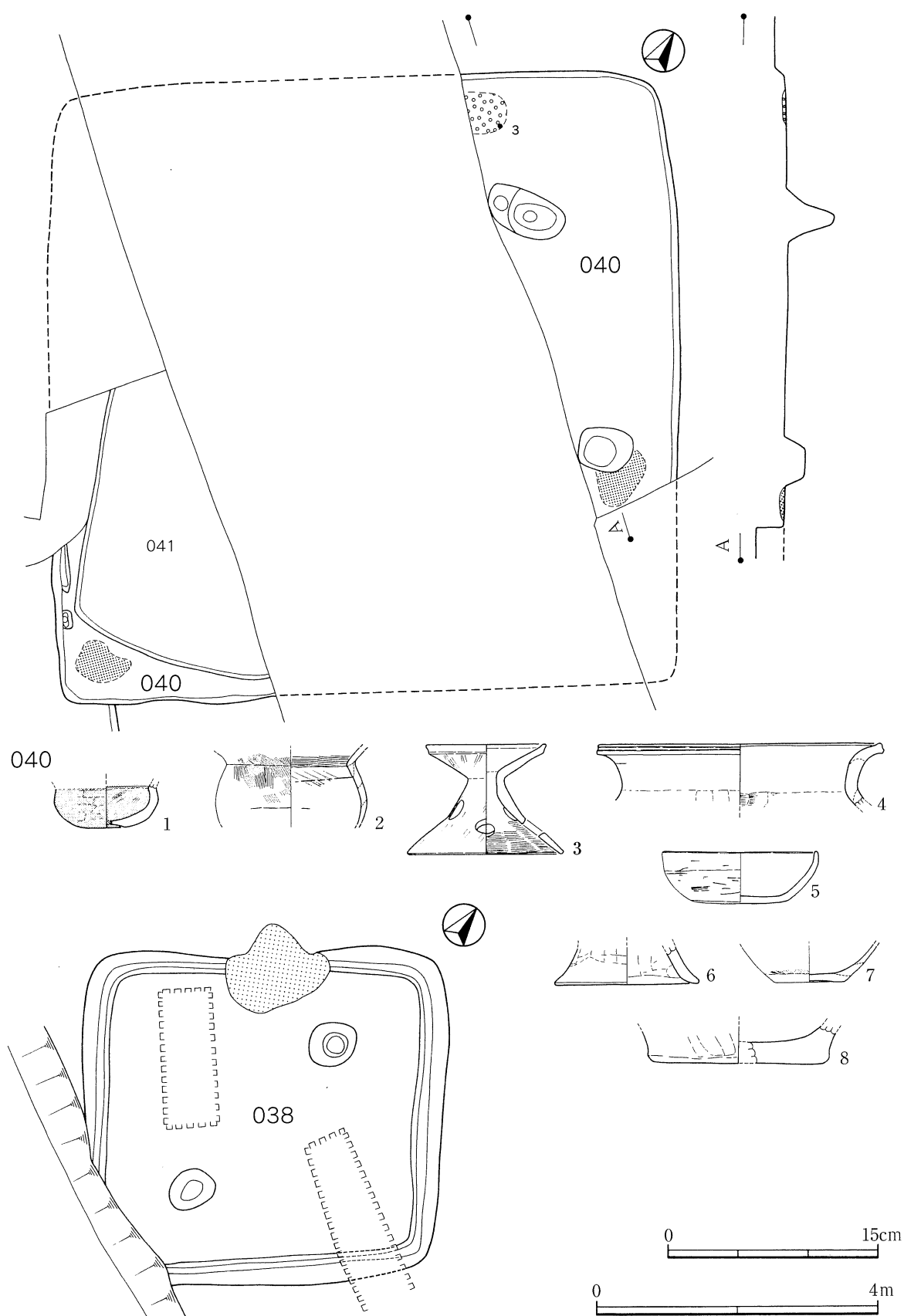
B地点1次南調査区西、グリッドH-16<17に位置する。北東で039号住居跡を削平し、北西で049号住居跡上に貼床する。カマド・貯蔵穴を含め奥1mほどが049号住居跡の上にあり奥壁は黒色土中で不明瞭だった。

カマド(第130図)は北西壁わずかに右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。掘って埋めたというより杭のように打ち込んだと考えられる小さな柱穴である。レベルは計測していない。柱間は奥180・右160・前162・左162cm。カマドの東側に104×87cm、深さ110cmの隅円方形の貯蔵穴。壁溝は北西壁と北東壁の北側を除き確認した。奥壁から1mほどがベッド状に一段高くなっている。ロームの多い土を盛って叩きしめたようである。南側の両コーナーに径40～50cmの焼土が2カ所ある。

出土遺物(第32図)南西焼土中から2の完形の碗、貯蔵穴中から1の完形の甕が出土している。

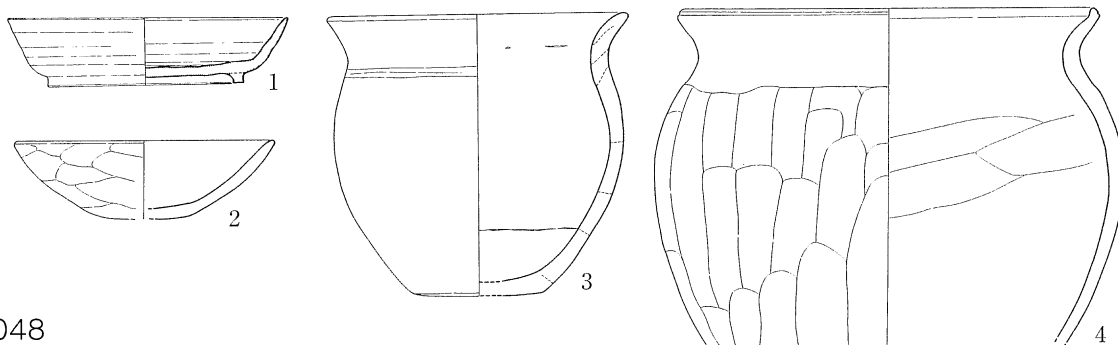
土器以外の遺物として第148図13の棒状の鉄製品が出土している。

(46) 046号住居跡 第31図 図版6-2・9-1・2

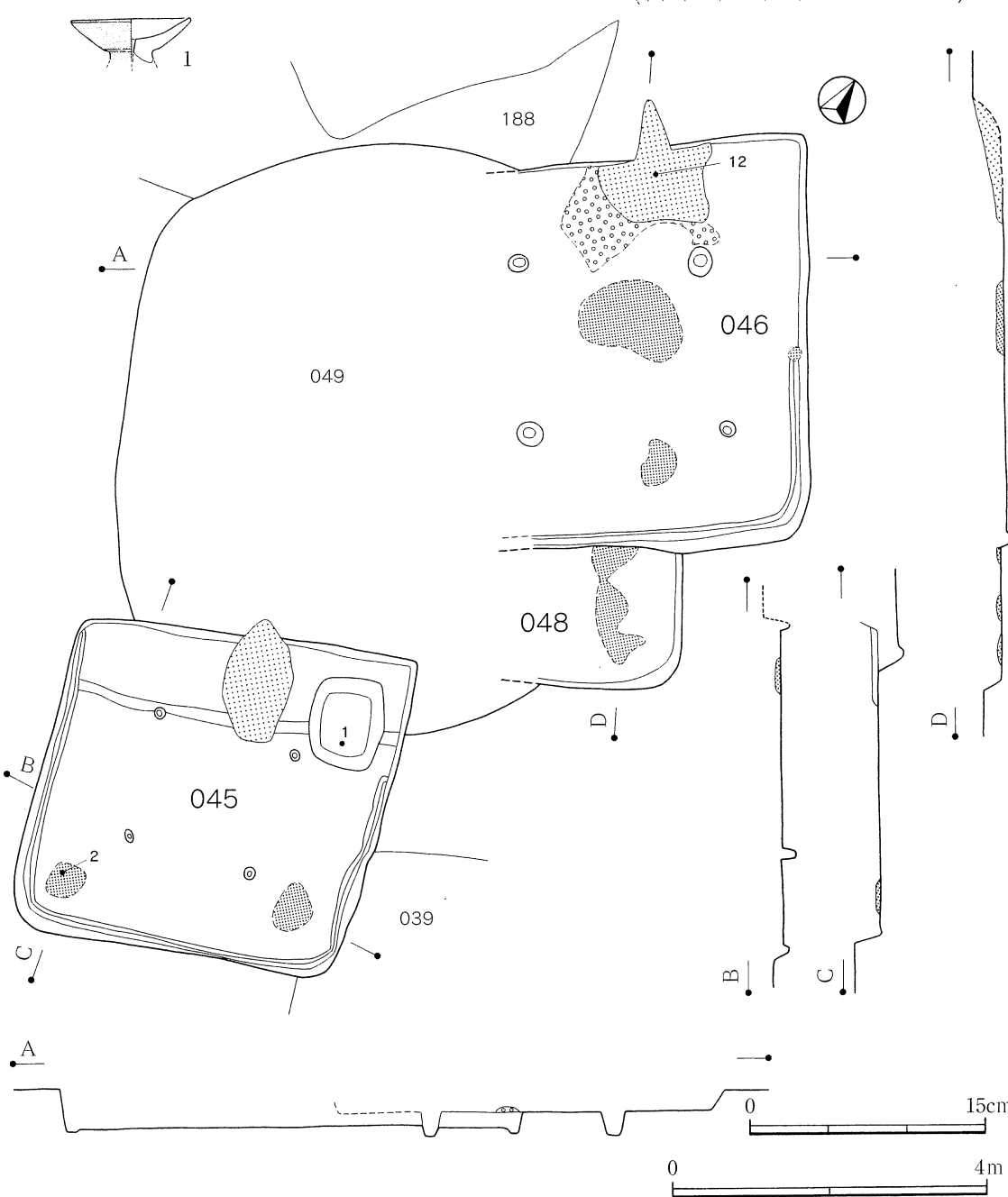


第30図 038・040号住居跡と040号住居跡出土土器

038

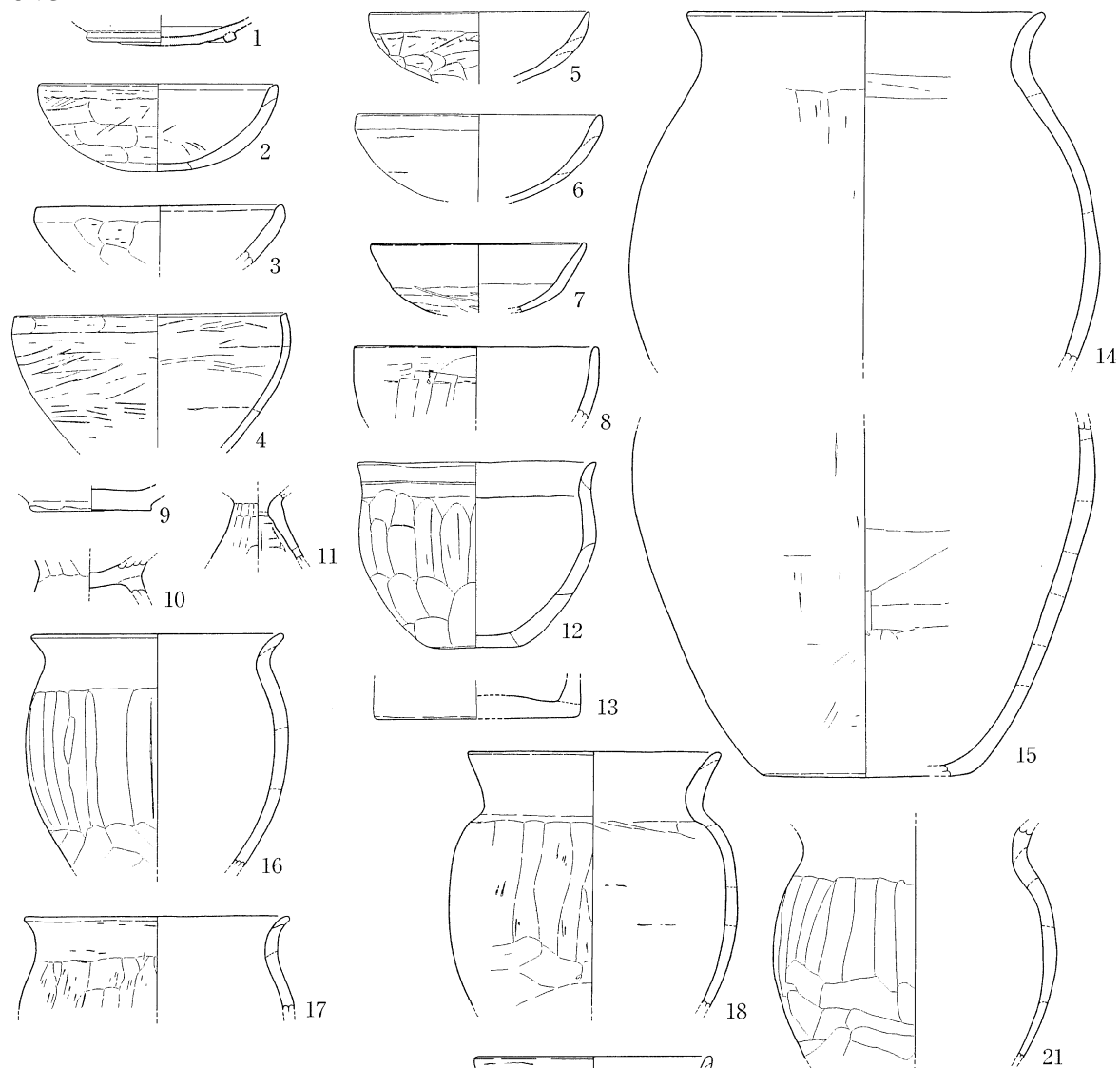


048

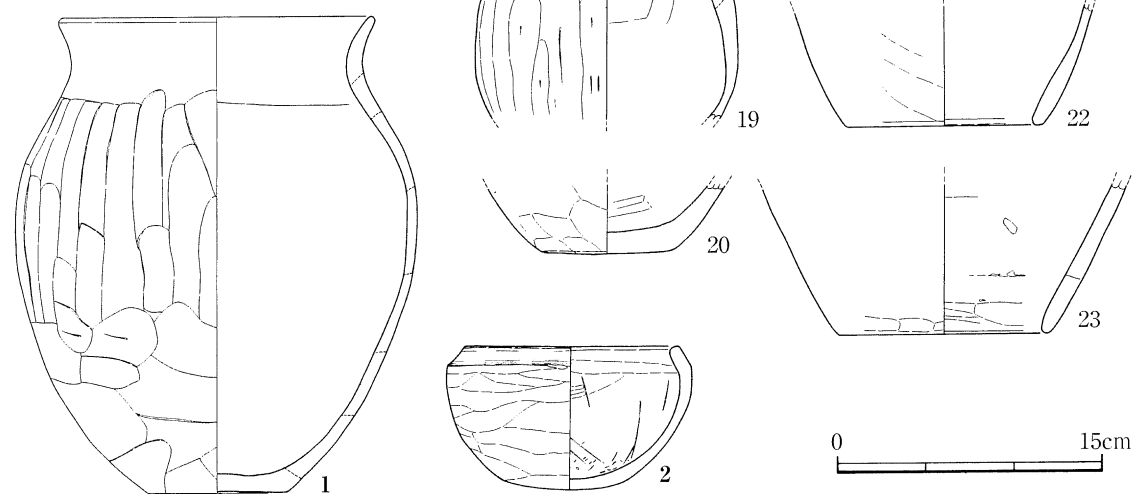


第31図 045・046・048号住居跡と038・048号住居跡出土土器

046



045



第32図 045・046号住居跡出土土器

主軸5.10m、直交3.5m以上、深さ0.32mの方形で、主軸方位は西に48度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドH-17<18に位置する。南西で049・188号住居跡上に貼床し、南東で048号住居跡を削平する。当初、壁溝の全周する住居の北コーナーを突出するように、第33図から第31図に壁溝を埋め拡張している。

カマド（第131図）は北西壁の右寄りにある。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ45・30・30・45cm。柱間は奥234・右220・前250・左216cm。貯蔵穴は存在しない。壁溝は拡張前全周。拡張後遺構中央と北西壁と北東壁北側を除き確認した。カマドの粘土が広く周りに流れている。南東に2カ所の焼土を検出した。

出土遺物（第32図）23点の土器を図示した。1は須恵器高台付坏底部破片。2は完形の丸底坏。3・4は碗の破片でいずれも底部を欠損する。5～7は坏の底部欠損の破片。8は碗破片。9は甕底部。10は高杯の接合部。11は器台の脚部で脚端を欠損する。12は完形の小形甕でカマド内からの出土である。13は底部。14～21は甕で、完形品はなかった。22・23は甕で下部の破片である。

土器以外の遺物として第144図3の土玉が出土している。上面に傷があるが完形である。

(47) 199号住居跡 第6図 図版6-2

046号住居跡床面、第7図中の点線の部分に一段深い住居跡がある。これは046号住居跡カマドの断面（第131図1煙道部断面）と床面の調査からも確認したが大部分が調査範囲外に出ることと時間の問題から掘っていない。199号住居跡の番号を付けている。

(48) 048号住居跡 第31図 図版6-2・9-1

2m以上×2m以上の隅円方形。主軸方位は西に44度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドH-17に位置する。南西で049号住居跡上に貼床し、北西046号住居跡が削平する。炉は046号住居跡が削平。柱穴・壁溝等は確認できなかった。遺構内に焼土が広がる。焼失家屋である。

出土遺物（第31図）1は脚部を欠損する器台の破片で、外面を赤彩する。

(49) 047号住居跡 第33図 図版9-3～6

主軸5.50m、直交5.46m、深さ0.50mの方形で、主軸方位は東に35度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドGH-17<18に位置する。南東で062・188号住居跡を削平する。遺構廃棄後多数の土器が内部に捨てられている。カマド付近と周辺床面直上の遺物は遺構に伴うもので他は捨てられたものだがあまり時期差はない。

カマド（第131図）は北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに62・60・60・62cm。柱間は奥260・右268・前272・左264cm。南東壁から80cm内側に深さ16cmのピットがあり出入口ピットであろう。壁溝は全周する。貯蔵穴はない。出入口ピット前の壁が弧状に外に広がり、そこから須恵蓋坏が出土している。出入りのための施設である。南東コーナーに76×74cmの貝ブロックがある。床面から浮いており周囲の遺物とともに廃棄されたものである。

出土遺物（第33～35図）1、完形の模倣坏。2、完形の碗で、外下部を除き内外面を赤彩する。3

～6は高杯の杯部で、内外面を赤彩する。7は高杯の杯部。8は脚端を欠損する高杯で、脚内を除き内外面を赤彩する。9～14は高杯で坏口縁部を欠損する。いずれも脚内を除き内外面を赤彩する。15～20は完形の高杯で、脚内以外を赤彩する。21は完形の高杯で、坏内下部と脚内を除き赤彩する。23・24は完形の高杯。25は台。26は完形の大形高杯で、坏内下部と脚内以外面を赤彩する。27は頸部以上を欠損する埴で、外面を赤彩する。28～34は甕で、33・34は完形である、35・36は手捏土器。37は器台器受部。38・39は弥生式土器の壺の頸部と口縁から頸部にかけてで、重複する062号住居跡の遺物である。

住居跡南西部に遺構外から投げ入れられたように多数の土器が出土している。1の模倣坏、2・3・7・8・12・14～17・20・23・24・26の高杯、27の埴、28～31の甕、35・36の手捏土器、土玉がそれで、遺構中央の土玉とその周辺の土器はほぼ床に接するように、貝層上の29の甕は遺構確認面に近いレベルで出土している。

土器以外の遺物として146図4の土玉、149図4の砥石が出土している。土玉は下が欠けている。砥石は数カ所に傷があるが形の整った完形である。

(50) 049号住居跡 第33図 図版6－2・9－1

主軸7.55m、直交6.32m、深さ0.50mの縦長の隅円方形で、主軸方位は西に35度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドGH-17に位置する。南西で062号住居跡を削平し、西で188号住居跡、東で048号住居跡、南東で045号住居跡、北東で046号住居跡が貼床する。上層の046・048号住居跡の調査終了後遺構東側を調査したため一部レベルは計測していない。

奥柱穴間わずかに右寄りに83×47cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ72・71・76・74cm。柱間は奥336・右384・前336・左376cm。主軸上南東壁から88cmに出入口ピット。南東壁北寄りに32×33cmの円形と26×24cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝は全周する。遺構内に9基のピットが散在している。

出土遺物（第35図）1は口縁下に縄文を3段に施し下を沈線で区画した鉢で底部欠損。2はボタン状貼付を2個一組で施した壺口縁破片。3は小波状の口縁と胴部に刻みのある段を持つ甕で胴部を欠損する。4は底部である。

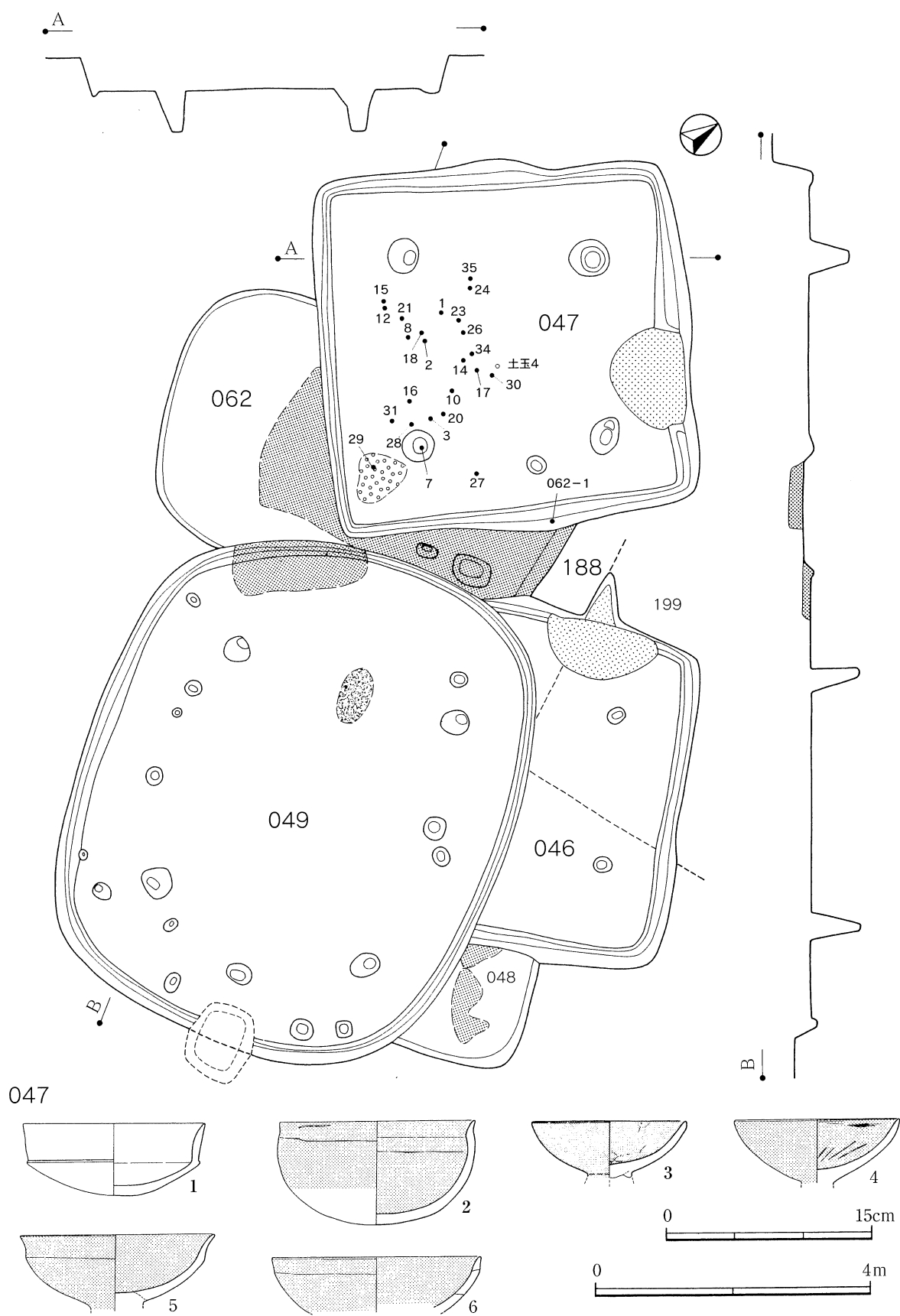
(51) 062号住居跡 第33図 図版9－3

主軸3.92m、直交3.2m以上、深さ0.45mの小判形で、主軸方位は西に53度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドGH-17に位置する。東で188号住居跡が貼床する。南東で049号住居跡、北で047号住居跡に削平される。炉を含め北東部を047号住居跡に削平される。

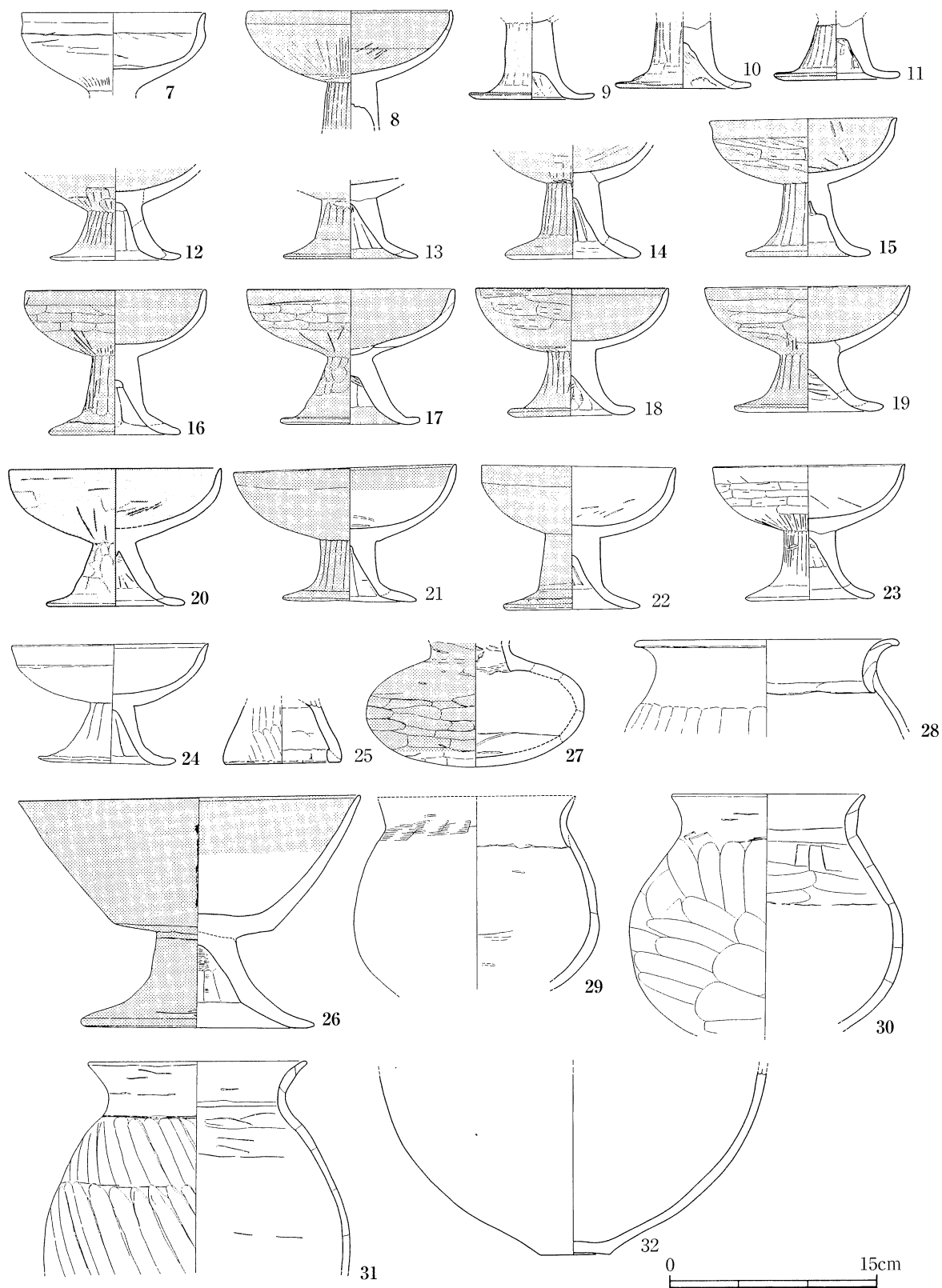
出土遺物（第35図）1は完形の須恵蓋坏。2は甕の胴部破片。047号住居跡南東壁ほぼ中央のやや外に広がった部分で1の須恵蓋坏が出土している。遺物の注記は062号住居跡だが047号住居跡に所属するものである。

土器以外の遺物として第142図8の土製支脚がある。頂部の破片である。形態から古墳時代前期のものと考えられ重複する188号住居跡の遺物であろう。



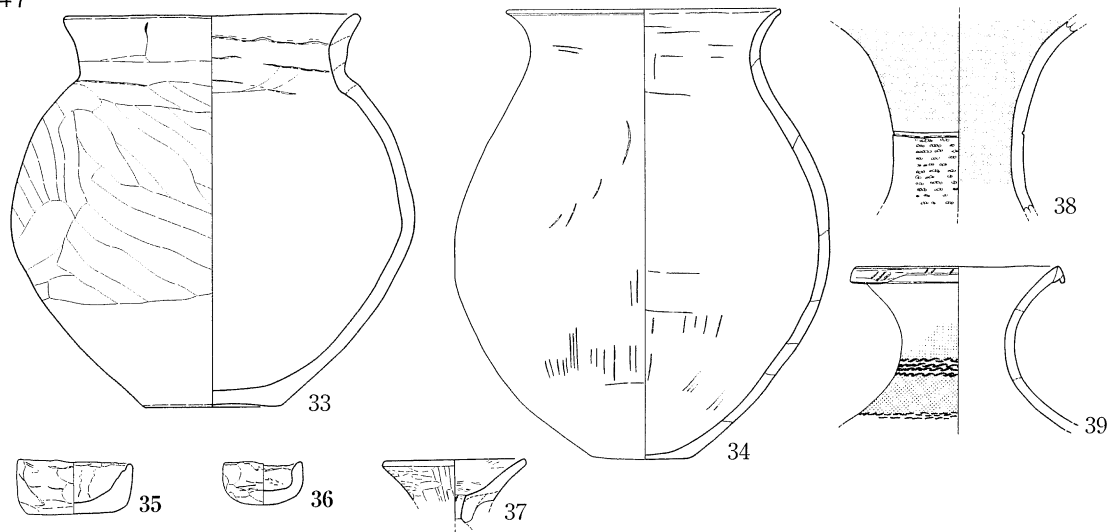
第33図 047・049・062・188号住居跡と047号住居跡出土土器

047

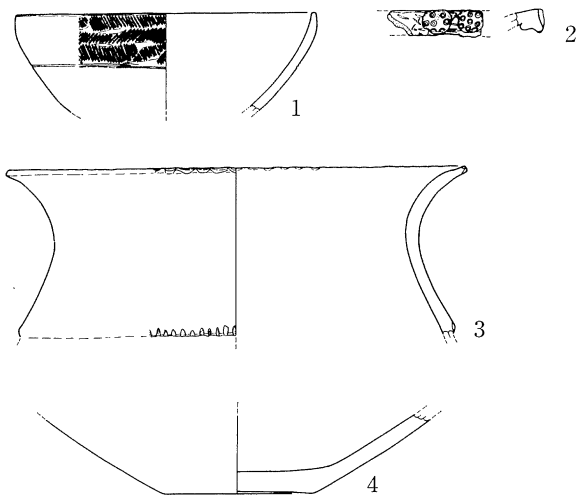


第34图 047号住居跡出土土器

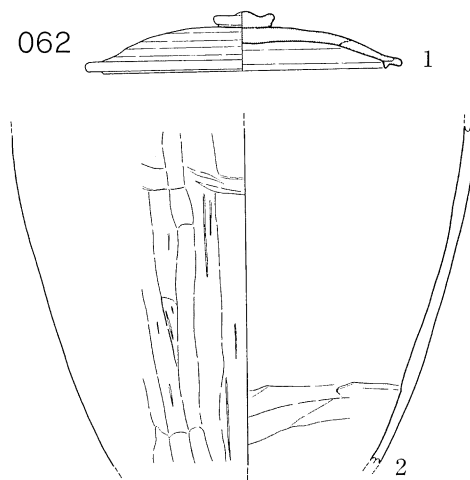
047



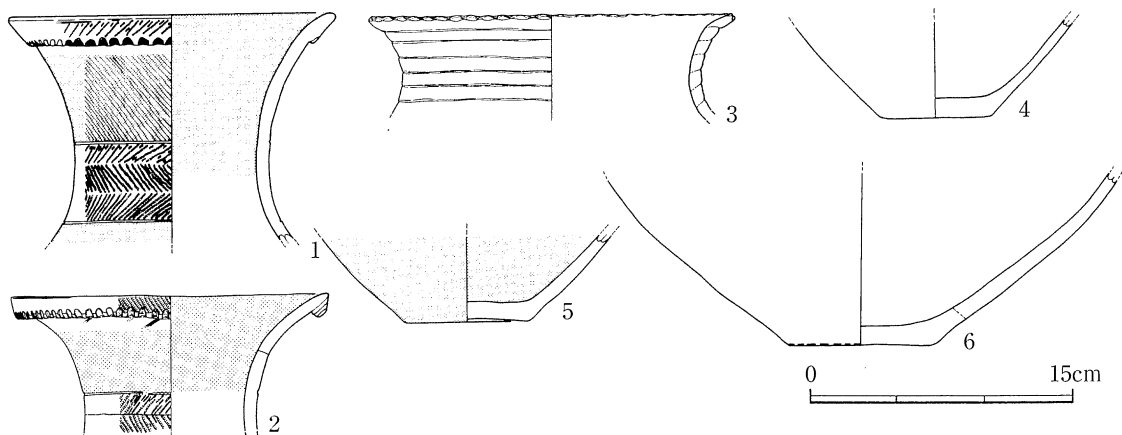
049



062



188



第35図 047・049・062・188号住居跡出土土器

(52) 188号住居跡 第33図 図版9-3

一辺4.2m程の隅円方形。深さ0.27m、主軸方位は西に22度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドGH-17>18に位置する。南で062号住居跡、南東で049号住居跡上に貼床する。西で047号住居跡が削平する。全体に焼土が厚く堆積しておりその部分がほぼ住居跡の範囲と考えられる。炉は047号住居跡に削平される。南東にピットが2基並ぶ。貯蔵穴であろう。

出土遺物（第35図）1・2は壺口縁から頸部。3は甕口縁部。4～6は底部破片で、5は内外が赤彩されている。047・062・188号住居跡の遺物については混ざって取り上げられており、弥生時代後期が062号住居跡、古墳時代前期が188号住居跡、古墳時代中期後葉が047号住居跡の遺物である。

(53) 050号住居跡 第36図 図版9-7

主軸6.77m、直交6.70m、深さ0.30mの方形で、主軸方位は西に51度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドGH-16に位置する。北西で051号住居跡を削平する。南西側とカマド周辺に攪乱がある。

カマド（131図）は北西壁中央に造られる。右袖を全て攪乱され、煙道を051号住居跡覆土中に造っており不明な点がある。カマド脇、床面、壁溝中と5基のピットが散在している。いずれも浅く配置も不規則で柱穴とはならない。壁溝は全周する。

出土遺物（第36図）10点の土器を図示した。1は完形の須恵器坏。2～5は碗、坏類で2が完形の丸底小型碗。4が完形の丸底坏である。6～8は高杯の脚部で、7は外面を赤彩している。9は高杯の脚部を破損した後、下端を磨って台付鉢として再利用している。10は手捏土器で口縁を欠損する。11は甕で胴部以下を欠損する。

土器以外の遺物として第144図5の管状土錘が出土している。側面を一部欠損するがほぼ完形である。

(54) 051号住居跡 第36図 図版9-7

主軸4.00m、直交4.70m、深さ0.23mの横長の隅円方形で、主軸方位は西に57度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドG-16>17に位置する。北西で052号住居跡を削平し、南東で050号住居跡が削平する。焼失住居で遺構全体に焼土が散在している。

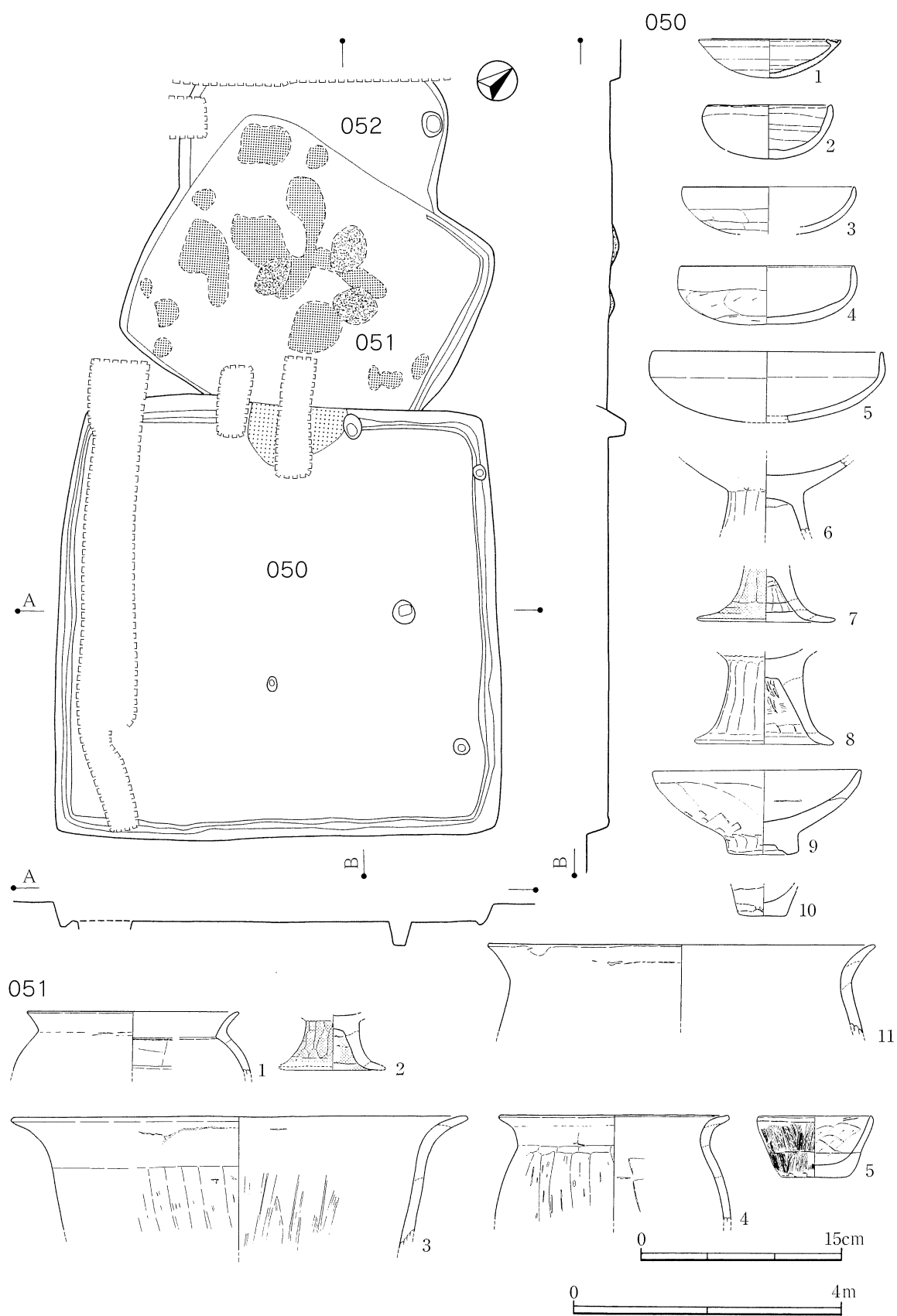
中央に3カ所、長径70cmほどの楕円形に床面まで焼けて焼土の堆積している部分があった。炉と考えられる。柱穴等はない。壁溝は東側で確認した。

出土遺物（第36図）1は甕で胴部を欠損する。2は高杯の脚部で、外面を赤彩する。3は甕の口縁部破片。4は甕で胴部以下欠損する。5は完形の鉢。5点を載せたが1～4は050号住居跡の遺物で伴うのは5の鉢のみである。

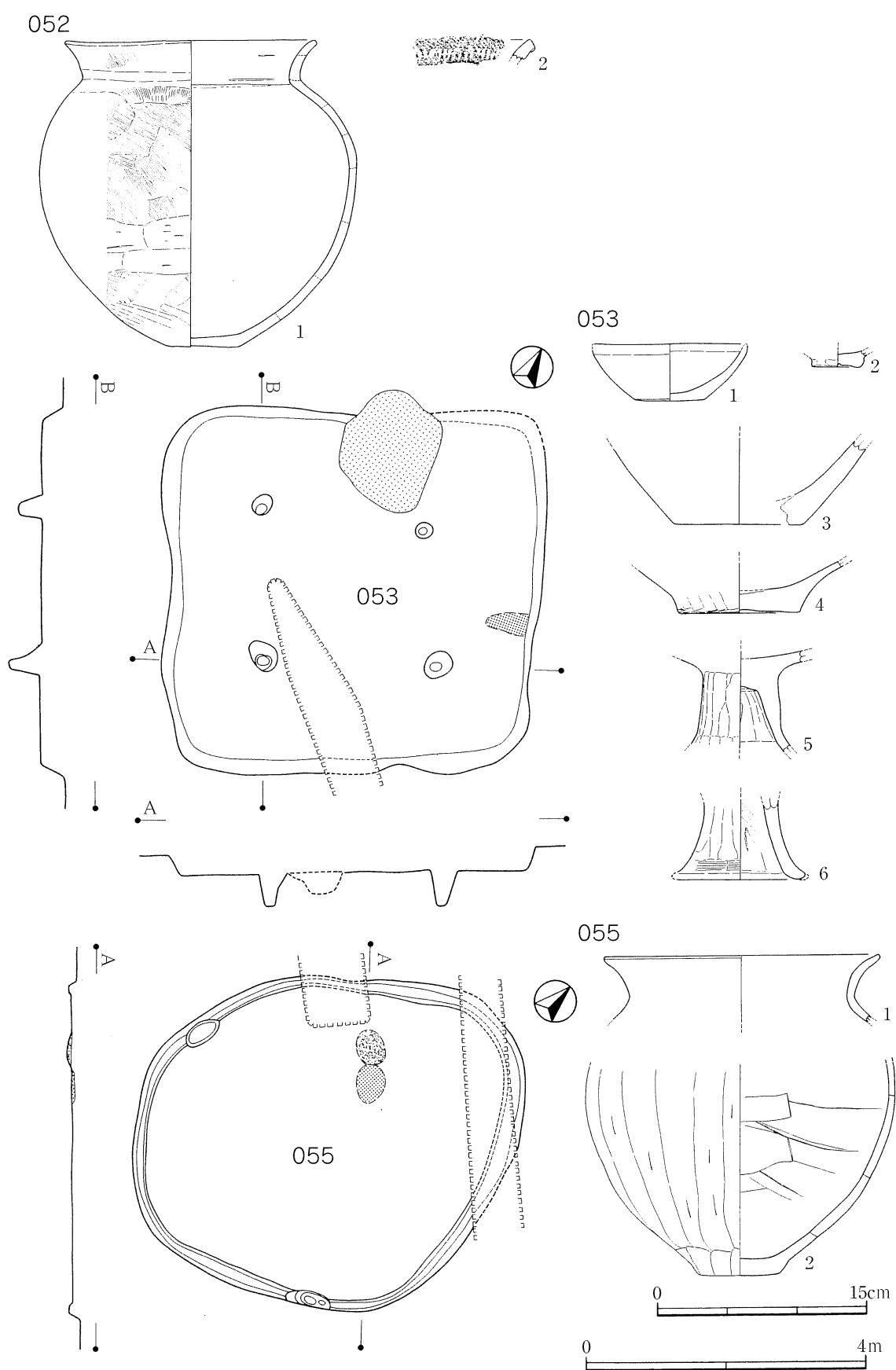
(55) 052号住居跡 第36図 図版9-7

4.00m×2.00m以上の隅円方形と思われる住居跡である。

B地点1次南調査区西、グリッドG-16>17に位置する。南東を051号住居跡が削平する。北西は攪乱で壁が確認されていない。炉は不明。北東壁下に楕円形の貯蔵穴がある。



第36図 050～052号住居跡と050・051号住居跡出土土器



第37図 053・055号住居跡と052・053・055号住居跡出土土器

出土遺物（第37図） 1は完形の甕、2は口唇に縄文を施し下部に刻みのある壺の口縁部。1の甕は051号住居跡の遺物。伴うのは2の壺のみである。

(56) 053号住居跡 第37図 図版9－8

主軸5.33m、直交5.52m、深さ0.30mの隅円方形で、主軸方位は西に36度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドFG-16に位置する。北東を2号溝が削平する。他の住居跡との重複はない。前壁中央から左柱穴間まで攪乱溝がある。

カマド（第131図）は北西壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ33・13・48・47cm、柱間は奥232・右196・前246・左216cm。左奥と右前が外に出る菱形の配置である。壁溝はない。北東壁際に34×60cmの焼土がある。

出土遺物（第37図） 6点の土器を図示した。1は完形の平底杯。2～4は大小の甕の底部。5は杯部大部分と脚端を欠損する高杯。6は高杯の脚部のみ。

(57) 054号住居跡 第6図 図版14－1

B地点1次南調査区西、グリッドFG-15に位置する。他の遺構との重複はない。

053号住居跡南にある住居跡だが上部を全て削平され、4本の柱穴と、炉、貯蔵穴のみを検出した。写真にわずかに柱穴が写っている。全体図に記録しただけで単独で実測をしていない。

(58) 055号住居跡 第37図 図版10－1

東西5.50m、南北4.75m、深さ0.05mの楕円形で、主軸方位は西に48度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドFG-17<18に位置する。他の遺構との重複はない。奥と東側に攪乱溝が2カ所ある。形態からは時期不明だが、遺物は全て古墳時代のものが出土している。

北西に50×38cmの炉がありよく焼けている。その内側にも56×40cmの床面が焼けた部分があり炉の造り替えであろう。柱穴等はなく、壁溝は全周する。

出土遺物（第37・38図） 16点の土器を図示した。1は甕の頸部以上。2は甕の下半部である。3は土師器の蓋で、中央にヘラケズリで作り出した小さなつまみが付き、縁が欠ける。内外面を赤彩している。4～9は高杯の杯部で内外面を赤彩している。10は杯上部と脚下半を欠損する高杯で、脚内以外面を赤彩する。11は完形の高杯で、脚内以外面を赤彩する。12は手捏土器。13は甕口縁部。14～16は底部破片である。

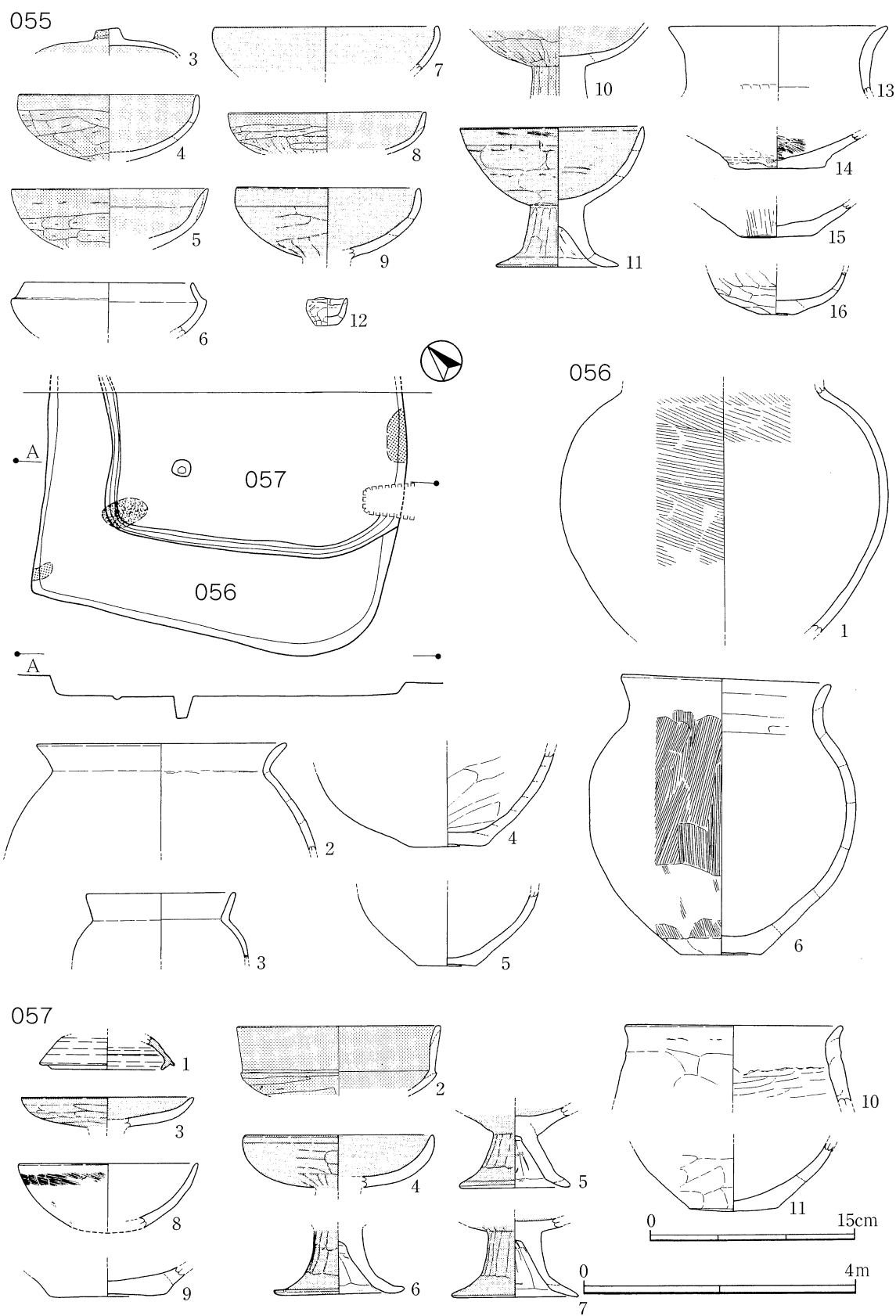
(59) 056号住居跡 第38図 図版10－2・3

主軸5.30m、直交4.2m以上、深さ0.16mの隅円方形で、主軸方位は西に49度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF-18に位置する。北東を057号住居跡が削平する。北東側は調査区域外になる。

057号住居跡西コーナーに削平された68×40cmの炉がある。柱穴・壁溝はない。北西コーナーに30×18cmの焼土がある。

出土遺物（第38図） 6点の土器を図示した。1～6の大小の甕が出土している。6は完形である。



第38図 056・057号住居跡と055～057号住居跡出土土器

(60) 057号住居跡 第38図 図版10-2・3

主軸2.3m以上、直交4.40m、深さ0.20mの方形で、主軸方位は西に33度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF-18に位置する。南西で056号住居跡を削平する。北東側は調査区域外になり、南東コーナーに攪乱溝がある。

カマドは調査区域外にある。左前の柱穴の位置に深さ30cmのピットがあるが対応する右前の柱穴が検出されていない。壁溝は南東を除き確認した。南東壁際に焼土がある。

出土遺物（第38図）11点の土器を図示した。1は須恵蓋坏で上部を欠損する。2は模倣坏で底部を欠損する破片で、内外面を赤彩している。3・4は高杯の杯部で、内外面を赤彩している。5～7は高杯の脚部で、脚内を除き赤彩している。5・7は杯部の一部が残っている。8は丸底坏で底部を欠損する。9は底部。10は甕の上半。11は甕の底部である。

土器以外の遺物として土製支脚と砥石がある。第142図6の土製支脚は、円錐状の頂部の破片である。第154図42の砥石は、粘板岩製の打製石斧を再利用している。表裏に擦痕が多く残る。

(61) 058号住居跡 第39図 図版10-4～6・8

主軸3.63m、直交3.42m、深さ0.20mの小判形で、主軸方位は西に42度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF-18に位置する。北西を063号住居跡が削平する。奥壁をわずかに削平される以外残存状態はよかった。

主軸上奥から84cmに78×72cmの炉がある。南西側中央に外傾する深さ10cm、南西コーナーに深さ16cmのピットがある。北東に向く住居跡の出入口ピットと貯蔵穴の配置にあるが、炉・遺物出土の状態とは食い違いがある。壁溝はない。南東壁下左に36×28cm、右に径16cmの範囲で焼土がある。

出土遺物（第39図）4点の土器を図示した。南東コーナーに1・2の上部を欠損する壺と、4の完形の甕が出土している。4は焼成後に底部を穿孔して甑として使用している。炉の奥に3の壺の胴中部が床面に接して出土している。

(62) 063号住居跡 第39図 図版11-1・2

主軸4.80m、直交4.48m、深さ0.35m隅円方形、主軸方位は西に59度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドEF-17に位置する。南東で058号住居跡を削平し、北西を064号住居跡が貼床する。

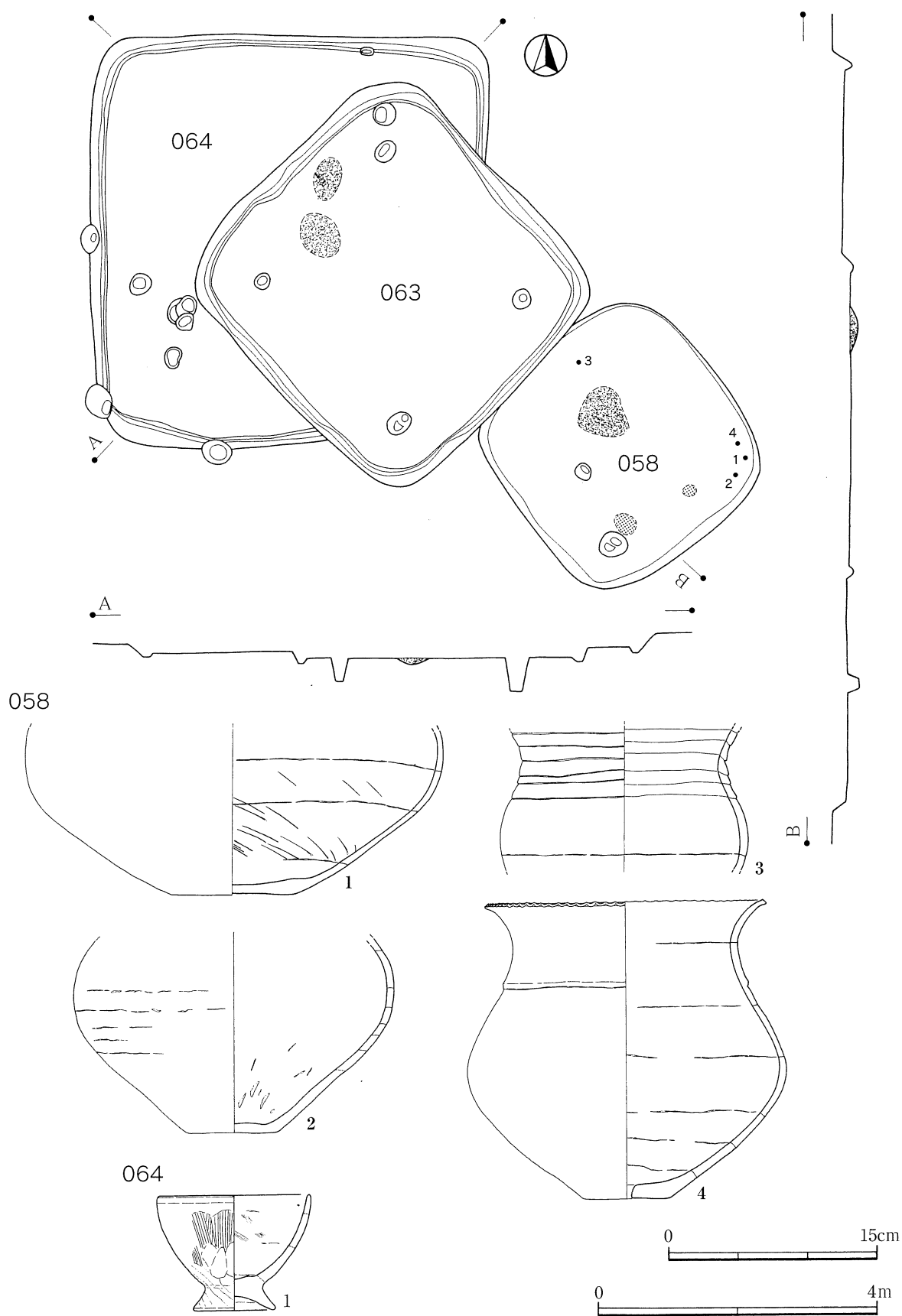
奥の柱穴の間左寄りに70×55cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ31・41・37・39cm、柱間は奥252・右288・前242・左284cm。横長の方形の配置である。壁溝は全周する。貯蔵穴はない。

(63) 064号住居跡 第39図 図版11-2・3

主軸6.00m、直交5.72m、深さ0.16mの隅円方形で、主軸方位は西に5度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドE-17に位置する。南東で063号住居跡上に貼床し、北西065号住居跡を削平する。063号住居跡上は貼床をしているが弱く、炉のみを検出した。

炉は063号住居跡上にあり、正確な大きさは確認できなかったが60×46cmの範囲で焼土を検出した。



第39図 058・063・064号住居跡と058・064号住居跡出土土器

柱穴は右奥と左前の位置の2本を検出した。深さ右奥23cm、左前25cm。壁溝は全周する。壁溝内に4基、遺構内に2基のピットがある。

出土遺物（第39図）1は、台付鉢の完形品で065号住居跡の注記の遺物と接合した。

(64) 059号住居跡 第40図 図版11-7

主軸6.79m、直交6.77m、深さ0.40mの隅円方形で、主軸方位は西に48度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドEF-17>18に位置する。南東で061号住居跡を削平し、東で060号住居跡が削平する。北西側は床面に届く攪乱が多く柱穴は確認できなかった。

北東壁から約2.4m、南東壁から約2mに48×24cmの炉がある。柱穴は右側の2本を検出した。深さ右奥40cm、右前57cm、柱間は右368cm。南西壁東寄りに55×58cm、深さ20cmの貯蔵穴がある。南西壁中央壁に壁上部にかかるようにピットがある。深さ15cmで出入口ピットの可能性がある。

出土遺物（第40・41図）13点の土器を図示した。1は坏破片。2は高杯杯部で、内外面を赤彩している。3は器台接合部で、脚内以外を赤彩している。4は高杯脚部で、杯部の一部が残り脚端は摩耗している。脚内以外面を赤彩している。5は高杯の脚部。6は甗の上部破片、補修孔がつけられている。同一個体で補修孔のあるが接合しない破片がある。7・8は甗の口縁部。9・10は底部。11・12は刻みのある口縁部破片。13は胴部の段に刻みのある破片である。1～6は060号住居跡、11～13が061号住居跡の遺物である。

土器以外の遺物として第144図2の管状土錘が出土している。縦に1/3程残る破片である。

059～061号住居跡の遺物については取り上げの際に混同している。遺構の形態から分かるように弥生時代後期、古墳時代前期、古墳時代中期後葉の3期にはっきり分かれるので、注記に従って図示した遺物も3期に分けて見ていただきたい。

(65) 060号住居跡 第40図 図版11-4～6

主軸4.62m、直交6.22m、深さ0.60mの横長の方形で、主軸方位は東に41度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF-17に位置する。南で061号住居跡、西で060号住居跡を削平する。西側は059号住居跡の覆土中で壁は確認できなかったが、壁溝を検出した。

カマド（第131図）は北東壁左寄りに造られている。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ59・68・60・64cm、柱間は奥232・右212・前232・左212cm。貯蔵穴はない。壁溝は全周する。

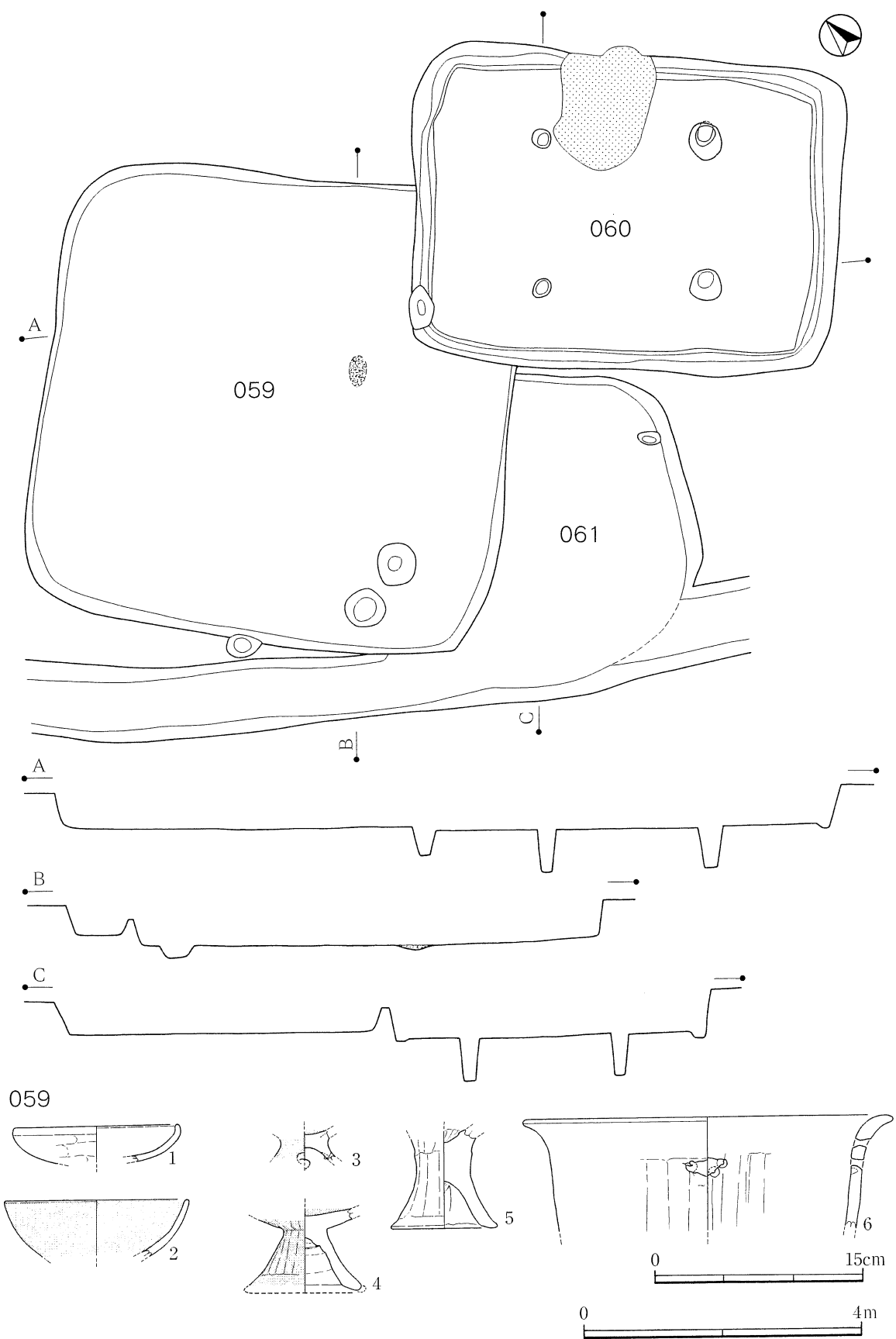
出土遺物（第41図）8点の土器を図示した。1は完形の須恵平瓶。2～5甗の上部。6は頸部以上欠損する甗。7は甗の上部。8は壺頸部。南東壁中央下で1の須恵器が出土している。8は061号住居跡の土器である。

土器以外の遺物として第155図4の軽石が出土している。円礫状の完形で擦痕はあまり目立たない。

(66) 061号住居跡 第40図 図版11-7

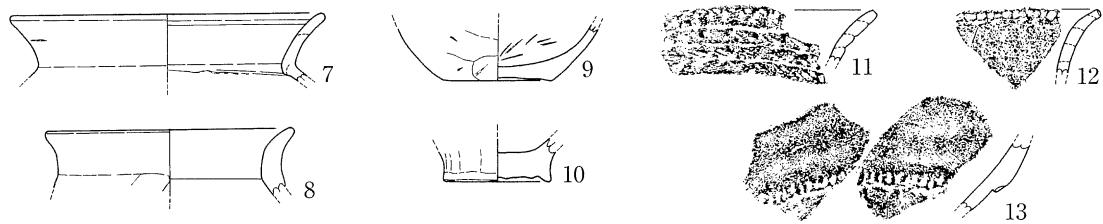
主軸3.6m以上、直交4.60m、深さ0.30mの小判形の住居跡で重複のため主軸方位は不明である。

B地点1次南調査区西、グリッドF-17に位置する。北西を059号住居跡が削平し、南を2号溝が

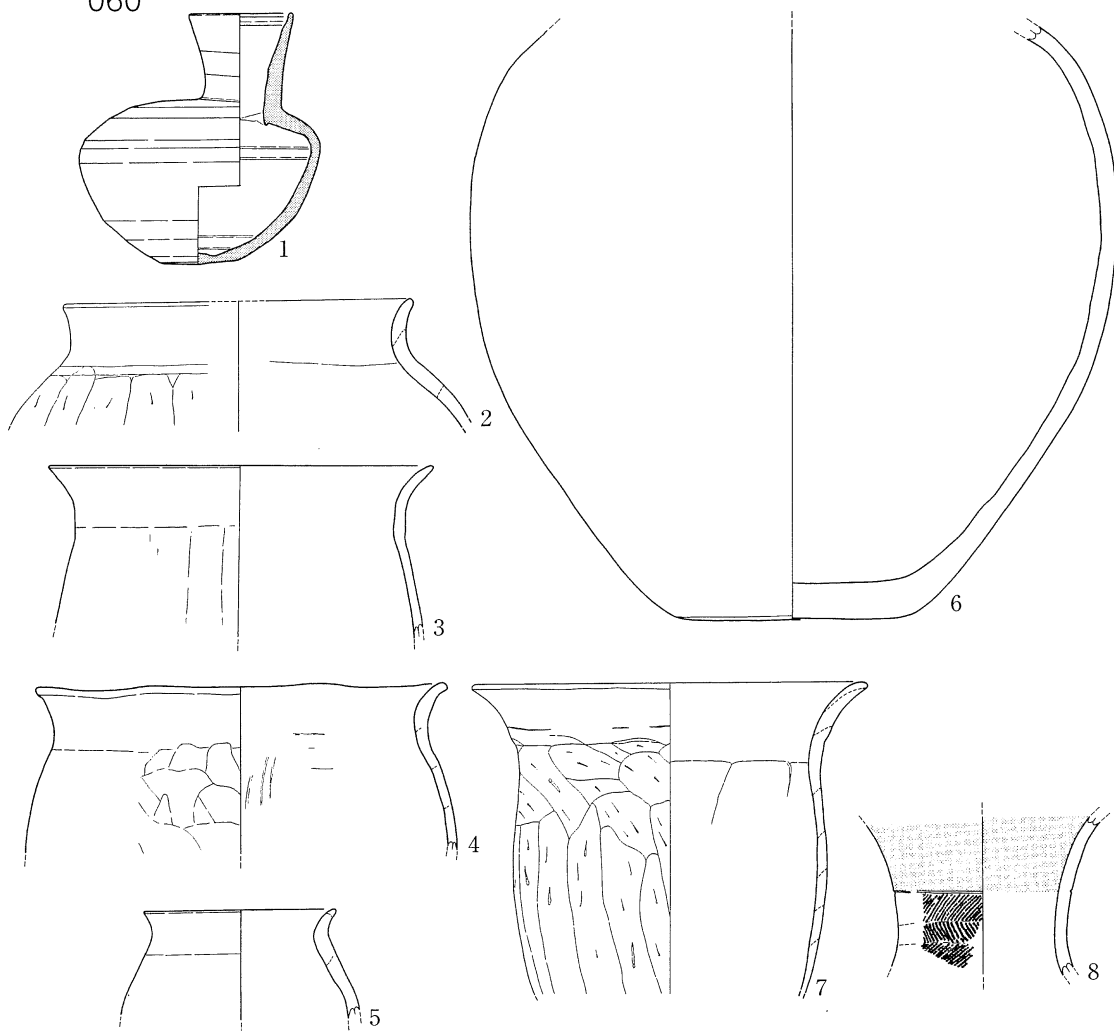


第40図 059～061号住居跡と059号住居跡出土土器

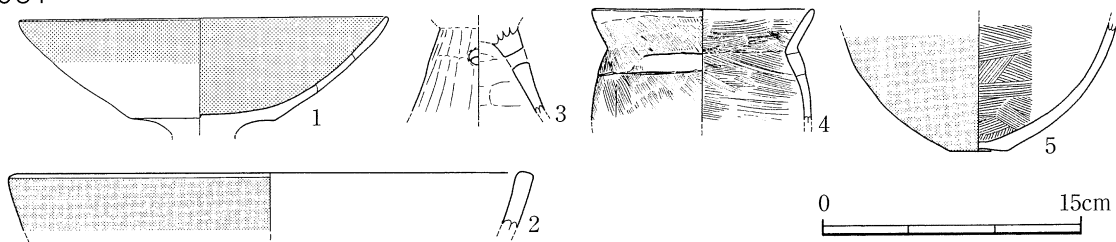
059



060



061



第41图 059~061号住居跡出土土器

削平する。炉は059号住居跡が削平する。南西の2号溝に壁の痕跡がわずかに残る。南東コーナーにピットがある。

出土遺物（第41・42図）13点の土器を図示した。1は高杯の杯部で、内外面を赤彩している。2は鉢の口縁部破片、外面を赤彩している。3は器台脚部で脚端を欠損している。4は甕上部。5は壺の下半部で、外面を赤彩している。6は下部欠損の甕。7は上下欠損の甕。8は胴部以下欠損の甕。9は甕の胴下部破片。10は坏。11は高杯の杯部で、内外面を赤彩している。12・13は甕口縁部。1～5・8・9・13は059号住居跡、10～12は060号住居跡に伴う土器で、本遺構に所属するものは6・7の甕2点である。

(67) 065号住居跡 第6図 図版11-8

B地点1次南調査区西端、グリッドE-18に位置する。南東を064号住居跡が削平する。064号住居跡北側に炉が検出され（図版11-8の写真中央上溝の手前にわずかに炉が見える）、064号住居跡壁沿いに土器が出土している。床面、ピット等は検出できなかった。

出土遺物（第42図）4点の土器を図示した。1は下部欠損の甕。2は下部欠損の鉢で、内外面を赤彩している。3は完形の碗。4は底部破片。1の甕は近隣の066号住居跡などの後続の時期の遺構からの混入である。

(68) 066号住居跡 第42図 図版12-1・2

主軸3m以上、直交4.83m、深さ0.58mの方形で、主軸方位は東に45度を測る。

B地点1次南調査区西端、グリッドEF-18<19に位置する。他の遺構との重複はない。北東は調査区域外となる。カマドは調査区域外の北東壁にあり断面に粘土が見える。四本柱の2本を検出した。深さ右前50cm、左前53cm、柱間は前208cm。南東壁から88cmに深さ10cmの出入口ピットがある。壁溝は全周する。

出土遺物（第42図）2点の土器を図示した。1は高杯の杯部、内外面を赤彩している。2は高杯の脚部、外面を赤彩している。

(69) 067号住居跡 第6図 図版11-8

B地点1次調査区西端、グリッドD-17<18に位置する。北東を2号溝が削平する。写真の左端にわずかに写っている。炉を含め南西の大部分が調査区域外にある。全体図のみで規模などは不明である。

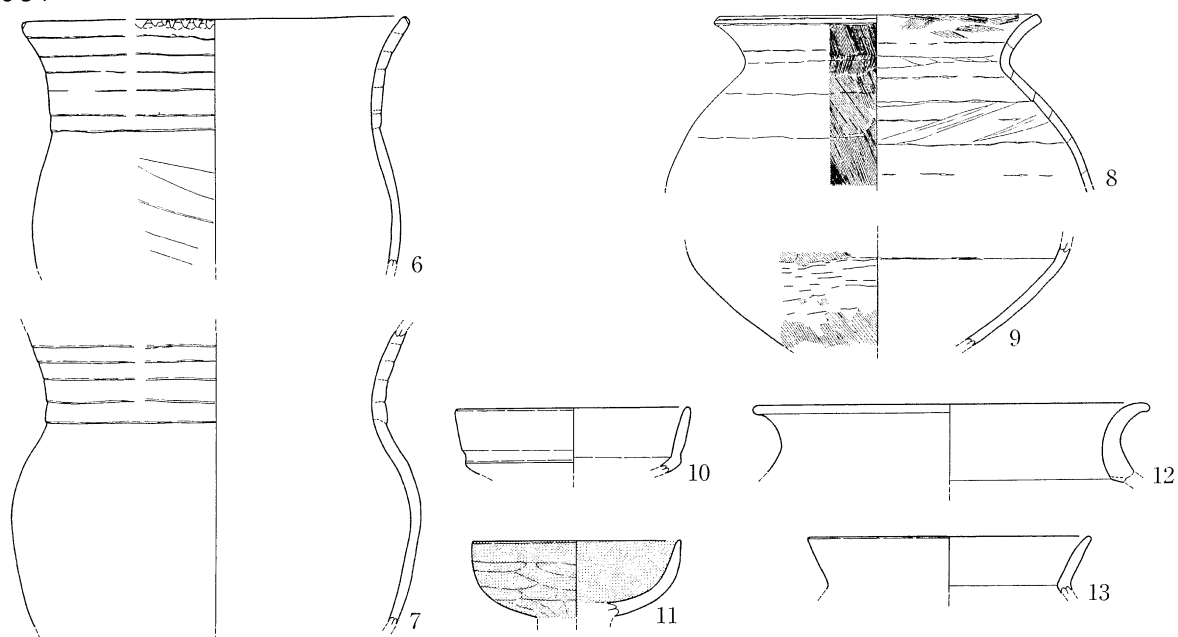
出土遺物（第42図）2点の土器を図示した。1は完形の鉢で、口縁が一段厚くなりその下に焼成前の穿孔が2個一組で確認された。2は器台接合部。

(70) 068A号住居跡 第43図 図版12-3・4

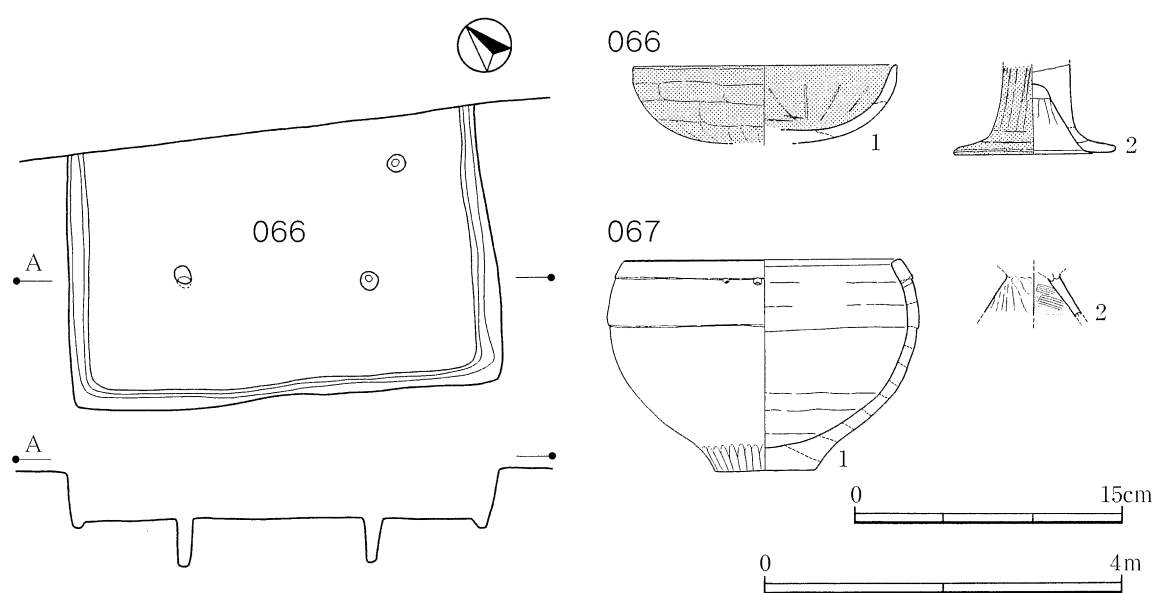
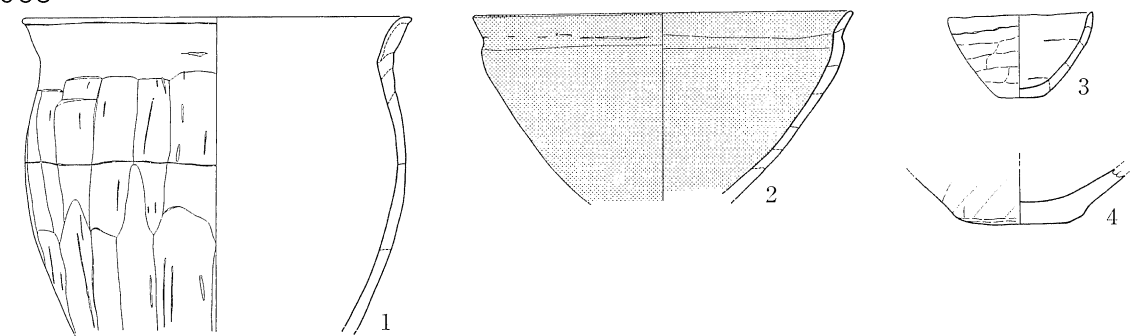
主軸6.00m、直交6.15m、深さ0.42mの方形で、主軸方位は東に42度を測る。

B地点1次南調査区東端、グリッドM-10>11に位置する。4号溝上に貼床し、西で069号住居跡、南西で070号住居跡を削平する。調査区東端にあり北西側1/2の調査で残りはC地点の調査の際に実

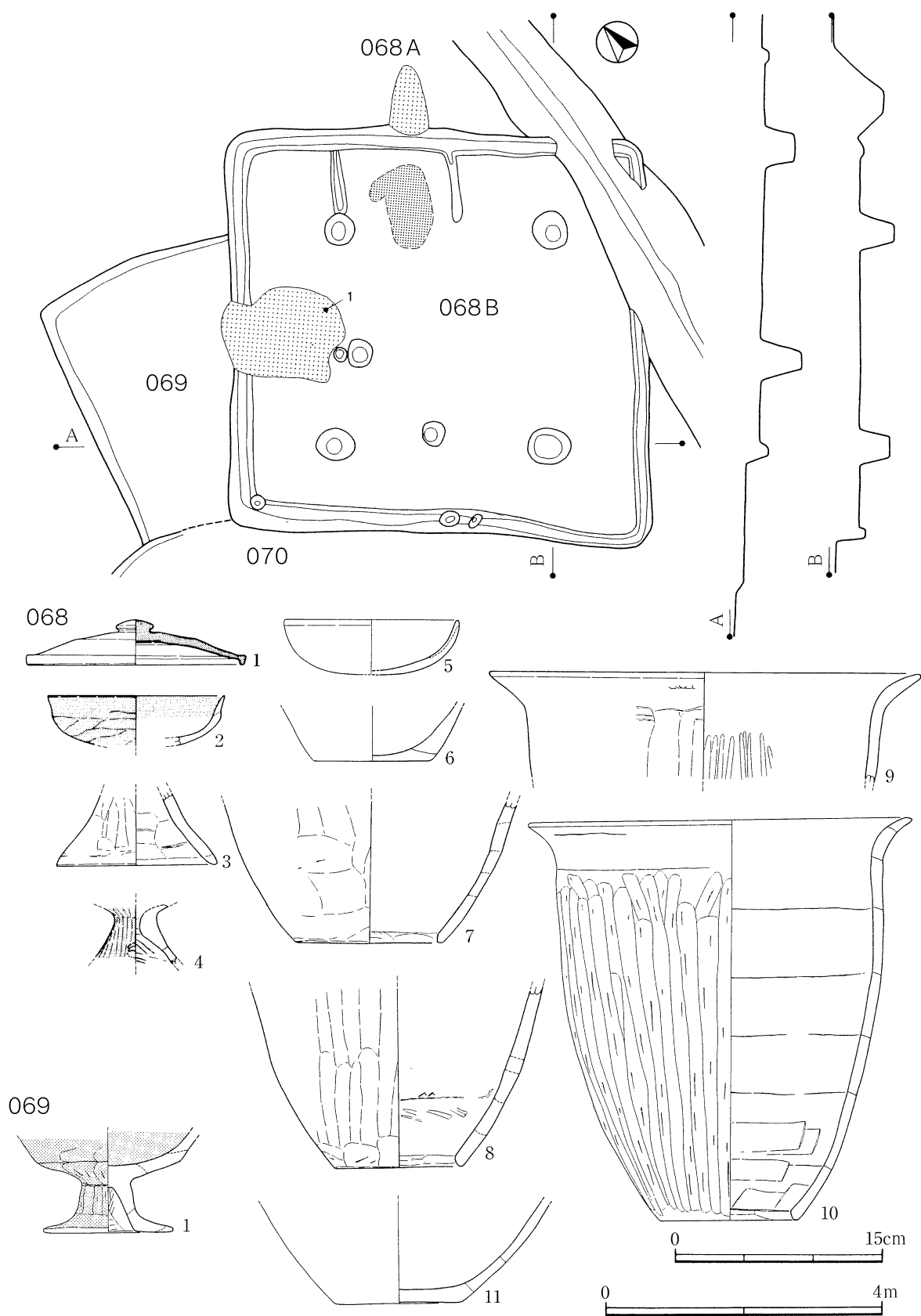
061



065



第42図 066号住居跡と061・065～067号住居跡出土土器



第43図 068A・B～070号住居跡と068・069号住居跡出土土器

測している。

カマドは北東壁外やや左寄りに奥行き41cmの煙道の痕跡があり、床面に火床の焼土が残る。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ49・44・59・39cm、柱間は奥310・右308・前308・左310cm。壁溝は全周する。北東壁から左奥の柱穴に向かい間仕切り溝がある。カマド火床を囲むように右150cmにも浅い間仕切り溝がある。南西壁溝中にピット2基がある。

(71) 068B号住居跡 第43図 図版12-3・4

主軸6.15m、直交6.00m、深さ0.42mの方形で、主軸方位は西に48度を測る。

068A号住居跡のカマドを北西壁（第131図）に造り変えている。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ39・49・44・59cm、柱間は奥310・右310・前308・左308cm。壁溝は全周する。

068A号住居跡にあった間仕切り溝は埋められている。南西壁溝中にピット3基がある。

出土遺物（第43図）11点の土器を図示した。1は完形の須恵蓋坏で、カマド右袖前の床面から出土している。2は高杯の杯部で内側下部を除き内外面を赤彩している。3は器台脚部。4は器台接合部で外面を赤彩している。5は完形の丸底坏。6・11は甕の底部。7・8は甕下部。9は甕上部。10は完形の甕である。

土器以外の遺物として第155図3の軽石が出土している。二つに割れた小形のもので擦痕が若干残る。

(72) 069号住居跡 第43図 図版12-4

主軸3.7m以上、直交3m以上、深さ0.05mの隅円方形と考えられる住居跡で主軸方位は不明である。

B地点1次南調査区東端、グリッドLM-10<11に位置する。南西で070号住居跡を削平し、東で068号住居跡に削平される。台地の縁にあたり谷への傾斜が始まっており詳細は不明である。

出土遺物（第43図）1は高杯で口縁部を欠損する。脚内以外を赤彩している。重複する068号住居跡の遺物である。

(73) 070号住居跡 第43図 図版12-4

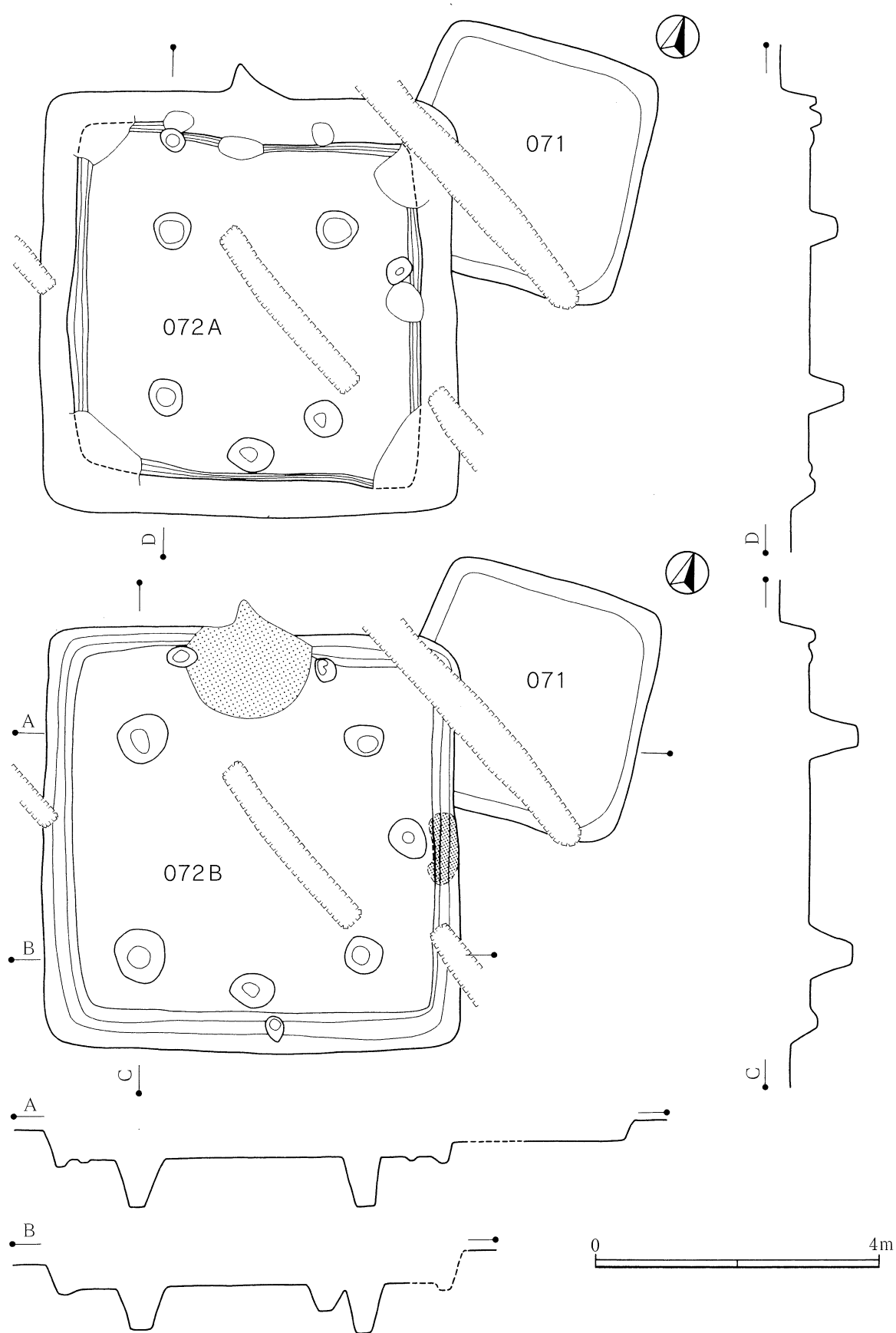
壁が1m程確認できたのみで、南側は谷に向かう傾斜が始まっており詳細は不明。B地点1次南調査区東端、グリッドL-10に位置する。北を069号住居跡、東を068号住居跡に削平される。

(74) 071号住居跡 第44図 図版12-5

主軸3.50m、直交3.35m、深さ0.20mの隅円方形で、主軸方位は西に4度を測る。

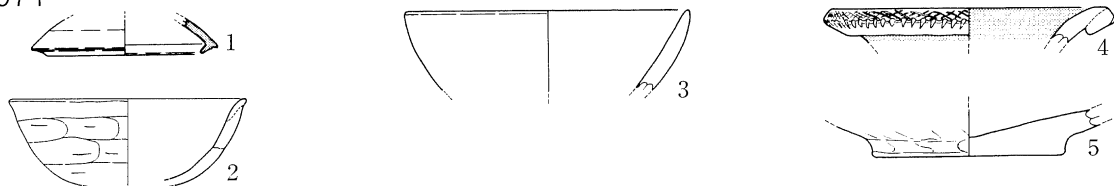
B地点1次南調査区東、グリッドKL-10に位置する。南西を072号住居跡が削平する。遺構中央に大きな攪乱溝があるが炉、柱穴、壁溝、その他遺構内の施設は全くない。

出土遺物（第45図）5点の土器を図示した。1は須恵蓋坏で、端部のみの破片である。2・3は碗破片。4は壺口縁部で、内外面を赤彩している。5は底部。1は072号住居跡の遺物で他も本遺構の時期を決めるに至るものではない。

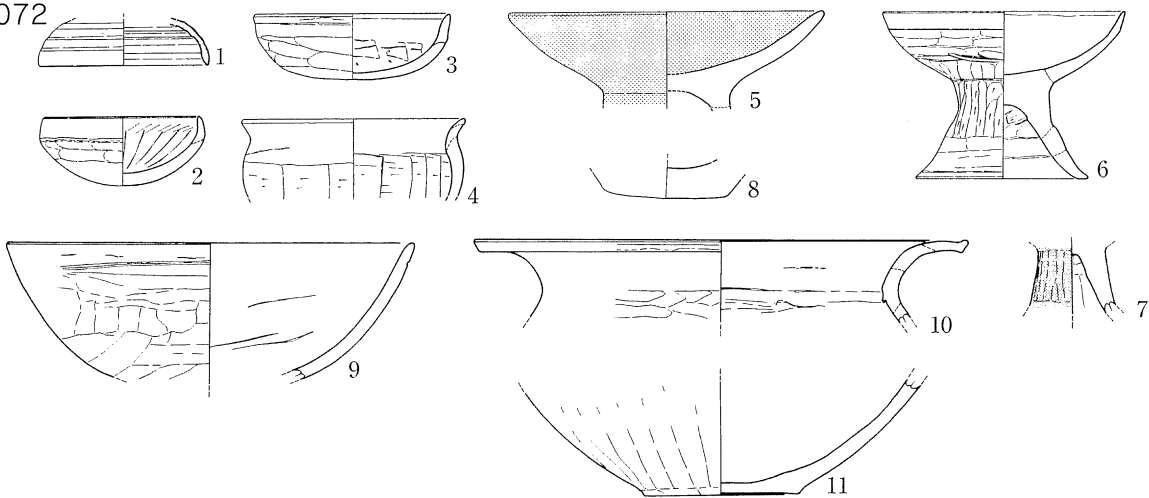


第44图 071·072A·B号住居跡

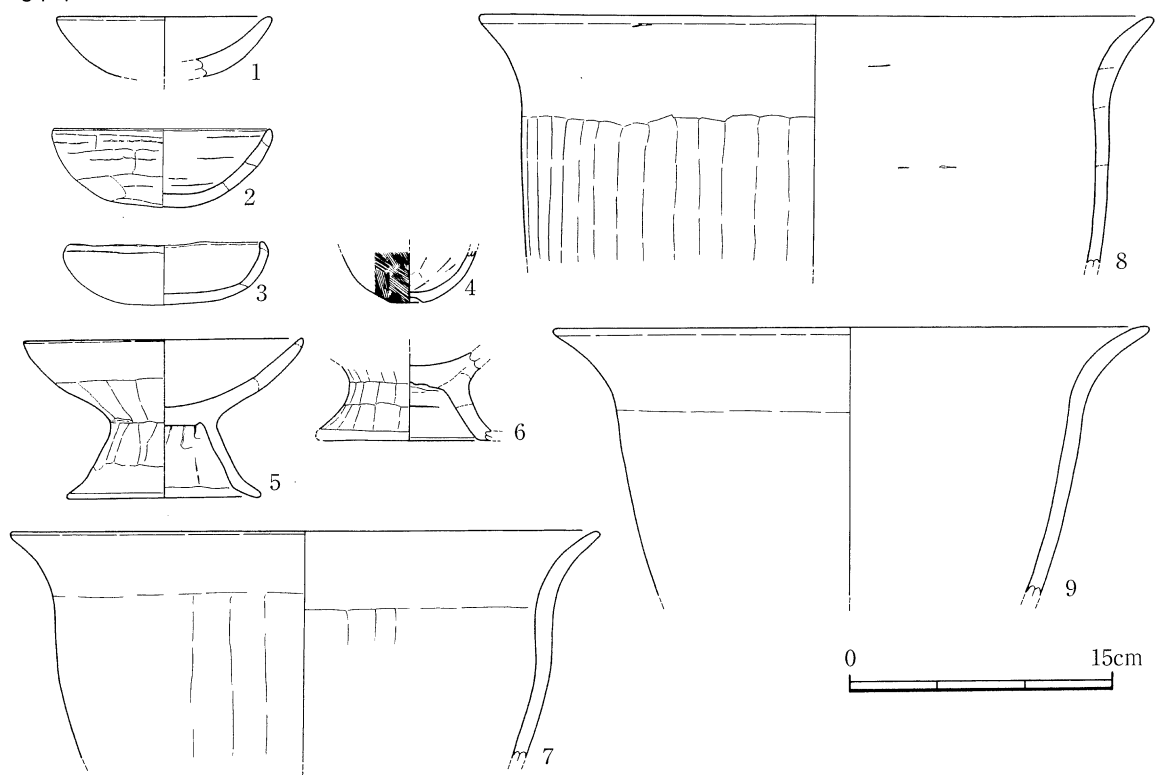
071



072



074



第45図 071・072・074号住居跡出土土器

(75) 072A号住居跡 第44図 図版12-7

主軸5.08m、直交5.02m、深さ0.33mの方形で、主軸方位は西に14度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドK-11に位置する。072B号住居跡の内側で検出された。柱穴の配置、カマドの構築などに類似点が多いことから072B号住居跡に拡張される前の住居跡である。072B号住居跡にカマド・コーナー等を削平される。

カマドは北西壁に造られるが、072B号住居跡のカマドで破壊される。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ46・55・41・57cm、柱間は奥230・右266・前220・左228cm。南と東の壁際に14cm・6cmのピットがある。壁溝は全周する。

(76) 072B号住居跡 第44図 図版12-5～8

主軸5.88m、直交5.90m、深さ0.33mの方形で、主軸方位は西に17度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドK-11に位置する。北東で071号住居跡を削平する。内側にある072A号住居跡から拡張している。遺構内に攪乱溝があるが遺存状態はよい。写真の掘り上げた右前の柱穴は072A号住居跡のもので脇に黒く見えるのが新しい柱穴である。

カマド（第132図）は北西壁中央に、古いカマドを破壊して造られる。煙道は壁外に突出し袖基部は煙道に沿って壁外まで続く。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ68・70・72・60cm、柱間は奥324・右300・前316・左308cm。貯蔵穴はない。南壁中央から64cmの深さ35cm、北壁中央から36cmの深さ18cmの2本のピットは出入口ピットであろう。壁溝は全周する。カマド両脇に深さ20cm内外の小ピットがある。

出土遺物（第45図）11点の土器を図示した。1は須恵蓋坏で、中央部を欠損する。071号住居跡1の須恵器とセットと考えると坏身とした方がいいかもしれない。2は完形の暗文のある坏。3は完形の丸底坏。4は小形甕で胴部以下を欠損している。5は脚部を欠損する高杯で、内外面を赤彩している。6は完形の高杯。7は高杯脚部で、外面を赤彩。8は底部。9は下部欠損の鉢。10は甕の口縁部。11は甕の底部である。

土器以外の遺物として第142図9・10の2点の土製支脚、第148図18・22の2点の鉄製品が出土している。土製支脚9はカマド内、10はカマドの左壁際で検出された。10は取り壊された072A号住居跡のカマドで使われていた可能性がある。鉄製品はいずれも平板な断片である。

(77) 073号住居跡 第46図 図版13-1

主軸2.50m、直交2.38m、深さ0.11mの方形で、主軸方位は西に49度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドJ-11>12に位置する。重複する遺構はない。壁溝内側では1.8m四方の小型の住居跡である。

カマド（第132図）は北西壁右寄りに造られる。壁溝内に6基の小ピットがあるほかは壁溝以外の施設は特になかった。

(78) 074号住居跡 第46図 図版13-2・3

主軸6.06m、直交6.58m、深さ0.23mの隅円方形で、主軸方位は西に45度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドI-11<12に位置する。東で1号方形周溝墓を削平し、南を075号住居跡が削平している。カマドは北西壁中央にあるが浅く攪乱が多いため実測していない。柱穴等はなかった。南西コーナー近くに153×62cmの焼土がある。

出土遺物（第45図）9点の土器を図示した。1は坏の破片。2・3は完形の坏。4は埴の底部。5は完形の高杯。6は高杯の脚部で脚端を欠損している。7～9は甑上部である。

土器以外の遺物として第149図4の砥石が出土している。縄文時代の凹石を転用したもので、石質が砥石に向くものではなく砥石以外の用途も考えられる。

(79) 075号住居跡 第46図 図版13-2・3

主軸3.80m、直交4.53m、深さ0.35mの横長の隅円方形で、主軸方位は西に32度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドI-11<12に位置する。南で077号住居跡、北東で074号住居跡を削平する。大部分が074号住居跡内部に造られている。南コーナーは077号住居跡内部で不明瞭である。柱穴等はない。カマドは北西壁中央に造られる。浅く攪乱が多いため実測していない。

出土遺物（第47図）9点の土器を図示した。1は須恵坏破片。2は須恵高台付坏で口縁部を欠損している。3は坏破片。4・5は底部。6・7は高杯脚部で、6は外面を赤彩している。8は完形の小形甕で、カマド内から出土している。9は完形の甕で、北東コーナー近くから出土している。

土器以外の遺物として第149図の砥石が出土している。軟質の小破片で貫通しない円孔が4カ所残る。

(80) 076号住居跡 第46図 図版13-4

主軸5.0m以上、直交5.96m、深さ0.15mの方形で、主軸方位は西に50度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドI-11に位置する。北西で077号住居跡を削平する。南東は斜面で確認できない。077号住居跡内は遺構の輪郭をとらえることができなかった。

カマド（第132図）北西壁中央に造られる。カマド左に奥行き96cm、幅173cm、深さ60cmの貯蔵穴がある。

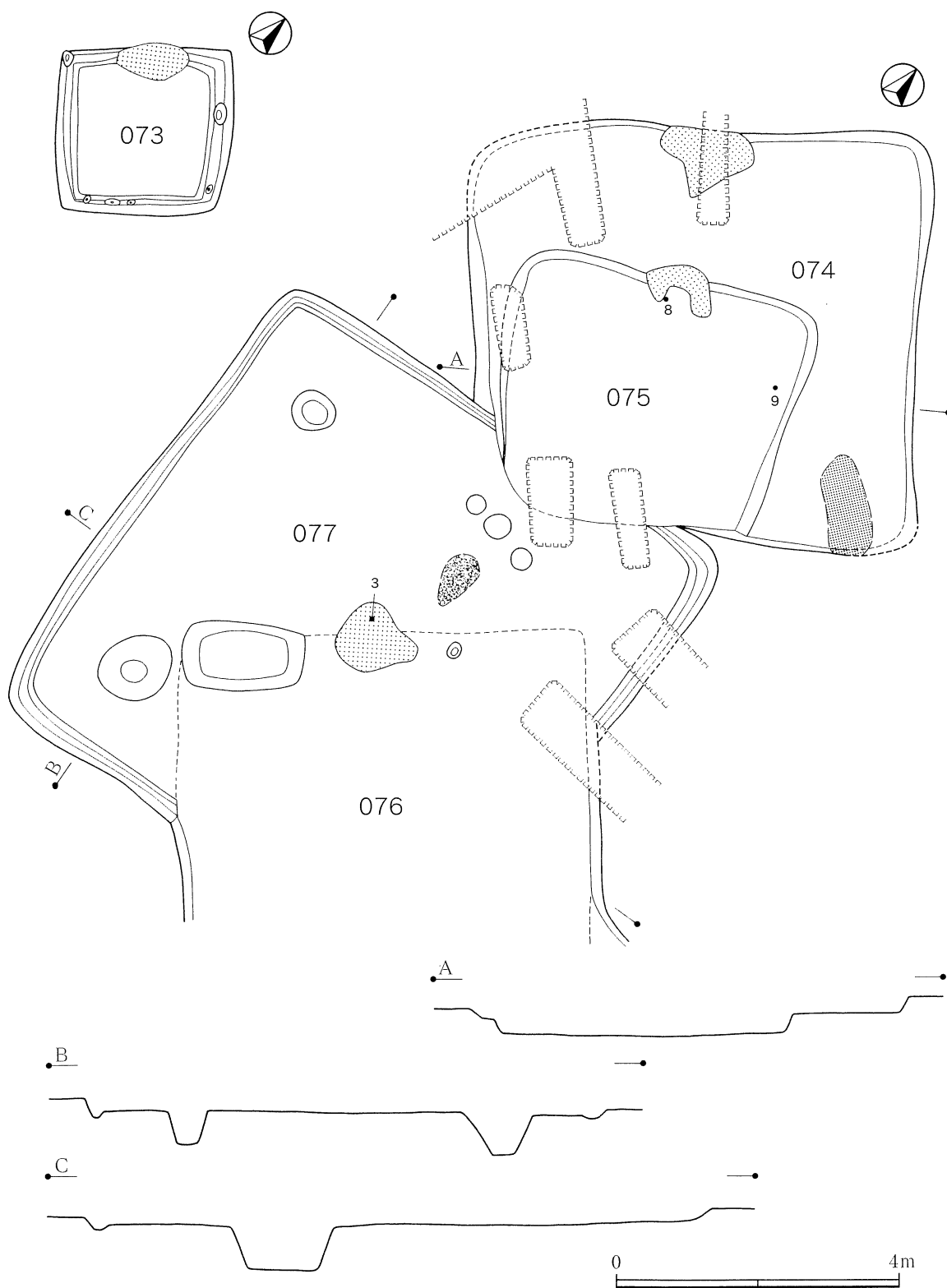
出土遺物（第47図）5点の土器を図示した。1は須恵坏破片。2は完形の須恵高台付坏。3は完形の高杯でカマド内で支脚として使われていた。4は埴で底部欠損。5の拓本は刻みのある甕胴部破片で本遺構に伴わない。

(81) 077号住居跡 第46図 図版13-4・5

主軸7.37m、直交7.43m、深さ0.20mの隅円方形で、主軸方位は西に8度を測る。

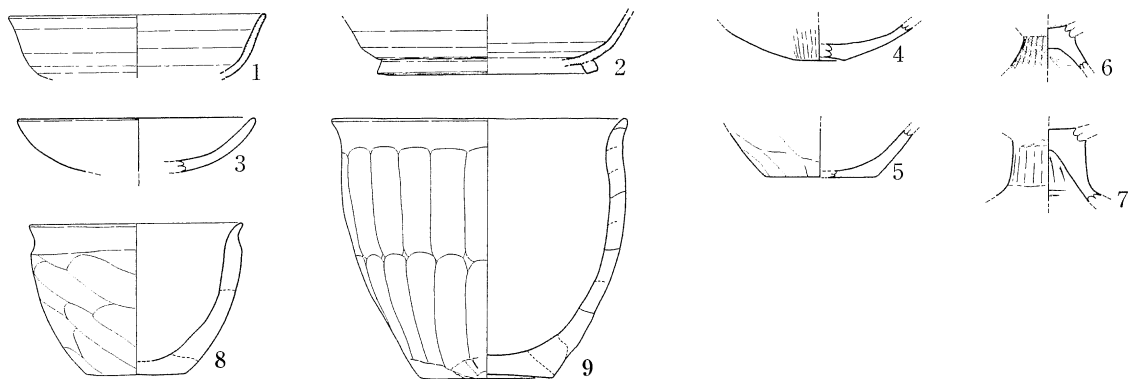
B地点1次南調査区中央、グリッドI-11に位置する。北を075号住居跡、南東を076号住居跡が削平する。東側は攪乱溝が多い。写真では柱穴を結ぶラインから外が一段高くなっていることが観察され、ベッド状遺構である。

北東に寄って奥壁から170cmに83×48cmの炉がある。柱穴は左側の2本を確認した。右は当初から無かった。深さは左奥47cm、左前63cm、柱間は左440cm。壁溝は全周する。炉の奥に浅い皿状のピットが3基並ぶ。

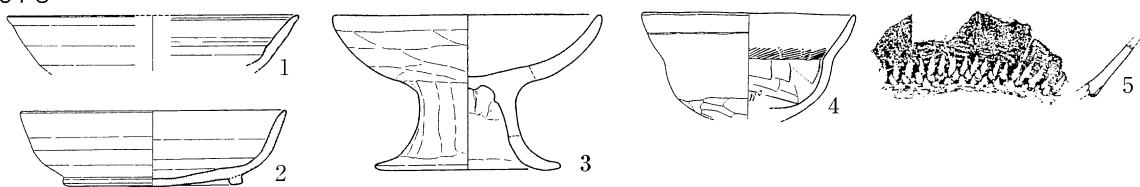


第46図 073~077号住居跡

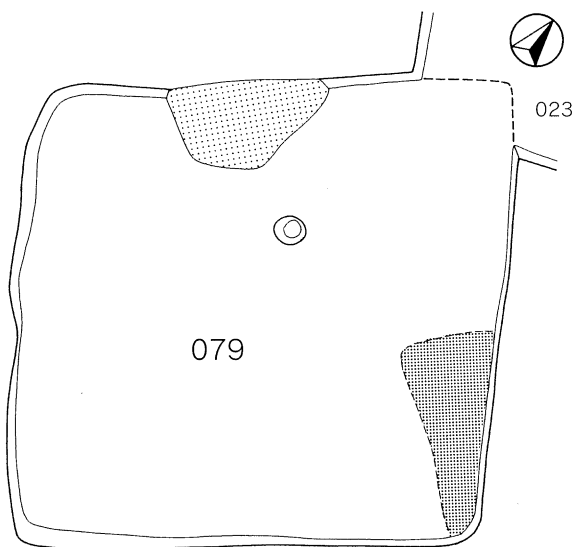
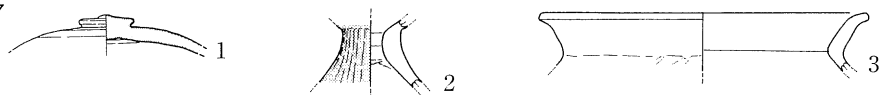
075



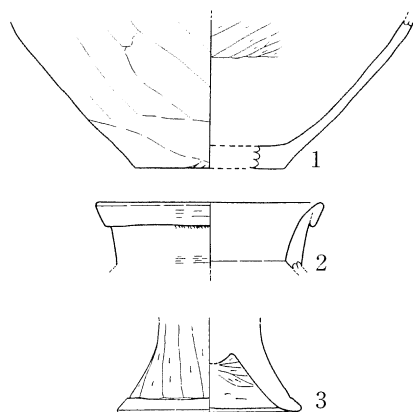
076



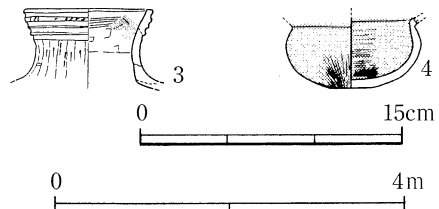
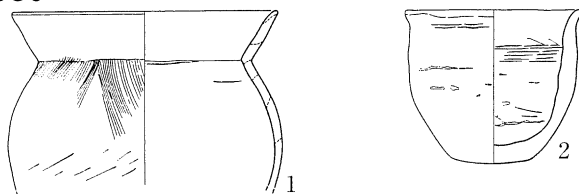
077



079



080



第47図 079号住居跡と075～077・079・080号住居跡出土土器

出土遺物（第47図）3点の土器を図示した。1は須恵蓋坏中央部で、重複する074～076号住居跡のいずれかの遺物である。2は器台脚部で、外面を赤彩している。3は甕口縁部である。

(82) 079号住居跡 第47図 図版13-6・7

主軸5.50m、直交5.65m、深さ0.07mの方形で、主軸方位は西に34度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドI-12<13に位置する。北で023号住居跡を削平する。浅いため全体に床面は軟弱である。写真によると図示した以上に攪乱溝が多い。

カマド（第132図）は北西壁左寄りに造られる。奥壁から1.5mほどにピットが1基ある。東コーナーに240×100cmの範囲で焼土がある。

出土遺物（第47図）3点の土器を図示した。1は甕底部。2は甕の口縁部。3は高杯脚部。2の折り返し口縁の甕は本遺構に伴わず、重複する023号住居跡の遺物である。

(83) 080号住居跡 第48図 図版13-8

主軸3.90m、直交4.30m、深さ0.34mの方形で、主軸方位は西に23度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドH-13>14に位置する。西を081号住居跡、南を082号住居跡が削平する。南西コーナーをわずかが削平される他は残りがよい。

主軸上右寄りに奥壁から40cmに73×47cm、120cmに60×52cmの炉が2基前後に並ぶ。四本柱のうち左前を除きピットを検出したがいずれも皿状で浅く通常の柱穴とは形態が違う。柱間は右276・前224cm。壁溝は全周する。南東壁中央で出入口ピットを検出した。これも皿状の浅いものだった。

出土遺物（第47図）4点の土器を図示した。1は甕で底部欠損。2は完形の手捏状の造りの甕。3は壺の頸部以上で4本の沈線が口縁下を巡る。4は埴の胴部で、内外面を赤彩している。

土器以外の遺物として第149図8の砥石が出土している。不整形な板状で表裏に擦痕が残る。

(84) 081号住居跡 第48図 図版13-8

主軸2.95m、直交3.14m、深さ0.26mの隅円方形で、主軸方位は東に50度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドGH-13>14に位置する。東で080号住居跡を削平する。

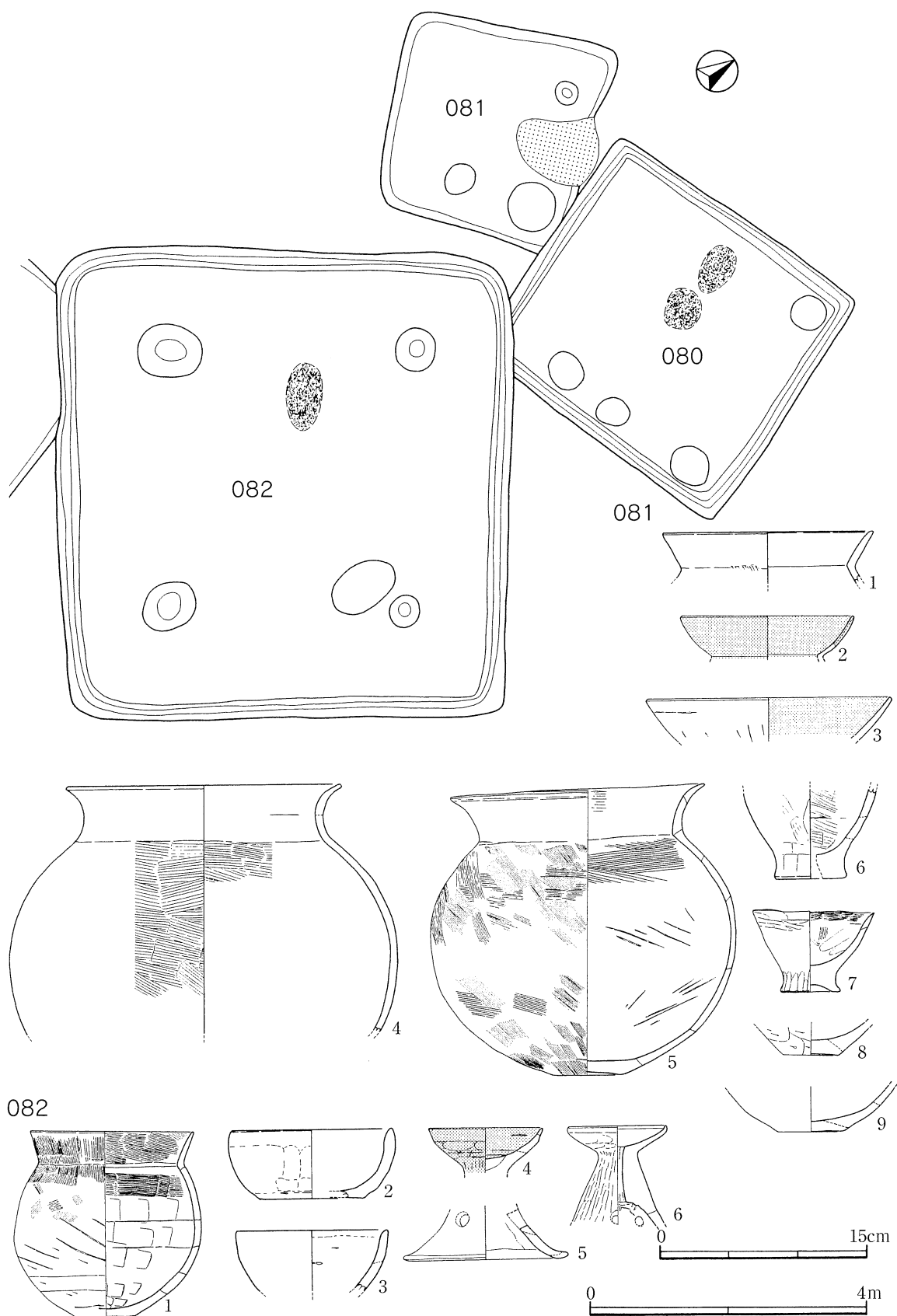
カマド（第132図）は北東壁中央に造られる。ピットは3基検出したが、左奥は比較的深いがい他は皿状で浅く用途は不明である。右奥の径70cmのピットは浅いが貯蔵穴の可能性もある。

出土遺物（第48図）9点の土器を図示した。1は甕口縁部。2・3は埴口縁部で、2は内外を、3は内側を赤彩している。4は甕で底部欠損。5は完形の甕。6は壺の下半部。7は完形の台付鉢で、手捏状の造り。8・9は底部。図示した土器はカマドを持つ本遺構の時期とは合わず、重複する080号住居跡に伴うと思われる。

(85) 082号住居跡 第48図 図版13-8

主軸6.90m、直交6.67m、深さ0.26mの隅円方形で、主軸方位は西に55度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドH-13に位置する。南で083号住居跡、北で080号住居跡を削平する。



第48図 080～082号住居跡と081・082号住居跡出土土器

奥の柱穴の間わずかに前右寄り、奥壁から150cmに98×52cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥352・右380・前340・左376cm。壁溝は全周する。右前の柱穴の脇に浅い皿状のピットがある。

出土遺物（第48図）6点の土器を図示した。1は完形の甕。2は平底坏の底部。3は碗で底部欠損。4は器台の器受部で、内外面を赤彩している。5は器台脚部。6は器台で脚端を欠損している。

(86) 083号住居跡 第49図 図版14-1

主軸5.85m、直交5.78m、深さ0.20mの隅円方形で、主軸方位は西に19度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドGH-12>13に位置する。北東で082号住居跡を削平し、南で085号住居跡に削平される。

奥の柱間やや手前に84×24cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥300・右324・前296・左312cm。4本の柱穴の他に内側に一回り小さい柱穴を2本検出した。柱間は右212cm。壁溝はない。奥壁中央と左壁にピットがある。

出土遺物（第49図）3点の土器を図示した。1は須恵蓋坏破片。2は内外赤彩の壺の口縁部。3は器台脚部。1の須恵蓋坏は085号住居跡に伴う遺物である。

土器以外の遺物として第142図1の烏帽子形の土製支脚が出土している。背面が大きく破損している。

(87) 085号住居跡 第49図 図版15-2・3

主軸5.94m、直交5.76m、深さ0.45mの方形で、主軸方位は西に58度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドGH-12に位置する。南で086・087号住居跡、北で083号住居跡を削平する。083号住居跡右奥柱穴と左前柱穴が重複する。

カマド（第182図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥352・右344・前344・左330cm。壁溝は全周する。遺構中央と右壁際に135×103cmと125×93cmの焼土がある。

出土遺物（第49図）8点の土器を図示した。1は埴口縁部、2は埴底部で、いずれも内外面を赤彩している。3・4は底部。5は甕胴部破片。6は甕で下部を欠損。7は高杯脚部で、外面を赤彩している。8は底部で上げ底である。

土器以外の遺物として第142図7の土製支脚が出土している。四角錐状の頂部破片である。

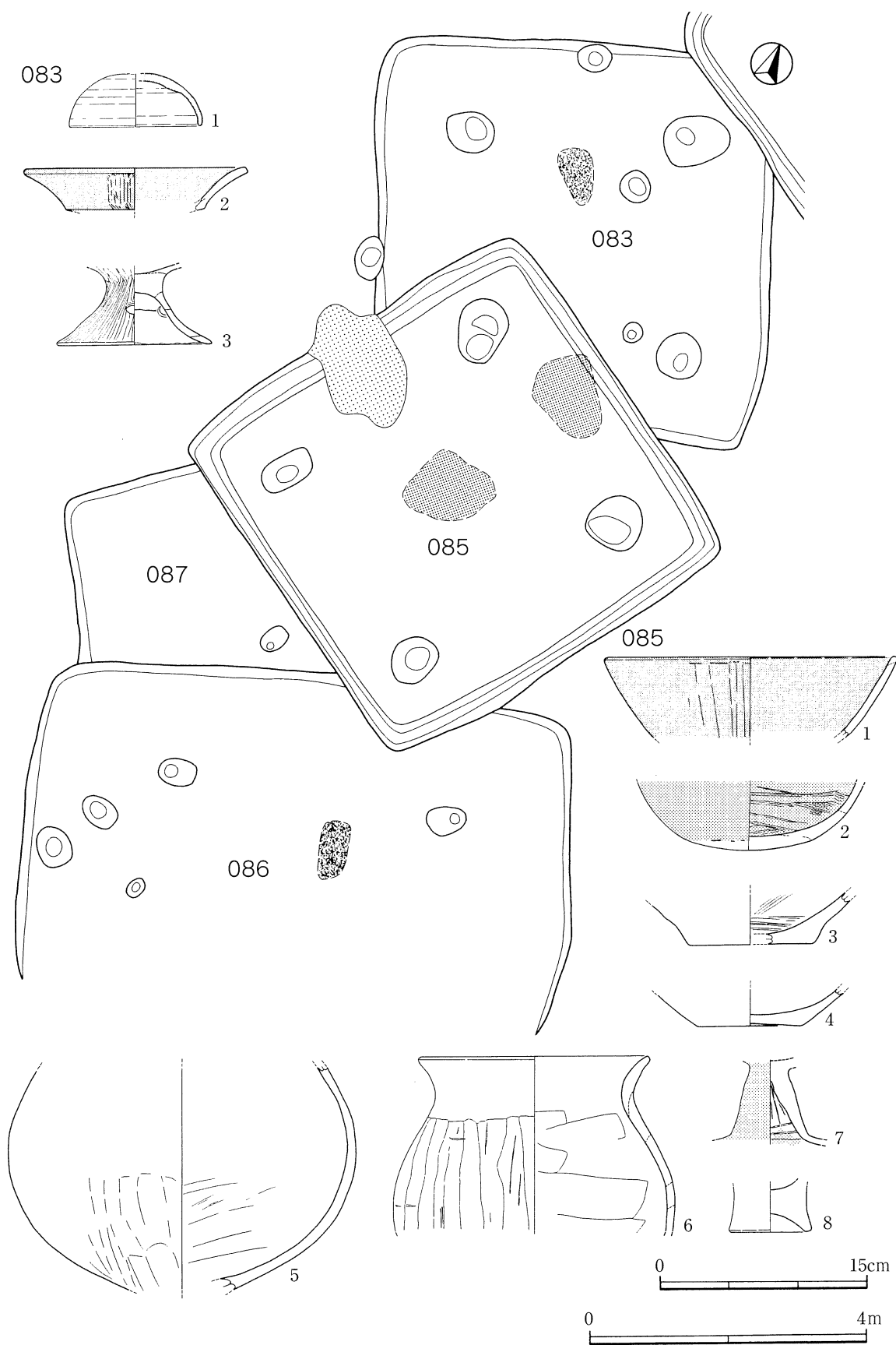
(88) 086号住居跡 第49図 図版14-2

主軸4.8m以上、直交8.08mの隅円方形で、主軸方位は西に13度を測る。

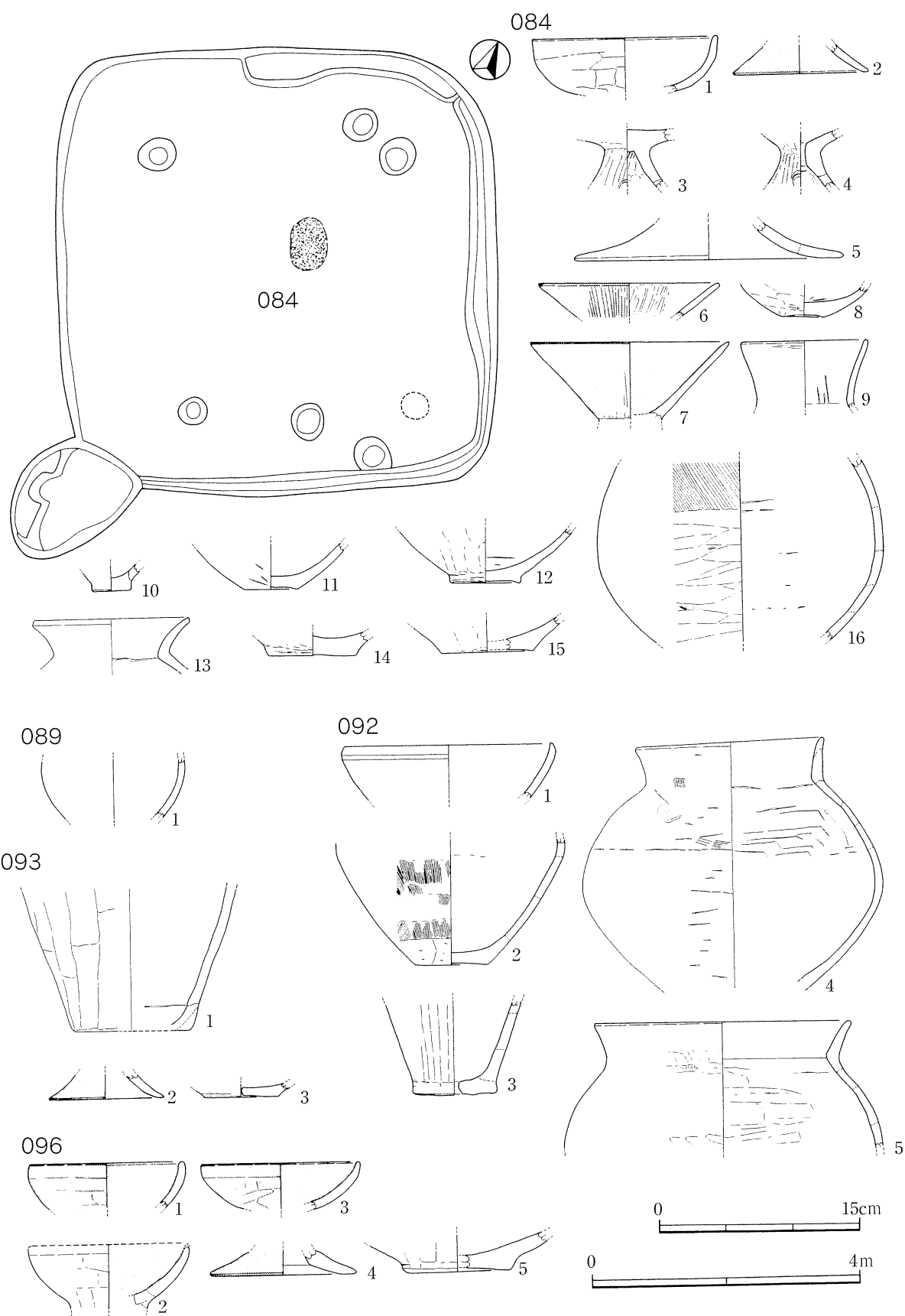
B地点1次南調査区中央、グリッドGH-11>12に位置する。北で087号住居跡を削平、南西を085号住居跡が削平する。南側は谷への傾斜が始まり不明である。

奥の柱穴の間右寄り奥壁から200cmに74×42cmの炉がある。柱穴は奥の2本を検出した。レベルは計測していない。柱間は奥416cm。壁溝はない。左壁寄りにピット3基がある。

特に図示できるような遺物はなかった。



第49図 083・085～087号住居跡と083・085号住居跡出土土器



第50図 084号住居跡と084・089・092・093・096号住居跡出土土器

(89) 087号住居跡 第49図 図版14-2

3 m以上×3.4m以上の範囲で遺構の西コーナーを検出した。

B地点1次南調査区中央、グリッドG-12に位置する。南を086号住居跡、北東を085号住居跡が削平する。コーナーが比較的鋭い直角となり古墳時代前期以降の住居跡だが、遺物がほとんど無く時期は特定できない。ピットが1基検出されただけある。

(90) 84号住居跡 第50図 図版15-1

主軸6.77m、直交6.58mの隅円方形で、主軸方位は西に25度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドGH-13に位置する。南西コーナーに土坑があるが重複する住居跡はない。奥に段があることと床面が軟弱だったために掘形まで掘っており088号住居跡の遺構番号を付けているが本来は1基のみである。そのため遺物の注記は084と088が混在している。右前の柱穴は実測原図で点線となっているためにそれに従ったが写真では他と変わる様子はない。

遺構中央から右奥寄りに80×54cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥460・右370・前332・左384cm。前壁右寄りに出入口ピット、前壁下右寄りに50×54cmの貯蔵穴がある。壁溝は右・前壁下で検出。奥壁下右寄り有一段高くなる。

出土遺物（第50図）16点の土器を図示した。1は坏底部欠損。2は器台脚端、外面を赤彩している。3・4は器台脚部で、4は脚内を含め内外面を赤彩している。5は器台脚端。6・7は器台器受部で、6は外、7は内外面を赤彩している。8は埴底部。9は埴口縁部。10～12・14・15は底部。13は小形甕の口縁部。16は甕胴部である。

(91) 089号住居跡 第52図 図版15-4

B地点1次南調査区中央、グリッドG-11に位置する。

南西で090号住居跡、北西で092号住居跡が削平する。径5 m程と推定される楕円形の遺構の南東コーナーの一部を確認したが詳細は不明である。092号住居跡左奥の柱穴の南東にある、30×18cmの焼土が本遺構の炉の可能性もある。

出土遺物（第50図）1は、壺と思われる胴部破片である。

(92) 090号住居跡 第51図 図版15-4

主軸3.7m以上、直交3.73mの小判形。主軸方位は東に6度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドFG-11に位置する。東で089号住居跡を削平し、内側を093号住居跡が削平、北東で092号住居跡が貼床している。遺構の中央の大部分を一回り小形の093号住居跡に削平され詳細は不明である。遺構内にピットが4基あるが形態・配置は変則的で南東壁際のピットは貯蔵穴の可能性もある。炉東側のピットは092号住居跡の左前の柱穴である。

(93) 092号住居跡 第52図 図版15-4

主軸5.04m、直交5.40mの隅円方形で、主軸方位は西に44度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドG-11に位置する。南で089・090・093号住居跡上に貼床をし、

北西で094号住居跡を削平する。南東に攪乱溝が2本ある。南側は重複のため輪郭は不明である。

奥の柱穴の間左寄りに74×42cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥272・右260・前284・左296cm。壁溝はない。遺構内に6基のピットが散在する。コーナー近くのものは貯蔵穴の可能性がある。

出土遺物（第50図）5点の土器を図示した。1は底部欠損の鉢。2は上部欠損の壺。3は甗の底部。4は底部欠損の甕。5は下部欠損の甕である。

(94) 093号住居跡 第51図 図版15-4

主軸3.39m、直交3.10mの縦長の小判形で、主軸方位は西に1度を測る。

B地点1次南調査区中央、グリッドG-11に位置する。南東で089号住居跡と重複し、090号住居跡の中央を掘り込む。092号住居跡が貼床をする。遺構の新旧関係は確定的ではない。

奥壁から30cmに60×45cm、90cmに50×30cmの炉が2基縦に並ぶ。炉以外の施設はない。

出土遺物（第50図）3点の土器を図示した。1は甕底部。2は器台の脚端部で、外面を赤彩している。3は底部破片である。

(95) 094号住居跡 第51図 図版15-7

主軸4.30m、直交4.15mの隅円方形で、主軸方位は西に15度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF-13に位置する。南東を092号住居跡、北を095号住居跡が削平する。浅いため壁は痕跡的で遺構の残存状態もよくない。遺構内に散在するピットは全て木の根など新しいものである。主軸上奥から90cmに45×40cmの炉がある。

(96) 095号住居跡 第51図 図版15-7

主軸3.10m、直交3.00mの隅円方形で、主軸方位は東に77度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF-13に位置する。南で094号住居跡、北で096号住居跡を削平する。西で097号住居跡が削平する。北東壁にあるハの字状の粘土の広がりがかマドの痕跡と思われる。

(97) 096号住居跡 第51図 図版15-7

北東コーナーを1m程確認した。

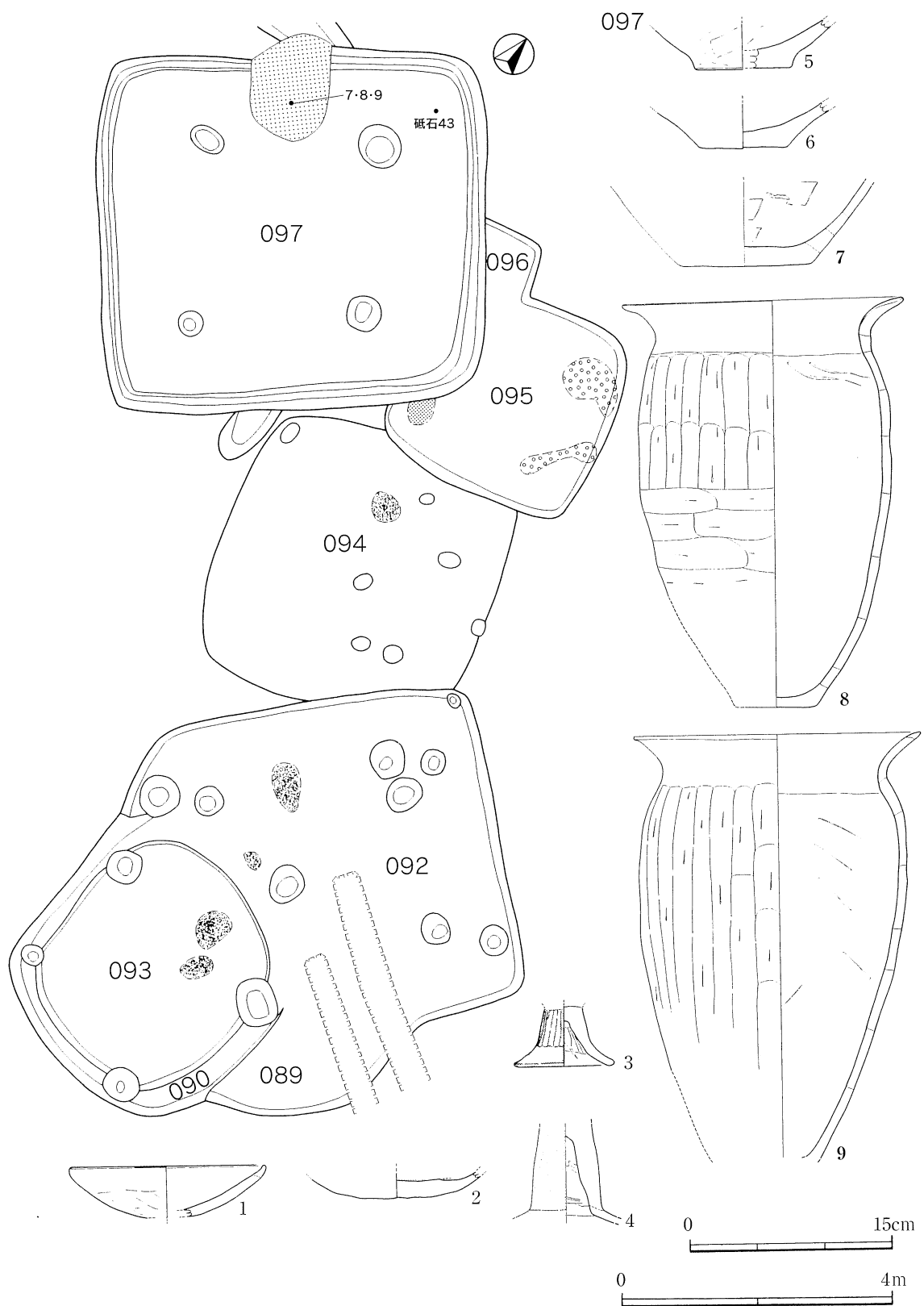
B地点1次南調査区西、グリッドF-13に位置する。東側を095号住居跡、南を097号住居跡が削平する。コーナーのみだが095・097号住居跡の2基に削平された古墳時代前期の住居跡とした。

出土遺物（第50図）5点の土器を図示した。1～3は高杯杯部で、1・3は内外を、2は外面を赤彩している。4は高杯脚端部で、外面を赤彩している。5は底部である。

(98) 097号住居跡 第51図 図版15-8・16-1・2

主軸5.27m、直交5.75m、深さ0.25mの方形で、主軸方位は西に32度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF-13に位置する。北西壁、南東壁で7号方形周溝墓を削平し、北東で095・096号住居跡を削平する。攪乱はなく遺構の残りはよい。



第51図 089・090・092～097号住居跡と097号住居跡出土土器

カマド（第133図）は北西壁中央にある。煙道は7号方形周構墓上にある。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥256・右236・前256・左272cm。壁溝は全周する。

出土遺物（第51図）9点の土器を図示した。1は丸底坏破片。2は罎の底部かと思われる丸底の破片。3・4は高杯脚部で、外面を赤彩している。5～7は底部。8は完形の長胴甕。9は底部欠損の長胴甕。カマド内から7～9の甕が出土している。

土器以外の遺物として第150図9・11、第154図43の3点の砥石が出土した。9は上面をよく研磨し刃先の条痕が目立つ。11は断面五角形で各面ともよく研磨され擦痕も目立つ。仕上げ砥である。43は右奥の柱穴の脇に据え置かれた状態で検出された大形品（図版16－2）で、縄文時代の石皿の再利用と思われる。火山岩製で研磨するというより刃先の整形に使われたようで溝状痕が表面に多く残っている。

(99) 091号住居跡 第52図 図版15－5・6

主軸3.87m、直交4.04m、深さ0.18mの方形で、主軸方位は西に39度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF－12に位置する。南東壁、南西壁で6号方形周構墓を削平する。住居跡との重複はない。方形周構墓上も床は硬い。遺構北東側に新しいピットが多数ある。

カマド（第132図）は北西壁中央に造られる。柱穴等はない。壁溝は全周する。

出土遺物（第52図）6点の土器を図示した。1は罎で、外下部を除き内外面を赤彩している。2は鉢の破片。3は甑の下部。4は甕の口縁部。5は二重口縁の甕の口縁部。6は甕の上部。時代の古い土器が多く本遺構に伴うのは3の甑と4の甕だけで、他は北東の089～093号住居跡からの混入である。

(100) 098号住居跡 第52図 図版16－3・4

主軸3.32m、直交3.43m、深さ0.17mの方形で、主軸方位は東に33度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF－12に位置する。北西で7号方形周構墓を削平する。住居跡との重複はない。方形周構墓との重複のためカマド左は不明。遺構内のピットは全て新しい木の根などで遺構に伴うものはない。

カマド（第133図）は北西壁やや左に造られる。柱穴・壁溝はない。

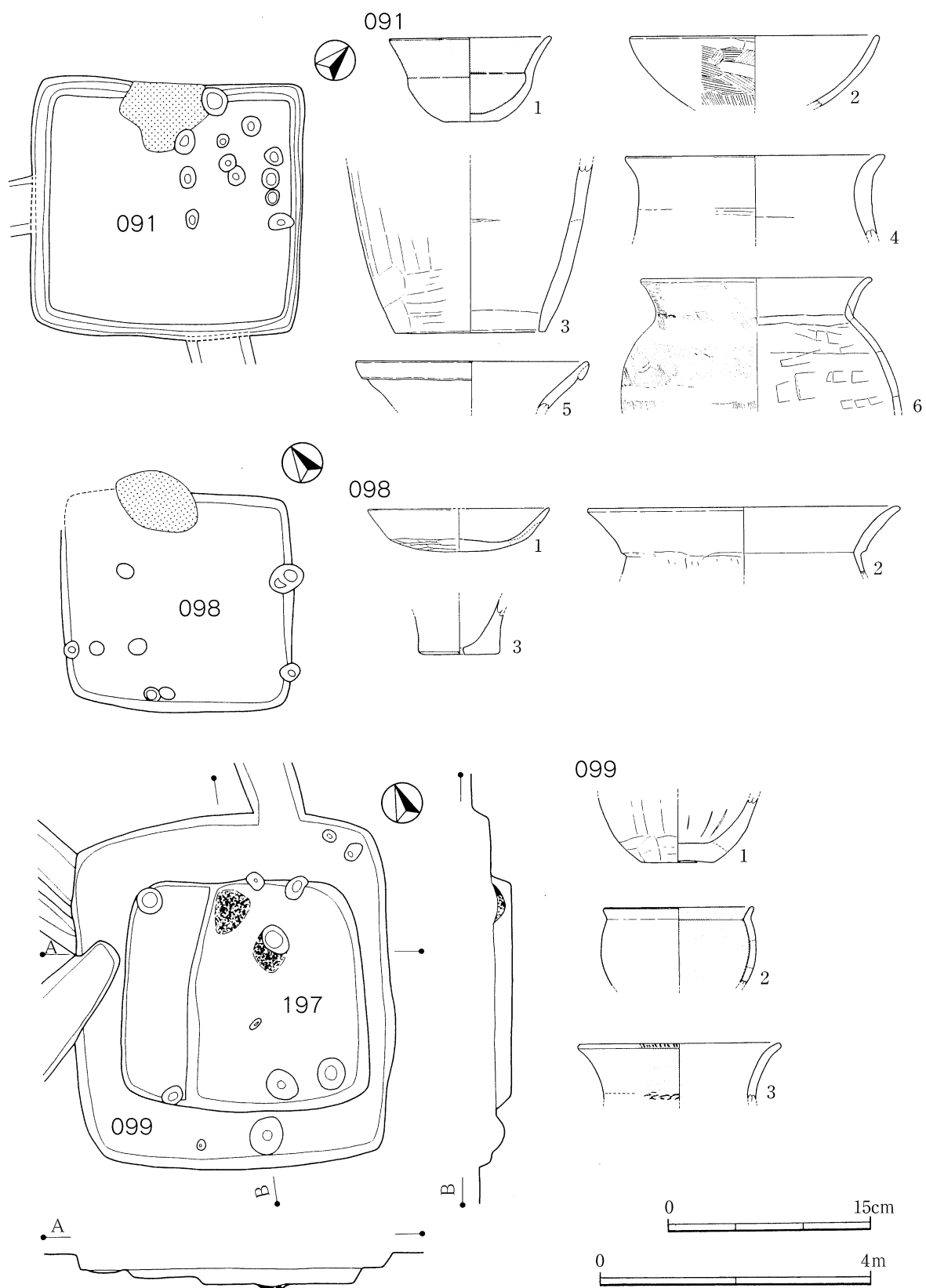
出土遺物（第52図）3点の土器を図示した。1は完形の平底坏。2は甕の口縁部。3は壺の底部で、外面を赤彩している。

(101) 099号住居跡 第52図 図版14－2・16－5

主軸5.32m、直交4.72mの縦長の隅円方形で、主軸方位は東に13度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドE－11＞12に位置する。北東で7号方形周溝墓、南東で8号方形周構墓を削平し、内部に197号住居跡が納まる。西で10号方形周構墓と重複する。畑の耕作物の都合で2度に分けて調査しており、全景は「図版14－2」中央上にしかない。197号住居跡上に貼床しているが、非常に硬い。

主軸上奥壁から120cmに56×50cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥216・右284・前236・左296cm。前壁下やや右寄りに56×50cmの貯蔵穴がある。



第52図 091・098・099・197号住居跡と091・098・099号住居跡出土土器

出土遺物（52図）3点の土器を図示した。1は甕の底部、2は埴の胴部で口縁部破損後無頸壺に転用している。内側を赤彩している。3は壺口縁部、口唇部に縄文、頸部に結節文がある。外面を赤彩している。

(102) 197号住居跡 第52図 図版14-2・16-5

主軸3.50m、直交3.63mの隅円方形で、主軸方位は東に19度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドE-11>12に位置する。099号住居跡に貼床される。西壁で10号方形周構墓と重複する。当初は099号住居跡下層の存在は分からなかったが、遺構の乾燥とともに中央部が黒く残り下がってきたことで気づいた。

遺構の右寄り、ベッド状遺構を除いた部分の中央奥壁から80cmに60×45cmの炉がある。柱穴は存在しない。前壁下やや右寄りに50×42cmの貯蔵穴がある。壁溝はない。遺構西側が幅90cmほど一段高くベッド状遺構となる。

(103) 100号住居跡 第53図 図版16-6

主軸4.77m、直交4.77m、深さ0.32mの方形で、主軸方位は東に70度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドE-12に位置する。東で8号方形周構墓を削平する。住居跡との重複はない。攪乱はなく遺構はよく残っている。

カマド（第133図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さ左奥から右回りに28・23・55・42cm、柱間は奥236・右228・前228・左220cm。カマド右に67×60cm、深さ46cmの貯蔵穴がある。壁溝はカマド右側を除き全周する。

出土遺物（第53図）17点の土器を図示した。1は須恵蓋坏で中央を欠損。2は底部欠損、3は完形の丸底坏で、2は外、3は外下を除き内外面を赤彩している。4～7は高杯の杯部で、7を除き内外面を赤彩している。8は完形の丸底坏。9は完形の平底坏。10は盤の口縁部破片。11は高杯脚部で、外面を赤彩している。12は底部。13～17は下部欠損の甕である。

(104) 101号住居跡 第54図 図版16-7～17-2

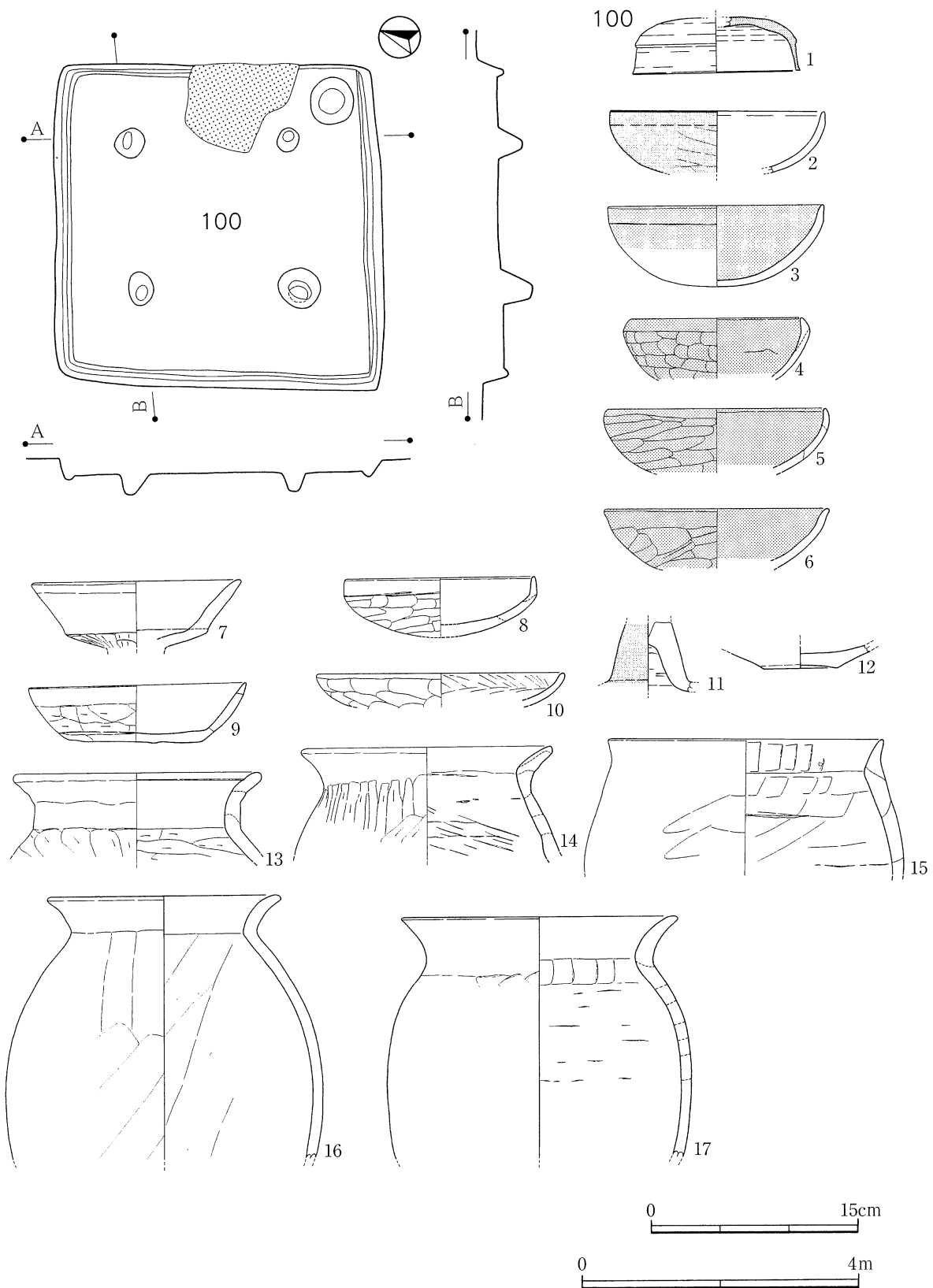
主軸4.63m、直交5.02m、深さ0.29mの方形で、主軸方位は西に52度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドD-13に位置する。北東壁で10号方形周構墓と重複する。住居跡との重複はない。遺構は完存している。

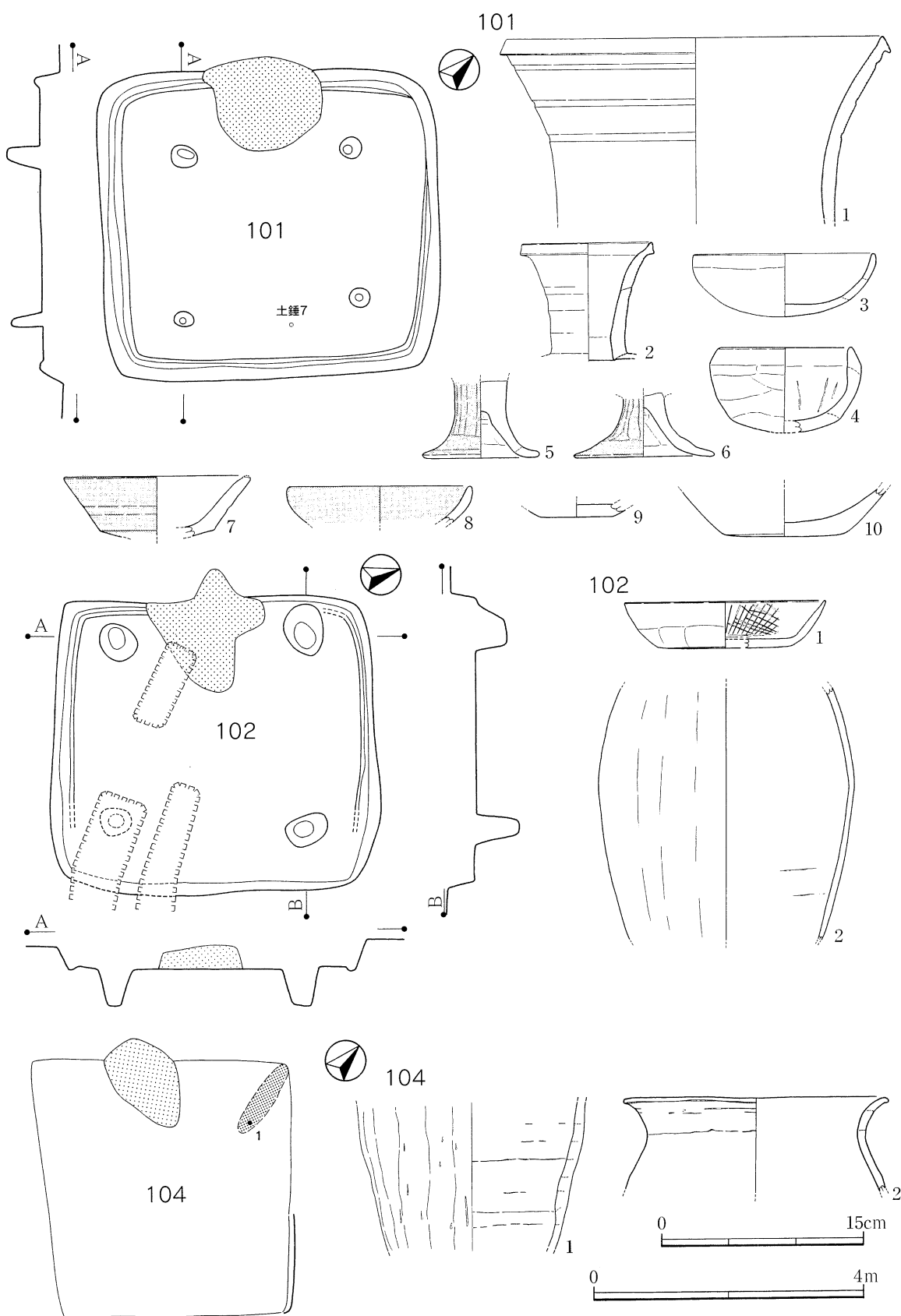
カマド（第133図）は、北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さ左奥から右回りに54・42・48・35cm、柱間は奥240・右220・前260・左248cm。貯蔵穴はない。壁溝は右奥コーナーで途切れる。

出土遺物（第54図）10点の土器を図示した。1は須恵広口壺の口縁部破片。2は須恵長頸壺の頸部以上。3は完形の丸底坏。4は碗で底部欠損。5・6は高杯脚部で外面を赤彩している。7・8は高杯杯部で7は外を、8は内外面を赤彩している。9・10は底部破片である。

土器以外の遺物として第144図3・6～8の4点の管状土錘が出土した。3は2片が接合し1/3ほど残る。6は下部が欠損し2/3ほど残る。7・8は部分的に欠損部もあるが完形である。前壁下で



第53図 100号住居跡と出土土器



第54図 101・102・104号住居跡と出土土器

7が出土している。

(105) 102号住居跡 第54図 図版17-3～6

主軸4.42m、直交4.90m、深さ0.40mの方形で、主軸方位は西に71度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドC-12に位置する。他の遺構との重複はないが遺構内に図示した以外にも浅い攪乱が多く床が軟弱で、南西壁付近・カマド右側では壁溝を確認できなかった。

カマド（第133図）は、北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。左前の柱は攪乱溝の中で下部を確認した。深さは左奥から右回りに55・45・60・58cm、柱間は奥280・右284・前280・左272cm。右奥の柱穴はほぼ壁に接する。壁溝は全周すると思われるが南東側で確認できなくなる。

出土遺物（第54図）2点の土器を図示した。1は格子状の暗文のある平底の坏。2は甕の胴部である。

(106) 104号住居跡 第54図 図版45-1

主軸3.85m、直交3.80m、深さ0.28mの方形で、主軸方位は西に44度を測る。

B地点1次南調査区東、グリッドJK-11に位置する。北西で1号方形周溝墓上にカマドを造る。他の住居跡との重複はなかった。写真は単独では撮影しておらず、1号墳撮影の際にわずかに写っているだけだった。1号方形周溝墓と重複することと浅いために壁はほとんど確認できなかった。

カマド（第134図）は、北西壁に造られる。1号方形周溝墓上に大部分が造られている。柱穴・壁溝等はない。右奥コーナーに焼土がある。

出土遺物（第54図）2点の土器を図示した。1は甕の胴部破片。2は甕上部。1の甕胴部は焼土中から出土している。

(107) 103号住居跡 第55図 図版17-7・8

主軸5.69m、直交5.70m、深さ0.35mの方形で、主軸方位は西に60度を測る。

B地点1次南調査区西端、グリッドB-12に位置する。他の遺構との重複はない。攪乱もなく遺構の残りはよい。

カマド（第133図）は、北西壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに48・55・59・53cm、柱間は奥284・右308・前284・左328cm。貯蔵穴はない。壁溝は全周する。

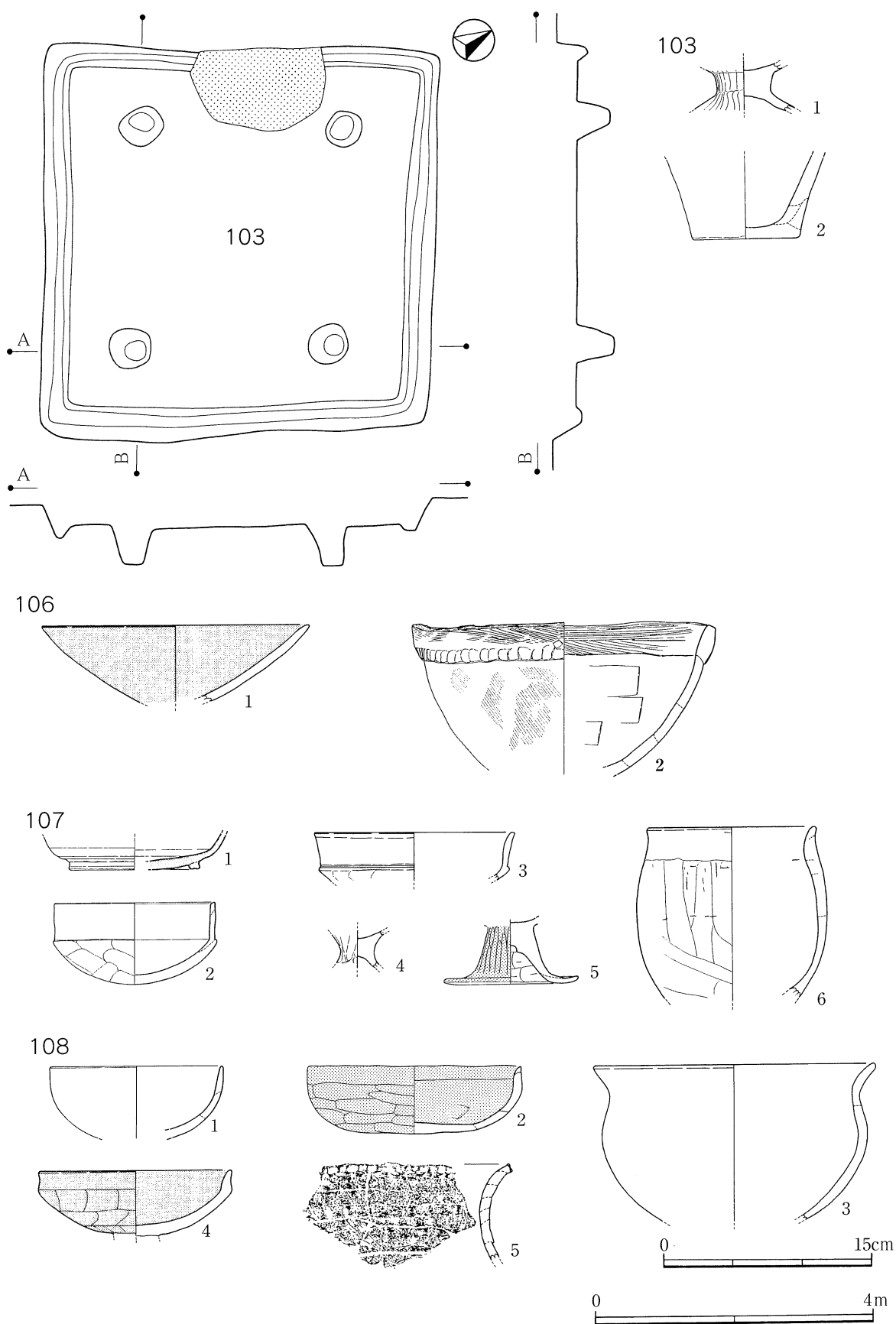
出土遺物（第55図）2点の土器を図示した。1は台付甕台部。2は甕底部である。

(108) 106号住居跡 第56図 図版18-1・19-1

主軸3.80m、直交3.98m、深さ0.54mの方形で、主軸方位は東に45度を測る。

B地点1次北調査区南東端、グリッドH-19に位置する。西で108・111号住居跡を削平する。南壁を107号住居跡が削平する。西コーナーに108号住居跡のピットがある。

カマド（第134図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は横に並ぶ二本柱で、2本とも検出した。深さ北西38・南東41cm、柱間は204cmを測る。右奥コーナーに70×50cm、深さ33cmの貯蔵穴がある。



第55図 103号住居跡と103・106～108号住居跡出土土器

壁溝は全周する。

出土遺物（第55図） 2 点の土器を図示した。1 は高杯杯部で内外面を赤彩している。2 は二重口縁の鉢で底部を欠損している。貯蔵穴内から出土している。

土器以外の遺物として第147図 8 の鉄製品が出土している。小形だが緩く湾曲しており鎌であろう。

(109) 107号住居跡 第56図 図版18－1

主軸2.46m、直交2.2m以上、深さ0.45mの方形で、主軸方位は西に37度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドH－19に位置する。西で108号住居跡、北で106号住居跡を削平する。南東側は調査区域外に続きカマド左袖の脇から南は調査していない。

カマド（第134図）は、北西壁に造られる。左は調査区域外になる。柱穴はない。東コーナーに53×40cm、深さ10cmの楕円形の貯蔵穴がある。壁溝は全周する。

出土遺物（第55図） 6 点の土器を図示した。1 は須恵高台付坏の底部破片。2 は完形の模倣坏。3 は模倣坏口縁部破片。4 は器台の脚部。5 は高杯脚部で外面を赤彩している。6 は甕の上部である。

土器以外の遺物として第148図 5 の鉄製品が出土している。鎌で、裏面はほとんど剥落しているが柄の取り付け部が残っている。

(110) 108号住居跡 第56図 図版18－1・19－2

主軸6.28m、直交4.5m以上、深さ0.40mの隅円方形で、主軸方位は西に36度を測る。

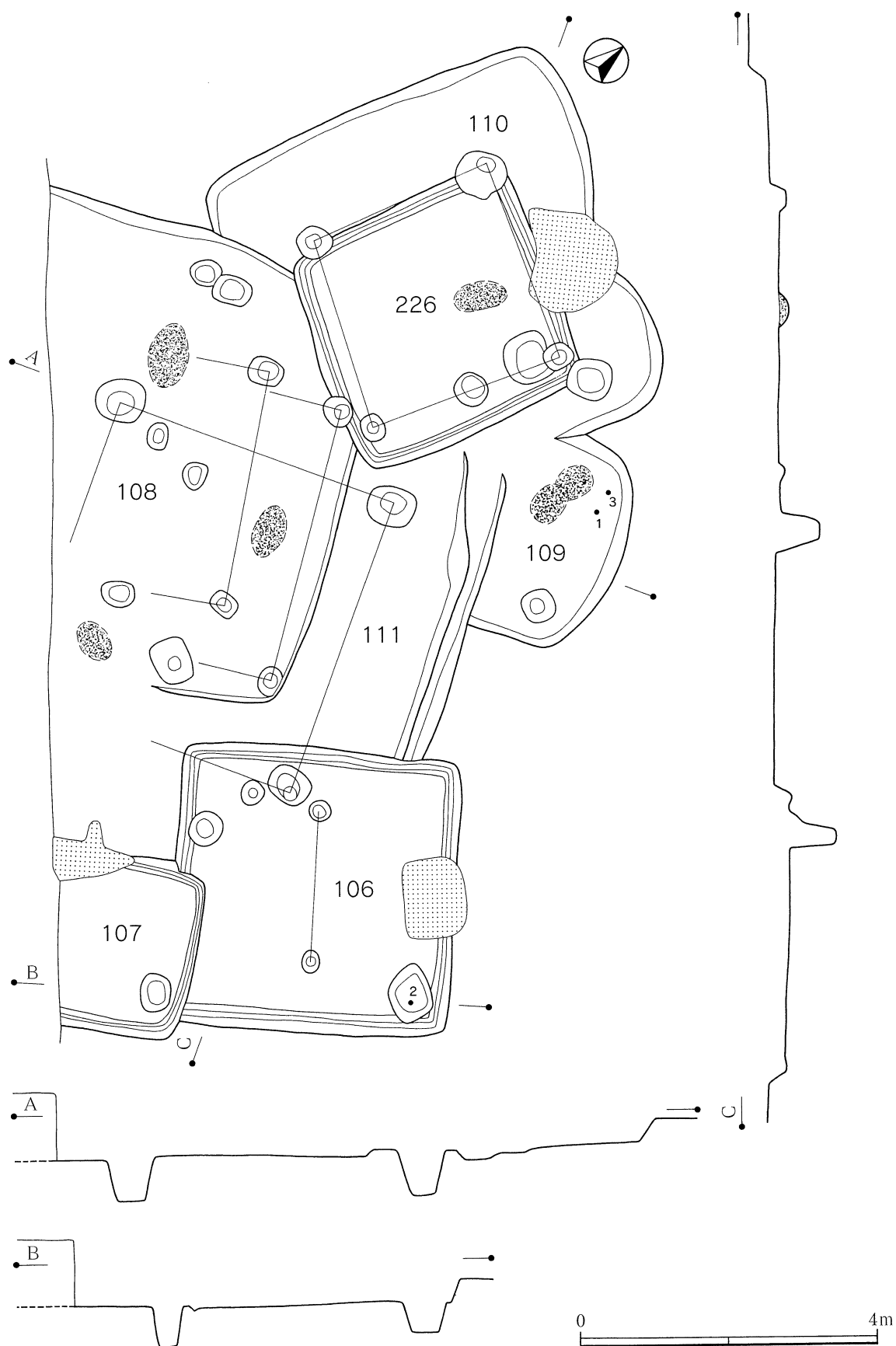
B地点1次北調査区南、グリッドGH－18＞19に位置する。北で109号住居跡を削平し、北から東にかけてを106・107・110・111・226号住居跡に削平される。住居跡の輪郭内にある炉・柱穴を108号住居跡としているが1軒の住居跡ではない。111号住居跡のものを除き炉2カ所、ピットが10基ある。また106号住居跡内のピットも1基は所属が決まらない。他の炉・ピットから住居跡が復元できないかと線で結んだものが北西部にある炉を中心とした2組の例だが他にも幾つか組み合わせが考えられる。

奥壁から120cmに83×54cmの炉がある。西寄りの2本の柱穴は、深さ奥41・前43cm、柱間316cm。東寄りの2本は、深さ奥26・前24cm、柱間380cm。炉から324cmに深さ16cmの出入口ピット、前壁下右に58×48、深さ27cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝はない。東寄りの組み合わせは、炉は西寄りのものと同一で111号住居跡北東壁手前にある段差まで拡張されたものと考えられる。この場合の規模は、主軸8m以上となる。106号住居跡内にある30×34、深さ48cmのピットが貯蔵穴の可能性もある。

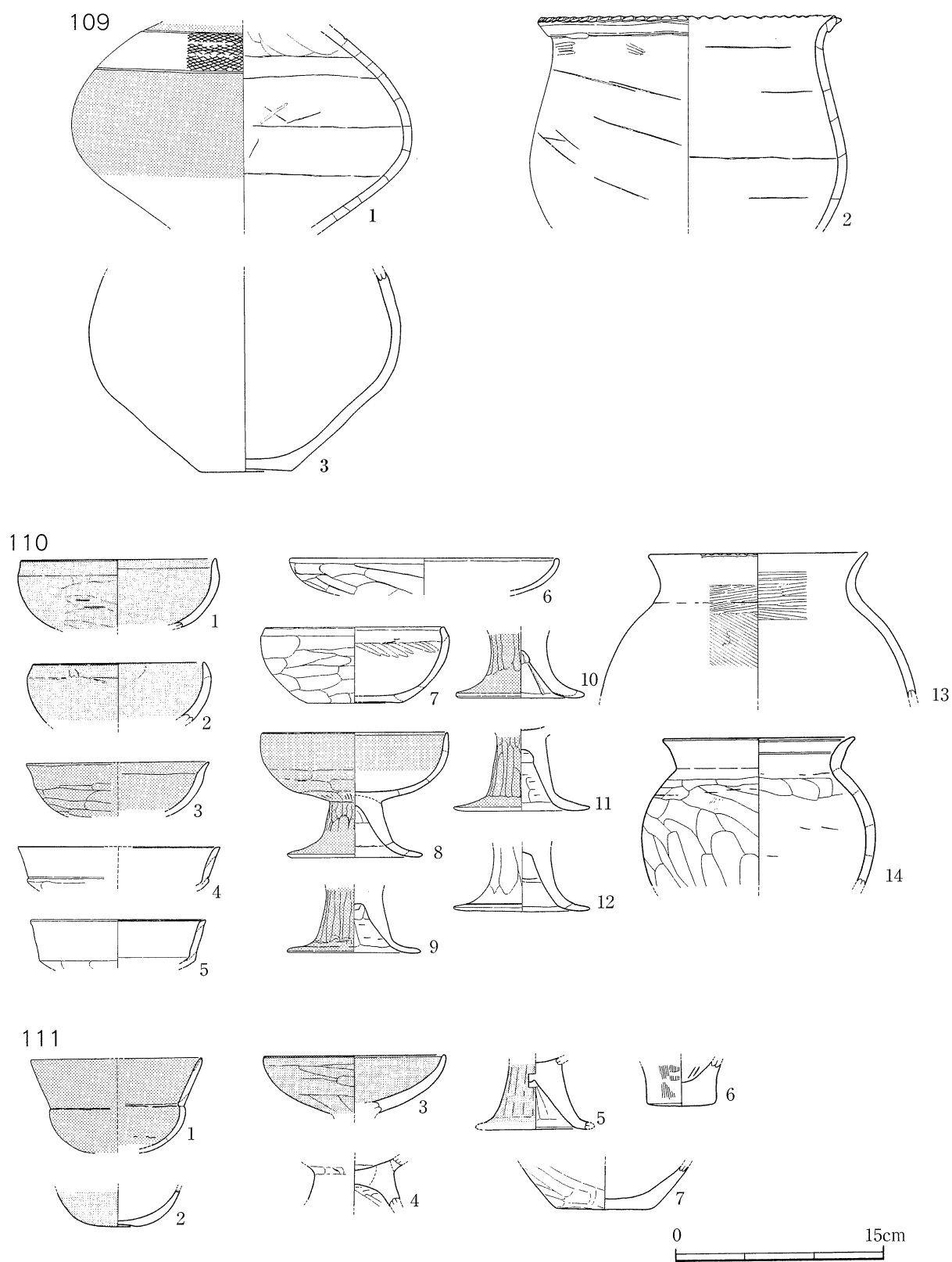
出土遺物（第55図） 5 点の土器を図示した。1 は坏底部欠損。2 は完形の坏で内外面を赤彩している。3 は甕で底部欠損。4 は高杯杯部で内外面を赤彩している。脚欠損後の痕跡を磨り減らし坏として再利用している。5 は甕口縁部拓本で、本遺構に伴う土器である。他は106・107・110号住居跡などの遺物であろう。

(111) 109号住居跡 第56図 図版19－2

主軸2.92m、直交2m以上、深さ0.38mの小判形で、主軸方位は西に30度を測る。



第56図 106～111・226号住居跡



第57图 109~111号住居跡出土土器

B地点1次北調査区南、グリッドH-20に位置する。南西部を108・110・111号住居跡が削平する。奥に48×48cm、前に43cm以上×44cmの炉が2基検出された。南東コーナーに径48cm、深さ23cmの円形の貯蔵穴がある。壁溝はない。

出土遺物（第57図）1は壺の胴部は沈線で区画した中を結節で埋めている。2は甕で底部欠損。3は壺の下半で3点ともに炉の東側から出土している。

(112) 110号住居跡 第56図 図版18-1・19-2

主軸4.90m、直交5.25m、深さ0.30mの方形で、主軸方位は東に19度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドGH-20に位置する。東から南にかけて108・109・111号住居跡を削平し、内側にある226号住居跡上に厚く貼床している。北東壁近くは軟弱で掘りすぎているようだ。

カマド（第134図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに75・80・59・64cm、柱間は奥280・右268・前264・左252cm。東コーナーに63×60cm、深さ48cmの円形の貯蔵穴がある。壁溝はない。

出土遺物（第57図）14点の土器を図示した。1～3は高杯杯部で、内外面を赤彩している。4・5は模倣坏の破片。6は盤の口縁部破片。7は完形の平底坏。8は完形の高杯で、内外面を赤彩している。9～11は高杯脚部で、外面を赤彩している。12は高杯脚部で赤彩されていない。13・14は甕の上部である。13は、重複する226号住居跡の遺物である。

土器以外の遺物として第144図5の土玉が出土している。下部に傷がある他は完形である。

(113) 111号住居跡 第56図 図版19-2

主軸8m以上、直交6m以上、深さ0.35mの隅円方形で、主軸方位は西に18度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドH-19>20に位置する。北で109号住居跡、南西で108号住居跡を削平し、東で106号住居跡、南東で107号住居跡、北西で110号住居跡に削平される。108号住居跡を覆う大形の住居跡で写真では壁際で掘形を掘り抜いた状態になっている。

奥の柱穴の間右手前に寄って74×44cmの炉がある。柱穴は左前を除く3本を検出、左前の柱穴は調査区域外にある。深さは左奥から右回りに66・61・79cm、柱間は奥392・右416cm。貯蔵穴は106号住居跡壁溝と重なる径45cm、深さ50cmの円形のものが検出された。壁溝はない。

出土遺物（第57図）7点の土器を図示した。1は埴で底部欠損、内外面を赤彩している。2は埴底部、外面を赤彩している。3は高杯杯部で、内外面を赤彩している。4は台付甕台。5は高杯脚部で外面を赤彩している。6・7は底部。1・4・6・7が本遺構に伴い、他は重複する106・107・110号住居跡のいずれかの遺物である。

土器以外の遺物として第144図6・7の2点の土玉が出土している。両者ともに裏面が損傷している。

(114) 226号住居跡 第56図 図版18-1・19-2

主軸3.30m、直交3.27m、深さ0.42mの方形で、主軸方位は東に16度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドGH-20に位置する。南で108・111号住居跡を削平し、上を110号住居跡が貼床する。110号住居跡の床下から検出されている。上の遺構の柱穴などで破壊された部分以外はよく残っている。

奥壁から60cmに70×35cmの炉がある。柱穴はない。東コーナーに径62×68cm、深さ41cmの貯蔵穴がある。南東壁中央から50cmに径40cm、深さ20cmの出入口ピットがある。壁溝は全周する。

226号住居跡の注記では図示できるものはなかったが110号住居跡13の甕が本遺構に伴う土器である。

(115) 112号住居跡 第58図 図版19-3

主軸5.00m、直交4.77m、深さ0.52mの方形で、主軸方位は西に25度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドIJ-19>20に位置する。南で202号住居跡、北で113号住居跡、南東で289号住居跡、南西で158号住居跡を削平する。113号住居跡、158号住居跡の柱穴、貯蔵穴が遺構内にある。方形に並ぶ4本の柱穴だけが本遺構に伴う。

カマド（第134図）は、北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに36・21・31・34cm、柱間は奥216・右208・前200・左216cm。貯蔵穴等はない。壁溝は全周する。

出土遺物（第59図）9点の土器を図示した。1は模倣坏で、内外面を赤彩している。2は高杯杯部、碗状に深い杯部の内側を赤彩している。3は坏破片。4は底部。5～7は甕上部で、6・7は長胴である。8・9は甕の釣り手部のみの破片で同一個体のものだろう。

(116) 158号住居跡 第58図 図版25-1・3

主軸5.25m、直交5m以上、深さ0.56mの方形で、主軸方位は東に40度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドI-19に位置する。東で202号住居跡、西で西159号住居跡を削平し、北東で112号住居跡が削平する。202号住居跡部分は遺構輪郭の掘形が写真では観察できる。

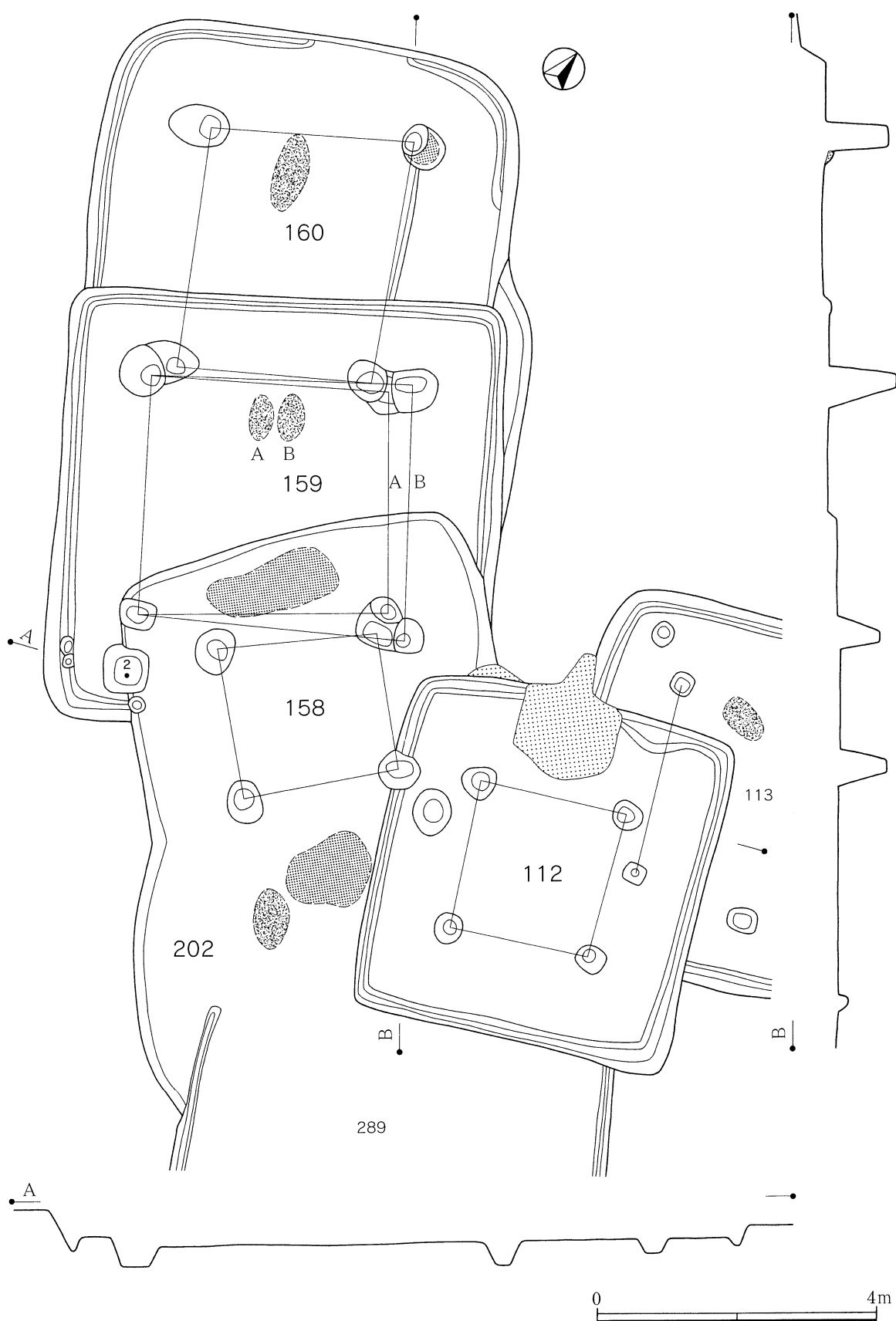
カマドは、北東壁南寄りに造られる。大部分を112号住居跡に削平され左側の袖の粘土が一部残るだけだった。柱穴は、四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに42・70・48・58cm、柱間は奥224・右228・前220・左248cm。東側112号住居跡内に55×67cm、深さ70cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝はない。北西部190×70cm、南東部124×110cmの焼土がある。

出土遺物（第59図）9点の土器を図示した。1は坏底部欠損。2は完形の坏で、上半のみ内外ともに赤彩している。3は台付甕台。4は小形土器底部。5・6は甕底部。7は甕下部。8は壺の口縁部で内側を赤彩している。9は甕底部欠損。8は重複する202号住居跡に伴う弥生式土器である。

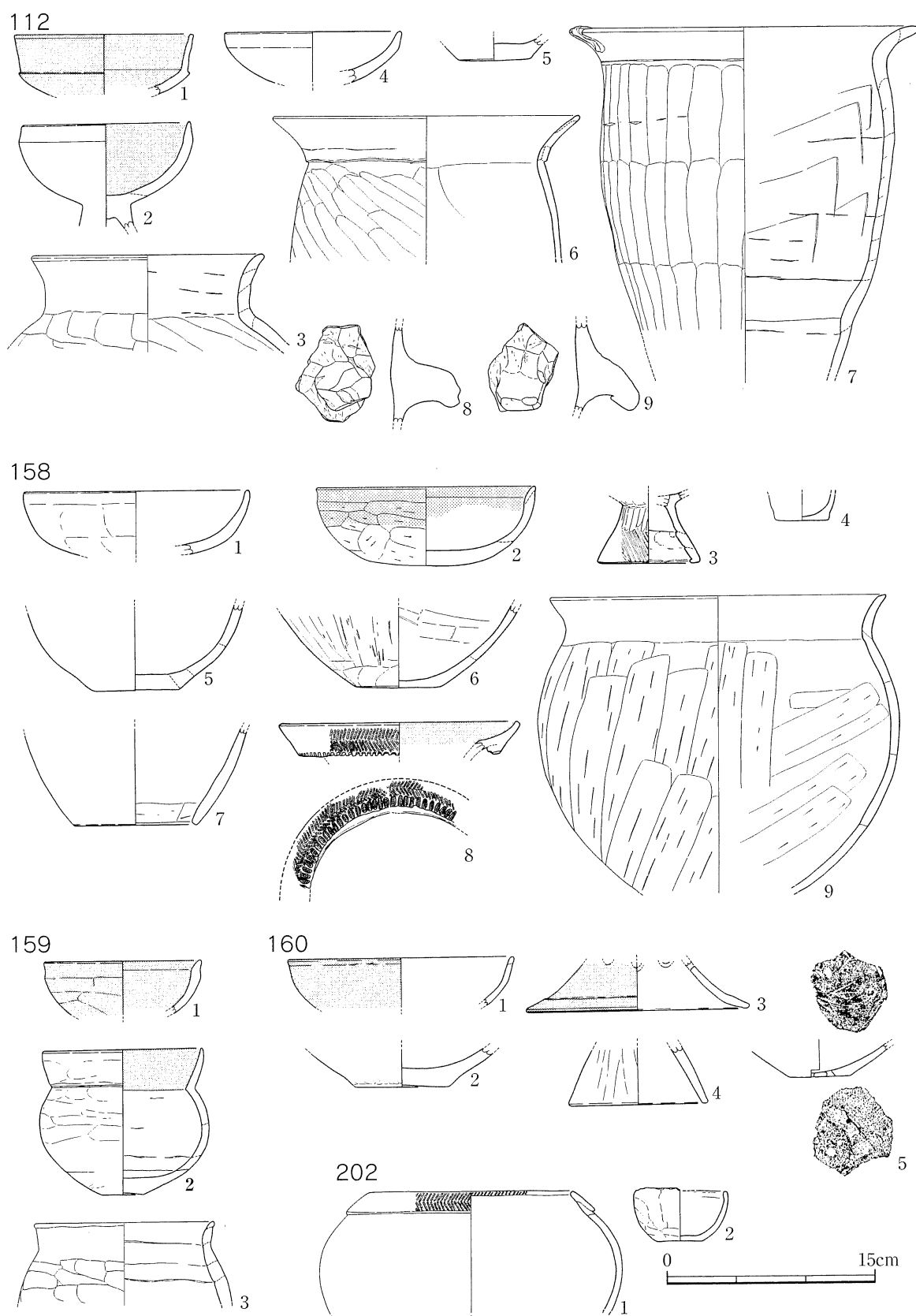
(117) 159A号住居跡 第58図 図版25-1・3

主軸6.26m、直交6.29m、深さ0.40mの隅円方形で、主軸方位は西に37度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドI-19>20に位置する。西で160号住居跡を削平し、東で158号住居跡が削平する。東に炉を移動し、右側の2本の柱穴を造り直して拡張されている。旧をA、新をBとする。



第58図 112・158～160・202号住居跡



第59図 112・158～160・202号住居跡出土土器

Aの炉は64×36cmの楕円形でB期に貼床されている。柱穴は四本柱全てを検出した。東側は建て替えられている。拡張前の柱穴は、深さは左奥から右回りに85・55・56・88cm、柱間は奥280・右344・前344・左336cm。南西コーナーに65×65cm、深さ43cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝は全周し、南西コーナー付近に3基の小ピットがある。

(118) 159B号住居跡 第58図 図版25-1・3

主軸6.26m、直交6.29m、深さ0.40mの隅円方形で、主軸方位は西に37度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドI-19>20に位置する。西で160号住居跡を削平し、炉、柱穴を除きA期の遺構をそのまま使用している。炉と、右側の2本の柱穴を造り直して拡張されている。

炉は2基が横に並ぶ。B期は66×38cmの楕円形で、柱穴は四本柱全てを検出した。深さは拡張後は左奥から右回りに右奥100・右前76cm、柱間は奥336・右360・前380cmを測る。

出土遺物（第59図）3点の土器を図示した。1は底部欠損の坏で、内外面を赤彩している。2は完形の埴で、口縁内側を赤彩している。3は甕の上半。2の埴は南西コーナーの貯蔵穴内から出土した。検出したときは内部に小形の埴が横に納まっていたが水洗の際に水を吸って崩れてしまった。元々この土器の内部に入れたまま焼成したために粘土内部まで焼けていなかったものと考えられる。

(119) 160号住居跡 第58図 図版25-1・2

主軸6m以上、直交6.04m、深さ0.38mの隅円方形で、主軸方位は西に31度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドHI-19<20に位置する。南東を159号住居跡が削平する。

奥の柱間は左寄りに112×46cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに92・90・62・82cm、柱間は奥292・右348・前280・左348cm。壁溝は主軸から西と北東コーナーで確認した。北東壁中央で130cm途切れている。右奥の柱穴と重複して炉と同様に硬く焼けた焼土の入ったピットがある。右柱穴間で外側が一段高くベッド状遺構になっている。

出土遺物（第59図）5点の土器を図示した。1は坏で、底部を欠損し外面を赤彩している。2は底部。3は器台脚部で、外面を赤彩している。4は台付甕の台。5は甕の底部で焼成前の穿孔が3カ所ある。

土器以外の遺物として第155図8の軽石が出土している。左側を欠損する。中央に円形の窪みが造られている。

(120) 202号住居跡 第57図 図版25-1

主軸3m以上、直交3.2m以上、深さ0.55mの小判形で、主軸は西を向く。

B地点1次北調査区南、グリッドI-19に位置する。南東で289号住居跡、北西で158号住居跡、北東で112号住居跡が削平する。周囲の削平のため詳細は不明。炉は88×50cmの楕円形。柱穴、壁溝等はない。

出土遺物（第59図）2点の土器を図示した。1は胴が大きく張り無頸壺のような鉢で底部欠損。2は手捏に近い完形の碗である。

(121) 113号住居跡 第60図 図版19-5

主軸5.38m、直交5.50m、深さ0.38mの隅円方形で、主軸方位は西に22度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドIJ-19>20に位置する。北東で114号住居跡を削平し、北西で115号住居跡、北で116号住居跡、南で112号住居跡が削平する。

左奥の柱穴から50cm内側に52×73cmの楕円形の炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに39・58・65・49cm、柱間は奥310・右274・前312・左280cm。横長の長方形の配置である。前壁から88cmに深さ22cmの出入り口ピットがある。壁溝は全周する。炉の東側に104×52cmの範囲に焼土がある。北西コーナーに柱穴状のピットがある。

113号住居跡の注記の遺物はなかったが、114号住居跡9～16が本遺構に伴う遺物であろう。

(122) 114号住居跡 第60図 図版19-5

主軸4.85m以上、直交5.00m、深さ0.42mの小判形で、主軸方位は西に25度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドJ-20に位置する。南を113号住居跡、北を128号住居跡、北西を116号住居跡が削平する。床面は南東側の一部、壁も南東と北西で検出したただけだが、炉・柱穴は全て検出した。

奥の柱間で右に寄って58×42cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに36・40・42・35cm、柱間は奥296・右244・前276・左230cm。奥が広い台形の配置である。前壁から80cmに深さ33cmの出入口ピットがある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第61図）16点の土器を図示した。1は坏底部欠損。2は完形の平底坏。3は台付甕の台。4は器台器受部で、内を赤彩している。5～7は甕の上部。8は完形の甕。9・10は波状口縁の甕上部。11は底部欠損の甕。12は甕の胴部。13は完形の甕。14は完形の広口壺。15は甕胴部破片。16は完形の台付鉢で、台と鉢の部分は直接接合しないため図上復元である。これらの遺物は時期の異なるものが混在している。狭い面積でこれだけ出土し、一方113号住居跡の注記の土器が一つもないことから両者の遺物を一カ所に集め取り上げた様子がうかがわれ、さらに重複する116号住居跡の遺物も混入している。1～3が116号住居跡、4～8が113号住居跡、9以降が114号住居跡の遺物であろう。

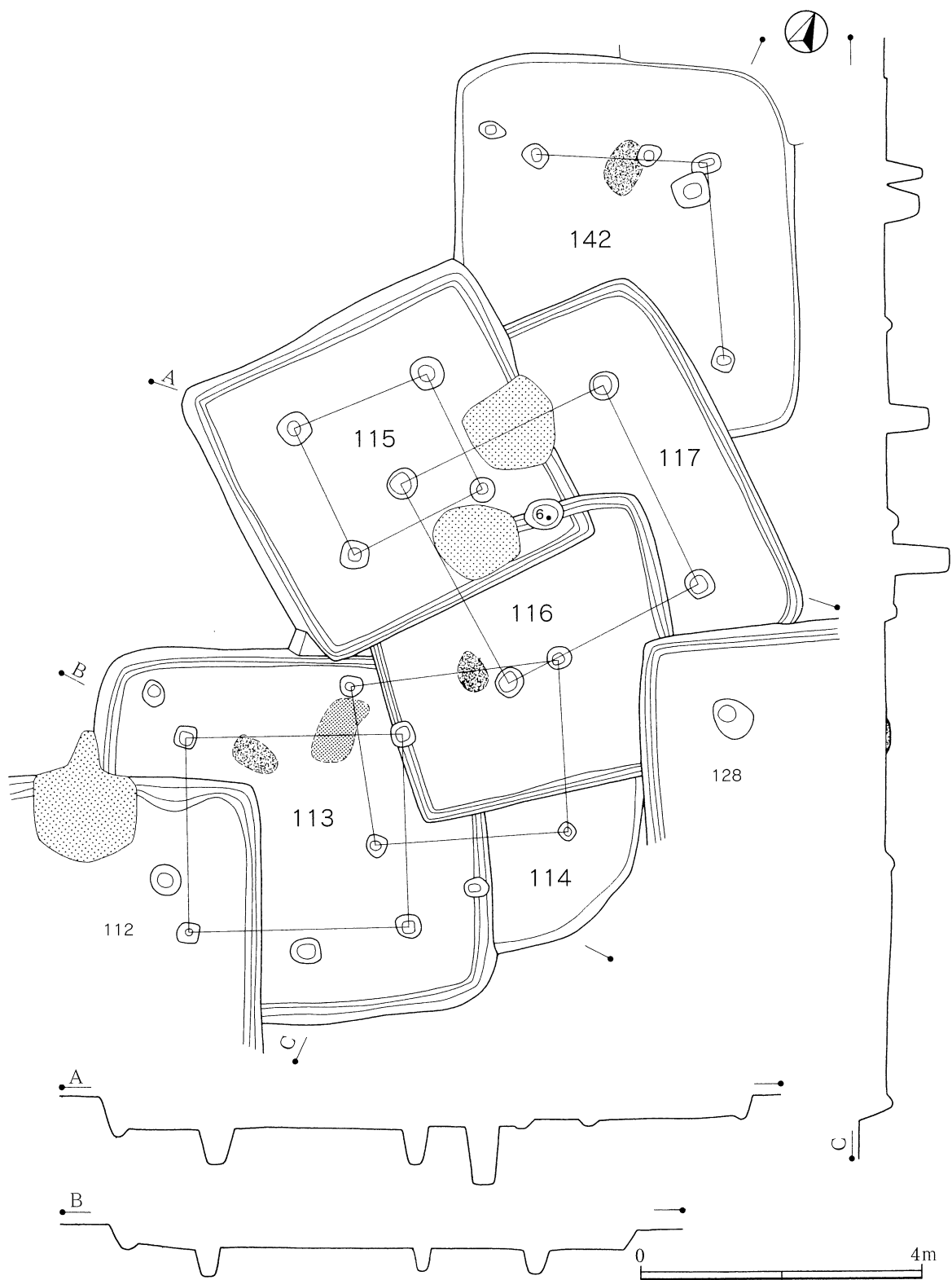
(123) 115号住居跡 第60図 図版19-5

主軸4.58m、直交4.52m、深さ0.45mの方形で、主軸方位は東に42度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドIJ-20に位置する。南で113号住居跡、南で114号住居跡、北西で142号住居跡、北で117号住居跡を削平し、東を116号住居跡が削平する。

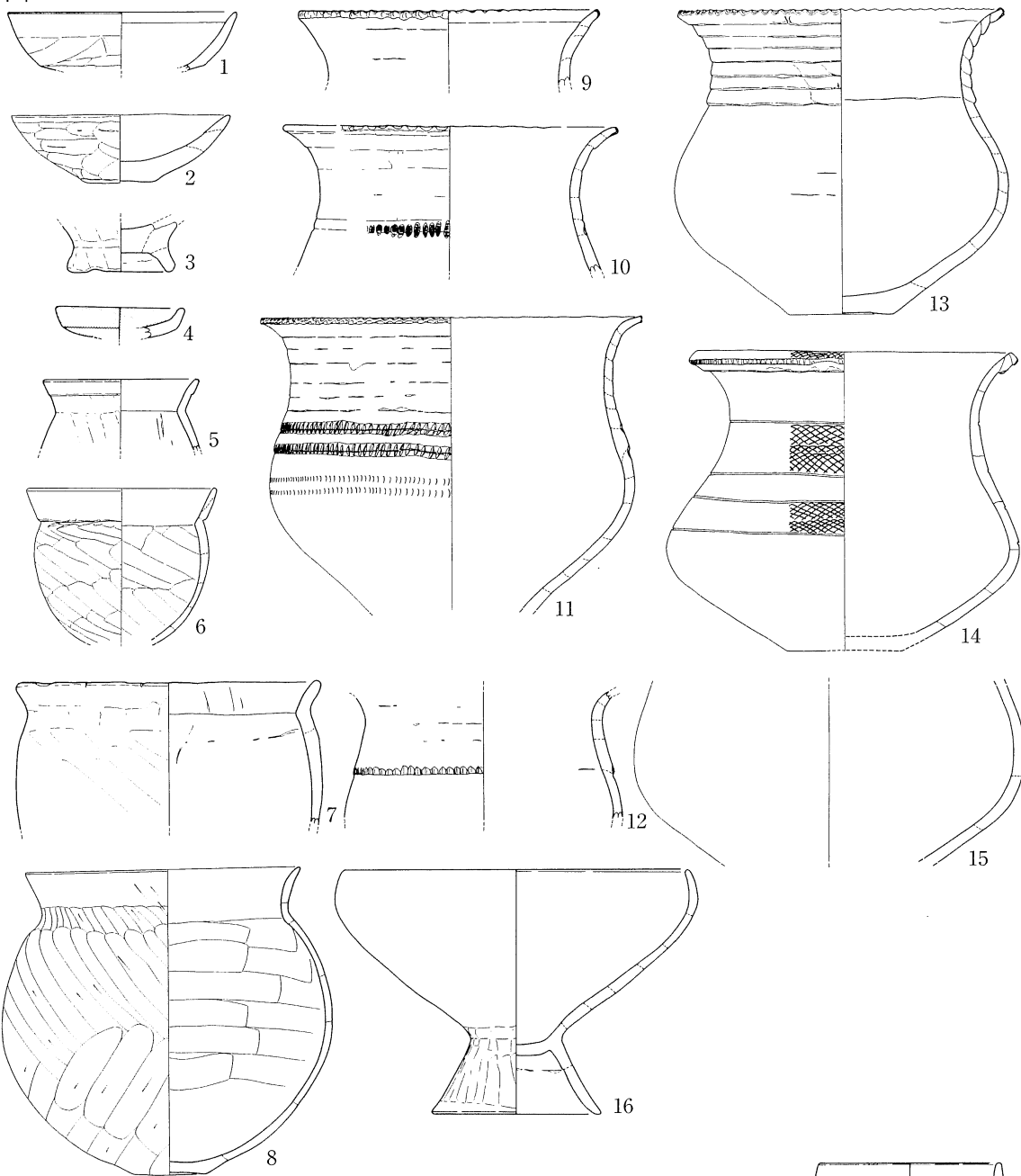
カマド（第134図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに41・51・44・50cm、柱間は奥180・右204・前200・左204cm。北東コーナーに径50cm、深さ80cmの円形の貯蔵穴がある。壁溝は全周する。

出土遺物（第61・62図）10点の土器を図示した。1は須恵高台付坏の底部破片。2は完形の平底坏で、内側下半を除き内外面を赤彩してる。3は器台接合部。4・5は高杯杯部。6は貯蔵穴内から出土した完形の高杯で、口縁が大きくゆがむ。4～6ともに脚内を除き内外面を赤彩している。7は底部欠損の甕で、小形で口縁が内傾する。8は底部欠損の埴で、胴部内を除き内外面を赤彩している。

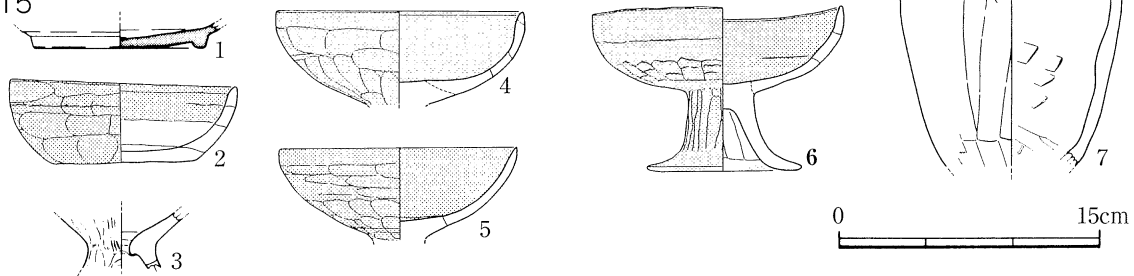


第60図 113～117・142号住居跡

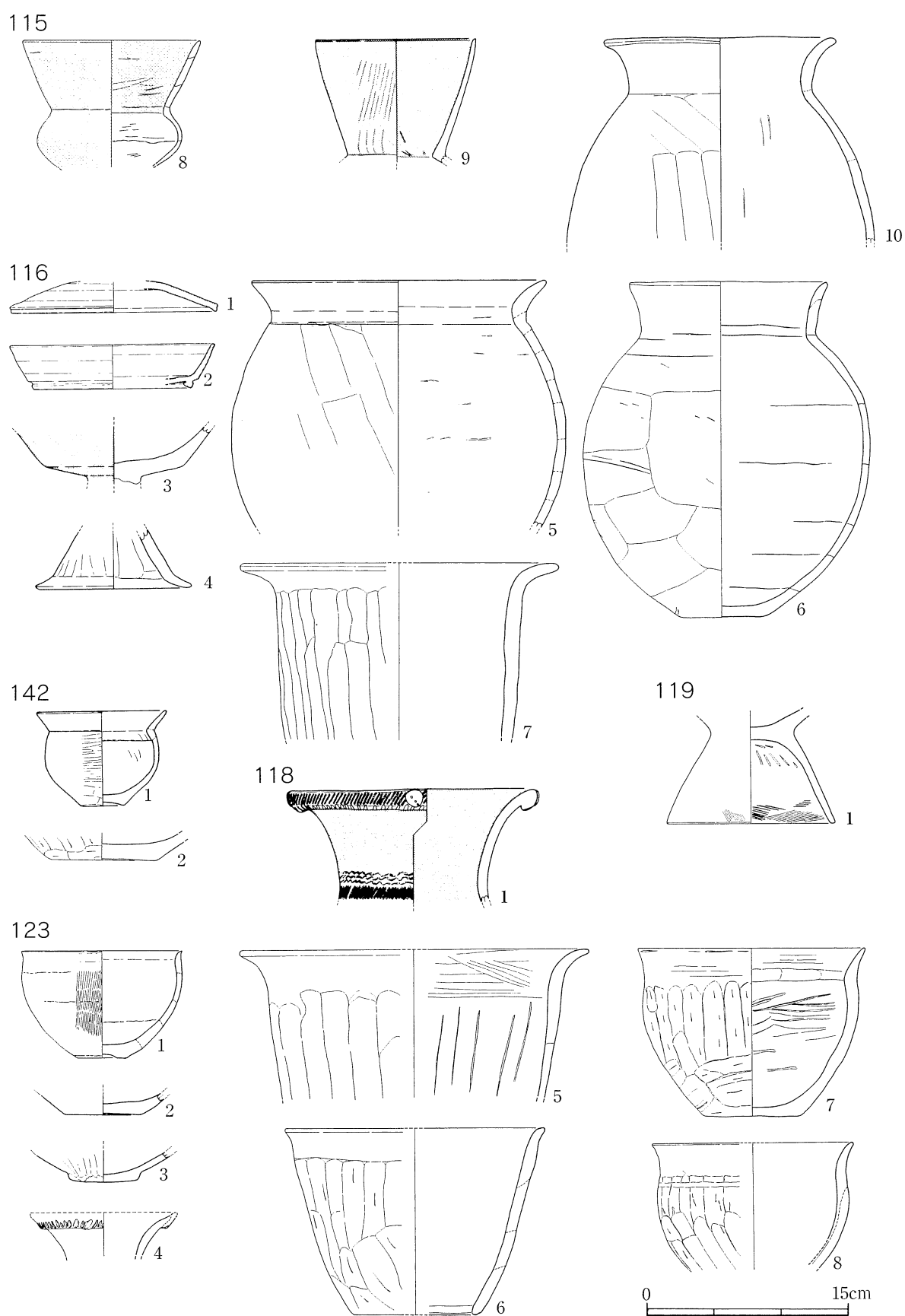
114



115



第61图 114・115号住居跡出土土器



第62図 115・116・118・119・123・142号住居跡出土土器

9は胴部欠損の埴で、内外面を赤彩している。10は下半欠損の甕である。この内3・8・9の3点は本遺構に伴わず、重複する117号住居跡の遺物である。

土器以外の遺物として第146図8～10の3点の土玉が出土している。3点ともわずかに傷があるが完形である。

(124) 116号住居跡 第60図 図版19－5

主軸4.12m、直交4.30m、深さ0.37mの方形で、主軸方位は西に37度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJ-20に位置する。東で114号住居跡、南で113号住居跡、北で117号住居跡、西で115号住居跡、東で128号住居跡を削平する。117号住居跡覆土中に貼床し、カマドは115号住居跡覆土中に造られている。

カマド（第134図）は、北西壁の117号住居跡覆土中に大部分が造られている。壁溝は全周するが、柱穴、貯蔵穴などの施設はない。

出土遺物（第62図）7点の土器を図示した。1は須恵蓋坏。2は須恵高台付坏で、底部中央欠損。3は高杯杯部で外面を赤彩。4は高杯脚部。5は甕下部欠損。6は甕完形。7は下部欠損の甗である。

(125) 117号住居跡 第60図 図版19－5

主軸5.3m以上、直交5.85m、深さ0.34mの隅円方形で、主軸方位は西に139度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJ-20に位置する。北西で142号住居跡を削平し、東で128号住居跡、南西で115号住居跡が削平、南で116号住居跡が貼床する。

116号住居跡のカマド下に92×48cmの楕円形の炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに74・65・63・76cm、柱間は奥324・右320・前316・左301cm。壁溝は全周する。

土器以外の遺物として第150図13の砥石が出土している。4面ともによく使われ大きく湾曲している。

(126) 142号住居跡 第60図 図版22－6

主軸5.70m、直交4.85m、深さ0.34mの隅円方形で、主軸方位は西に27度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドIJ-20>21に位置する。南東を117号住居跡、北西を143号住居跡、南西を115号住居跡、北を144号住居跡が削平する。

奥の柱間中央に78×52cmの炉がある。東側で143号住居跡の柱穴と重複している。柱穴は四本柱の内左前を除く3本を検出した。深さは左奥から右回りに30・53・53cm、柱間は奥244・右276cm。左前の柱穴は117号住居跡内の攪乱溝の位置にあたる。壁溝はない。

出土遺物（第62図）2点の土器を図示した。1は完形の埴。2は甕の底部である。

(127) 118号住居跡 第63図 図版19－6・7

主軸5.34m、直交4.87m、深さ0.60mの縦長の小判形で、主軸方位は西に45度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJ-20<21に位置する。北東で119号住居跡を削平する。

奥の柱間中央に78×60cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに

69・73・68・72cm。柱間は奥270・右220・前266・左220cm。前壁から70cmに深さ13cmの出入口ピットがある。前壁下の右寄りに38×33cm、深さ9cmの円形の貯蔵穴がある。壁溝等はない。

出土遺物（第62図）1の壺口縁部が北西壁中央床面で出土している。

(128) 119号住居跡 第63図 図版19-6・7

主軸5.2m以上、直交4m以上、深さ0.41mの小判形で、主軸方位は西に58度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJK-21に位置する。南西を118号住居跡、西を120号住居跡が削平する。北側の大部分を118・120号住居跡に削平され炉は残っていない。北西壁が118・120号住居跡の間にわずかに残っている。

炉は120号住居跡に削平される。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに67・65・66・64cm、柱間は奥248・右244・前256・左224cm。前壁から76cmに深さ18cmの出入口ピット。右寄りに38×30cm、深さ22cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第62図）1の台付甕台部が、貯蔵穴の南東床面で出土している。

(129) 120A号住居跡 第63図 図版19-8

主軸7.40m、直交6.62m、深さ0.48mの縦長の隅円方形で、主軸方位は西に41度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJK-21に位置する。東で119号住居跡、北西で121号住居跡、北東で124号住居跡を削平し、北西を122号住居跡が削平、東を123号住居跡が貼床する。北西は122号住居跡壁溝などで荒らされている。柱穴は内側から外側に拡張されている。それに伴って炉も東に移っている。旧をA、新をBとする。

奥の柱穴の間中央に115×42cmの炉がある。Aの炉に対応する内側の柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに43・76・56・62cm、柱間は奥330・右306・前316・左360cm。前壁から50cm離れた右寄りに46×40cm、深さ51cmの隅円方形の出入口ピットが検出された。壁溝は南東の一部のみ確認した。

(130) 120B号住居跡 第63図 図版19-8

主軸7.40m、直交6.62m、深さ0.48mの縦長の隅円方形で、主軸方位は西に33度を測る。

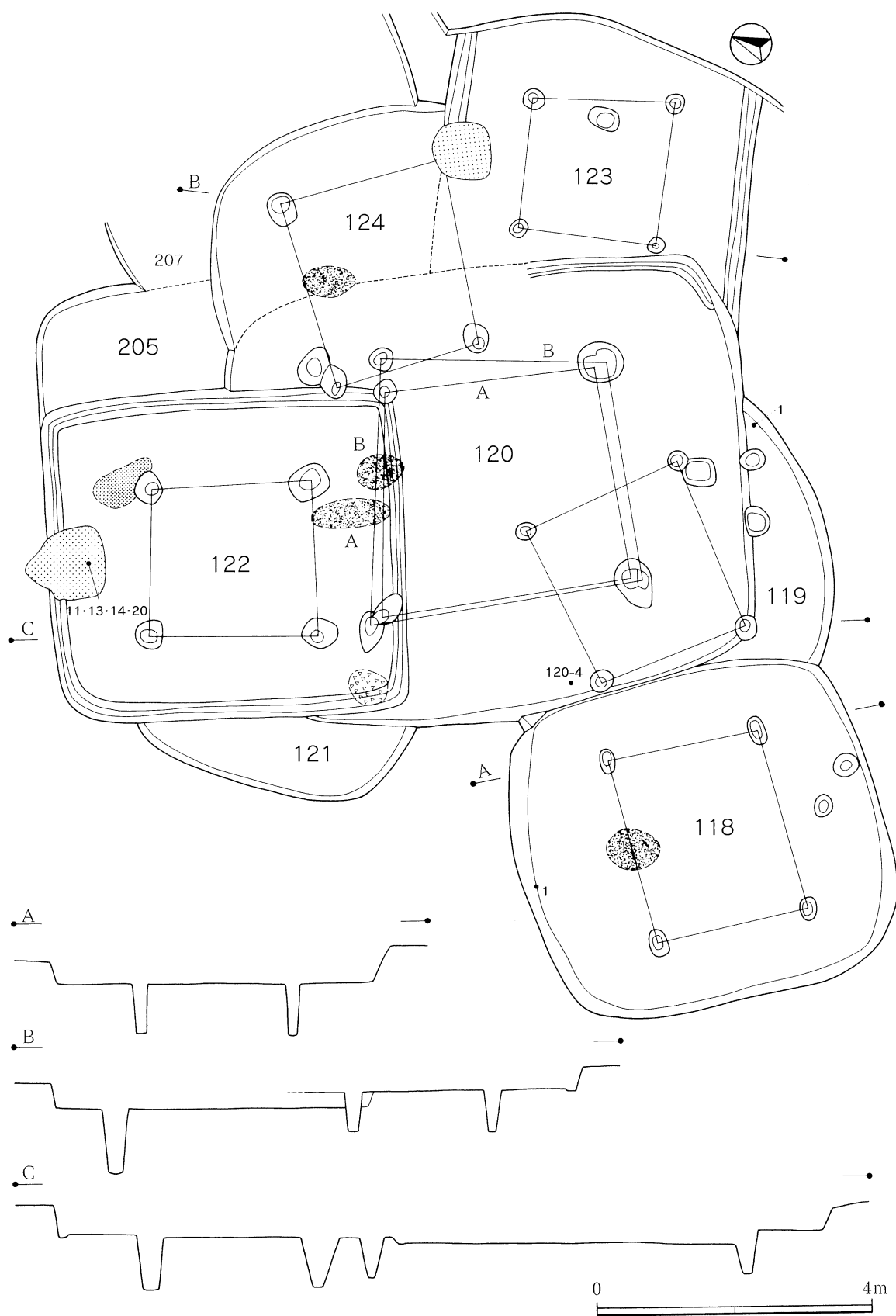
B地点1次北調査区東、グリッドJK-21に位置する。柱穴は内側から外側に拡張されている。それに伴って炉も東に移っている。

奥の柱穴の間右寄りに68×50cmのB期の炉がある。拡張後の柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに53・64・51・57cm、柱間は奥390・右330・前320・左396cm。出入口ピット、壁溝等は、A期と同様である。

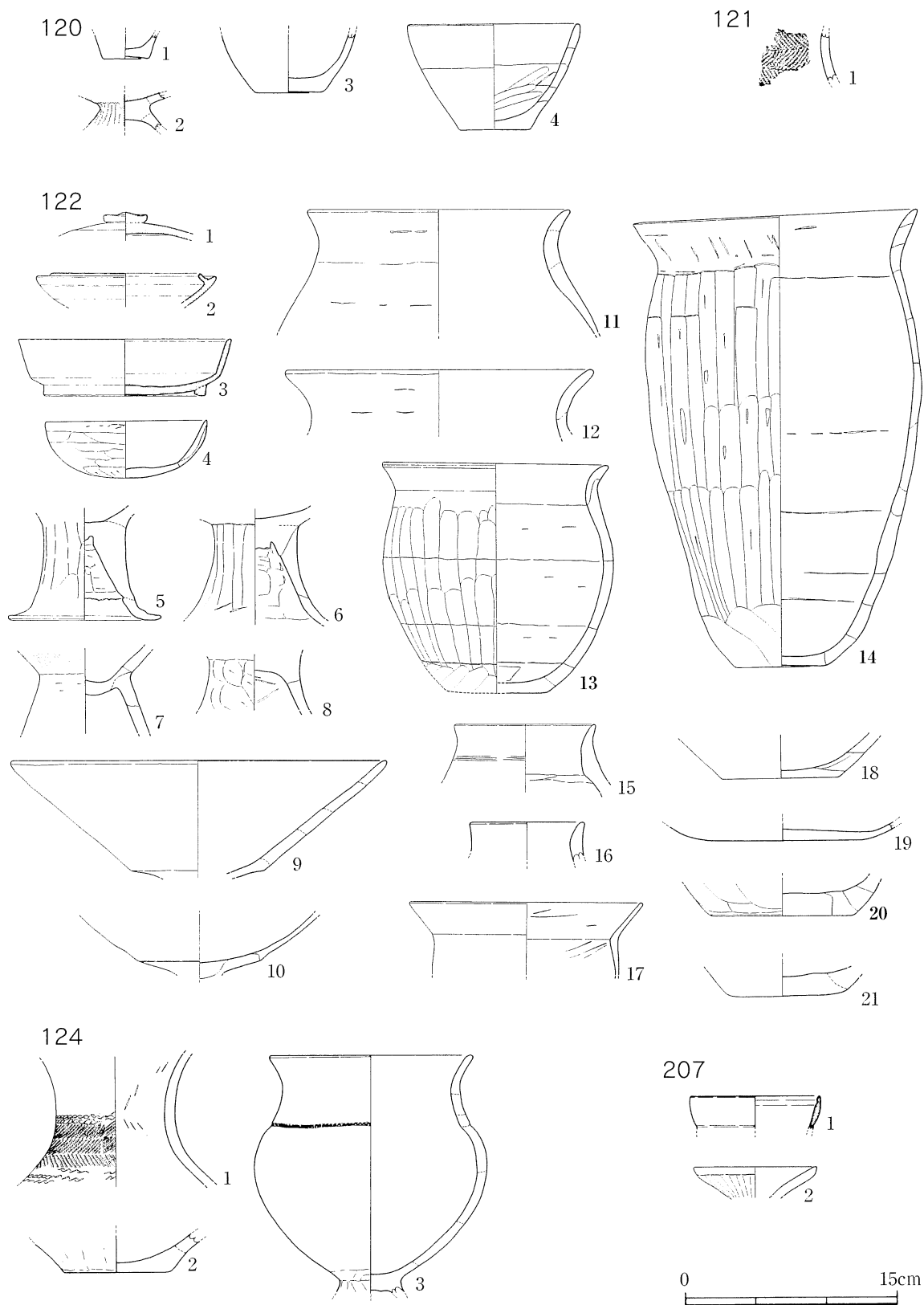
出土遺物（第64図）4点の土器を図示した。1は小形壺の底部。2は器台接合部で、脚内を除き内外面を赤彩している。3は壺の底部。4は完形の鉢で、南西壁下床面に接して出土した。

(131) 121号住居跡 第63図 図版20-1

主軸4m以上、直交1.5m以上、深さ0.40mの小判形で、主軸方位は西に18度を測る。



第63図 118~124・205号住居跡



第64図 120~122・124・207号住居跡出土土器

B地点1次北調査区東、グリッドJK-21に位置する。北東を120号住居跡、北を122号住居跡が削平する。大部分が120・122号住居跡に削平され炉などは残っていない。

出土遺物（第64図）1の拓本は壺頸部の羽状縄文の破片である。

(132) 122号住居跡 第63図 図版20-1～5

主軸5.21m、直交4.92m、深さ0.46mの方形で、主軸方位は西に35度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJ-21>22に位置する。

北で205号住居跡、南で121号住居跡、東で120号住居跡を削平する。多くの遺構を削平して造られているが残りはいくつかある。

カマド（第135図）は、北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに81・71・81・74cm、柱間は奥216・右230・前218・左244cm。壁溝は全周する。右奥の柱穴に接して56×50cmの粘土混じりの焼土、南コーナーに96×52cmの貝層がある。

出土遺物（第64図）21点の土器を図示した。1～3は須恵器で、1は蓋坏のつまみ付きの中央部のみ。2は坏の端部破片。3は完形の高台付坏。4は完形の丸底坏。5～8は高杯脚部。9・10は高杯杯部。11・12は甕口縁部。13は完形の甕。14は完形の長胴甕。15～16は甕口縁部17～21は甕底部である。カマド内から11・13・14・20の甕が出土している。

土器以外の遺物として第144図11の土玉、第147図2の石製紡錘車、第151図14の砥石が出土している。土玉は背面が欠損している。石製紡錘車は完形で制作時の刀子痕が残っている。砥石は軟質で3片に割れている。

(133) 123号住居跡 第63図 図版20-1

主軸4.53m、直交4m以上、深さ0.34mの方形で、主軸方位は西に27度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドK-21>22に位置する。西で124号住居跡、南西で120号住居跡に貼床する。西側120・124号住居跡上は壁溝、床等不明。北東部は1次調査範囲外で未確認である。

カマド（第135図）は、北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。左奥から右回りに深さ58・51・49・58cm。柱間は奥188・右206・前208・左200cm。貯蔵穴などはない。壁溝は壁確認部で全周する。右前の柱穴奥に柱穴状のピットがある。

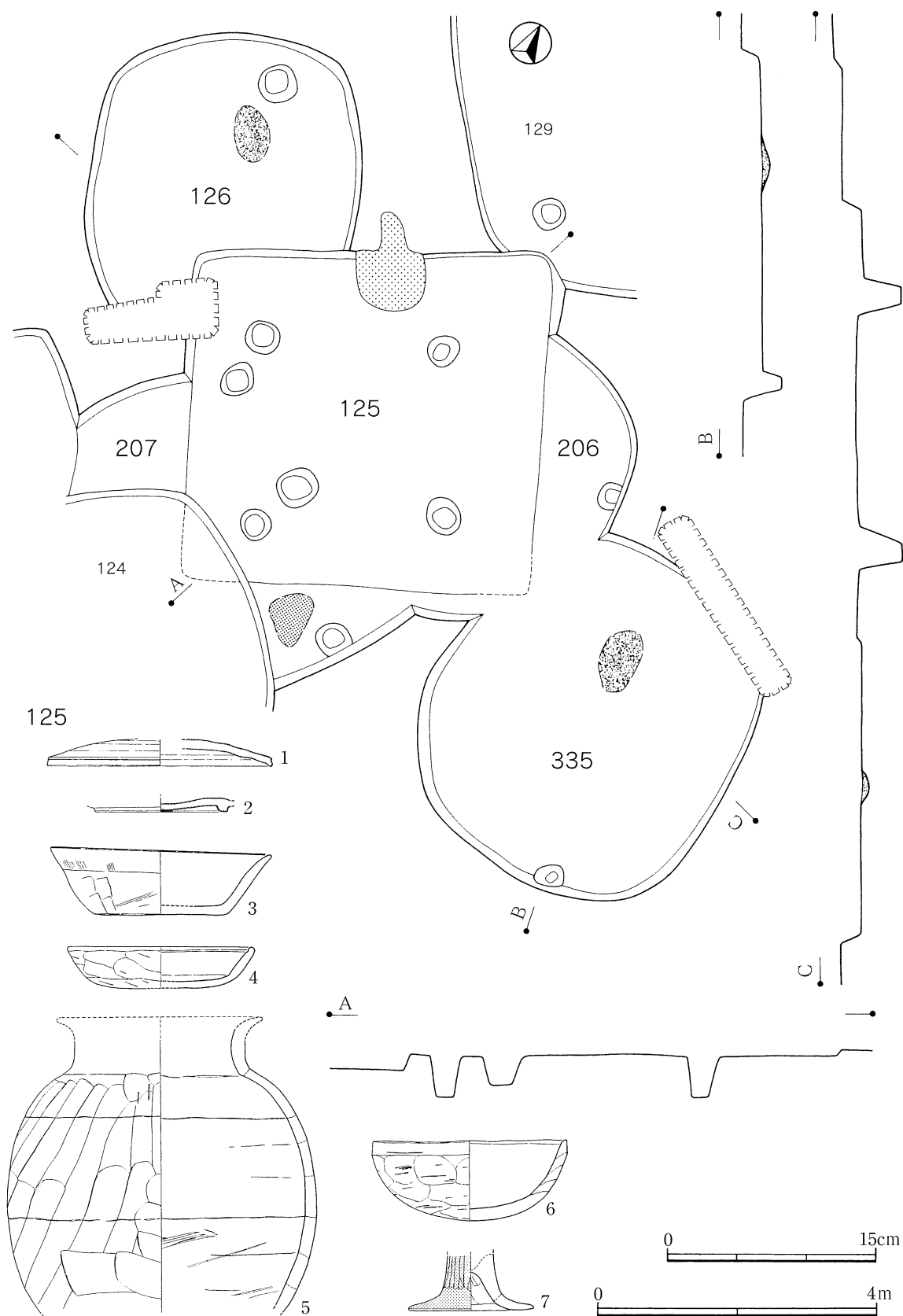
出土遺物（第62図）8点の土器を図示した。1は完形の鉢。2・3は底部。4は壺の口縁部。5は下部欠損の甕。6は完形の甕。7は完形の小形甕。8は下部欠損の甕。本遺構に伴う遺物は5～8の4点で1～3が120号住居跡、4が124号住居跡に伴う遺物である。

土器以外の遺物として第155図5の軽石が出土している。左が割れているが擦痕が残っている。

(134) 124号住居跡 第63図 図版20-2

主軸4m以上、直交4m以上、深さ0.56mの小判形で、主軸方位は西に46度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJK-21<22に位置する。西で205号住居跡を削平し、南を120号住居跡が削平、東を123号住居跡が貼床する。123号住居跡下の部分は掘っていない。カマド調査の際に右前の柱穴を検出したがレベルは計測していない。



第65図 125・126・206・207・335号住居跡と125号住居跡出土土器

奥の柱穴の間やや右寄りに78×44cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに73・93・68cm、柱間は奥188・右206・前208・左200cm。左奥の柱穴は奥から前の深さ69cmに建て替えられている。貯蔵穴は123号住居跡床下で確認されていない。

出土遺物（第64図）3点の土器を図示した。1は壺頸部。2は甕底部。3は台付甕台下部欠損。

(135) 205号住居跡 第63図 図版20－2

主軸2.7m以上、直交1.7m以上、深さ0.35mの隅円方形。

B地点1次北調査区東、グリッドJ-22に位置する。東を124号住居跡、南西を120号住居跡、南を122号住居跡が削平する。北コーナーを一部確認しただけで、大部分が他の遺構に削平されている。

(136) 125号住居跡 第65図 図版21－1

主軸4.90m、直交5.20m、深さ0.28mの方形で、主軸方位は西に29度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJK-22に位置する。西で126号住居跡、南で124号住居跡、東で206号住居跡、北で129号住居跡を削平する。206・207号住居跡部分では床面レベルがほとんど同じことと壁溝がないことから遺構の輪郭ははっきりととらえられなかった。

カマド（第135図）は、北西壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに63・64・62・63cm、柱間は奥256・右240・前274・左270cm。貯蔵穴、壁溝はない。左側柱穴の間で2本のピットが検出されている。深さは37と45cmで、下層の住居跡のピットの可能性もある。

出土遺物（第65図）7点の土器を図示した。1は須恵蓋坏。2は須恵高台付坏。3・4は完形の平底坏。5は底部欠損の甕で口縁は摩耗している。6は完形の丸底。7は高杯脚部で外面を赤彩している。

土器以外の遺物として第142図11の土製支脚、第147図4の石製紡錘車が出土している。土製支脚は、円筒形で基部まで残る完形である。石製紡錘車は上面に丸みのある完形品である。

(137) 126号住居跡 第64図 図版21－1

主軸4m以上、直交3.90m、深さ0.18mの小判形で、主軸方位は西に22度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJ-22に位置する。南側を攪乱溝と125号住居跡が削平する。

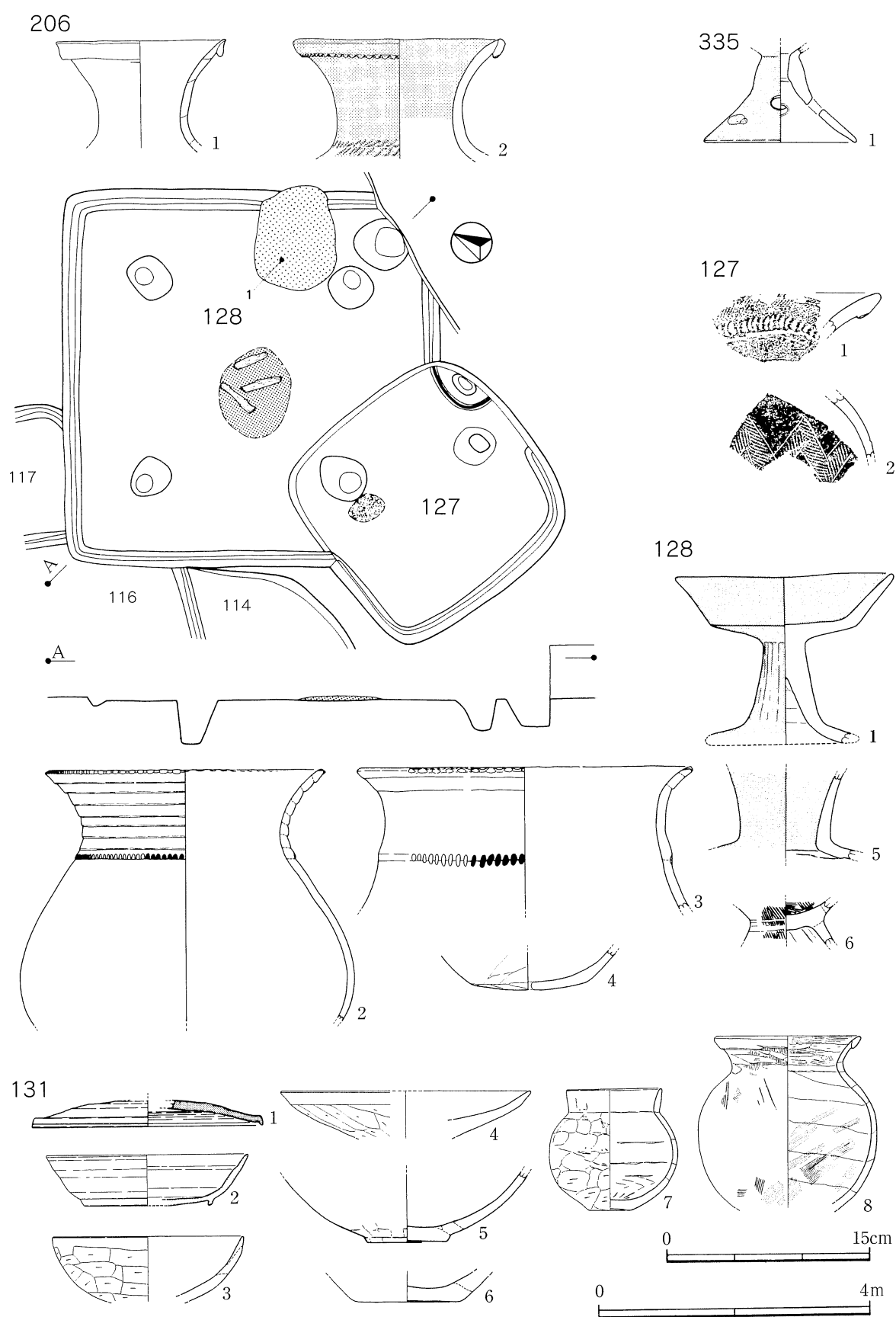
奥壁から95cmに84×52cmの炉がある。炉の奥に深さ19cmのピットがある。

(138) 206号住居跡 第63図 図版21－1

一辺4.4m以上、深さ0.26mの小判形と思われる住居跡である。

B地点1次北調査区東、グリッドK-22に位置する。西の大部分を125号住居跡が削平する。東で335号住居跡と重複。炉は125号住居跡が削平。東南壁下に貯蔵穴がある。

出土遺物（第66図）二重口縁壺の頸部以上を2点が出土している。1は黄褐色でよくヘラミガキされている。2は二重口縁部下に刻みを付け、胴上端に縄文を施す。胴内部を除き赤彩している。



第66図 127・128号住居跡と127・128・131・206・335号住居跡出土土器

(139) 207号住居跡 第64図 図版21-1

一辺4.9m以上、深さ0.26mの小判形。詳細は不明である。

B地点1次北調査区東、グリッドJK-22に位置する。南西で124号住居跡を削平し、北東を206号住居跡、125号住居跡が削平する。中央部を削平され炉などは不明。南東壁に深さ14cmの貯蔵穴がある。

出土遺物（第64図）2点の土器を図示した。1は須恵坏破片。2は器台器受部。2点の内1の須恵器は重複する125号住居跡の遺物であろう。

(140) 335号住居跡 第64図 図版44-5

主軸5.00m、直交4.43m、深さ0.31mの縦長の小判形で、主軸方位は西に6度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドKL-22に位置する。西で206号住居跡を削平する。2次調査での検出で1次調査の206号住居跡と重複する。前後関係は不明。

奥壁から100cmに94×57cmの炉がある。前壁右寄りに35×45cm、深さ29cmの貯蔵穴がある。

出土遺物（第66図）器台脚部が出土している。外面を赤彩している。

土器以外の遺物として第156図27の軽石が出土している。

(141) 127号住居跡 第66図 図版21-2

主軸3.53m、直交3.46m、深さ0.52mの小判形で、主軸方位は西に65度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJ-19<20に位置する。北を128号住居跡が貼床する。

主軸から右によって奥壁から50cmに56×40cmの炉がある。柱穴はない。前右コーナーに22×40cmの楕円形で深さ15cmの貯蔵穴がある。周囲にロームを積み固めた突帯がある。壁溝は遺構の左半分で確認した。出入口ピットの位置にロームを台上に掘り残しピットの代用にしている。上は柱根を受けるために窪んでいる。

出土遺物（第66図）2点の土器を図示した。1は壺口縁部、二重口縁下に刻みを施す。2は鋸歯状の沈線の間を縄文で埋めた壺胴部破片。

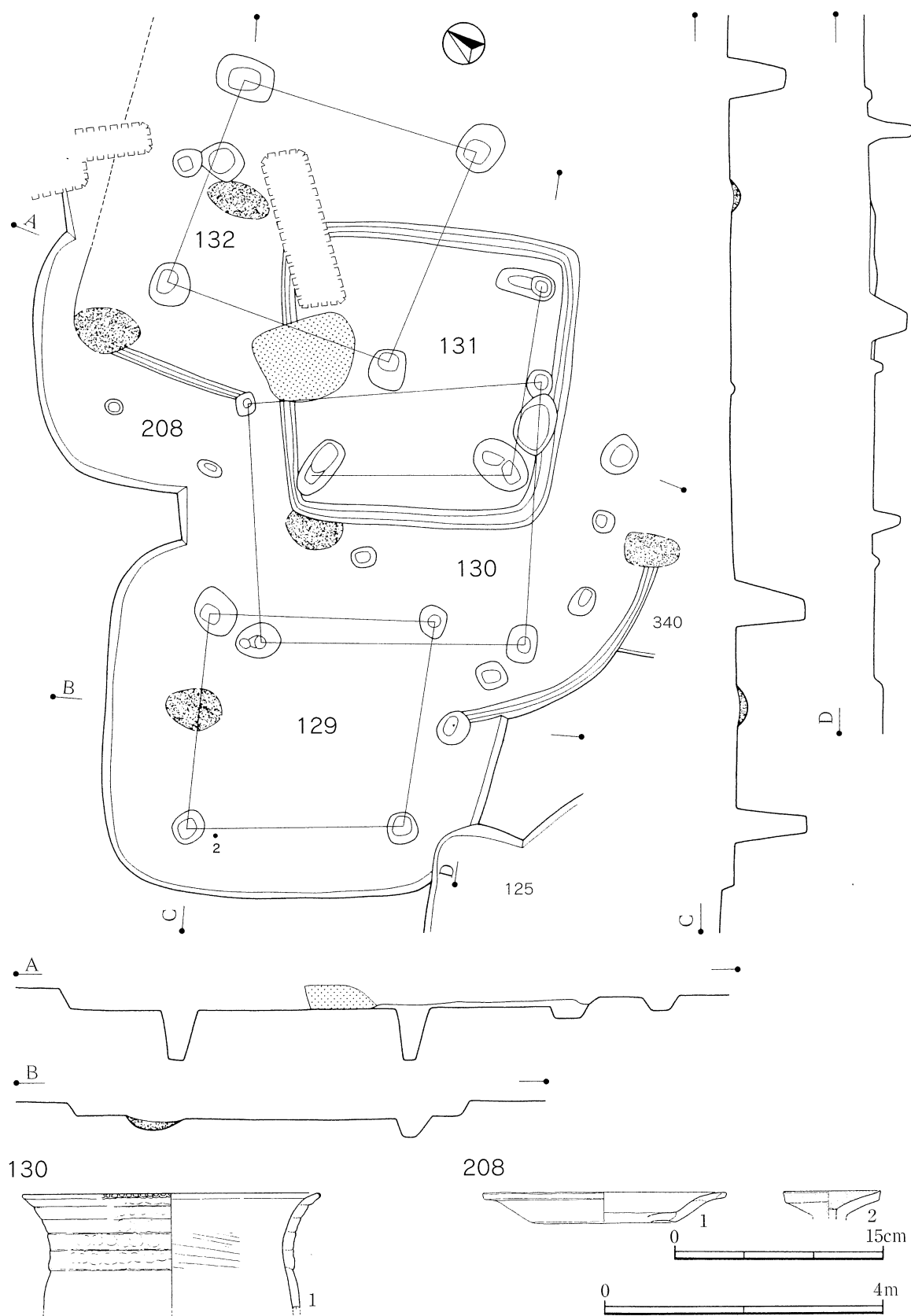
(142) 128号住居跡 第66図 図版21-2

主軸5.55m、直交5.53m、深さ0.42mの方形で、主軸方位は東に65度を測る。

B地点1次北調査区東、グリッドJ-20に位置する。南西で114号住居跡、西で117号住居跡を削平し、南で127号住居跡に貼床する。東コーナーは1・2次調査の境界で排土の山があり未調査である。南コーナーは127号住居跡上で貼床を確認していない。

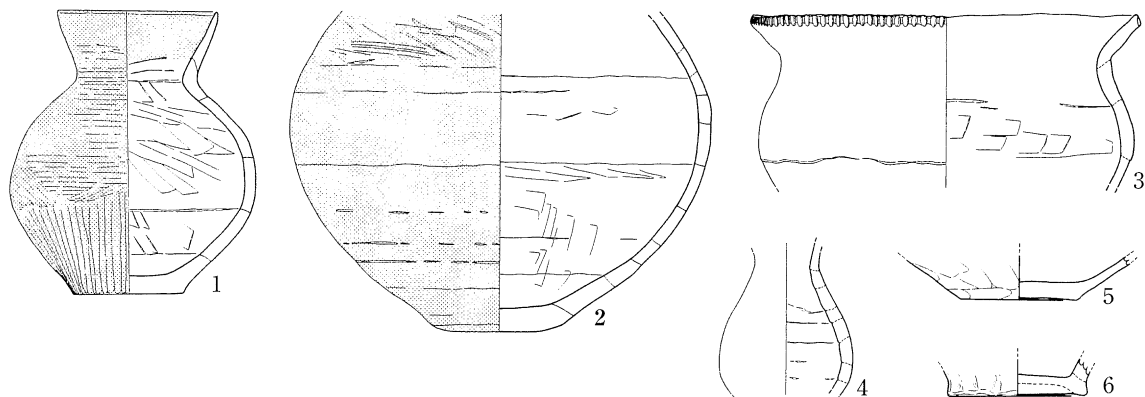
カマド（第135図）は北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに60・44・75・63cm、柱間は奥304・右300・前302・左304cm。東コーナーに76×82cm、深さ40cmの貯蔵穴。壁溝は全周する。遺構中央に133×103cmの範囲で炭化材混ざりの焼土があり床面が炉のように焦げている。

出土遺物（第66図）6点の土器を図示した。1は完形の高杯で、脚内を除き内外面を赤彩している。2は底部欠損の甕。3は下部欠損の甕。4は底部。5は埴頸部、胴内を除き内外面を赤彩している。

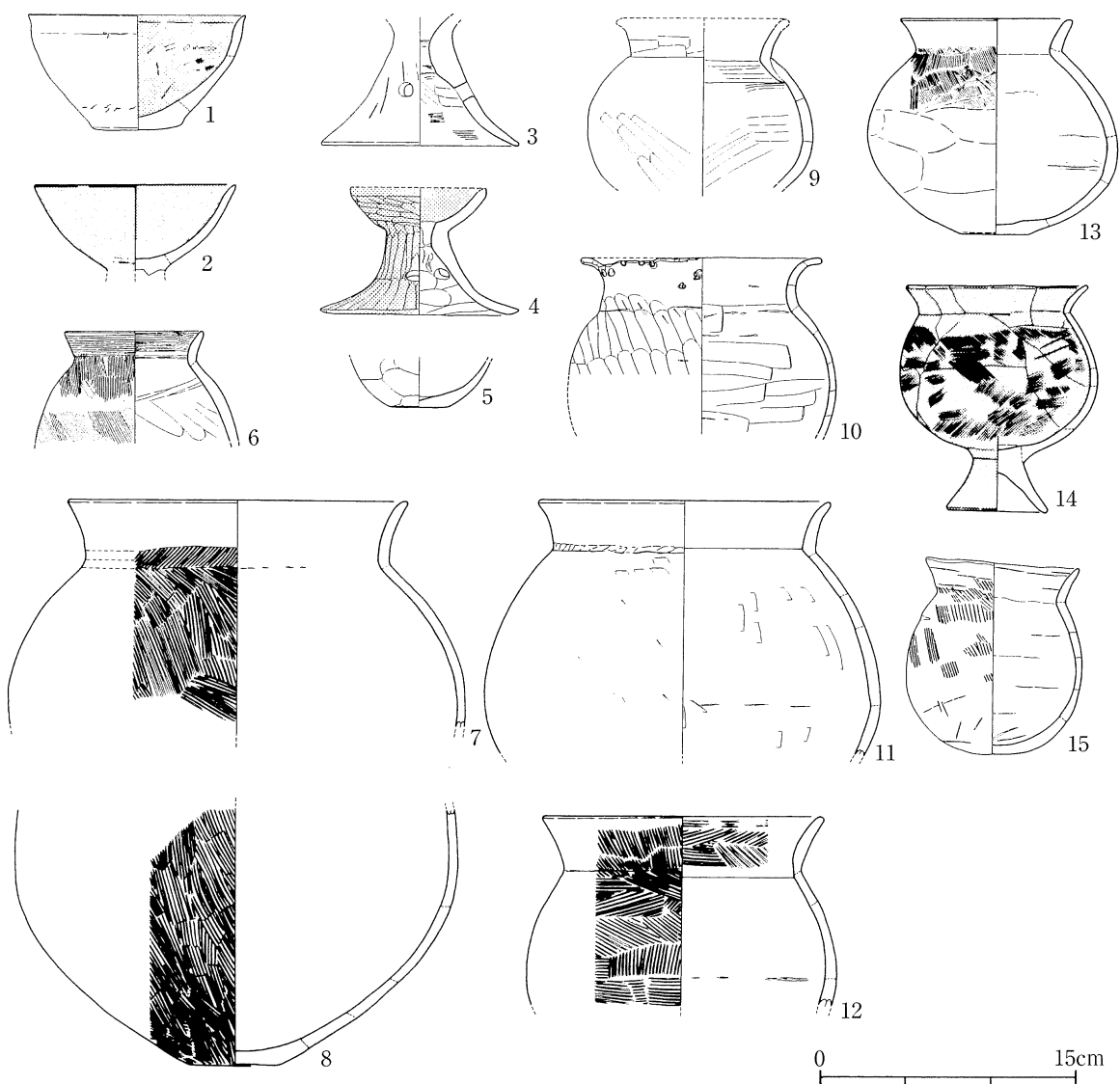


第67図 129～132・208号住居跡と130・208号住居跡出土土器

129



132



第68图 129·132号住居跡出土土器

6 は台付甕接合部である。本遺構に伴う土器は 3 高杯、5 罎の 2 点で、2・3 は重複する 127 号住居跡に伴う遺物である。

(143) 129 号住居跡 第 67 図 図版 21-3

主軸 5.75m、直交 5.15m、深さ 0.35m の縦長の隅円方形で、主軸方位は西に 29 度を測る。

B 地点 1 次北調査区東、グリッド K-23 に位置する。北東で 130 号住居跡を削平し、南で 125 号住居跡が削平する。北東は 130 号住居跡と重複し境界は不明。

奥の柱穴の間やや右寄りに 80×60cm の炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに 89・100・45・60cm、柱間は奥 308・右 316・前 304・左 300cm。奥 2 本が深い。前壁から 50cm に深さ 27cm の出入口ピット、その東に径 40cm、深さ 33cm の貯蔵穴がある。壁溝はない。

出土遺物（第 68 図）6 点の土器を図示した。1 は完形の罎で、胴内を除き内外面を赤彩している。2 は壺で頸部以上欠損、外面を赤彩している。左奥柱穴脇で出土している。3 は甕下部欠損。4 は壺の胴部破片。5・6 は底部。

(144) 130 号住居跡 第 67 図 図版 21-3

主軸 7.20m、直交 5.2m 以上、深さ 0.34m の小判形で、主軸方位は西に 41 度を測る。

B 地点 1 次北調査区北、グリッド K-23 に位置する。北西で 208 号住居跡を削平し、南西で 129 号住居跡、北で 132 号住居跡、北で 131 号住居跡に削平される。

主軸上奥壁から 140cm に 82×63cm の炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに 31・44・24・57cm、柱間は奥 350・右 444・前 408・左 374cm。前壁から 70cm に深さ 20cm の出入口ピット、その東に 58×63cm、深さ 15cm の貯蔵穴がある。壁は南西部と北西の一部、壁溝は南西で確認した。

出土遺物（第 67 図）1 は粘土紐を 5 段に残す甕で下部を欠損する。

(145) 131 号住居跡 第 67 図 図版 21-3

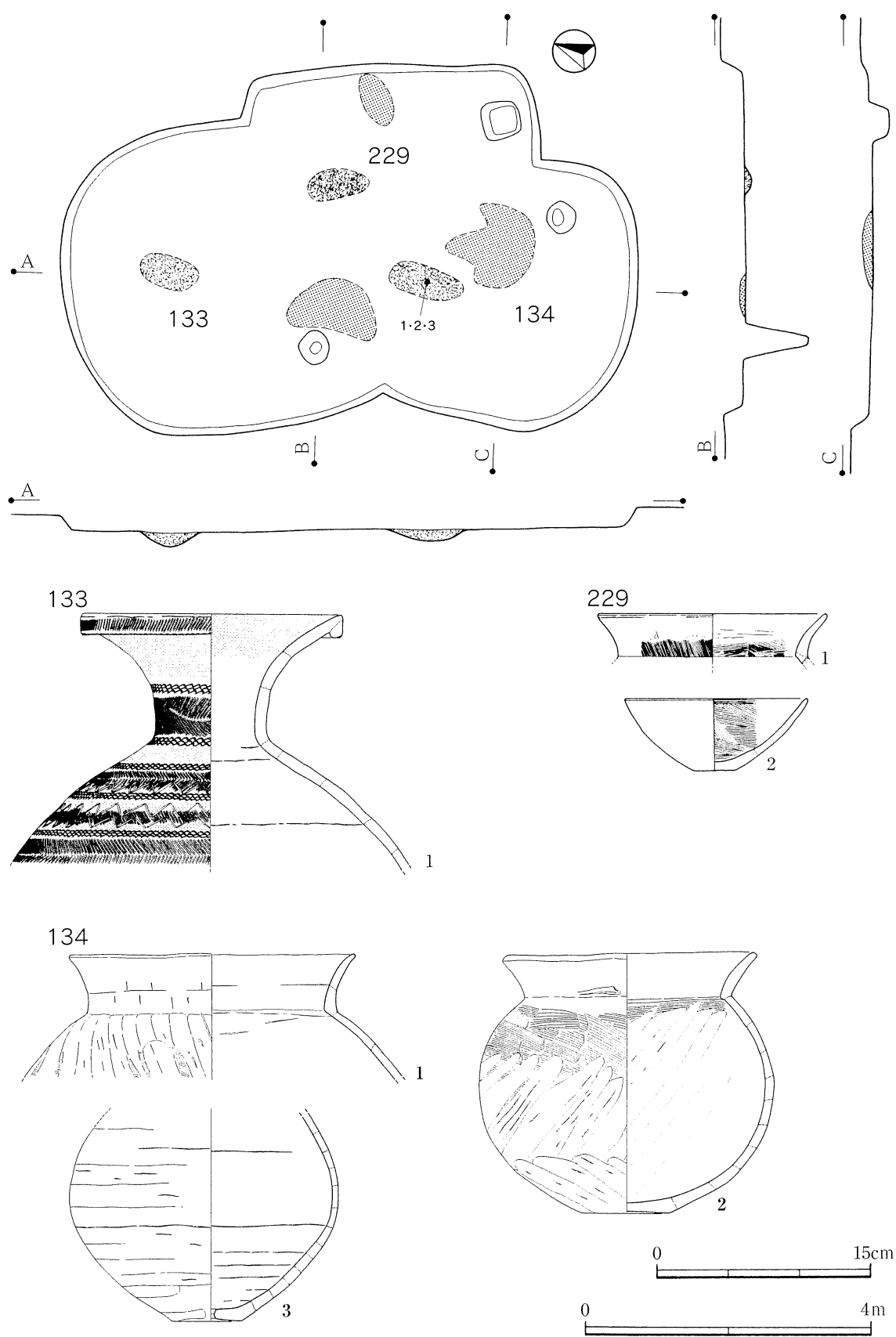
主軸 4.48m、直交 4.42m、深さ 0.37m の方形で、主軸方位は西に 35 度を測る。

B 地点 1 次北調査区北、グリッド K-23 に位置する。西で 208 号住居跡、南で 130 号住居跡、北で 132 号住居跡を削平する。重複が激しく、北コーナーに攪乱溝がある。1・2 次調査にまたがって検出した遺構で参照できる杭が無く図を正確に接合できなかった可能性がある。

カマド（第 135 図）は、北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱の内 3 本を検出した。右奥の柱穴は攪乱溝の位置にあつて失われたものと思われる。深さは左奥から右回りに 38・63・53cm、柱間は前 272・左 300cm。壁溝は攪乱部分を除き全周で確認された。南東壁左寄りにピットがあるが所属など詳細は不明である。

出土遺物（第 66 図）8 点の土器を図示した。1 は須恵蓋坏、つまみ欠損。2 は須恵高台付坏、底部中央欠損。3 は坏破片。4 は高杯杯部。5 は壺底部。6 は甕底部。7 は完形の小型壺。8 は折り返し口縁壺底部欠損。この内時期の下る 7・8 は重複する 132 号住居跡に所属する遺物である。

土器以外の遺物として第 142 図 12 の土製支脚が出土している。円錐形の頂部である。



第69図 133・134・229号住居跡と出土土器

(146) 132号住居跡 第67図 図版21-3

主軸5.2m以上、直交5.2m以上、深さ0.30mの隅円方形で、主軸方位は西に20度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドKL-23に位置する。南西で208号住居跡、北で136号住居跡を削平し、南を131号住居跡が削平する。重複が激しく壁は西側の一部を検出したただだった。南東側は2次調査区域で壁などは見つかっていない。

奥の柱穴の間やや南寄りに92×48cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに72・78・72・78cm、柱間は奥314・右322・前340・左328cm。貯蔵穴等は確認できなかった。壁溝は北西部で一部確認した。

出土遺物（第68図）15点の土器を図示した。1は完形の鉢で、内を赤彩している。2は器台器受部で内側の下を除き内外面を赤彩している。3は器台脚部。4は完形の器台完形で、脚内を除き内外面を赤彩している。5は埴の底部。6～13・15は大小の甕で、6・7・9～12は下部欠損、8は上部欠損、13・15が完形である。10は口縁下に多数に焼成前穿孔がある。14は完形の台付甕である。

(147) 208号住居跡 第67図 図版21-3

主軸3.5m以上、直交3.7m以上、深さ0.28mの小判形で、主軸方位は西に38度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドK-23に位置する。南東を130号住居跡、北東を132号住居跡、東を131号住居跡が削平、貼床をする。

奥壁から50cmに76×64cmの炉がある。炉から東を132号住居跡に削平される。他の住居跡に貼床されたためか、左奥の柱穴のみの検出だった。深さは左奥43cm、貯蔵穴などは確認できなかった。壁溝はない。

出土遺物（第67図）2点の土器を図示した。1は壺口縁部。2は器台の器受部で、内外面を赤彩している。これらの遺物は重複する132号住居跡に所属する可能性がある。

(148) 133号住居跡 第69図 図版21-4・5

主軸4.3m以上、直交4.50m、深さ0.25mの楕円形で、主軸方位は西に22度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドIJ-22に位置する。北を134号住居跡、東を229号住居跡が削平する。

奥壁から100cmに82×46cmの炉がある。南の左前の柱穴の位置に深さ85cmのピットがあるが他の柱穴は検出されていない。

出土遺物（第69図）1は二重口縁の壺で下部を欠損している。折り返し口縁に縄文と刻み、頸部と胴上部に結節、縄文、沈線による鋸歯文等を施し、口縁内側と外の施文部以外面を赤彩している。

土器以外の遺物として第150図12の砥石が出土している。両端が欠けている。断面七角形で各面ともよく研磨されている。

(149) 134号住居跡 第69図 図版21-4～6

主軸3.6m以上、直交3.80m、深さ0.30mの楕円形で、主軸方位は西に11度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドJ-22に位置する。南で133号住居跡と重複し、北西で229号住

居跡が削平する。133号住居跡との前後関係は不明。

前壁から230cmに105×46cmの炉がある。南東部右前の柱穴の位置に深さ62cmのピットがあるが他の柱穴は検出されていない。

出土遺物（第69図）3点の土器を図示した。1は甕で胴部以下欠損。2完形の甕。3は底部穿孔土器。

1～3の3点は1を下に2・3の順で重なった状態で炉の上で出土した。支脚・甑・煮炊き具の組み合わせで使用方法を知る良好な例である。（図版21－6）写真は遺構を掘り上げる前に撮影されており、遺構内の位置を特定できない。注記が本遺構で炉中央の出土のため遺構実測図の134号住居跡の炉にポイントを置いているが、後世の229号住居跡の遺構範囲内であり出土写真から229号住居跡の遺物である。

（150） 229号住居跡 第69図 図版21－4・5

主軸4.22m、直交4m以上、深さ0.30mの隅円方形で、主軸方位は西に20度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドJ-22に位置する。南西で133号住居跡、北西で134号住居跡を削平する。実測図にある焼土の範囲を囲むほぼ正方形の住居跡と思われる。

北東寄りに86×44cmの炉がある。柱穴はない。東コーナーに56×52cm、深さ21cmの隅円方形の貯蔵穴がある。

出土土器（第69図）2点の土器を図示した。1は甕の口縁部。2は完形の碗。134号住居跡の項で触れたように重複関係と出土状況から134号住居跡の土器3点は、本遺構の炉上から出土したものである。

（151） 135号住居跡 第70図 図版21－7・8

主軸5.78m、直交4.5m以上、深さ0.39mの小判形で、主軸方位は西に32度を測る。

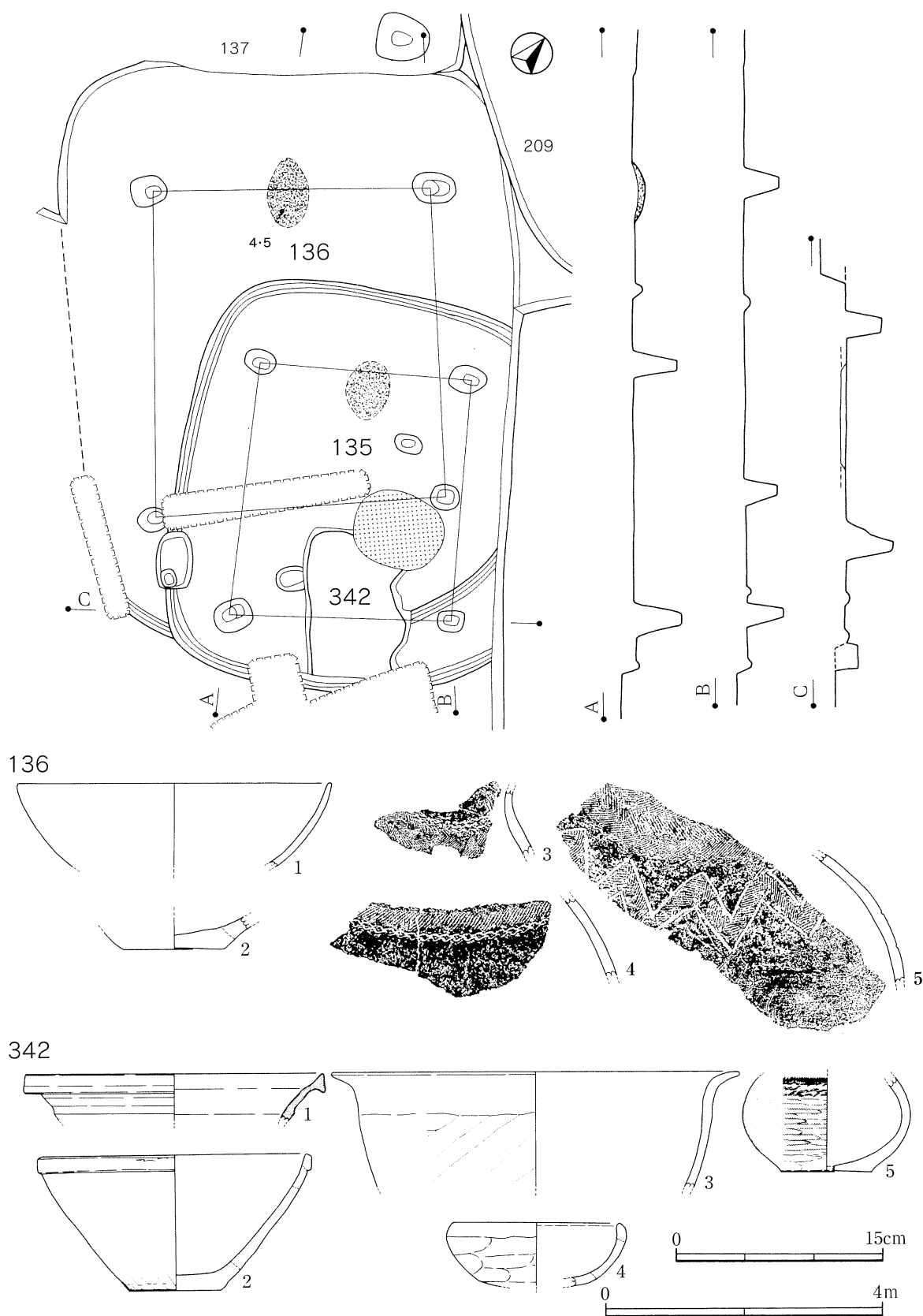
B地点1次北調査区北、グリッドL-23<24に位置する。北西で136号住居跡を削平し、南東上を342号住居跡が貼床する。遺構南半の覆土中に342号住居跡が構築されており、南側を一部未調査のまま終わってしまった。このため出入口ピット・貯蔵穴の存在は不明である。1・2次調査にわたって発掘された住居跡で全体の写真はない。遺構図も基準杭があって合成したものではないため遺構の規模はやや不正確である。

奥の柱穴間中央に87×60cmの炉がある。焼土の南側に土器片が埋め込まれていた。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに65・76・55・71cm、柱間は奥302・右346・前322・左378cm。壁溝は各所を攪乱されているが全周すると考えられる。

（152） 136号住居跡 第70図 図版21－7・8

主軸8.35m、直交6.66m、深さ0.36mの縦長の小判形で、主軸方位は西に42度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドKL-23>24に位置する。西で137号住居跡、南東で132号住居跡、南東135号住居跡が削平し、遺構南半の覆土中に342号住居跡が構築されている。342号住居跡貼床を最後まで残したために貯蔵穴の存在は不明。一部未調査のまま終わってしまった。1・2次調査にわ



第70図 135・136・342号住居跡と136・342号住居跡出土土器

たつて発掘され全体の写真はない。遺構図も基準杭があつて合成したものではない。

奥の柱穴間中央に100×56cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに62・47・35・47cm、柱間は奥403・右432・前422・左458cm。前壁から80cmに深さ24cmの出入口ピット。壁溝は南東のみ検出した。

出土遺物（第70図）5点の土器を図示した。1は坏破片。2は甕底部。3～5は結節で区画した中に縄文を施したものと、鋸歯文のなかに縄文を施した壺胴部破片で4・5は炉中に埋め込まれていた。

土器以外の遺物として第147図20の丸玉、第155図6・7の軽石が出土している。丸玉は石製で完形である。6は頂部を中心に擦痕が目立つ。7は2片接合し、数カ所に円筒状の孔、刻みがある。

(153) 342号住居跡 第70図 図版21-8

カマドと貼床のみ検出を検出した。

B地点1次北調査区北、グリッドL-23に位置する。西136・136号住居跡の上に貼床する。135・136号住居跡の覆土中に2mほどの範囲で床面を確認し、北西にカマドがあつたことから住居跡とした。詳細は不明である。

カマド（第141図）は、北西壁に造られる。135・136号住居跡覆土中で煙道部などは不明瞭である。

出土遺物（第70図）5点の土器を図示した。1は須恵広口壺口縁部。2は折り返し口縁鉢。3は甑上部。4は丸底坏。5は壺で頸部以上が欠損し、胴上部を結節で区画し上に縄文を施す。下は横のヘラミガキで赤彩されている。2・5は135号住居跡に所属する遺物である。

(154) 137号住居跡 第71図 図版21-7

主軸5.64m、直交5.14m、深さ0.36mの隅円方形で、主軸方位は西に31度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドK-24に位置する。北西で222号住居跡を削平、153号住居跡を貼床し、東を136号住居跡、北東を209号住居跡が削平する。遺構内にある柱穴は222号住居跡のもので本遺構に確実に伴うのは炉と南東コーナーにある貯蔵穴だけである。

北西部に左が153号住居跡上に続く80×30cmの炉がある。153号住居跡部分は実測前に掘り上げて残っていない。南東コーナーに68×76cm、深さ44cmの隅円方形の貯蔵穴がある。北コーナー近くに66×54cm、深さ18cmのピットがあるがこちらの用途は分からない。壁溝はない。

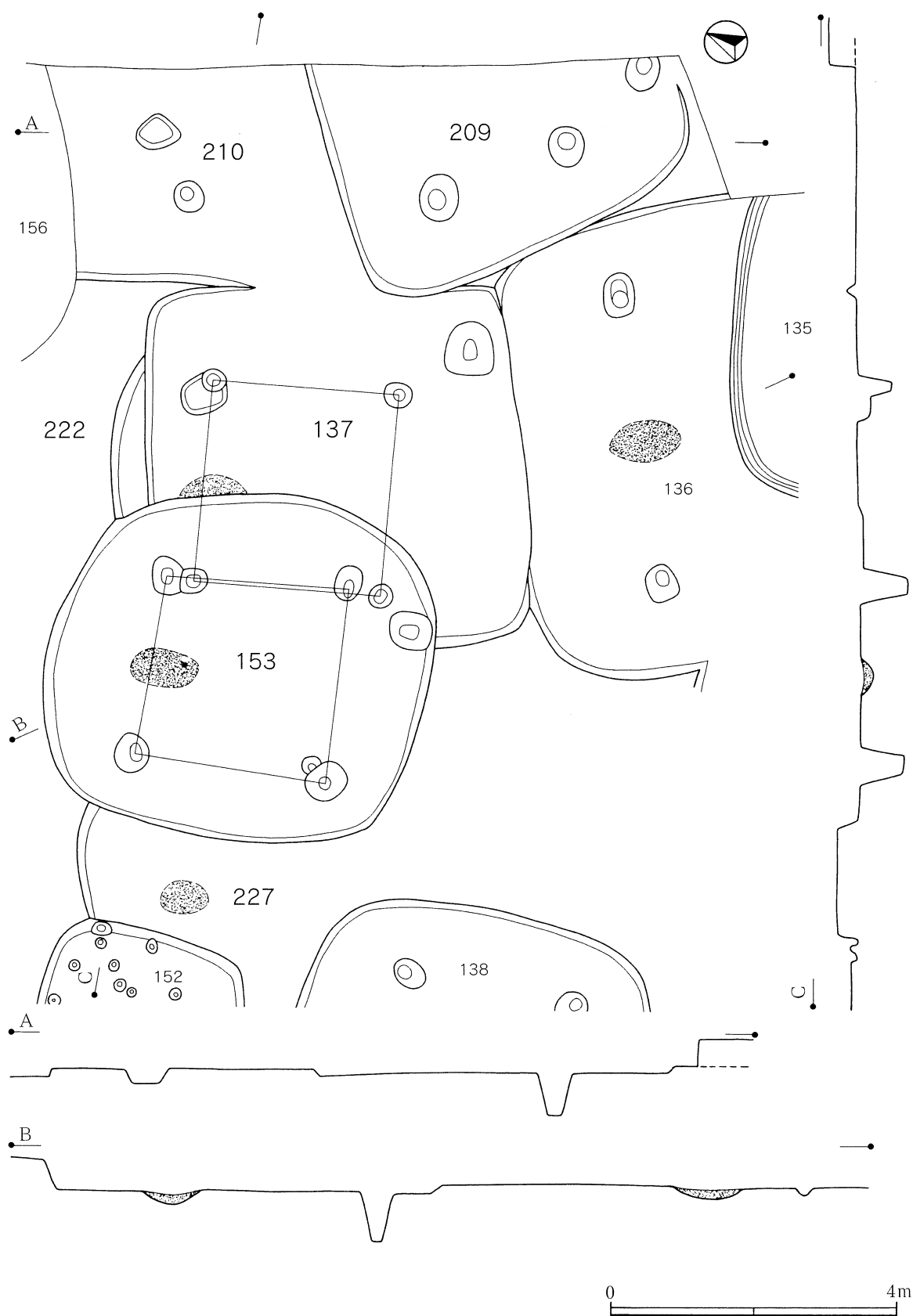
出土遺物（第72図）5点の土器を図示した。1は完形の鼓形の土製支脚。2は完形の器台で、脚内を除き赤彩している。3は台付甕の台。4は甕で胴部を欠損する。5は甕底部である。

(155) 153号住居跡 第71図 図版24-4

主軸5.56m、直交4.90m、深さ0.47mの縦長の小判形で、主軸方位は西に25度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドK-24に位置する。南西で227号住居跡、北東で222号住居跡を削平し、北東を137号住居跡が貼床する。遺構内のピットは4本の柱穴と貯蔵穴を除き他の遺構の柱穴である。

奥壁から100cmに95×55cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに59・63・68・77cm、柱間は奥250・右255・前274・左270cm。前壁右に61×52cm、深さ42cmの隅円



第71図 137・153・209・210・222・227号住居跡

方形の貯蔵穴がある。壁溝はない。

(156) 209号住居跡 第71図 図版21-7

主軸3.8m以上、直交4.95m、深さ0.39mの隅円方形で、主軸方位は東に35度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドKL-24に位置する。南で136号住居跡、西で210号住居跡を削平する。コーナーに丸みが強く形も不整である。

カマドは調査区域外にある。柱穴は前の2本が検出された。他は調査範囲外にある。深さ右前61cm、左前60cm、柱間198cm。南東壁沿いに深さ69cmのピットがある。出入口ピットの可能性がある。壁溝はない。

出土遺物（第72図）6点の土器を図示した。1～4は甕で下半を欠損する。5は高杯脚部と思われるが、臍穴状の孔が中央縦と脚部横にある。6は高杯脚部で、外面を赤彩している。

(157) 210号住居跡 第71図 図版21-7

南北4m、東西3mの範囲で床面を検出した。深さ0.31m。

B地点1次北調査区北、グリッドK-24<25に位置する。南で137号住居跡、西で156号住居跡と重複、東を209号住居跡が削平する。周囲を他の住居跡に削平され、出土遺物も細片のみで時期・形態などは不明である。

(158) 222号住居跡 第71図 図版21-7

主軸4.2m以上、直交4.2m以上、深さ0.28mの小判形で、主軸方位は西に26度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドK-24に位置する。南を137・153号住居跡が削平する。調査終了間際の清掃で確認した。137・153号住居跡の柱穴と思われていた4本が本遺構のものであることが分かった。

炉は137号住居跡に削平されている。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに75・64・63・68cm、柱間は奥284・右264・前284・左264cm。他の施設は確認できなかった。

(159) 227号住居跡 第71図 図版24-5

主軸4.27m、直交3m以上、深さ0.17mの小判形で、主軸方位は西に43度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJK-24に位置する。南を138号住居跡、北東を153号住居跡が削平する。調査終了間際の清掃で検出した。南側は浅く確認できなかった。

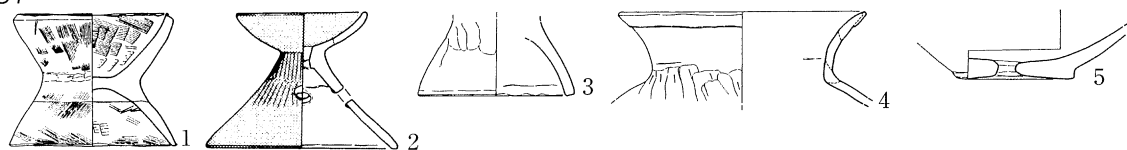
奥壁から90cmに64×46cmの炉がある。153号住居跡左前柱穴そばにあるピットが右前柱穴にあたり深さ47cm。他は138・153号住居跡に削平されたと思われる。壁溝その他の施設はない。

(160) 138号住居跡 第72図 図版22-1

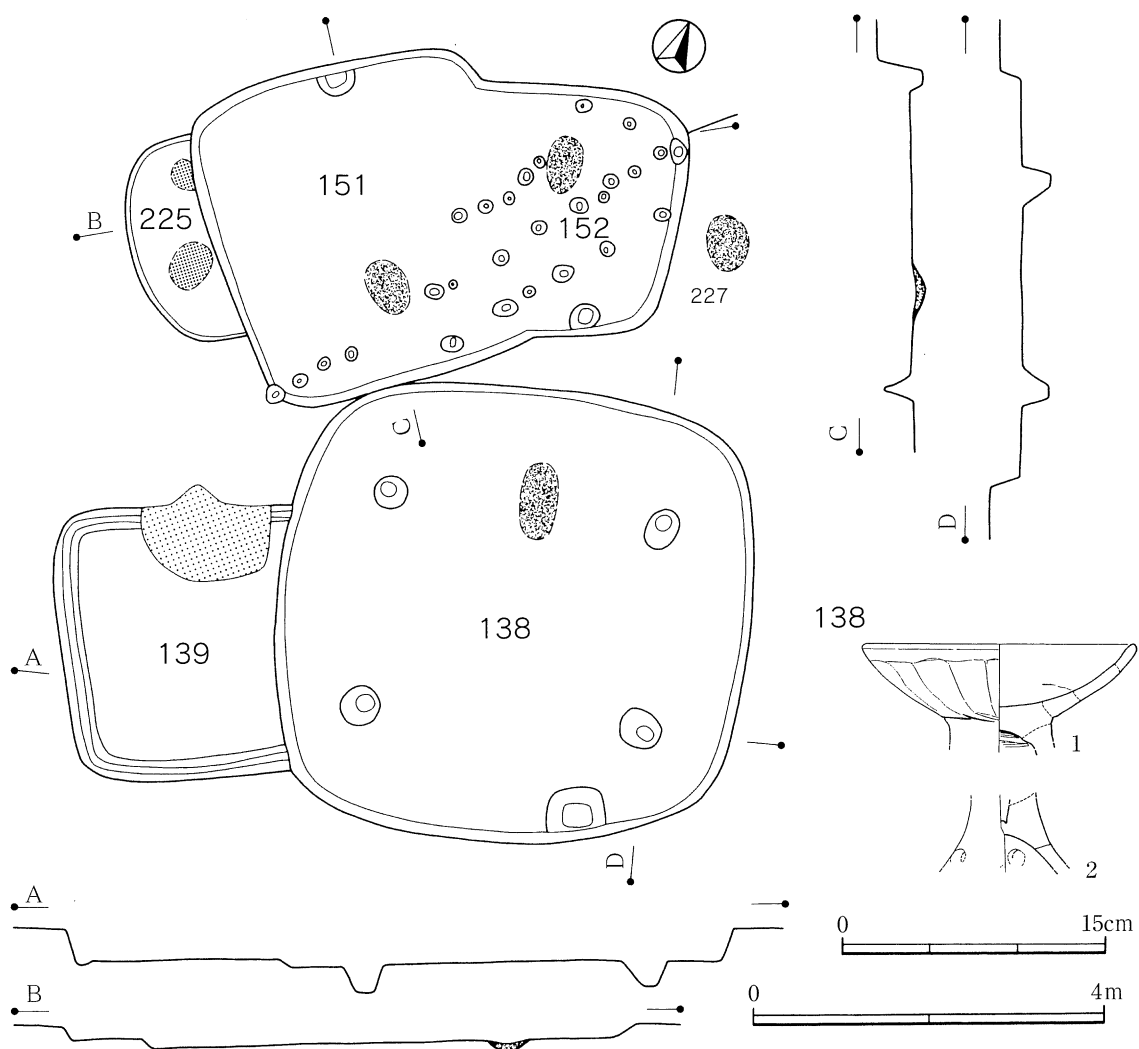
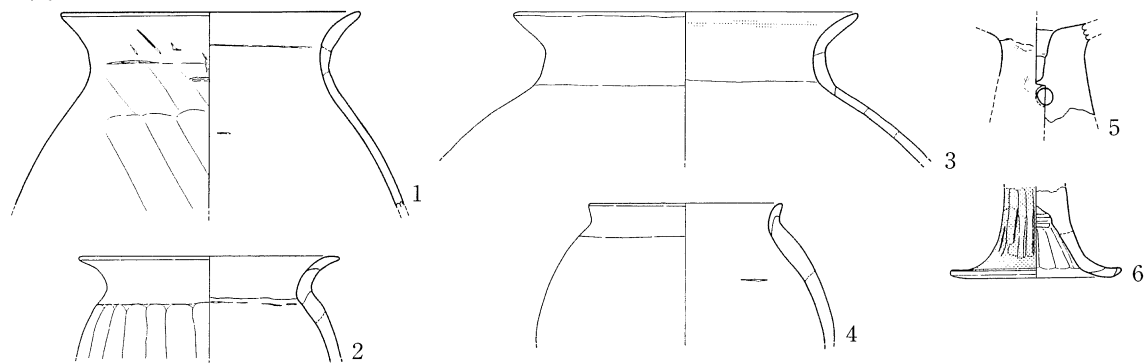
主軸5.24m、直交5.42m、深さ0.39mの小判形で、主軸方位は西に22度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJK-23<24に位置する。北で227号住居跡を削平し、南西を139号住居跡が貼床する。

137



209



第72図 138・139・151・152・225号住居跡と137・138・209号住居跡出土土器

奥の柱穴間わずかに右寄りに90×42cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに34・30・33・35cm、柱間は奥315・右295・前325・左250cm。前壁下右に48×68cm、深さ14cmの貯蔵穴がある。壁溝等はない。

出土遺物（第72図）2点の土器を図示した。1は高杯杯部。2は器台脚部。1の高杯はその時期から重複する139号住居跡に所属する遺物である。

土器以外の遺物として第153図40の石器が出土した。全体に研磨されているが、砥石というより作業用の台石であろう。

(161) 139号住居跡 第72図 図版22-1

主軸3.20m、直交2.9m以上、深さ0.36mの隅円方形で、主軸方位は西に33度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-23に位置する。北東で138号住居跡を貼床する。東側138号住居跡上の貼床は確認していない。

カマド（第135図）は、北西壁に造られる。壁溝は全周する。柱穴等はない。

(162) 151号住居跡 第72図 図版24-3

主軸3.80m、直交3.50m、深さ0.29mの縦長の隅円方形で、主軸方位は東に139度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドIJ-23に位置する。北で152号住居跡、南で225号住居跡を削平する。南側にある小ピットは後世のもの。遺構の方向がB地点の弥生期の通常の住居跡とは反対を向いている。本遺跡ではきわめて少ない例である。

主軸上奥から40cmに66×44cmの楕円形の炉がある。北西壁中央に25×40cm、深さ15cmの半円形の貯蔵穴がある。壁溝等はない。遺構内の小ピットは大部分が後世の木の根等の攪乱で、本遺構に伴うものではない。

(163) 152号住居跡 第72図 図版24-3

主軸3.03m、直交2.3m以上・深さ0.25mの隅円方形で、主軸方位は西に25度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-23に位置する。北を151号住居跡は削平する。遺構内に小ピットが多数ある。ほとんど後世の木の根痕である。

奥壁から50cmに77×42cmの炉がある。南に28×34cm、深さ10cmの貯蔵穴がある。壁溝等はない。

(164) 225号住居跡 第72図 図版24-3

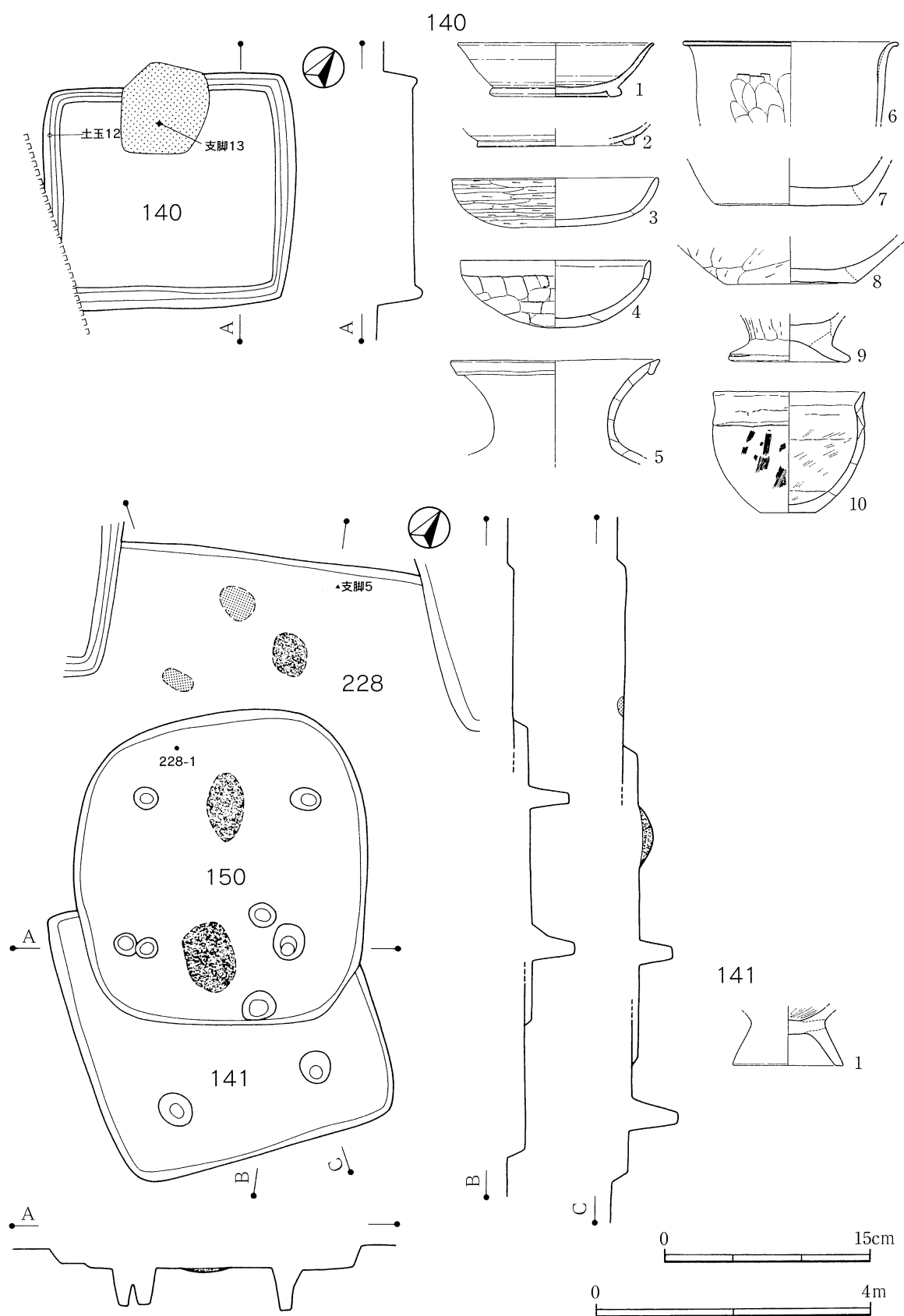
主軸2.42m、直交1.08m以上、深さ0.20mの楕円形で主軸方位は西に43度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-24に位置する。北東で227号住居跡を削平し、南を半分以上151号住居跡に削平される。内部に焼土が2カ所あるが炉ではなく詳細は不明である。

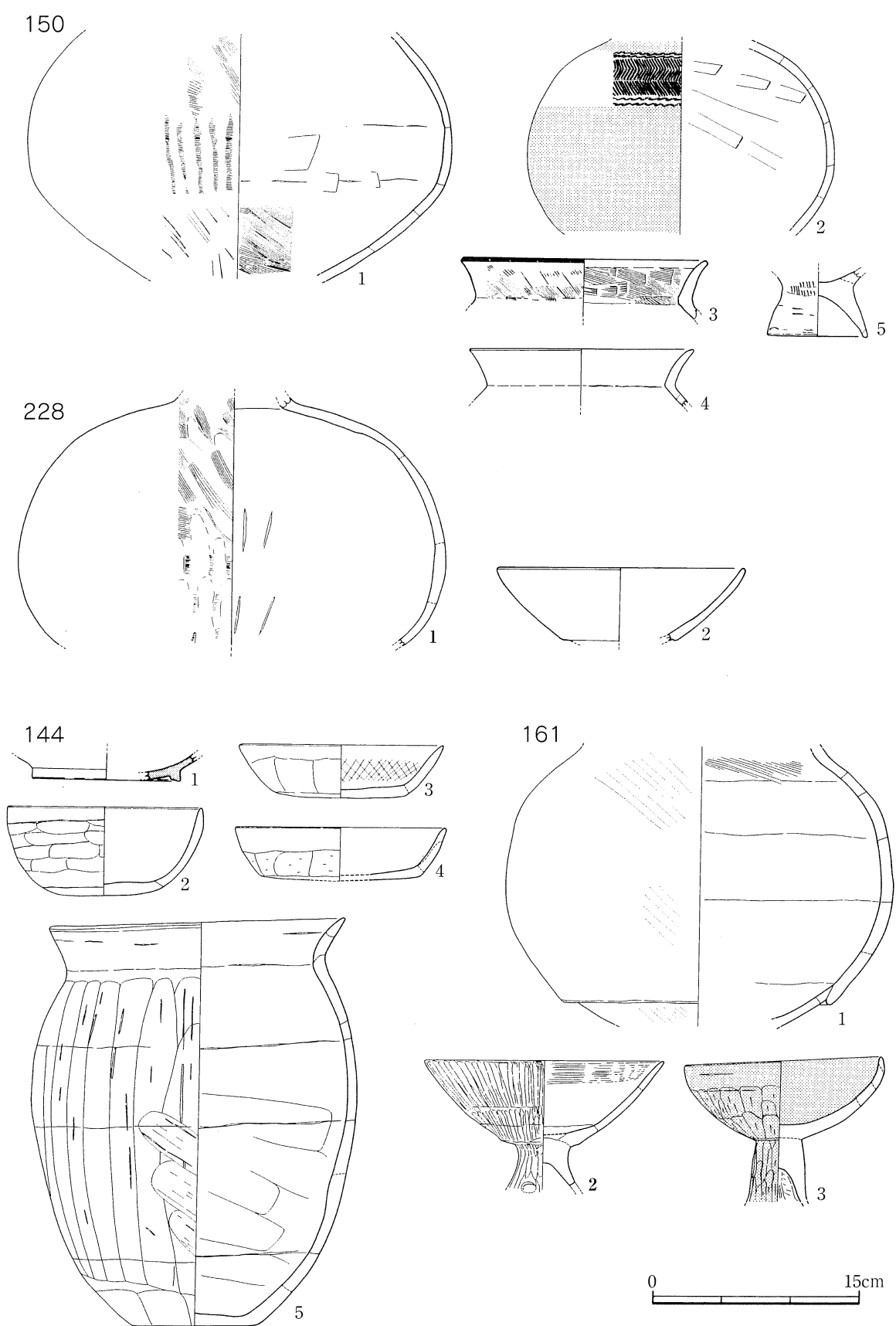
(165) 140号住居跡 第73図 図版22-2～4

主軸3.45m、直交3.70m、深さ0.46mの方形で、主軸方位は西に26度を測る。

B地点1次北調査区北、J-22<23に位置する。南西を大きく攪乱されている。遺構写真によると



第73図 140・141・150・228号住居跡と140・141号住居跡出土土器



第74图 144·150·161·228号住居跡出土土器

周囲が一段低く楕円形に下がっている。遺物の上からも本遺構より古い遺構があった可能性がある。

カマド（第136図）は、北西壁中央に造られる。壁溝は全周する。柱穴等の施設はない。

出土遺物（第73図）10点の土器を図示した。1は完形の須恵高台付坏。2は須恵高台付坏の底部破片。3は完形の平底坏。4は完形の丸底坏。5は二重口縁壺の頸部以上。6は甗で下部欠損。7・8は甗底部。9は台付甗の台。10は完形の小形甗である。5・10は本遺構に伴わい。

土器以外の遺物として第143図13の土製支脚、第144図12の土玉が出土している。土製支脚はカマド天井の粘土内から基部が検出された。頂部も出土しているが中間は欠損している。土玉は北西壁溝中の出土で完形である。

(166) 141号住居跡 第73図 図版22-5

主軸4.18m、直交4.25m、深さ0.25mの隅円方形で、主軸方位は西に49度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドJ-23に位置する。北西で150号住居跡を貼床する。150号住居跡上の貼床は炉を除き実測前に取り除かれている。写真に右間の壁寄りにピットが写っている。炉の位置からは直角にずれるが出入口ピットの位置にあたる。

奥の柱穴間手前に120×70cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに64・59・68・71cm、柱間は奥204・右246・前208・左258cm。貯蔵穴、壁溝はない。

出土遺物（第73図）台付甗の台が出土している。

土器以外の遺物として第153図38の砥石が出土している。多孔質の火山岩製で溝状の条痕が残ることから砥石としたが所属する時期、用途とも不明である。

(167) 150号住居跡 第73図 図版22-5

主軸4.63m、直交4.26m、深さ0.42mの縦長の小判形で、主軸方位は西に30度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドIJ-23に位置する。東を141号住居跡、北西を228号住居跡が貼床する。最後まで141号住居跡の炉を残しており、下層を確認できず出入口ピットがあるかは不明である。

炉奥の柱穴の間中央に102×50cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに53・54・63・51cm、柱間は奥224・右222・前204・左222cm。南東壁右寄りに44×48cm、深さ13cmの楕円形の貯蔵穴がある。壁溝はない。

出土遺物（第74図）5点の土器を図示した。1は甗胴部。2は壺の胴部で、胴上部に結節文に囲まれた羽状縄文が施され上下は赤彩される。3・4は甗口縁部。5は台付甗台。2は重複する141号住居跡の遺物である。

(168) 228号住居跡 第73図 図版22-5

主軸4.3m以上、直交3m以上、深さ0.03mの隅円方形と推定される。主軸方位は西に55度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドIJ-23>24に位置する。南東で150号住居跡を貼床し、北東で165号住居跡、南西で149号住居跡が削平する。調査終了間際の遺構周辺の清掃で検出した。浅く南東側は確認できなかった。奥壁から95cmに66×52cmの炉がある。柱穴、壁溝等はない。炉の西寄りに

52×46、48×26cmの焼土が2カ所ある。

出土遺物（第74図）2点の土器を図示した。1は壺の胴部。2は高杯杯部である。

土器以外の遺物として第142図5の土製支脚が出土している。北東の壁際からの出土で完形である。

(169) 143号住居跡 第75図 図版22-6

主軸3.9m以上、直交5.56m、深さ0.22mの隅円方形で、主軸方位は西に16度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-21に位置する。北西で147・201号住居跡、南を142号住居跡、北東を144号住居跡が削平する。図示していないが北側2本の柱穴間の144号住居跡壁際に焼土の痕跡が残り炉と推測される。

炉は50×35cmで、柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りで50・78・57・62cm、柱間は奥225・右264・前227・左242cm。第60図142号住居跡右奥柱穴脇の52×46cm、深さ24cmのピットが本遺構の貯蔵穴となる。壁溝その他の施設はない。

特に図示すべき遺物はなかった。

(170) 144A号住居跡 第75図 図版22-6

主軸4.60m、直交4.50m、深さ0.42mの方形で、主軸方位は西に32度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドIJ-21に位置する。北西で147・201号住居跡、南で142号住居跡、南西で143号住居跡、南東で144B号住居跡を削平する。南西コーナーは142号住居跡上で貼床は不明。カマドが大きく外に出ることが特徴的である。南東に住居跡のコーナーがある。当初143号住居跡の南東コーナーと考えられ遺構番号を付されていないが、別の住居跡と考えられる。

カマド（第136図）は、北西壁右寄りに造られる。柱穴はない。壁溝は全周する。

出土遺物（第74図）5点の土器を図示した。1は須恵高台付坏の底部破片。2は完形の碗。3は暗文のある完形の平底坏。4は平底坏で底部中央を欠損する。5は完形の甕である。

(171) 144B号住居跡 第75図 図版22-6

主軸1.1m以上、直交1.5m以上、深さ0.28mの隅円方形で、南東コーナーのみを検出した。

B地点1次北調査区中央、グリッドIJ-21に位置する。北西で144A号住居跡が削平し、西を142号住居跡が削平する。当初143号住居跡の南東コーナーと考えられ遺構番号を付されていないが、別の住居跡で、144B号住居跡とする。

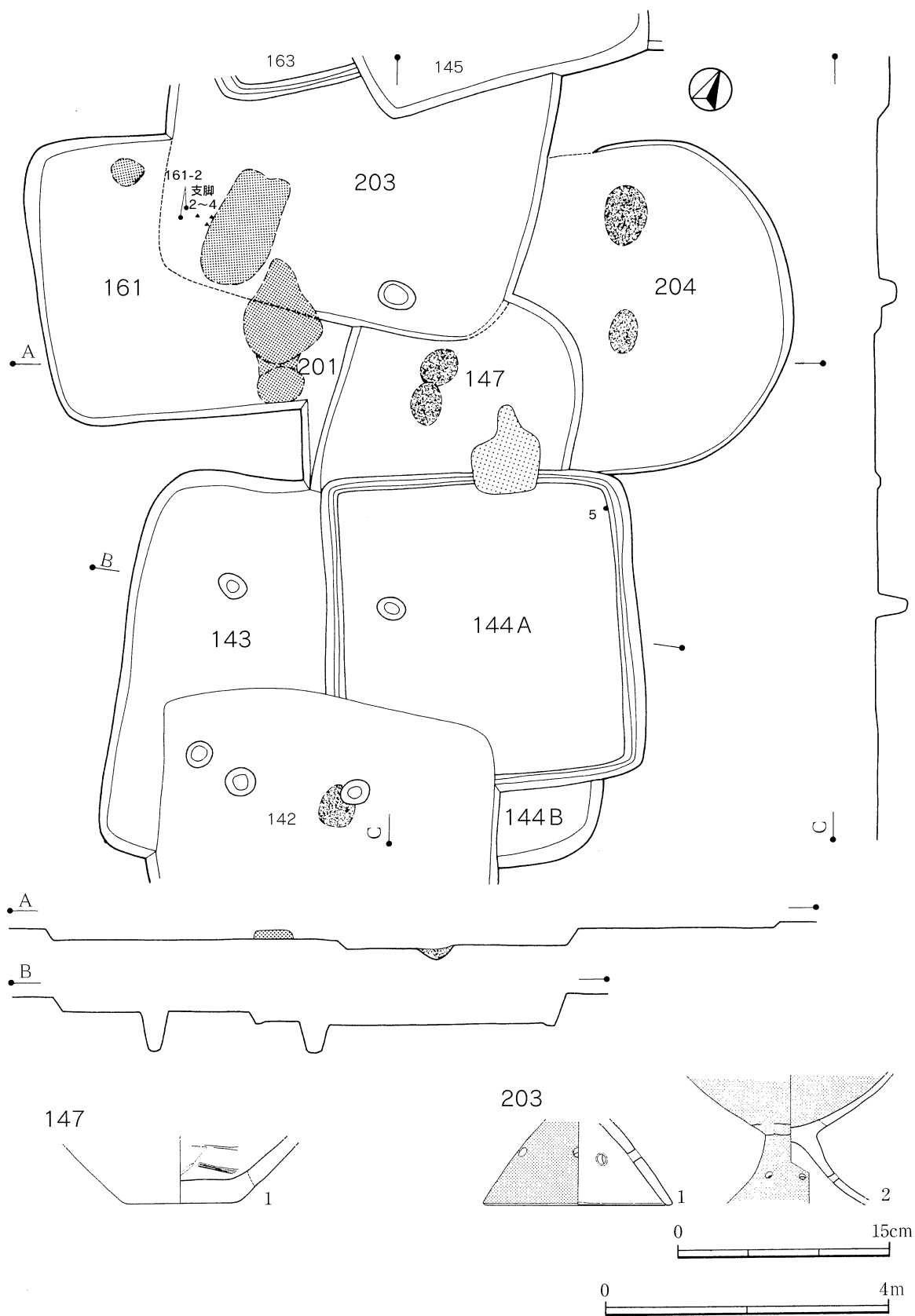
(172) 147号住居跡 第75図 図版23-4

主軸3.5m以上、直交3.50m、深さ0.31mの小判形で、主軸方位は西に8度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-21に位置する。南西で201号住居跡、西で161号住居跡、北東で204号住居跡が削平し、北西を203号住居跡、南東144号住居跡が削平する。

遺構の主軸よりやや西に寄って2基の炉が縦に並ぶ。奥は60×48cm、前が60×42cmの楕円形。柱穴等はない。

出土遺物（第75図）壺の底部が出土している。



第75図 143・144・147・161・201・203・204号住居跡と147・203号住居跡出土土器

(173) 161号住居跡 第75図 図版25-4・5

主軸4.1m以上、直交4.10m、深さ0.25mの隅円方形で、主軸方位は東に58度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-21に位置する。北東で201号住居跡を削平し、北で203号住居跡に貼床する。遺構内から連続して203号住居跡上に焼土が続くことから本遺構の方が新しい。焼土の多さと土製支脚・土器等が炉に残ることから焼失家屋である。

北側の焼土の西に接して土製支脚が3点出土しており77×57cmの範囲が炉と考えられる。

出土遺物（第74図）3点の土器を図示した。1は甕の胴部で、胴下部に粘土帯を接合するときに残した段がある。2は高杯で脚端を欠損している。外を細かい縦ヘラケズリし脚に焼成前穿孔がある。3は高杯脚端欠損。3の高杯は145・163号住居跡からの混入と考えられる。

土器以外の遺物として第142図1～3の3点の土製支脚が出土している。2の高杯の脇に3点がほぼ使用状態のままでまとまって出土していた。

(174) 201号住居跡 第75図 図版25-4

規模不明、深さ0.45m。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-21に位置する。南東を143号住居跡、西を161号住居跡、北西を203号住居跡、北東を147号住居跡に囲まれ壁と床の一部が検出されている。詳細は不明である。

出土遺物（第76図）8点の土器を図示した。1は広口壺口縁で、口唇部に縄文を押し内側はヨコハケを施す。2は壺の底部。3は甕の上部。4・5は小型壺の底部。6～8は波状口縁の甕の口縁部拓本である。

(175) 203号住居跡 第75図 図版25-4

主軸5m以上、直交5.50m、深さ0.39mの隅円方形で、西に18度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-21に位置する。東を147号住居跡に削平され、南を161号住居跡が貼床する。145・163号住居跡に炉を含め北側を削平されている。南西は161号住居跡の焼土が広がっている。南東壁右寄りに35×50cm、深さ18cmの貯蔵穴がある他は遺構内の施設はない。

出土遺物（第75図）2点の土器を図示した。1は器台の脚部、外面を赤彩している。2は器台で口縁、脚端の上下を欠損し、脚内を除き内外面を赤彩している。

(176) 204号住居跡 第75図 図版25-4

主軸4.74m、直交3.9m以上、深さ0.06mの楕円形で、主軸方位は西に27度を測る。

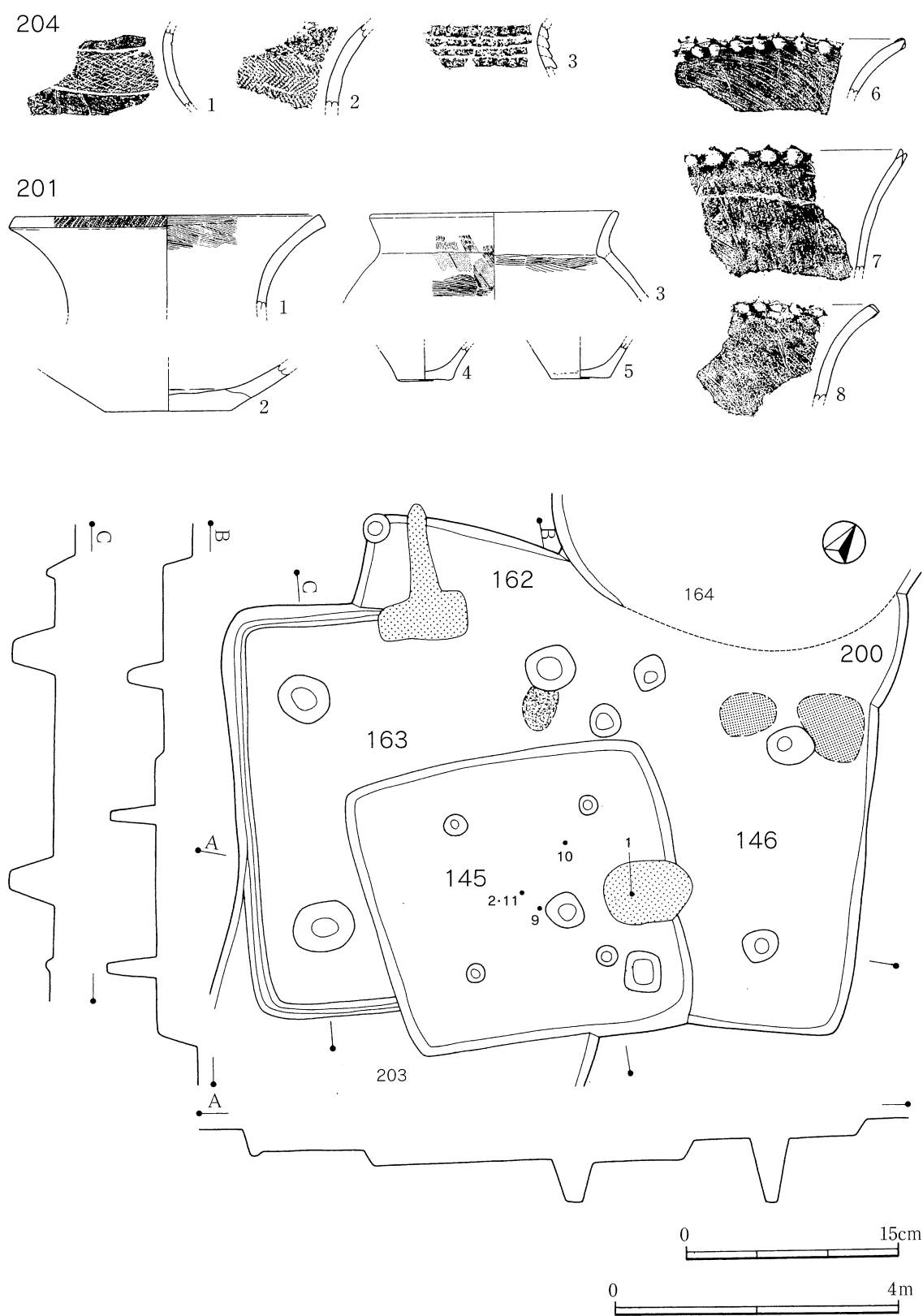
B地点1次北調査区中央、グリッドIJ-21に位置する。南を147号住居跡、南西を203号住居跡が削平する。北西側では浅くなり壁が無くなる。

主軸上に奥壁から50cmに85×58cm、230cmに62×38cmの2基の炉がある。柱穴等の施設はない。

出土遺物（第76図）3点の土器の拓本を図示した。1・2は壺頸部付近、3は甕頸部破片である。

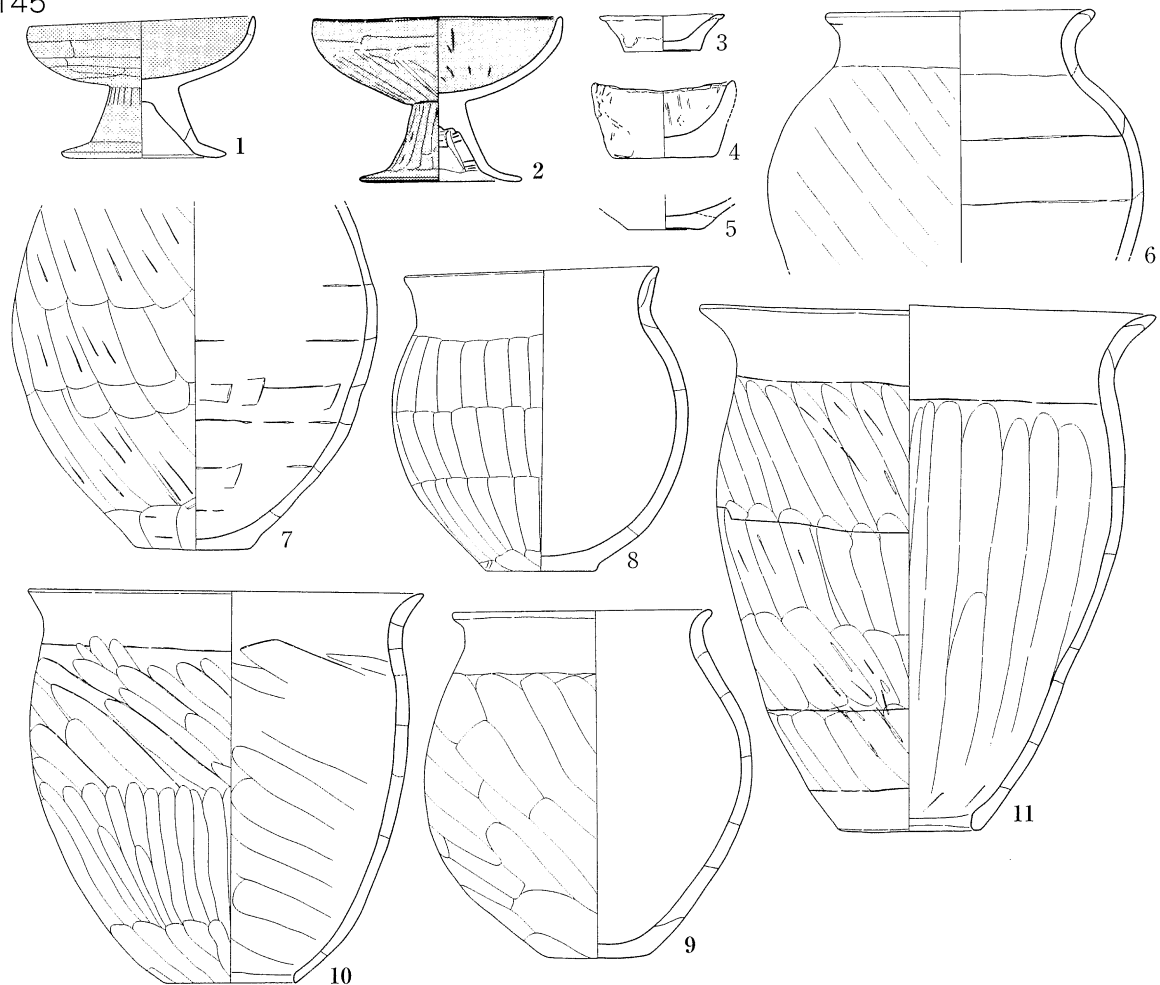
(177) 145号住居跡 第76図 図版22-7・23-1～3

主軸4.50m、直交4.23m、深さ0.55mのやや横長の方形で、主軸方位は東に48度を測る。

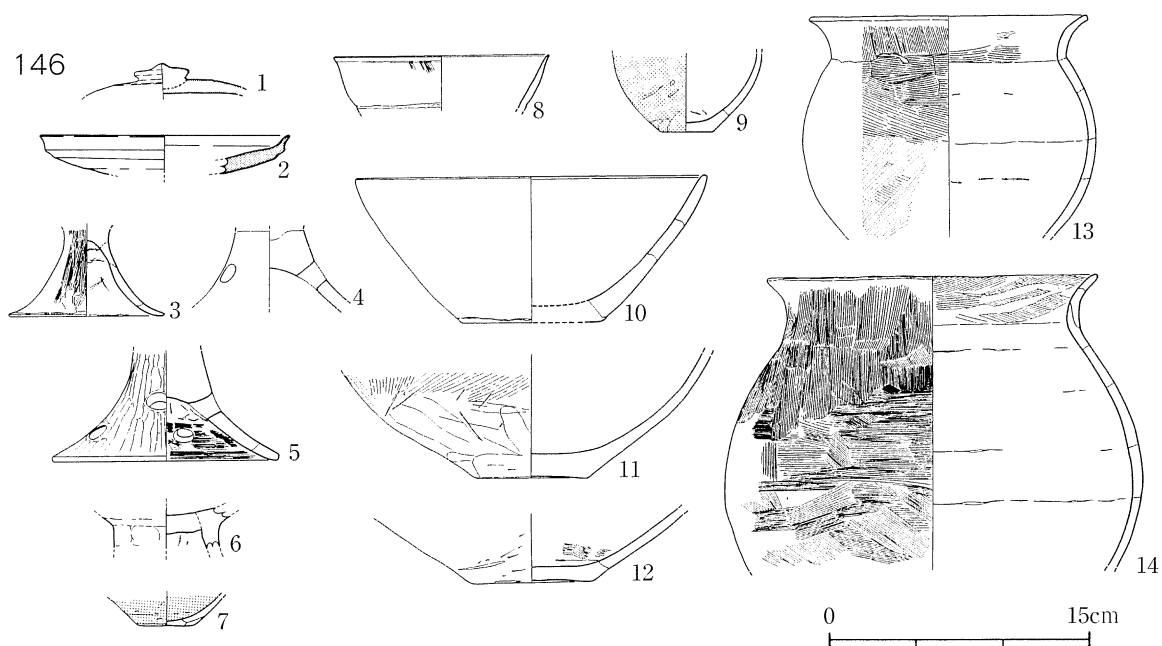


第76図 145・146・162・163・200号住居跡と201・204号住居跡出土土器

145

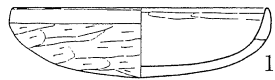


146

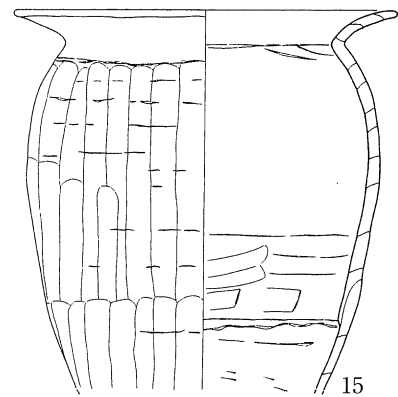
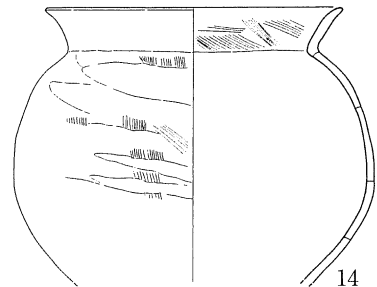
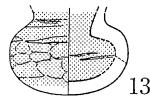
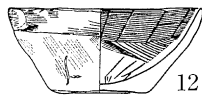
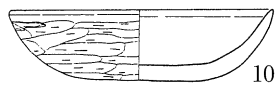
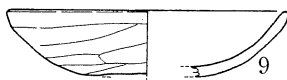
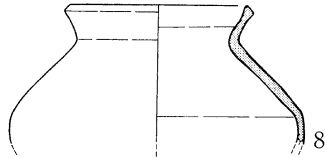
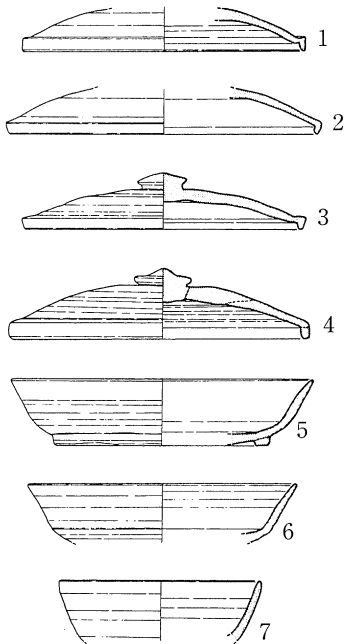


第77图 145・146号住居跡出土土器

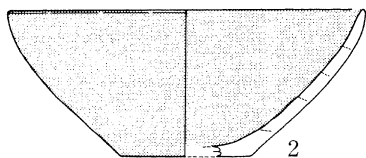
162



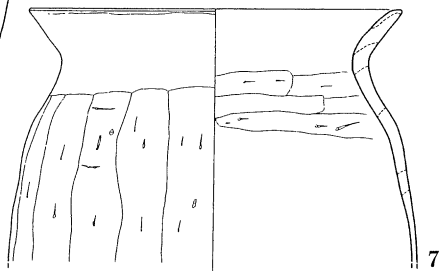
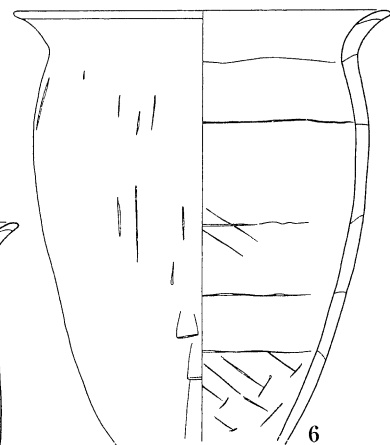
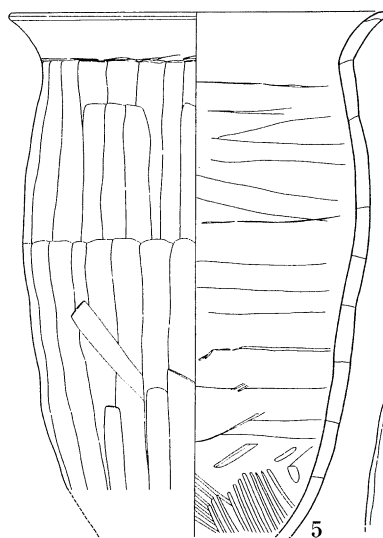
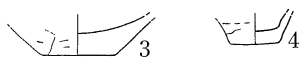
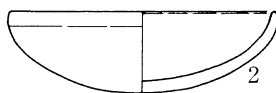
163



148



149



0 15cm

第78図 148・149・162・163号住居跡出土土器

B地点1次北調査区中央、グリッドI-22に位置する。南東で203号住居跡、北で146・162号住居跡、162を削平し、北西を163号住居跡が貼床する。他の遺構の柱穴1基とカマドへの削平を除き遺構はよく残っている。

カマド（第136図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに30・70・27・58cm、柱間は奥216・右187・前220・左192cm。東コーナーに52×60cm、深さ54cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第77図）11点の土器を図示した。1・2は完形の高杯で、脚内を除き内外面を赤彩している。3・4は手握土器。5は小形の甕底部。6は甕で下部欠。7は甕で上部欠損。8・9は完形の甕。10・11は完形の甕である。1の高杯はカマド内から、2の高杯、9の甕、10・11の甕の4点は遺構中央の床面から出土している。

(178) 146号住居跡 第76図 図版22-8

主軸4.95m以上、直交4.1m以上、深さ0.24mの隅円方形で、主軸方位は西に27度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-22に位置する。北西で164・200号住居跡を削平し、南を145・163号住居跡に削平される。

西側の60×80cmの焼土の一部が炉であった可能性が高い。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに88・56・98・94cm、柱間は奥254・右290・前276・左276cm。壁溝はない。右奥の柱穴を挟むように60×80cm、96×100cmの2カ所の焼土がある。

出土遺物（第77図）14点の土器を図示した。1は須恵蓋坏でつまみのみ。2は須恵盤破片。3～5は器台脚部。6は高杯脚部。7は埴底部で内外面を赤彩している。8は埴胴部欠損。9は埴の胴部以下で、外面を赤彩している。10はほぼ完形の鉢で、底部中央を欠損。11・12は甕底部。13・14甕で底部欠損。1・2・6は重複する145・163号住居跡の遺物である。

土器以外の遺物として第151図15の砥石が出土している。円礫状の原石の表面のみを砥面とし、よく研磨されている。側面、裏面は刃先調整の条痕がある。

(179) 162号住居跡 第76図 図版22-7

主軸3m以上、直交4.6m以上、深さ0.44mの隅円方形で、主軸方位は西に16度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-22に位置する。北西で164号住居跡を削平し、東を163号住居跡に削平される。他の遺構との重複のため北西部と炉のみの検出である。

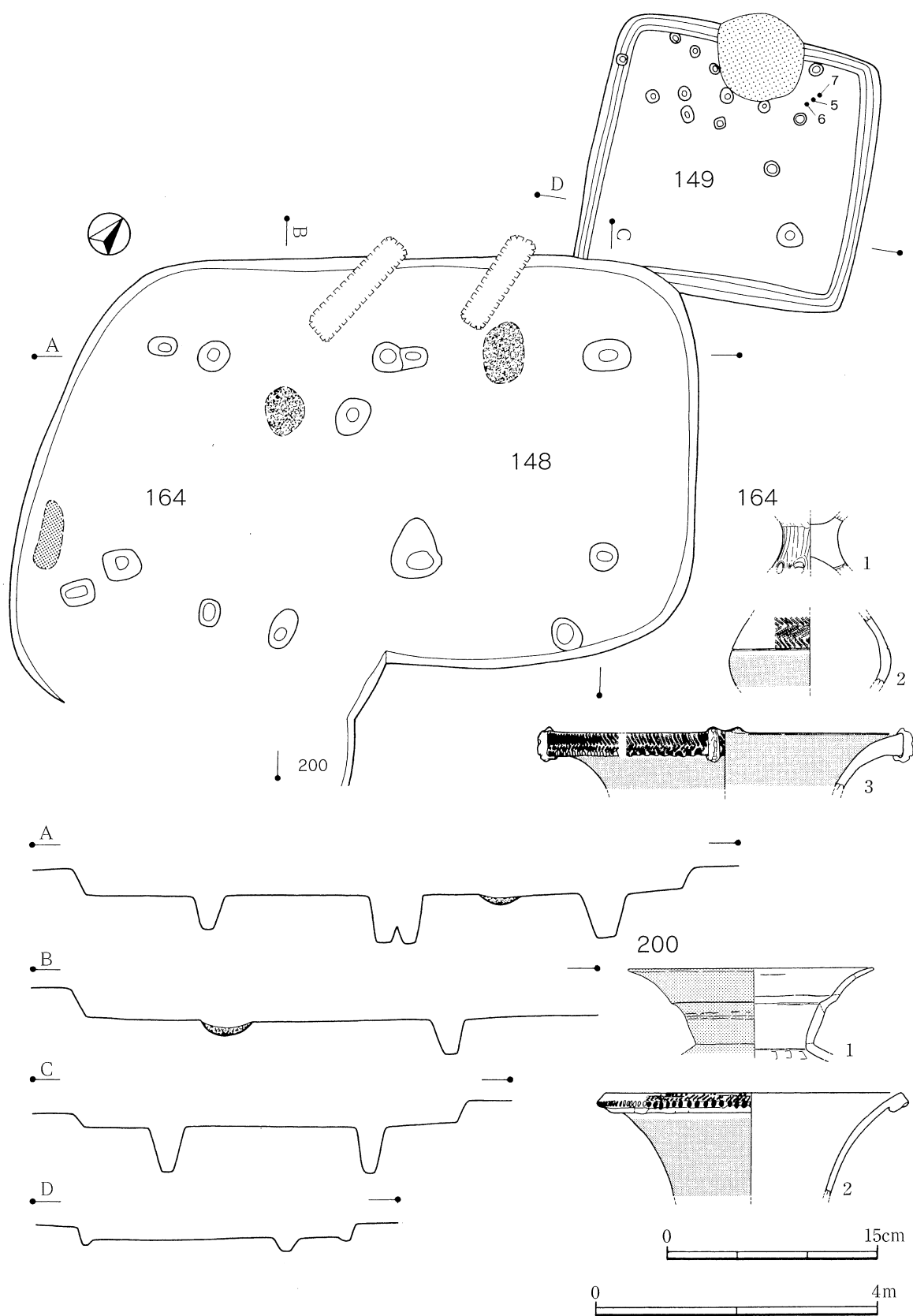
奥柱穴間奥壁から180cmに163号住居跡柱穴に奥を削平される60cm以上×46cmの炉がある。柱穴は163号住居跡カマド右袖下、炉の右奥の2本を検出し、他の2本は145号住居跡に削平される。深さ右奥24cm。

出土遺物（第78図）は完形の丸底坏で163号住居跡からの混入品と考えられる。

(180) 163号住居跡 第76図 図版22-7

主軸5.93m、直交5.95m、深さ0.35mの方形で、主軸方位は西に39度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-21<22に位置する。南西で203号住居跡、西で162号住居跡、



第79図 148・149・164号住居跡と164・200号住居跡出土土器

北で146号住居跡、北東で145号住居跡を削平する。他の遺構との重複で北西側の輪郭が分からないが145号住居跡カマド写真（図版23-2）によると袖付け根に段があり、これが本遺構の掘り込みであろう。右前柱穴は他の柱穴の深さから145号住居跡床面に届いていると考えられ146号住居跡柱穴と同じ位置と考える。

カマド（第136図）は、北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに59・91・82・66cm、柱間は奥345・右346・前344・左328cm。壁溝は壁の残る西側で確認した。

出土遺物（第78図）18点の土器を図示した。1～8は須恵器である。1・2は蓋坏で、中央を欠損。3・4は完形の蓋坏で、つまみが付く。5は高台付坏で底部中央を欠損。6は高台付坏の破片。7は恵坏の破片。8は壺で下部欠損。9は丸底坏底部で中央を欠損。10・11は完形の丸底坏。12は完形の小形鉢。13は埴の胴部のみで、内外面を赤彩している。14は甕で底部欠損。15は長胴甕で下部欠損。12・13・14は162号住居跡の遺物である。

(181) 200号住居跡 第76図 図版22-8・23-5・6

B地点1次北調査区中央、グリッドI-22に位置する。大部分を他の住居跡に削平され規模は不明。

146・164号住居跡に挟まれた壁のカーブから円形の住居跡と思われる。西を164号住居跡、南東を146号住居跡に削平される。

出土遺物（第79図）2点の土器を図示した。1・2とも壺の口縁部だが時期が異なる。1は重複する146号住居跡の遺物である。

(182) 148号住居跡 第79図 図版23-5・6

主軸5.95m、直交4.4m以上、深さ0.37mの小判形で、主軸方位は西に40度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-23に位置する。南を164号住居跡と重複し、北西を149号住居跡に削平される。164号住居跡と重複する部分で輪郭が分からない。北西壁に攪乱溝がある。左側の柱穴は、外、奥にわずかに拡張され2本重複している。

奥2本の柱穴間に90×60cmの楕円形の炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに70・64・66・63cm、柱間は奥275・右290・前264・左294cm。拡張された柱穴は深さは左奥69cm、左前63cm、柱間は奥312・前264・左297cm。南東壁右寄りに48×44cm、深さ14cmの貯蔵穴がある。壁溝はない。

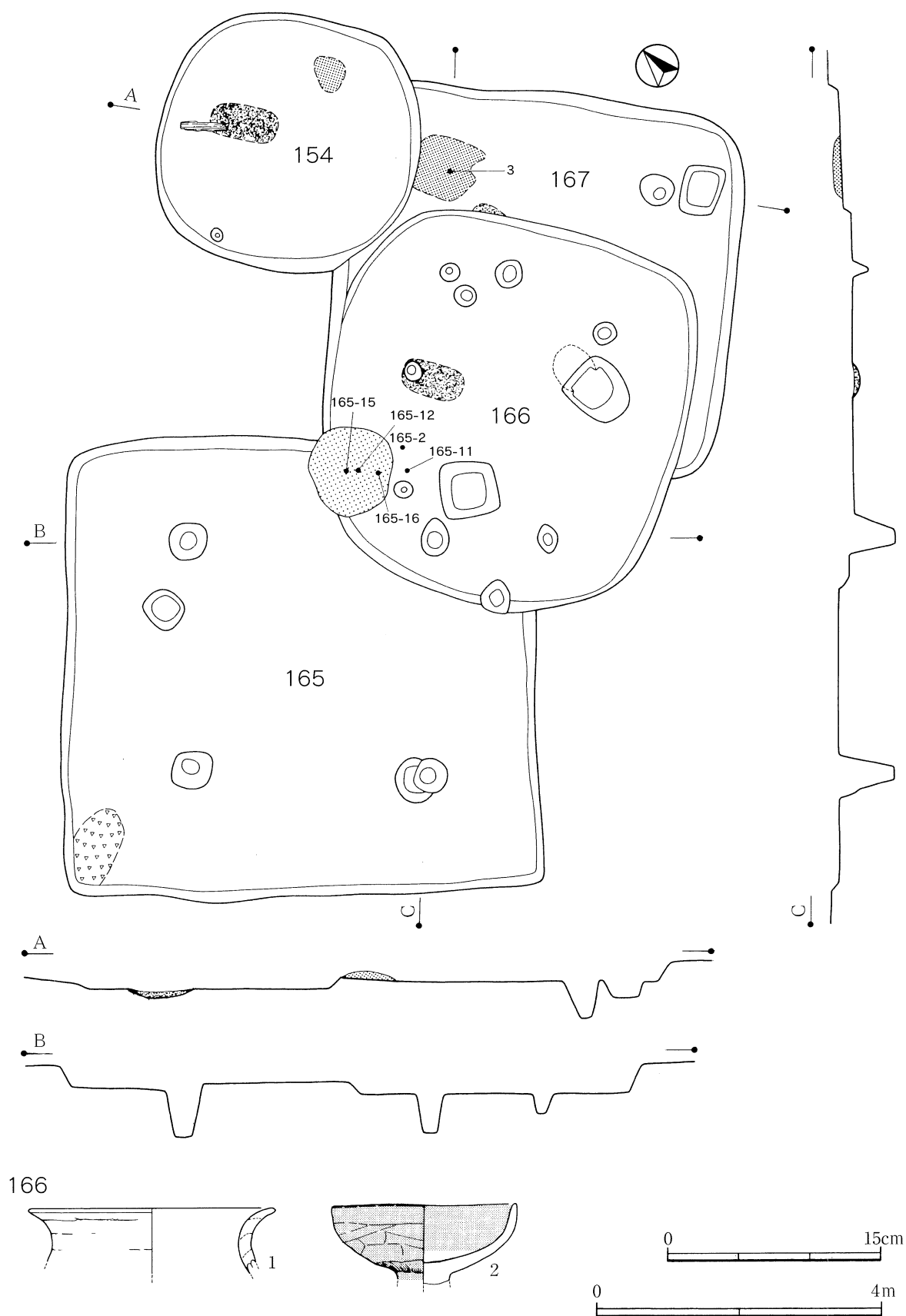
出土遺物（第78図）2点の土器を図示した。1は壺の口縁部で、3本一組の棒状貼付がある。文様部以外の内外面を赤彩している。2はほぼ完形の鉢で底部中央を欠損し、内外面を赤彩している。

(183) 149号住居跡 第79図 図版23-7～24-2

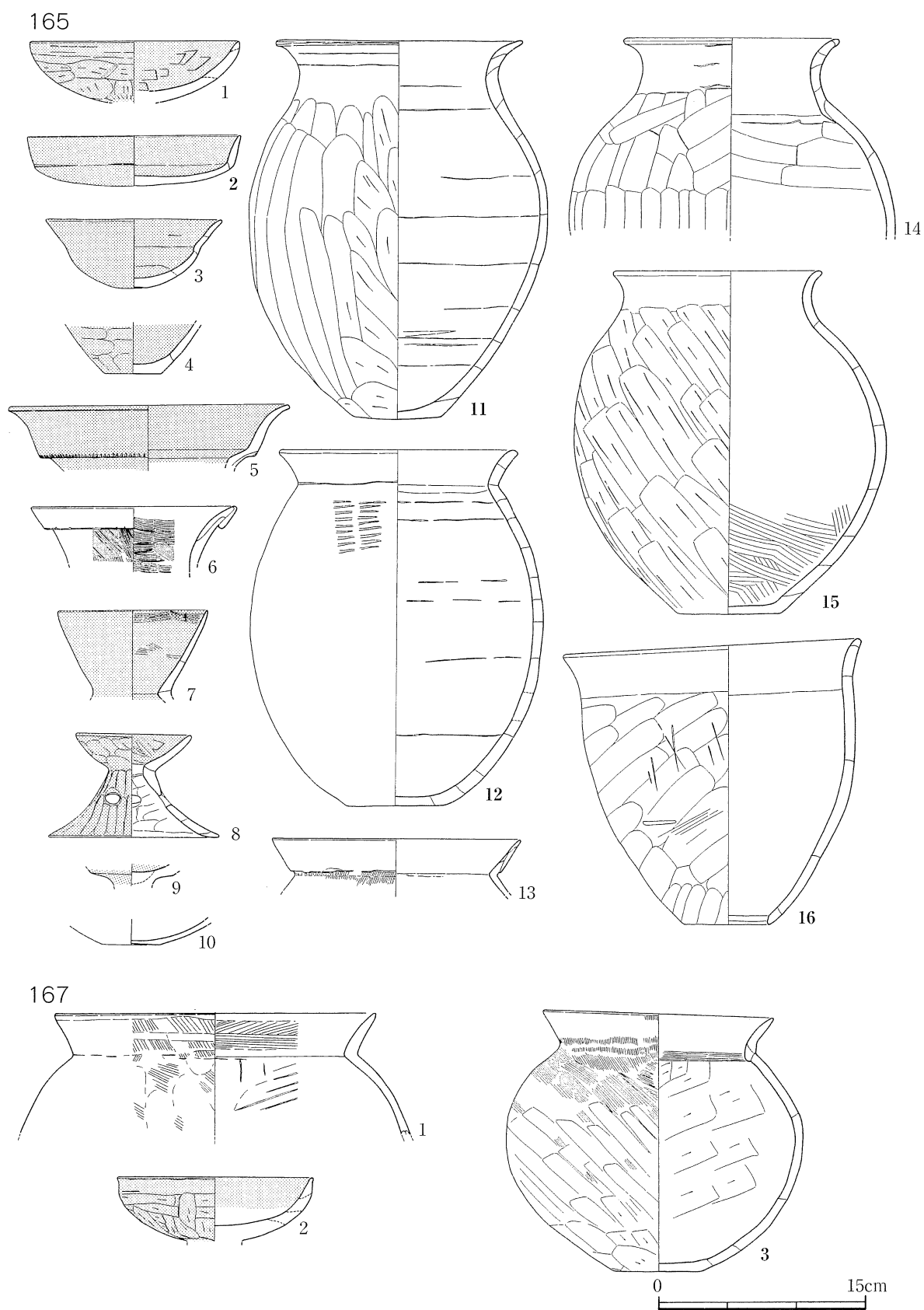
主軸3.88m、直交3.98m、深さ0.24mの方形で、主軸方位は西に25度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-23に位置する。南で148号住居跡、東で228号住居跡を削平する。遺構内のピットの大部分は近年の攪乱で、それ以外遺構はよく残っている。

カマド（第136図）は、北西壁やや右寄りに造られている。東コーナー近くに36×40cm、深さ20cmのピットがあるが用途は分からない。カマド周辺に小ピットが多いがいずれも後世の木の根に



第80図 154・165～167号住居跡と166号住居跡出土土器



第81図 165・167号住居跡出土土器

よる攪乱である。壁溝は全周する。

出土遺物（第78図） 7点の土器を図示した。1は坏で底部を欠損し、内外面を赤彩している。2は完形の丸底坏。3・4は底部破片。5・6は長胴甕で底部を欠損。7は甕で下半欠損している。5～7の甕3点はカマド脇にまとまって出土している。

土器以外の遺物として第151図17の砥石が出土している。傷が多く、石質も異なることから後世の混入の可能性はある。

(184) 164号住居跡 第79図 図版23－5・6

主軸6.90m、直交5.62m、深さ0.4mの縦長の小判形で、主軸方位は西に19度を測る。

B地点1次北調査区中央、グリッドI-22>23に位置する。北で148号住居跡と重複し、南東を162・200号住居跡が削平する。148・200号住居跡との重複部分は輪郭が分からない。西側の2本の柱穴を建て替えている。

奥の柱穴の間やや右前に寄って70×57cmの炉がある。柱穴の建て替えに際しての造り直しはない。柱穴は四本柱全てを検出した。建て替え前の均整のとれた配置の柱穴は、深さは左奥から右回りに49・54・50・55cm、柱間は奥214・右330・前248・左326cm。南西にずらして建て替えられた柱穴は深さは左奥63cm、左前48cm、柱間は奥236・前295・左372cm。主軸より炉と同程度右に寄って深さ27cmの出入口ピットがある。壁溝はない。左前柱穴西に焼土がある。

出土遺物（第79図） 3点の土器を図示した。1は器台接合部。2は壺の胴部で、沈線と縄文による施文部以外を赤彩している。3は壺の折り返し口縁の口縁部のみの破片で棒状貼付があるが1単位何本かは分からない。内外面を赤彩している。

(185) 154号住居跡 第80図 図版24－5・6

主軸3.66m、直交3.64m、深さ0.33mの小判形で、主軸方位は西に38度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-24<25に位置する。南西を167号住居跡が貼床する。

奥壁から60cm遺構の右に寄って96×48cmの炉がある。奥に炭化材が残る。柱穴、壁溝等はない。北西壁奥寄りに小ピット。南東壁寄りに52×40cmの焼土がある。

(186) 165号住居跡 第80図 図版27－1

主軸6.60m、直交6.58m、深さ0.25mの方形で、主軸方位は東に41度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドIJ-24に位置する。北東で166号住居跡に貼床し、南で228号住居跡を削平する。北東コーナーは166号住居跡上に造られているが遺構実測前に下の遺構を掘り上げてしまった。

カマド（第136図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに80・76・68・75cm、柱間は奥346・右334・前323・左320cm。南東壁北寄り壁から55cmに深さ39cmの出入口ピットがある。右奥コーナーに、166号住居跡床面に届く80×80cm、深さ68cmの隅円方形の貯蔵穴がある。カマド右側に貯蔵穴を囲むように高さ6cmの土手状施設がある。壁溝はない。左奥柱穴の南西に深さ30cm、右前柱穴と重複して27cmのピットがある。南西コーナーに100×

68cmの範囲で貝層がある。

出土遺物（第81図）16点の土器を図示した。1は高杯杯部。2は完形の坏。3は完形の埴。4は埴の底部。5・6は壺の口縁部。7は埴の頸部以上。8は完形の器台。9は高杯接合部。1～5と7～9はいずれも赤彩している。10は底部。11・12・15は完形の甕。13は甕の口縁部。14は甕で下部欠損。16は完形の甗である。カマド内で12・15の甕2点、カマド右脇で16の甗、壁際に2の坏、11の甕が出土している。3～10・13の9点は重複する167号住居跡の遺物である。

土器以外の遺物として第155図9の軽石が出土している。下部を若干欠損擦るが、全体によく擦られている。

(187) 166号住居跡 第80図 図版26－1

主軸5.14m、直交5.50m、深さ0.42mの小判形で、主軸方位は西に31度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-24に位置する。北東を167号住居跡、南西を165号住居跡が貼床する。

奥の柱穴の間の右に寄って88×48cmの楕円形の炉がある。炉奥は167号住居跡の柱穴に削平されている。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに27・25・27・27cm、柱間は奥314・右236・前298・左213cm。横長の長方形に配置されている。壁溝はない。右奥柱穴の北に立て替えの可能性のある深さ25cmのピット、東に深さ12cmのピットがある。遺構南側にある横穴状のピットは遺構に伴わない新しいものである。

出土遺物（第80図）2点の土器を図示した。1は甕の口縁部、2は高杯杯部で内外面を赤彩している。2点とも165号住居跡に所属する遺物で、本遺構に伴うのは165号住居跡3～10・13の9点である。

(188) 167号住居跡 第80図 図版26－1

主軸5.63m、直交5.20m、深さ0.23mの隅円方形で、主軸方位は西に41度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJK-24>25に位置する。西で166号住居跡、北で154号住居跡と重複する。遺構の形態、遺物などから本遺構の方が新しいが、貼床は確認されていない。

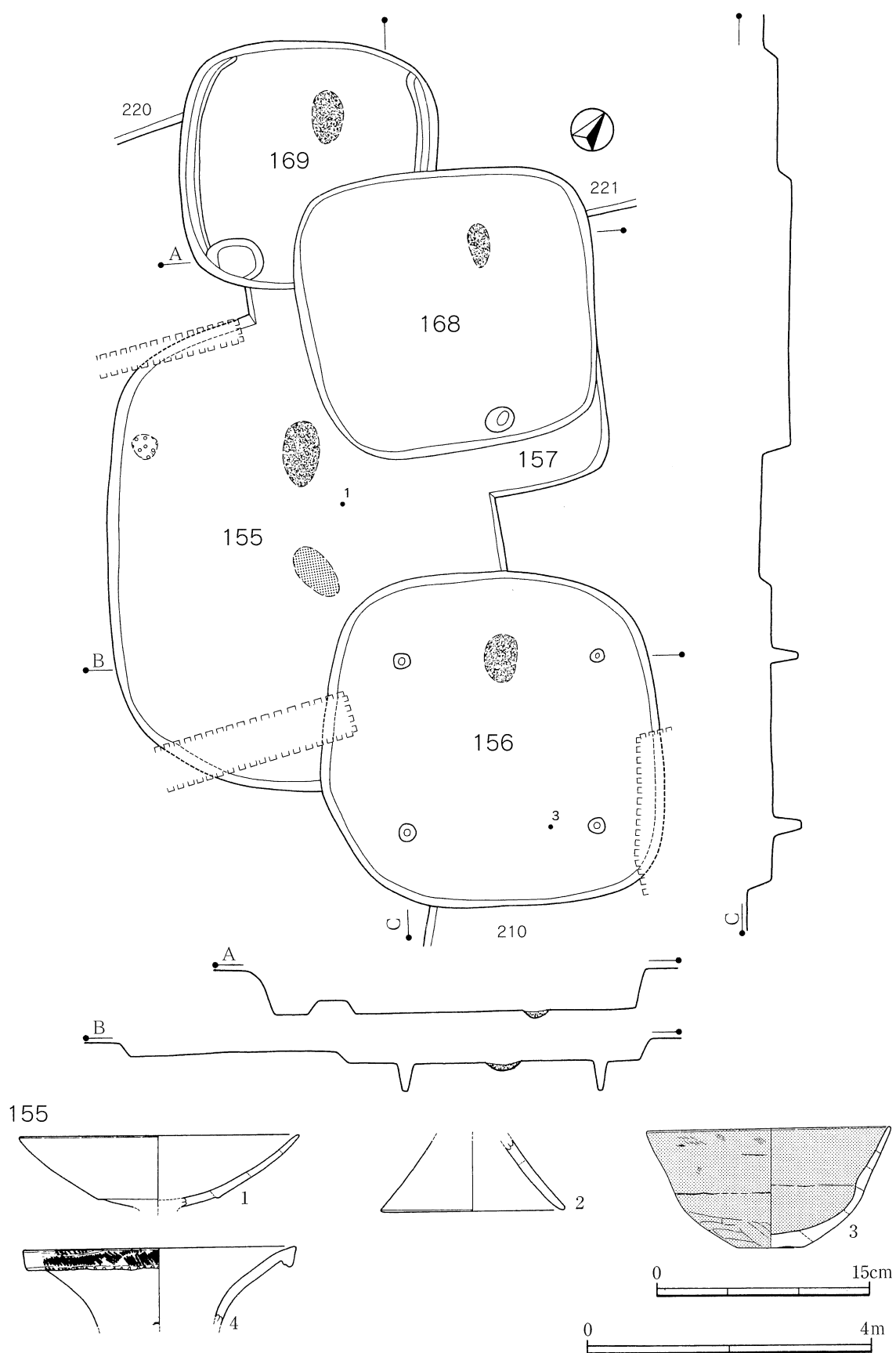
北東壁から150cmに60cm以上×10cm以上の炉がある。大部分は166号住居跡上にあり実測前に掘り上げてしまった。柱穴は四本柱の3本を検出した。左前の柱穴は166号住居跡内の土坑で削平された。右奥の柱穴は北側の焼土下、3の甕の北西に接して確認したが実測図には入っておらずレベルは計測していない。深さは左奥38cm、右前52cm、柱間は奥308・右294cm。南東コーナーに56×70cm、深さ23cmの隅円長方形の貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第81図）3点の土器を図示した。1は甕で胴部以下欠損、2は高杯杯部で、内外面を赤彩している、3は完形の甕。2の高杯は165号住居跡の遺物と考えられる。3の甕が北東部の焼土中から出土している。

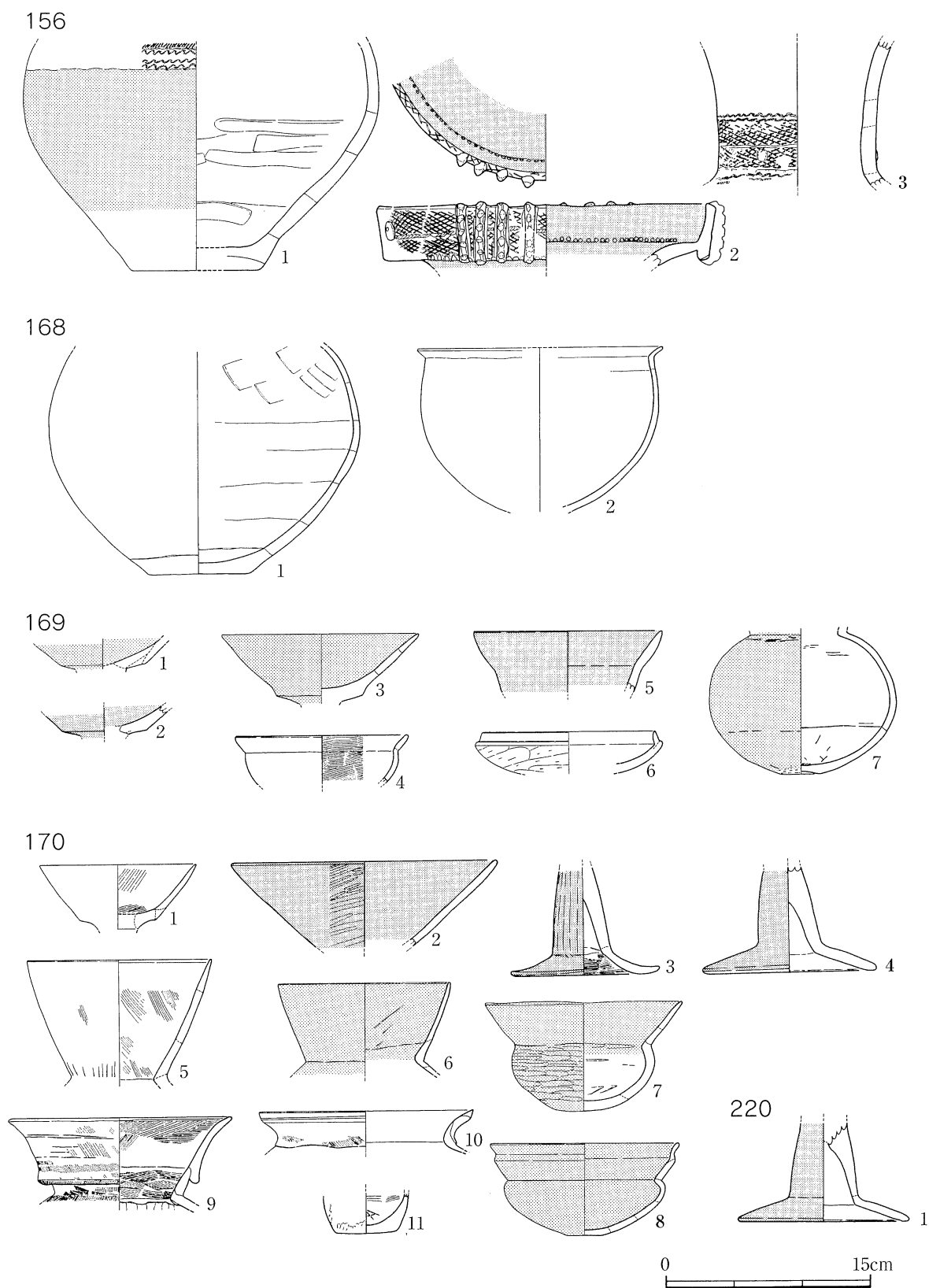
土器以外の遺物として第147図17～19の3点の小玉が出土している。いずれも石製で完形である。

(189) 155号住居跡 第82図 図版24－7

主軸6.80m、直交5.50m、深さ0.14mの縦長の小判形で、主軸方位は西に41度を測る。



第82図 155～157・168・169号住居跡と155号住居跡出土土器



第83図 156・168～170・220号住居跡出土土器

B地点1次北調査区北、グリッドJK-24<25に位置する。北を157号住居跡、南東を156号住居跡が削平する。

奥から140cmに93×52cmの炉がある。柱穴、壁溝等はない。炉の手前1mほどに83×44cmの炉の可能性のある焼土、北西コーナー近くに径35cmの粘土がある。

出土遺物（第82図）4点の土器を図示した。1は高杯杯部。2は高杯脚部。3は完形の埴で、内外面を赤彩している。4は壺の口縁部である。出土遺物に2時期のものが混在している。この内新しい時期のものは重複する157号住居跡のもので、口縁に縄文を施す壺が本遺構に伴う遺物である。

(190) 156号住居跡 第82図 図版24-7

主軸4.78m、直交4.76m、深さ0.30mの小判形で、主軸方位は西に39度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドK-25に位置する。南西で155号住居跡、南東で210号住居跡を削平している。

奥の柱穴の間中央に68×46cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに41・43・34・45cm、柱間は奥274・右242・前265・左245cm。壁溝等その他の施設はない。

出土遺物（第83図）3点の土器を図示した。1は壺で上部を欠損している。胴上部を結節で区画し以下を赤彩している。2は壺口縁部である。折り返した口縁に撚り糸で施文し、4本1単位の棒状添付を行う。内側には、竹管状の小さな円形の刺突がある。施文部を除いて内外ともに赤彩されている。3は壺の頸部で。上下を結節で区画し間を撚り糸で施文している。右前の柱穴近くから3の壺が出土している。

土器以外の遺物として第147図16の管玉が出土している。完形で両端から穿孔している。

(191) 157号住居跡 第82図 図版24-8

主軸3.3m以上、直交4.80m、深さ0.1mの隅円方形で、主軸方位は西に40度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJK-25に位置する。南で155号住居跡を削平し、北西を168号住居跡に削平される。大部分は168号住居跡で削平される。

155号住居跡の炉南東50cmほどに155号住居跡1の高杯杯部が出土している。一見155号住居跡の遺物のようだが本遺構のコーナーにあたるところで時期からも本遺構に伴うものと考えられる。

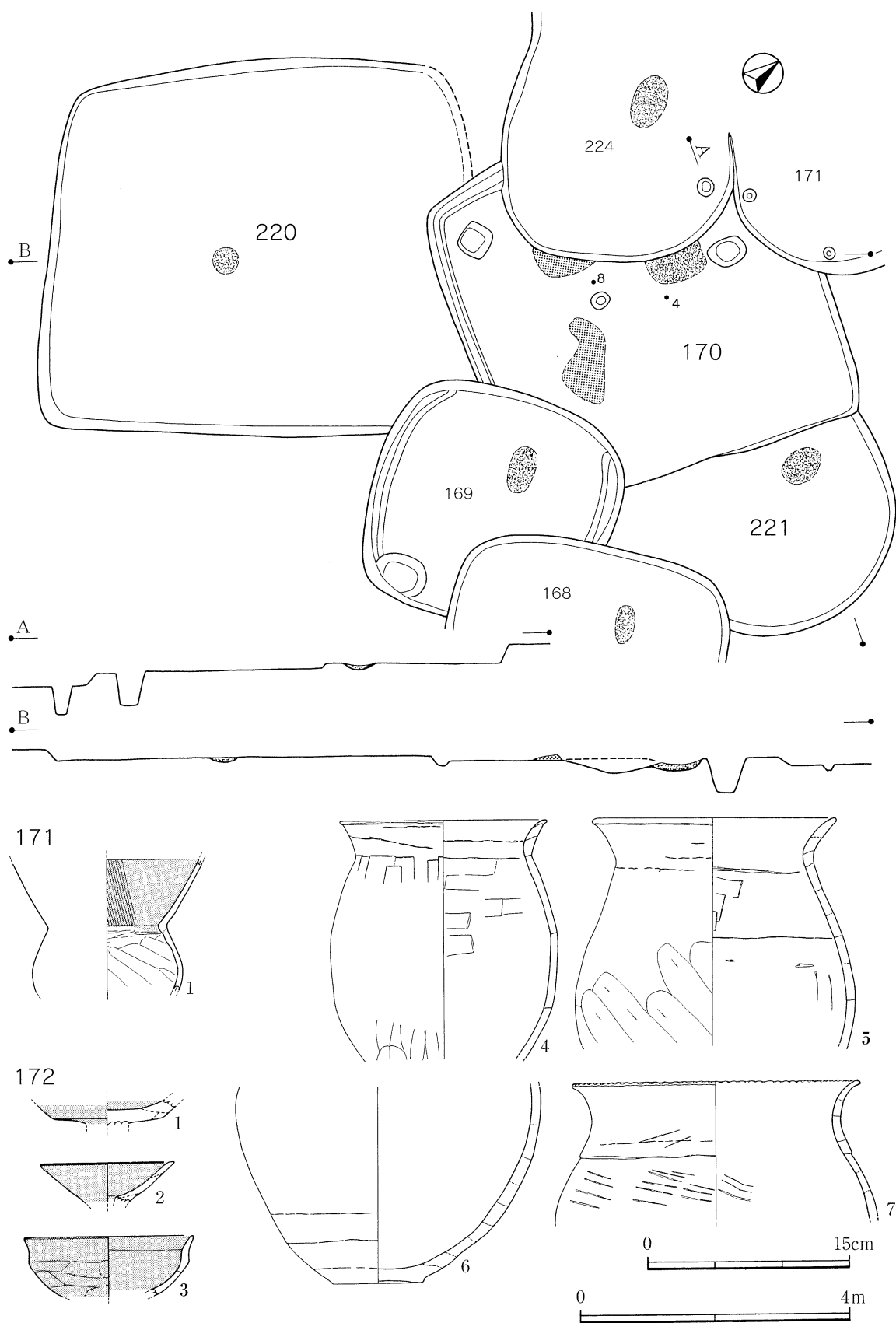
(192) 168号住居跡 第82図 図版24-8

主軸4.02m、直交4.2m、深さ0.58mの隅円方形で、主軸方位は西に43度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJK-25に位置する。南東で157号住居跡、北西で169号住居跡、北東で221号住居跡を削平する。

奥壁から70cmに62×30cmの炉がある。南東壁東寄りに34×40cm、深さ14cmの貯蔵穴がある。壁溝はない。

出土遺物（第83図）2点の土器を図示した。1は壺で頸部以上欠損。2は甕で底部を欠損している。



第84図 170・220・221号住居跡と171・172号住居跡出土土器

(193) 169号住居跡 第82図 図版24-8

主軸3.56m、直交3.64m、深さ0.41mの小判形で、主軸方位は西に32度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-25に位置する。東で168号住居跡、北で221号住居跡を削平し、西で170号住居跡に貼床される。

奥壁から60cmやや右寄りに70×38cmの炉がある。柱穴はない。南東壁西寄りに80×55cm、深さ20cmの貯蔵穴。壁溝は南西壁下で280cm、北東壁下で145cmで検出した。

出土遺物（第83図）7点の土器を図示した。1～3は高杯杯部で、内外面を赤彩している。4は埴の口縁部破片で、内面を赤彩している。5は埴の口縁部破片で、内外面を赤彩している。6は坏の破片。7は頸部以上を欠損する壺で、外面を赤彩している。遺構の形態から見ると弥生時代後期の小形の住居跡だが、出土している遺物は6の坏を除き古墳時代前期のものである。重複する170号住居跡の遺物であろう。

(194) 170号住居跡 第84図 図版27-4

主軸5.47m、直交5.30m、深さ0.34mの隅円方形で、主軸方位は東に18度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-25>26に位置する。南で169号住居跡、南西で220号住居跡、南東で221号住居跡、北で171・224号住居跡と重複している。この中では一番新しい住居跡だが貼床を確認していない。

224号住居跡の東壁に接して85×50cm以上の炉がある。北西は224号住居跡のために不明。柱穴は炉を挟んで、間隔200cmの2本がある。残された壁と平行・直交し遺構のほぼ中央にあることから二本柱の住居跡とも考えられるが54cm・19cmと深さ、平面規模とも差が大きい。南西コーナーに48×45cm、深さ61cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝は南西コーナーで検出。遺構南寄りに焼土が2カ所ある。

出土遺物（第83図）11点の土器を図示した。1・2は高杯杯部。2は内外面を赤彩している。3・4は高杯脚部で、外面を赤彩している。5・6は埴で頸部以下欠損。6は内外面を赤彩している。7は完形の埴で、胴内部を除き赤彩。8は完形の埴で、内外面を赤彩している。9は壺で頸部以下欠損。10は甕の口縁部。11は手捏土器底部。炉の近くで4の高杯脚部と8の埴が出土している。

土器以外の遺物として第154図41の砥石が出土している。表面、側面など数カ所で割れているがほぼ完形で、4面をよく研磨している。

(195) 220号住居跡 第84図 図版31-8

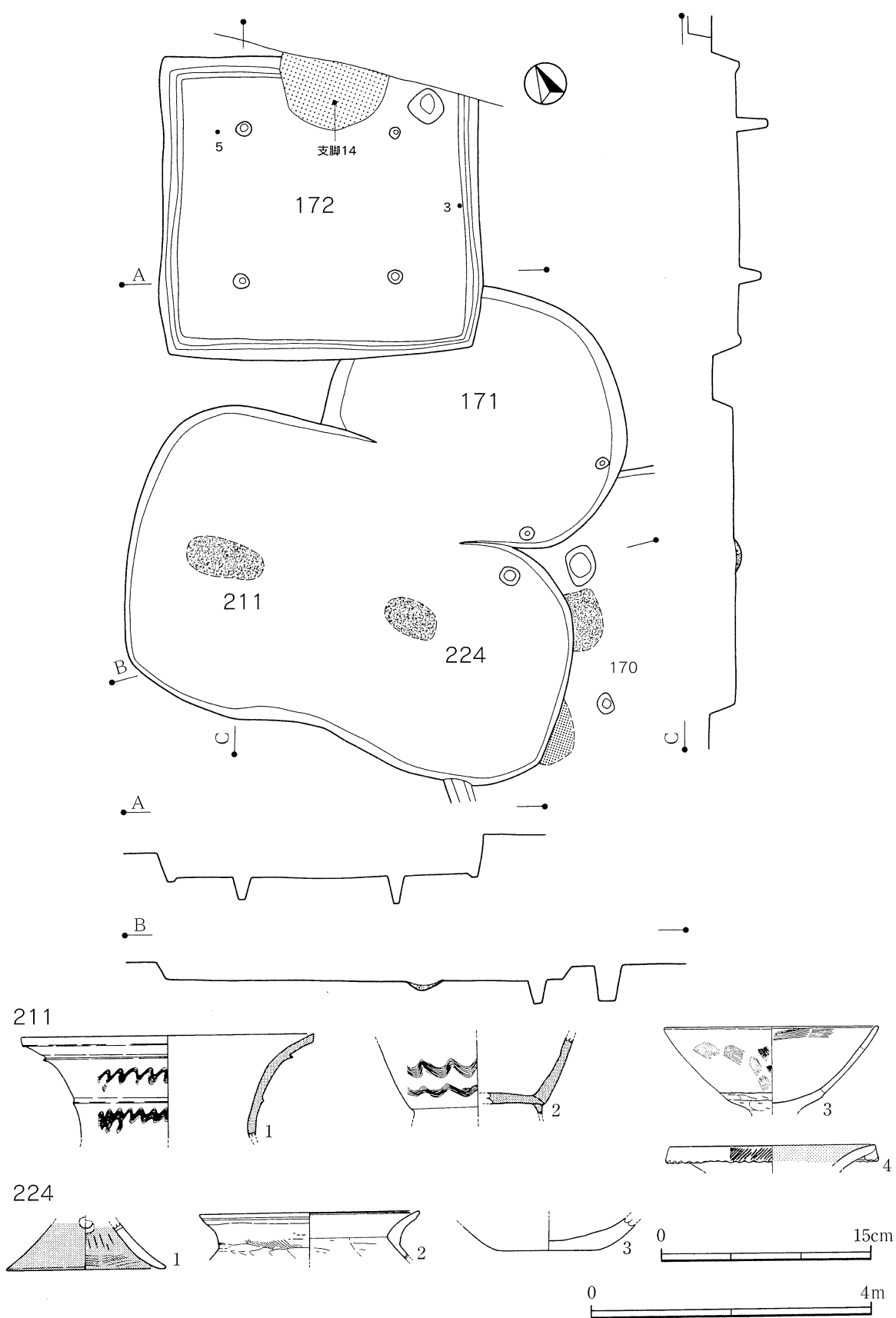
主軸5.70m、直交5.8m以上、深さ0.12mの隅円方形で、主軸方位は西に49度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドIJ-25に位置する。南東を170号住居跡が削平し、東で171号住居跡が重複する。遺構のほぼ中央に径40cmの炉がある他は遺構内の施設はなかった。

出土遺物（第83図）高杯脚部で、外面を赤彩している。

(196) 221号住居跡 第84図 図版27-4

主軸3.80m、直交3m以上、深さ0.28mの円形と思われる住居跡で、主軸方位は西に6度を測る。



第85図 171・172・211・224号住居跡と211・224号住居跡出土土器

B地点1次北調査区北、グリッドJ-26に位置する。南を168号住居跡、西を169・170号住居跡が削平する。60×45cmの炉を除いて遺構内の施設はなかった。

(197) 171号住居跡 第85図 図版27-3・4

主軸4.34m、直交3.73m、深さ0.30mの縦長の楕円形で、主軸方位は西に44度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-26に位置する。南西で211号住居跡、224号住居跡と重複する。前後関係は不明。北を172号住居跡が削平する。南と南東の壁際に小ピットがあるほかは、炉・壁溝・柱穴等の施設はなかった。

出土遺物（第84図）埴で上下を欠損し、内面頸部以上を赤彩している。

(198) 172号住居跡 第85図 図版27-3・4

主軸4.40m、直交4.62m、深さ0.35mの方形で、主軸方位は東に28度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-26に位置する。南東で171号住居跡を削平する。カマド右袖から貯蔵穴の奥にかけては調査区域外になる。それ以外の遺構の残りはよかった。

カマド（第136図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出。深さは左奥から右回りに41・39・39・29cm、柱間は奥216・右209・前218・左218cm。北東コーナーに径45cm、深さ38cmの円形の貯蔵穴がある。壁溝は全周する。

出土遺物（第84図）7点の土器を図示した。1は高杯の杯下部で、内外面を赤彩している。2は器台器受部で、内外面を赤彩している。3は高杯杯部で、内外面を赤彩している。4～7は甕で、4・5は底部欠損。6は上部欠損。7は胴部以下欠損。7の甕は口縁が小波状になり頸部に段の付く弥生時代のもので本遺構には伴わない。重複する171号住居跡に伴うものの可能性が高い。東壁溝際中央に3の高杯、左奥の柱穴脇に5の甕が出土している。

土器以外の遺物として第143図14の土製支脚、第147図7の土製紡錘車が出土している。土製支脚はカマドの火床に基部が残っており上は欠損している。土製紡錘車は二つに割れるが完形である。

(199) 211号住居跡 第85図 図版27-3

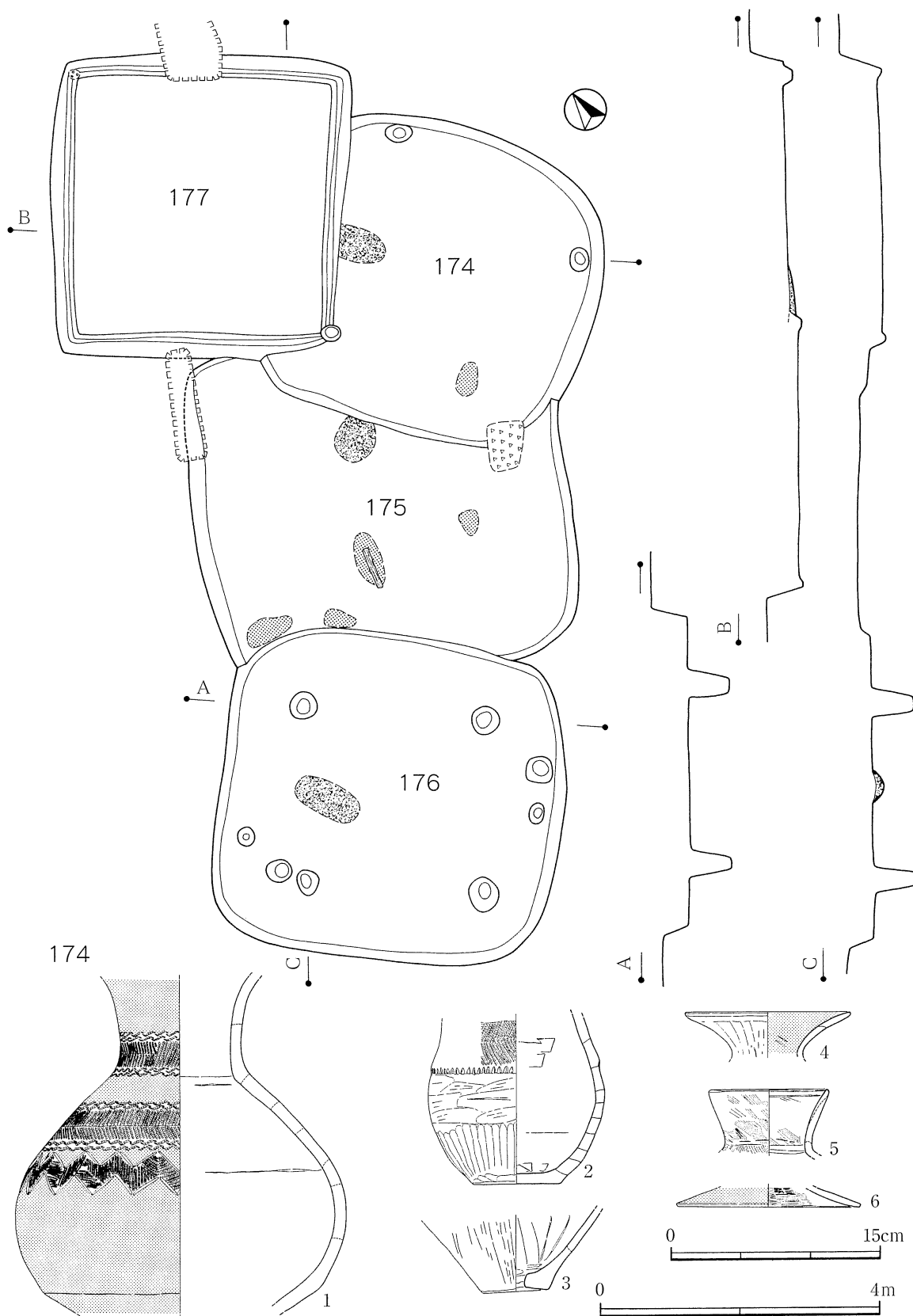
主軸3.2m以上、直交4.42m、深さ0.26mの楕円形で、主軸方位は西に45度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-26に位置する。北東で171号住居跡・南東224号住居跡と重複する。224号住居跡との境界はレベル差もほとんど無く線を引くことができず時期差も不明だった。

遺構奥に110×55cm楕円形の炉がある。柱穴、壁溝等はない。

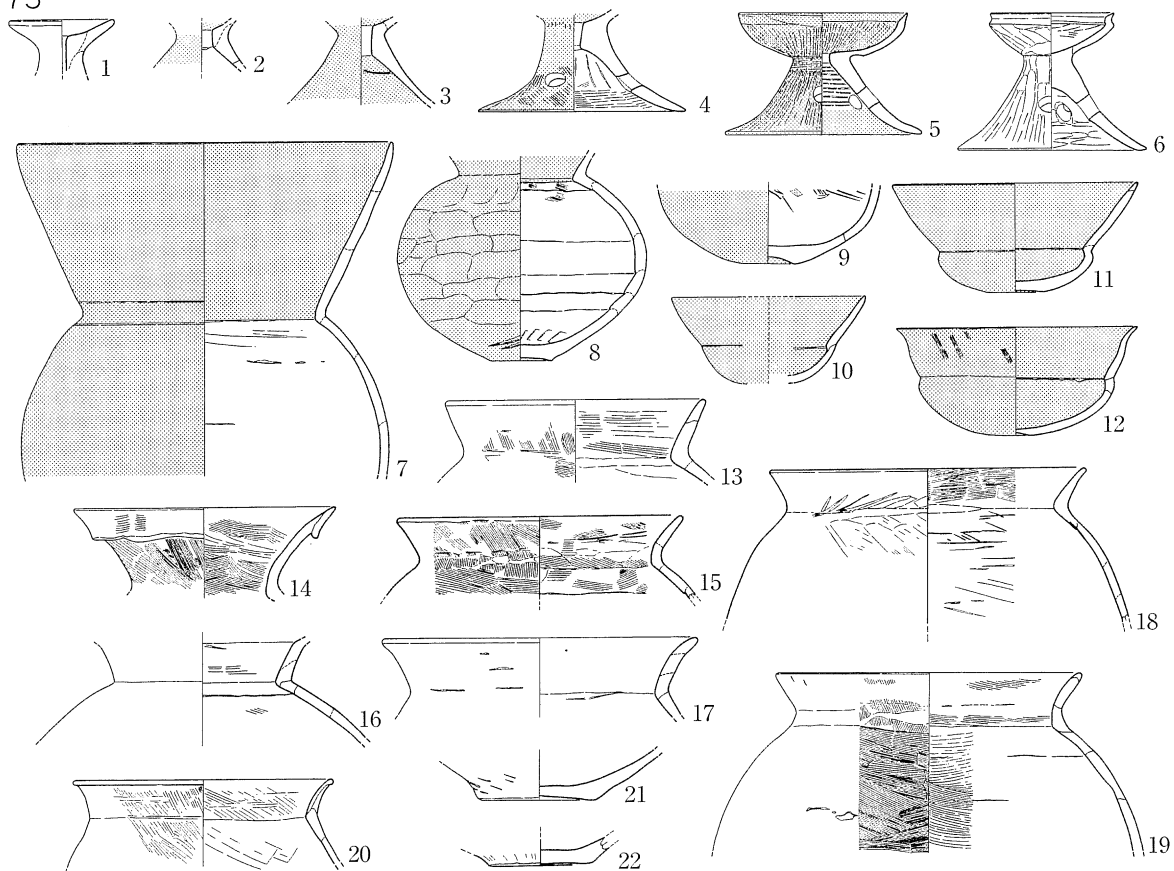
出土遺物（第85図）4点の土器を図示した。1は須恵広口壺の口縁部で波状の櫛描文が2段に施されている。2は須恵壺の底部で高台は下が欠けている。3は高杯杯部。4は折り返し口縁壺の口縁部で、内面を赤彩している。1～3は遺構に伴わず。1・2は172号住居跡。3は170号住居跡の遺物の可能性が高い。4が本遺構に伴う遺物である。

土器以外の遺物として第145図11の管状土錘が出土している。完形で小形である。

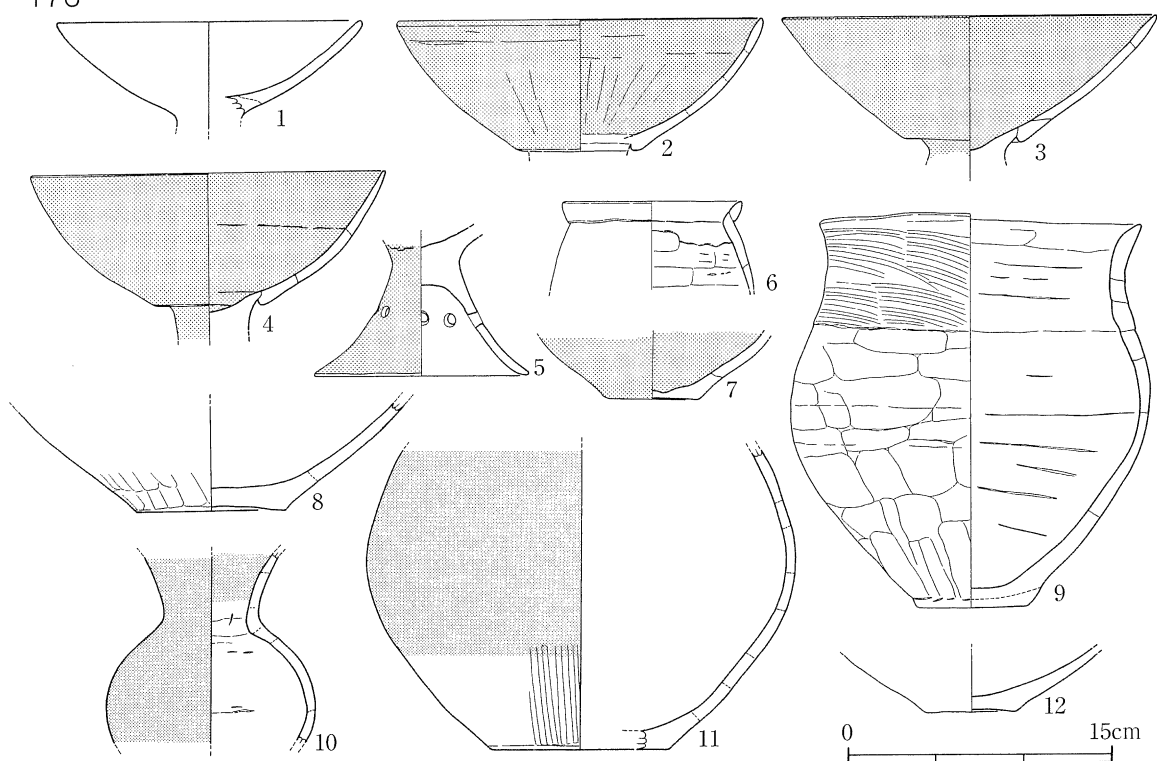


第86図 174～177号住居跡と174号住居跡出土土器

175



176



第87図 175・176号住居跡出土土器

(200) 224号住居跡 第85図 図版27-3

主軸3.4m以上、直交3.55m、深さ0.28mの円形で、主軸方位は西に32度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドJ-25<26に位置する。北で171号住居跡、北西で211号住居跡と重複する。東を170号住居跡が貼床する。

北西寄りに82×50cmの炉がある。遺構北東壁際に深さ40cmのピットがある。壁溝はない。

出土遺物（第85図）3点の土器を図示した。1は器台脚部で、内外面を赤彩している。2は甕口縁部。3は甕底部である。遺物からは古墳時代前期の遺構になるが、重複関係と遺構の形態では弥生時代後期と考えられる。

(201) 174号住居跡 第86図 図版27-5

主軸4.85m、直交4.48m、深さ0.5mの小判形で、主軸方位は西に36度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドI-25に位置する。南西を175号住居跡が貼床し、北西を177号住居跡に削平される。遺構内にある焼土、貝層は175号住居跡に所属する。

奥を177号住居跡に削平される72cm以上×48cmの炉がある。遺構内に3本のピットが散在する。炉の左に深さ40cm、北東壁奥に深さ7cmのピットがある。南東壁右寄りのピットは27×34cm、深さ11cmでその位置から貯蔵穴である。壁溝はない。

出土遺物（第86図）6点の土器を図示した。1は壺で上下を欠損している。結節・鋸歯状の沈線で区画し中を縄文で埋める。施文部以外面を赤彩している。2は口縁部を欠損する壺で、胴上部に段があり刻みを付ける。頸部は羽状縄文を施す。3は甕破片で、底部中央に焼成前の穿孔がある。4は壺の口縁部で、内面を赤彩している。5は胴部欠損の壺。6は器台の脚端部。3～6の土器については時期が異なり重複する175号住居跡に伴う土器であろう。

土器以外の遺物として第151図20の砥石、第155図10の軽石が出土している。砥石は軟質の小破片、軽石は不整形で擦痕が目立つ。

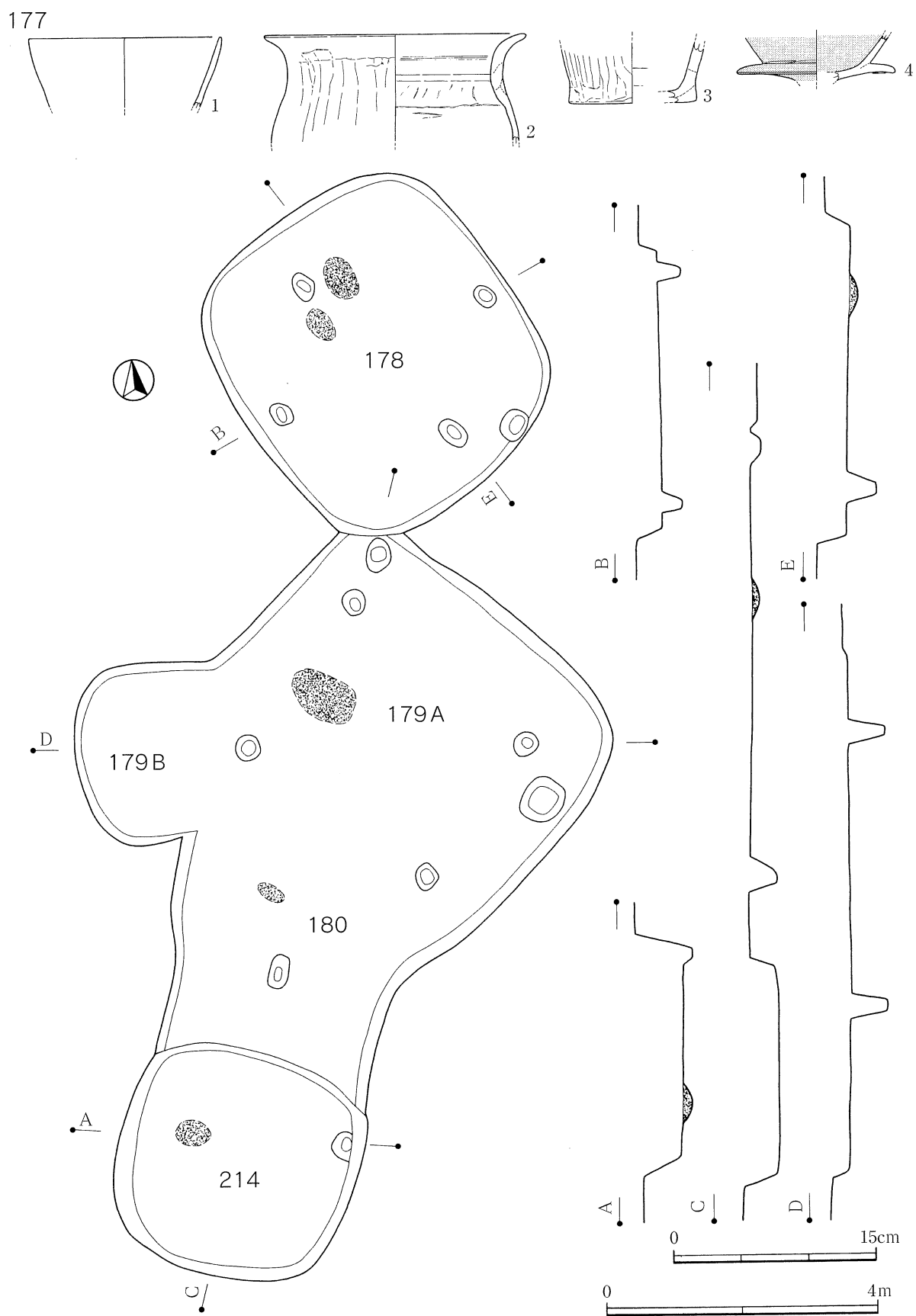
(202) 175号住居跡 第86図 図版26-2

主軸5.20m、直交5.46m、深さ0.35mの隅円方形で、主軸方位は東に25度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドI-25に位置する。北東で174号住居跡、南西で176号住居跡上に貼床し、北西を177号住居跡に削平される。174・176号住居跡上は貼床を確認していないが、175号住居跡の焼土、貝層がひろがっている。

174号住居跡南西壁にかかって66×62cmの炉がある。粘土塊があり支脚と思われる。壁溝などの施設はない。遺構内に5カ所の焼土が散在し炭化物も残っていることから焼失住居である。東寄り174号住居跡の上にかけてに貝層がある。

出土遺物（第87図）22点の土器を図示した。1～6は器台で、1は器受部。2は接合部。3・4は脚部。5・6は完形である。1・6を除き内外赤彩を赤彩しており、特に3・5は脚内も赤彩している。7～12は埴・壺で、7は大形で胴下半を欠損する。8は埴で頸部以上を欠損する。9は胴下半のみで底部は上げ底になっている。10は底部を除く破片。11・12は完形である。全て赤彩され、10～12は胴内部も赤彩されている。13～22は甕で、14は折り返し口縁である。



第88図 178～180・214号住居跡と177号住居跡出土土器

(203) 176号住居跡 第86図 図版27-6

主軸4.94m、直交4.72m、深さ0.40mの小判形で、主軸方位は西に49度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドHI-24>25に位置する。北を175号住居跡が貼床する。

主軸上奥壁から90cmに98×48cmの楕円形で主軸に対して25度ほど東を向く炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに62・59・56・63cm、柱間は奥240・右258・前246・左282cm。菱形にゆがんだ配置である。主軸上前壁から30cmに深さ11cmの出入口ピット。前壁右側に径38cm、深さ31cmの円形の貯蔵穴がある。壁溝はない。左奥の柱穴を挟むように深さ16・20cmのピットがある。

出土遺物（第87図）12点の土器を図示した。1～4は高杯の杯部で、2～4は内外面を赤彩している。5は器台脚部で、外面を赤彩している。6は小形甕上部破片。7は壺底部で、内外面を赤彩している。8は甕底部。9は完形の甕。10は壺で頸部から胴部の破片である。胴内を除き赤彩している。11は壺の胴部から底部で、外面は下を除き赤彩している。12は底部破片である。

(204) 177号住居跡 第86図 図版27-5

主軸4.42m、直交4.28m、深さ0.44mの方形で、主軸方位は東に38度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドI-24<25に位置する。東で174号住居跡、南で175号住居跡を削平し、北西を3号溝に削平される。

北東壁中央の攪乱周辺が焼けており、カマドが存在していたものと考えられる。壁溝が全周するがその他の施設はない。

出土遺物（第88図）4点の土器を図示した。1は埴の口縁部破片。2は胴以下を欠損する甕。3は甕の底部。4は特殊器台で上下欠損、内外面を赤彩している。

土器以外の遺物として第155図11の軽石が出土している。円形でよく研磨されている。

(205) 178号住居跡 第88図 図版27-7

主軸4.92m、直交4.46m、深さ0.36mの縦長の小判形で、主軸方位は西に30度を測る。

B地点1次北調査区西、グリッドHI-24に位置する。南で179号住居跡と重複する。

楕円形の2基の炉がほぼ並列している。東は奥壁から70cmで68×44cm、西は奥壁から120cmで55×32cmを測る。柱穴は四本柱全てを検出した。主軸に対して50度ほど偏った配置で、深さは左中央から右回りで33・34・27・45cm、柱間は奥190・右270・前210・左256cm。南東壁際右寄りに37×48cm、深さ38cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

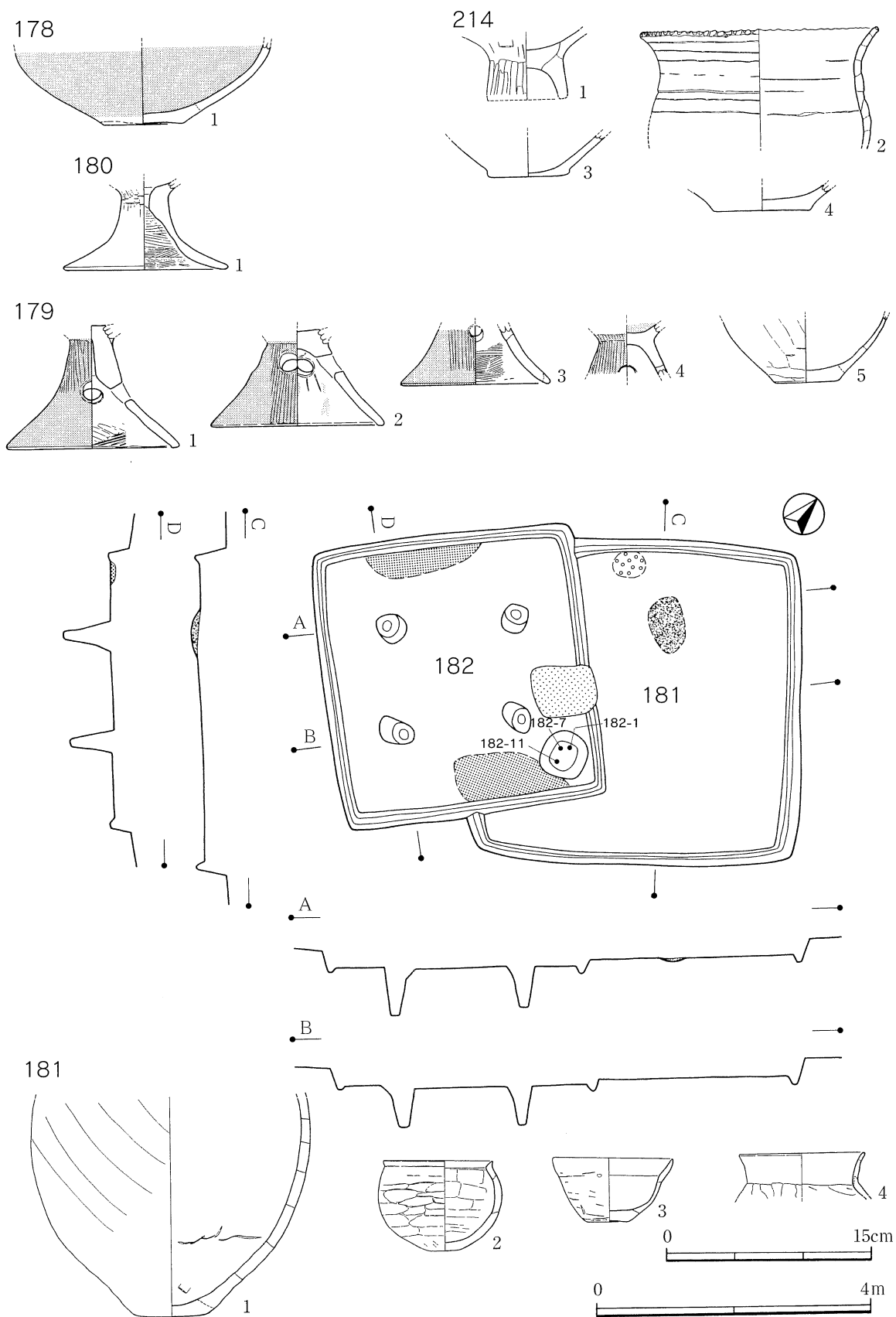
出土遺物（第89図）内外面を赤彩した壺の胴部から底部が出土している。

(206) 179A号住居跡 第88図 図版27-8

主軸5.60m、直交4.2m以上、深さ0.34mの隅円方形で、主軸方位は西に47度を測る。

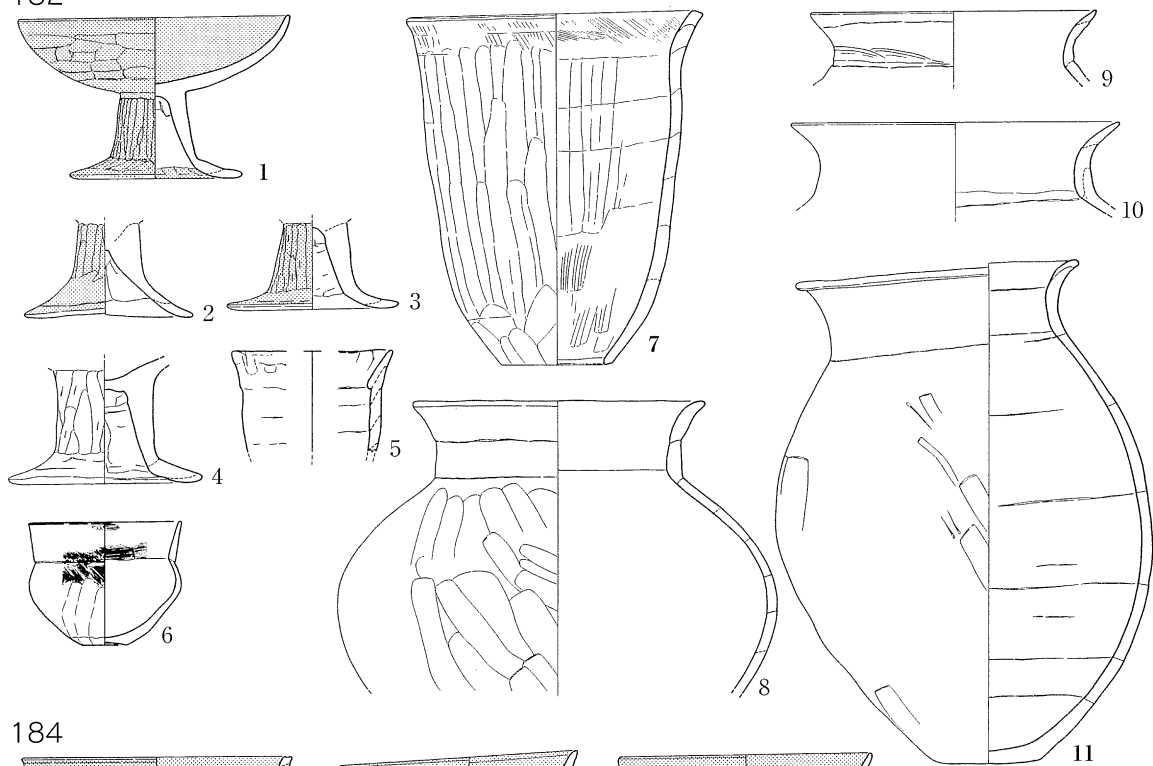
B地点1次北調査区西、グリッドHI-23>24に位置する。北で178号住居跡、南で180号住居跡と重複する。前後関係は不明。北東コーナーに小ピットがある。

主軸上奥壁から80cmに106×62cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右

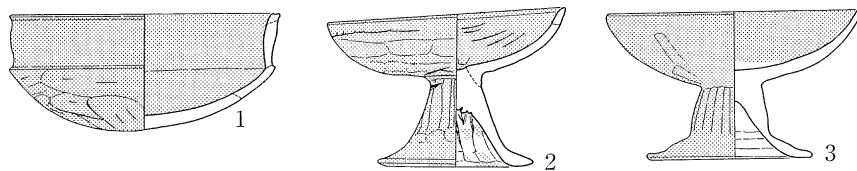


第89図 181・182号住居跡と178～181・214号住居跡出土土器

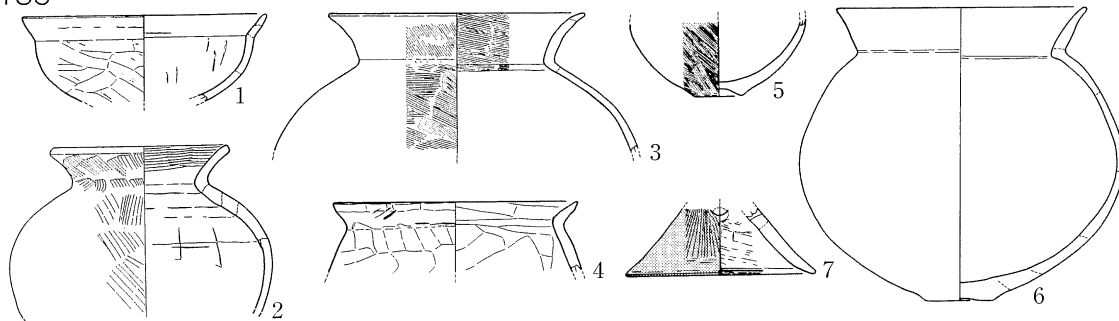
182



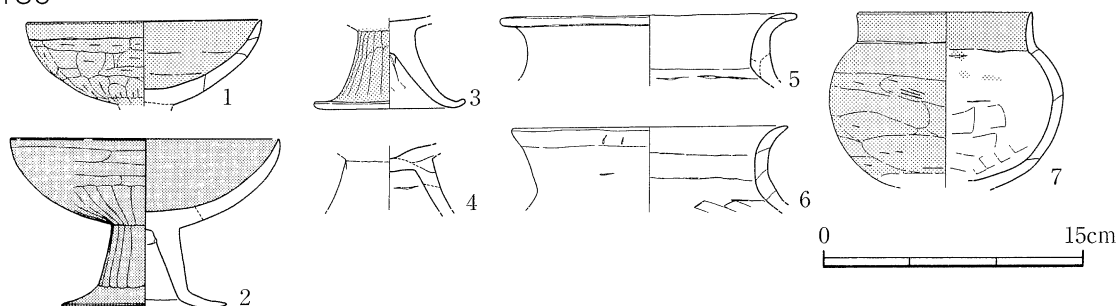
184



185



186



0 15cm

第90図 182・184~186号住居跡出土土器

回りに48・40・54・56cm、柱間は奥260・右332・前248・左328cm。南東壁際右寄りに59×68cm、深さ13cmの隅円方形の貯蔵穴がある。北西コーナーにピットがある。壁溝はない。

出土遺物（第89図）5点の土器を図示した。1～4は器台脚部で、脚内を除き内外面を赤彩している。5は甕底部である。

(207) 179B号住居跡 第88図 図版27－8

179A号住居跡の西コーナーから主軸2.7m、直交2.8m、深さ0.34mの隅円方形の突出部がある。写真では左奥柱穴の内側まで遺構掘形で輪郭が見え独立した住居跡で、179B号住居跡の遺構番号を付けた。炉・柱穴などは確認されていない。

(208) 180号住居跡 第88図 図版27－8

一辺3.8mほどの小判形の住居跡と思われる。深さ0.23m。主軸方位は西に52度。

B地点1次北調査区西、グリッドH-23に位置する。南で214号住居跡、北東で179号住居跡と重複する。179・214号住居跡に挟まれた部分で一段下がり45×20cmの炉と床面があるところから180号住居跡とした。炉の南西にピットが1基あるが用途は分からない。

出土遺物（第89図）器台の脚部が出土している。

(209) 214号住居跡 第88図 図版30－3

主軸3.54m、直交3.38m、深さ0.66mの小判形で、主軸方位は西に66度を測る。

B地点1次北調査区西、グリッドH-23に位置する。北で180号住居跡と重複する。奥壁から55cmで主軸よりやや右に寄って53×37cmの炉がある。南東壁右寄りに28×42cm、深さ15cmの半円形の貯蔵穴がある。壁溝等はない。

出土遺物（第89図）4点の土器を図示した。1は台付鉢の台。2は甕下部欠損、3・4は甕の底部である。

(210) 181号住居跡 第89図 図版28－1

主軸4.82m、直交4.84m、深さ0.32mの隅円方形で、主軸方位は西に41度を測る。

B地点1次北調査区西、グリッドH-22に位置する。南西を182号住居跡が削平する。182号住居跡に削平される部分はあるが炉・壁溝以外遺構内の施設はなかった。

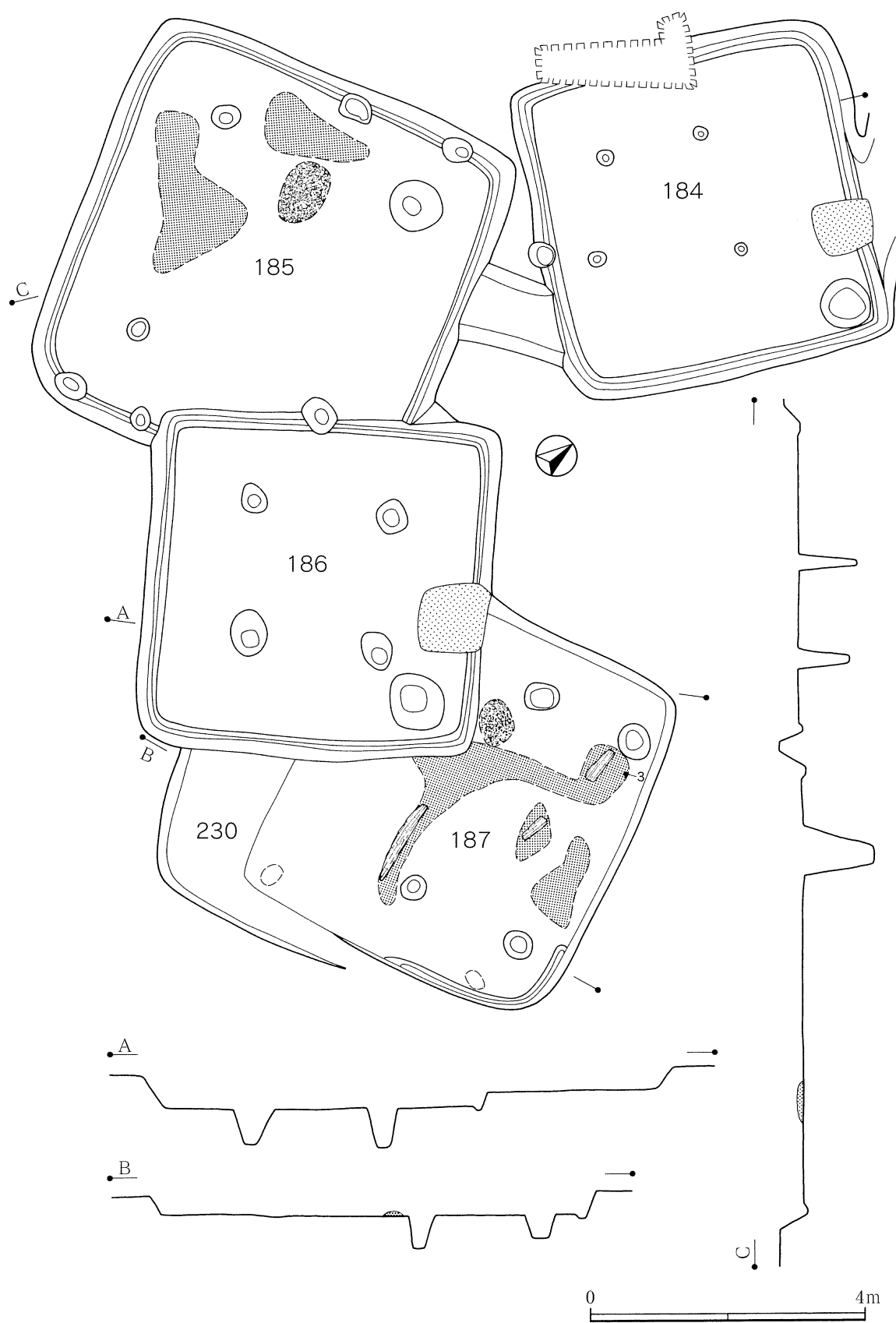
主軸より右に寄って84×50cmの炉がある。壁溝は全周する。北西壁西寄りに径40×48cmほどの粘土がある。

出土遺物（第89図）4点の土器を図示した。1は甕の胴部から底部。2は完形の無頸壺。3は完形の埴。4は甕の口縁部である。

(211) 182号住居跡 第89図 図版28－1～4

主軸3.93m、直交4.23m、深さ0.40mの横長の方形で、主軸方位は東に42度を測る。

B地点1次北調査区西、グリッドGH-22に位置する。北東で181号住居跡を削平する。攪乱もな



第91図 184~187・230号住居跡

く遺構の残存状態は良好だった。

カマド（第137図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに60・56・59・69cm、柱間は奥154・右172・前160・左190cm。東コーナーに68×66cm、深さ60cmの貯蔵穴がある。壁溝は全周する。北西壁際170×49cm、南東壁際163×66cmの焼土2カ所が検出された。

出土遺物（第90図）11点の土器を図示した。1は完形の高杯で、脚内を除き内外面を赤彩している。2・3は高杯脚部で、外面を赤彩している。4は高杯脚部。5は小形甕破片。6は完形の埴。7は完形の甕。8は底部欠損の甕。9・10は甕口縁部。11は完形の甕である。貯蔵穴内から1の高杯、7の甕、11の甕が出土している。

(212) 184号住居跡 第91図 図版28－6

主軸4.94m、直交5.00m、深さ0.30mの方形、主軸方位は東に22度を測る。

B地点1次北調査区西、グリッドHI-21に位置する。北東壁、南東壁で14号方形周構墓を削平する。挿図には変則的な配置のピットが4基図示されているが、写真によると通常の四本柱の位置に柱穴があることが分かる。柱間220から240cmほどである。

カマド（第137図）は、北東壁右寄りに造られる。挿図での4本の柱穴は深さは左奥から右回りに82・52・22・72cm、柱間は奥176・右212・前148・左142cm。東コーナーに径70cm、深さ20cmの円形の貯蔵穴がある。南西壁中央に床からの深さ13cmの出入口ピットがある。壁溝は全周する。

出土遺物（第90図）3点の土器を図示した。1は完形の模倣坏で、内外面を赤彩している。2・3は完形の高杯で、脚内を除き内外面を赤彩している。

(213) 185号住居跡 第91図 図版28－7

主軸6.10m、直交5.88m、深さ0.40mの隅円方形で、主軸方位は西に31度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドH-21>22に位置する。北東壁で14号方形周構墓を削平する。南東を186号住居跡に削平される。

主軸上奥壁から115cmに96×63cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに80・104・76・115cm、柱間は奥296・右324・前296・左332cm。貯蔵穴は確認されていない。壁溝は全周し北西壁・南東壁に深さ20から30cmの各2本計4本の壁柱穴がある。遺構実測後に、右側柱穴を結ぶように240cmの間仕切り溝が検出され、写真には写っている。炉奥と南西部の2カ所に焼土がある。

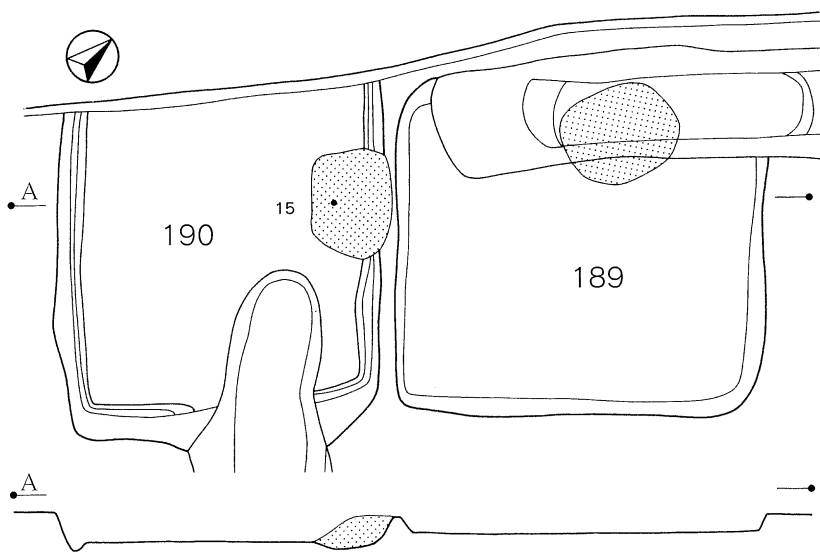
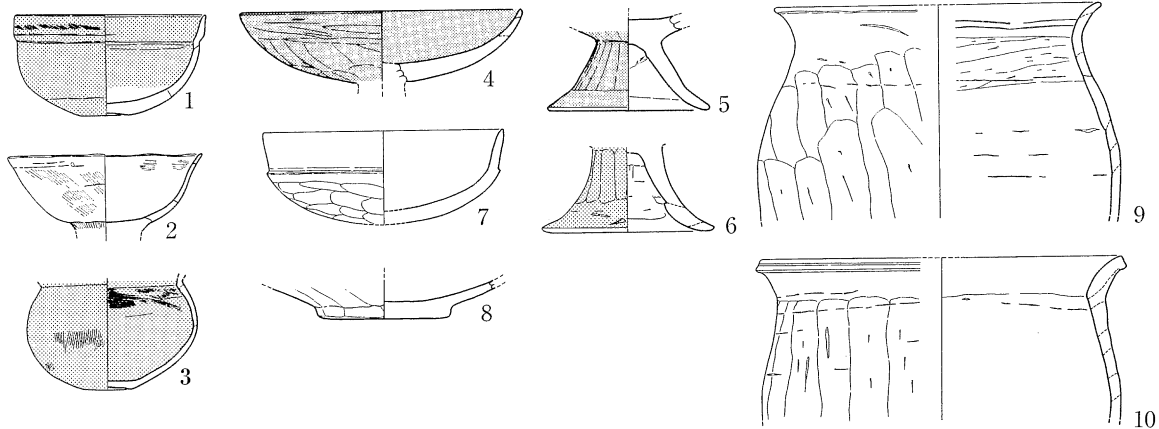
出土遺物（第90図）7点の土器を図示した。1は鉢で底部欠損。2～4は下部欠損の甕。5は埴の胴部。6は完形の甕。7は器台の脚部で、外面を赤彩している。4の甕は184・186号住居跡からの混入品である。

(214) 186号住居跡 第91図 図版28－7

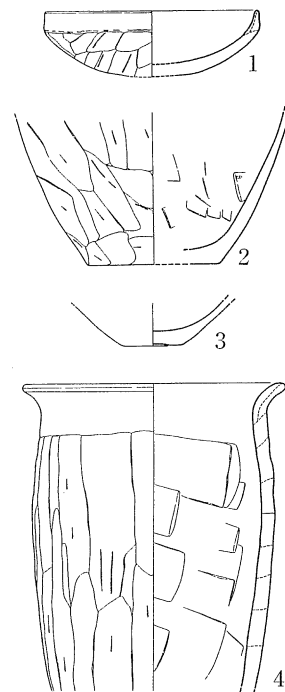
主軸5.08m、直交5.10m、深さ0.50mの方形で、主軸方位は東に46度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドHI-20に位置する。西で185号住居跡、東で187・230号住居跡を

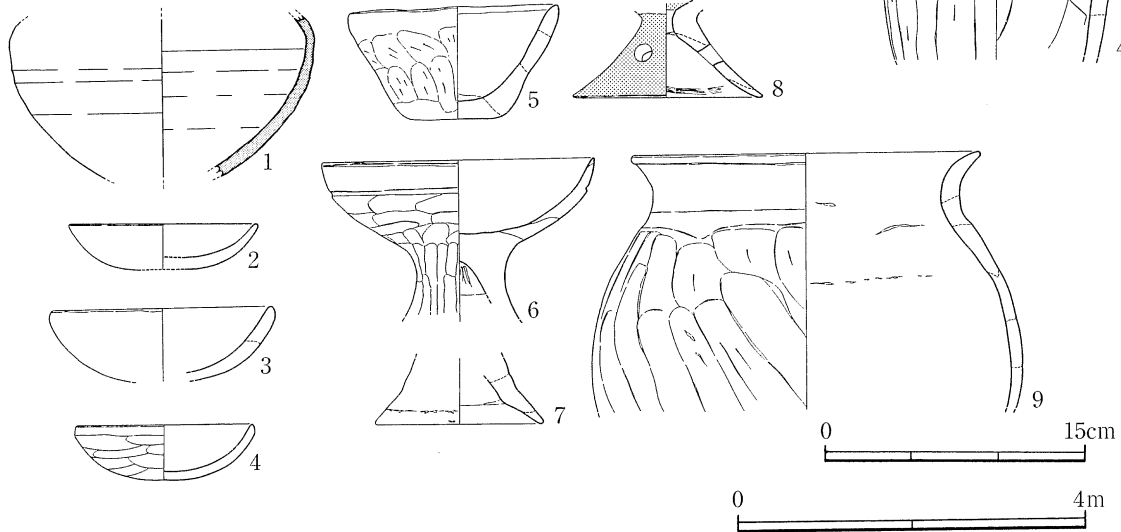
187



189



190



第92図 189・190号住居跡と187・189・190号住居跡出土土器

削平する。

カマド（第137図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに46・62・49・72cm、柱間は奥200・右190・前204・左200cm。東コーナーに88×82cm、深さ69cmの貯蔵穴がある。壁溝は全周する。

出土遺物（第90図）7点の土器を図示した。1～3は高杯で、1は杯部。2は完形。3は高杯脚部。いずれも脚内を除き内外面を赤彩している。4は高杯脚部。5・6は甕口縁部。7は端頸壺で底部を欠損し、胴内面以外は内外面を赤彩している。

土器以外の遺物として第151図19の砥石が出土している。完形で裏側はほぼ制作時のままで、他の面はよく研磨されている。

(215) 187号住居跡 第91図 図版28－8

主軸5.49m、直交4.96m、深さ0.33mの縦長の隅円方形で、主軸方位は西に25度を測る。

B地点1次北調査区南、グリッドI-21>22に位置する。南で230号住居跡を削平し、南西を186号住居跡が削平する。焼土・炭化材が遺構内各所にあり、焼失住居である。

主軸上奥壁から90cmに70×60cmの炉がある。柱穴は遺構の東半分に集中する変則的な柱穴配置で4本検出した。深さは左奥から右回りに17・12・37・50cm、柱間は奥148・右344・前180・左336cm。壁溝は南東コーナーで一部確認した。

出土遺物（第92図）10点の土器を図示した。1は完形の埴で、内面下部を除き内外面を赤彩している。2は器台器受部。3は頸部以上を欠損する埴で、内外面を赤彩している。4は高杯杯部で、内外面を赤彩している。5・6は高杯脚部で、外面を赤彩している。7は完形の模倣坏。8は甕底部。9・10は甕の口縁から胴部である。1～3、8が本遺構に伴う遺物で、他は186号住居跡の遺物である。

土器以外の遺物として第147図6の土製紡錘車が出土している。1/3ほどで、上面が丸みを持つ。

(216) 230号住居跡 第91図 図版28－8

主軸2.5m以上、直交3.5m以上、深さ0.05mの隅円方形

B地点1次北調査区南、グリッドI-20に位置する。北東を187号住居跡、北西を186号住居跡が削平する。187号住居跡南側にコーナーが確認されたが壁以外は不明である。炉は186号住居跡により削平される。

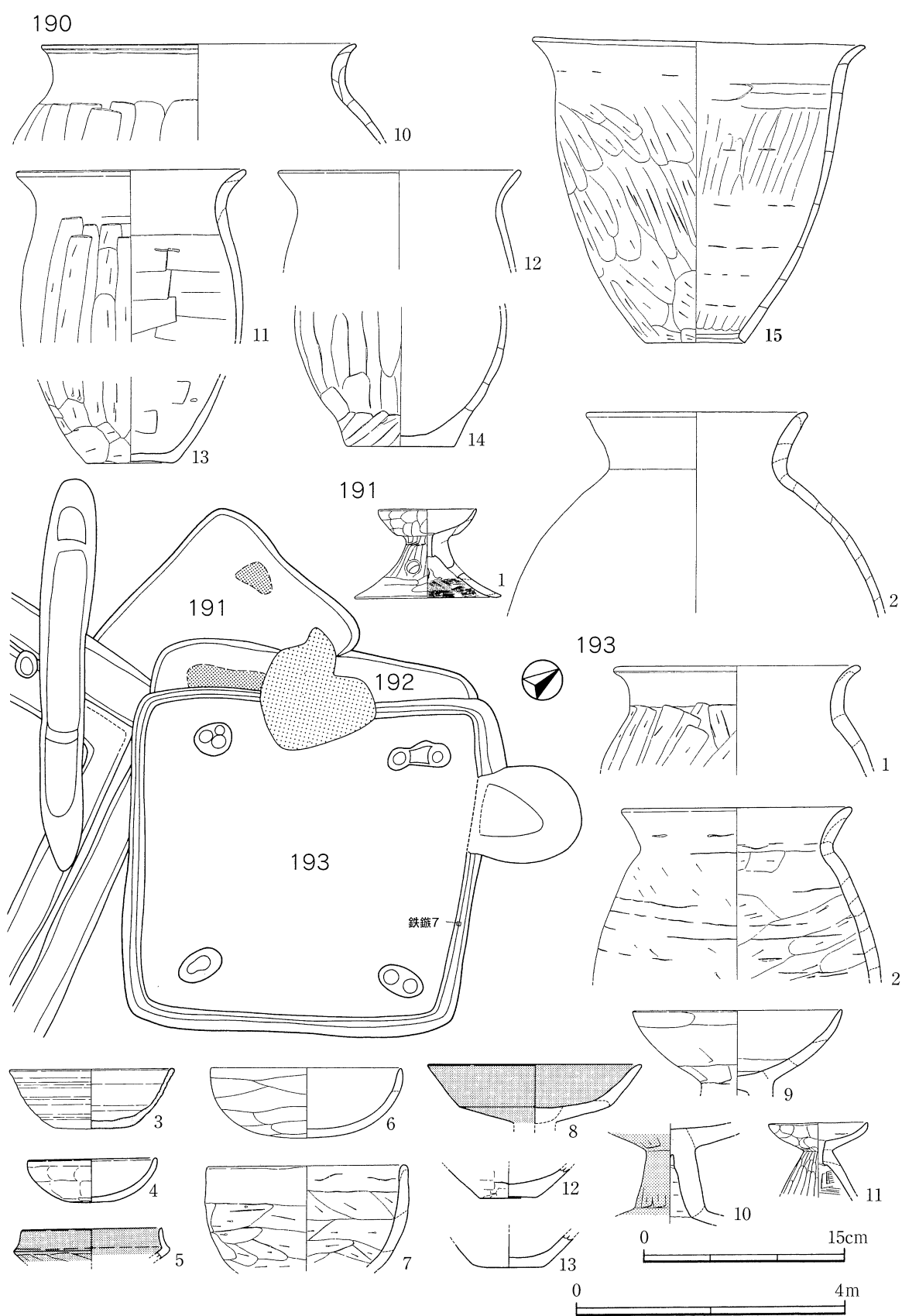
(217) 189号住居跡 第92図 図版29－1・2

主軸3.90m、直交4.23m、深さ0.31mの隅円方形で、主軸方位は西に40度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドE-14<15に位置する。北西5号方形周溝墓上にカマドを造る。住居跡との重複はないが、190号住居跡カマド煙道の先端をわずかに削平している。

カマド（第137図）は、北西壁右寄りに造られる。奥は5号方形周溝墓の上に造られている。

出土遺物（第92図）4点の土器を図示した。1は完形の丸底坏。2は甕底部。3は壺底部。4は長胴甕で下部欠損している。



第93図 191～193号住居跡と190・191・193号住居跡出土土器

(218) 190号住居跡 第92図 図版29-1～4

主軸3.78m、直交4m以上、深さ0.30mの横長の方形で、主軸方位は東に52度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドE-14>15に位置する。東で5号方形周溝墓を貼床する。遺構の北西側が調査区域外にある。

カマド(第137図)は、北東壁に造られる。柱穴・貯蔵穴などの施設は確認できない。壁溝は5号方形周溝墓付近で確認できないが全周する。

出土遺物(第92・93図)15点の土器を図示した。1は須恵壺の胴部破片。2～4は丸底坏。5は完形の鉢。6はほぼ完形の高杯で脚端を欠損している。7は高杯脚部。6・7の高杯は同一個体と考えられるが接合しない。8は器台脚部で、外面を赤彩している。9～14は甕で、上下いずれかが欠損しており完形品はない。15は完形の甕である。

土器以外の遺物として第144図4・145図9の2点の管状土鍾、第144図13・14の土玉が出土している。管状土鍾はいずれも破片、土玉は完形である。

(219) 191号住居跡 第93図 図版14-2

主軸2.9m以上、直交2.96m、深さ0.12mの隅円方形で、主軸方位は西に10度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドDE-13に位置する。東を192・193号住居跡に削平される。北西に焼土がある以外に炉などの遺構内の諸施設はいずれも検出されていない。この遺構は調査の都合で写真は「図版14-2」に遠景として写るのみである。

出土遺物(第93図)2点の土器を図示した。1は完形の器台。2は胴以下欠損する甕である。

(220) 192号住居跡 第93図 図版14-2

主軸0.9m以上、直交4.90m、深さ0.17mの隅円方形で、主軸方位は西に48度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドE-13に位置する。西で191号住居跡を削平し、東の大部分を193号住居跡が削平する。カマドを含め大部分を193号住居跡に削平されている。この遺構は調査の都合で写真は「図版14-2」に遠景として写るのみである。

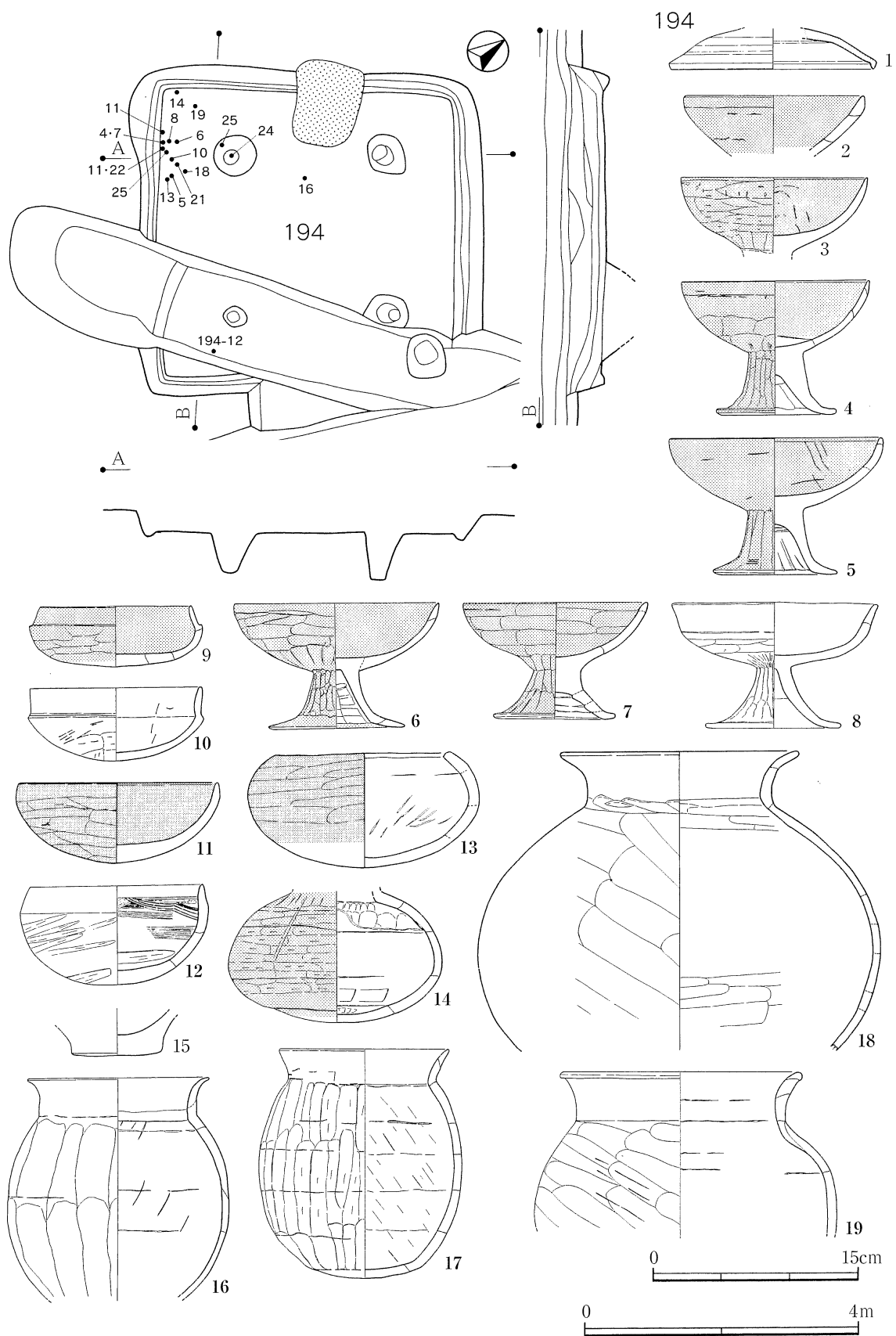
カマド(第137図)は、北西壁中央に造られる。前と中央部を193号住居跡カマドによって攪乱される。柱穴等は不明である。壁溝は確認できない。カマドの左横に焼土がある。

(221) 193号住居跡 第93図 図版14-2

主軸5.18m、直交5.50m、深さ0.30mの方形で、主軸方位は西に50度を測る。

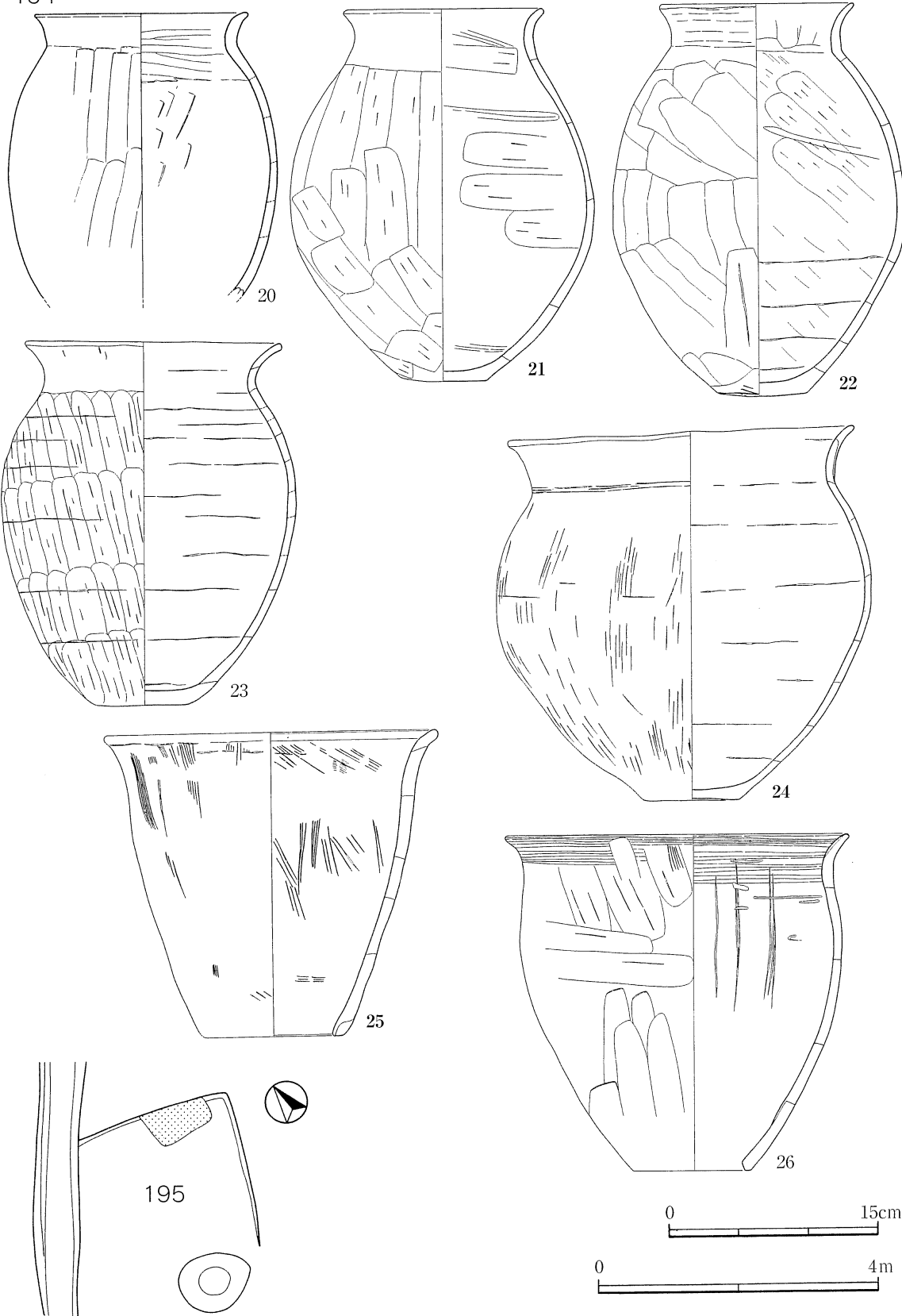
B地点1次南調査区西、グリッドE-13に位置する。北東で11号方形周溝墓主体部と重複する。主体部の本遺構下層部分は掘り上げていない。西で191・192号住居跡を削平する。カマド・柱穴から拡張していることが分かる。この遺構は調査の都合で写真は「図版14-2」に遠景として写るのみである。

カマド(第137図)は、北西壁中央に造られる。煙道は途中で短く造り直されている。柱穴は四本柱全てを検出した。いずれも外に拡張している。レベルは計測していない。拡張前柱間は奥268・右330・前278・左334cm。拡張後柱間は奥346・右348・前326・左350cm。壁溝は全周する。

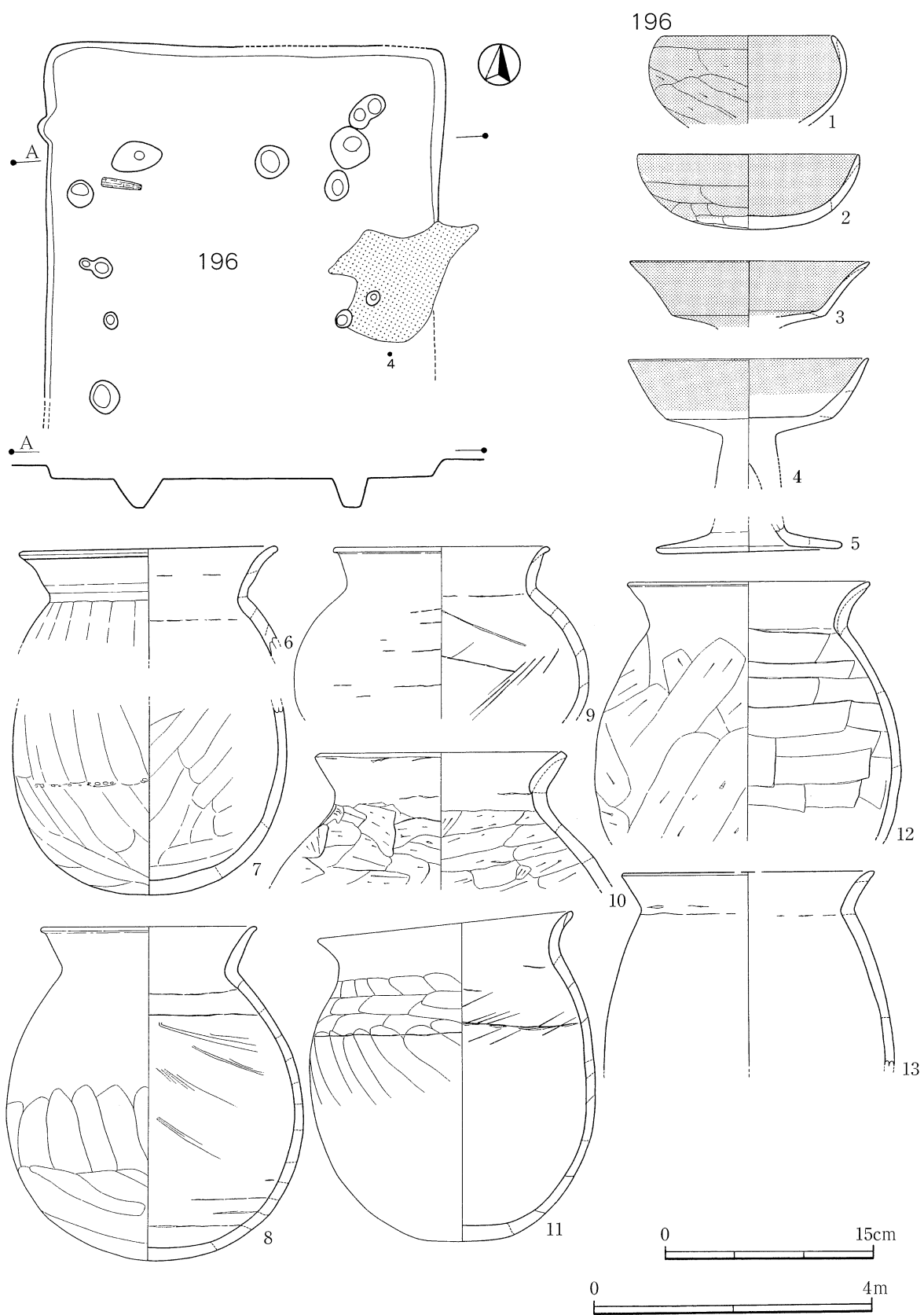


第94図 194号住居跡と出土土器

194



第95図 195号住居跡と194号住居跡出土土器



第96図 196号住居跡と出土土器

出土遺物（第93図）13点の土器を図示した。1・2は下部欠損の甕。3は完形の須恵坏。4・6は完形の丸底坏。5は模倣坏の破片で、内外面を赤彩している。7は碗で下部欠損。8は高杯杯部で、内外面を赤彩している。9は高杯杯部。10は高杯脚部で、外面を赤彩している。11は器台で脚端欠損。12・13は底部破片である。11の器台は重複する191号住居跡の遺物である。

土器以外の遺物として第145図10の管状土鍾、第148図7の鉄鏝、29の鉄滓が出土している。管状土鍾は1/2のみで縦に割れている。鉄鏝は北東壁際から出土している。

(222) 194号住居跡 第94図 図版29-5～8

主軸4.87m、直交5.13m、深さ0.30mの方形で、主軸方位は西に61度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドF-14に位置する。東で5号方形周溝墓に貼床する。重複する住居跡はない。

カマド（第137図）は、北西壁やや右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。レベルは計測していない。柱間は奥220・右230・前224・左232cm。東コーナーに66×55cmの貯蔵穴がある。壁溝は全周する。南東壁中央外側が一段下がる。重複が激しく決定的ではないが張り出し施設ではないかと考えられる。

出土遺物（第94・95図）26点の土器を図示した。1は須恵蓋坏で上中央を欠損。2・3は高杯杯部、内外面を赤彩している。4～8は完形の高杯で、8以外は全て脚内を除き内外面を赤彩している。9は完形の模倣坏で、内外面を赤彩している。10は完形の模倣坏。11は完形の丸底坏で、内外面を赤彩している。12は完形の碗。13は埴で、頸部欠損後、上を擦って碗として再利用している。外面を赤彩している。14は埴の胴部。外面を赤彩している。15は底部。16は底部欠損の甕。17は完形の甕。18～20は甕下部欠損の甕。21～24は完形の甕。25・26は完形の甗である。左前の柱穴脇、5号方形周溝墓上の貼床で12の碗が出土。左奥柱穴脇に4～8の高杯、10・11の坏、13・14の埴、17～19・21・22の甕、25の甗、左奥柱穴埋土中に23・24の甕、カマド前90cmに16の甕が出土している。

土器以外の遺物として第143図15の土製支脚、第146図15の土玉、第147図15の不明土製品が出土している。土製支脚は円筒形の頂部破片、土玉は完形である。不明土製品としたものは、断面円形の粘土をねじって焼成したもので用途が分からず不明とした。

(223) 195号住居跡 第95図 図版17-7

主軸3.3m以上、直交2.2m以上の方形

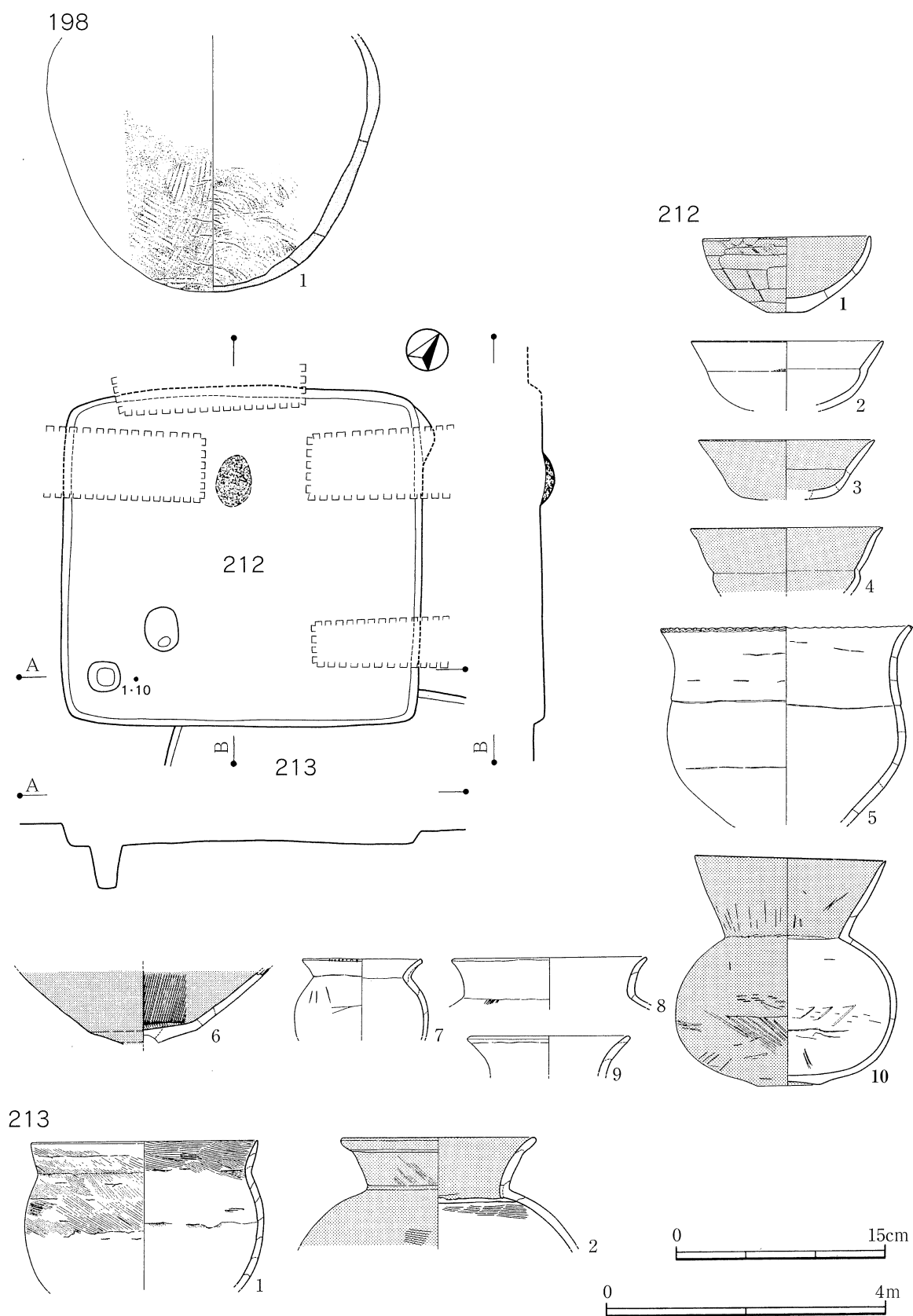
B地点1次南調査区西端、グリッドI-12に位置する。西を5号溝が削平する。調査区の南西端にあり南は斜面のために確認できない。図版17-7の左奥にわずかに写っている。

カマド（第138図）は、北東壁に造られる。南側に径60cmのピットがある。貯蔵穴の可能性がある。壁溝はない。

(224) 196号住居跡 第96図 図版14-2

主軸5.72m、直交5m以上、深さ0.30mの方形で、主軸方位は東に84度を測る。

B地点1次南調査区西、グリッドE-11に位置する。他の遺構との重複はない。この遺構は調査の



第97図 212・213号住居跡と198・212・213号住居跡出土土器

都合で「図版14-2」に遠景があるのみ。南側は調査区域外となるため壁、貯蔵穴は確認できなかった。

カマド（第138図）は、北東壁に造られる。柱穴は四本柱の右奥の柱穴を除き3本を検出した。深さは左奥から右回りに44・34・42cm、柱間は前352・左308cm。貯蔵穴は確認できなかったがカマド右脇で遺物の出土が多く、この外に存在した可能性が高い。壁溝はない。遺構内に10本のピットが散在している。カマドを削平するなどいずれも遺構より新しい。北西に炭化物が残っているが、焼土等がないようで焼失家屋ではなさそうである。

出土遺物（第96図）13点の土器を図示した。1は底部欠損の碗で、内外面を赤彩している。2は完形の丸底坏で、内外面を赤彩している。3～5は高杯で、3は杯部で、内外面を赤彩する。4は脚端欠損で、坏上半の内外面を赤彩している。5は脚部である。6～13は甕で、8・11は完形である。甕は7・8・11に見られるようにいずれも丸底に造られている。カマドの南側で4の高杯が床面から出土している。

土器以外の遺物として第147図8の磨製石鏃、第151図16の砥石が出土している。磨製石鏃は下端が欠損しているがほぼ原形を残している。下に矢柄への固定用の糸掛けがえぐられている。砥石は上下が欠けているが三角形の不整形で上と側面をよく研磨している。

(225) 198号住居跡 第6図

B地点1次南調査区中央、グリッドF-13に位置する。097号住居跡北側で炉が検出され周囲に床面が部分的に確認された。規模・施設等は不明である。楕円形の炉の形から弥生時代後期の住居跡と判断した。

出土遺物（第97図）須恵壺の胴部破片がある。遺構の時期と合わず、097号住居跡出土遺物を写真撮影の際に移動しこの番号で取り上げた可能性が高い。

(226) 212号住居跡 第97図 図版30-1・2

主軸4.92m、直交5.17m、深さ0.28mの横長の方形で、主軸方位は西に34度を測る。

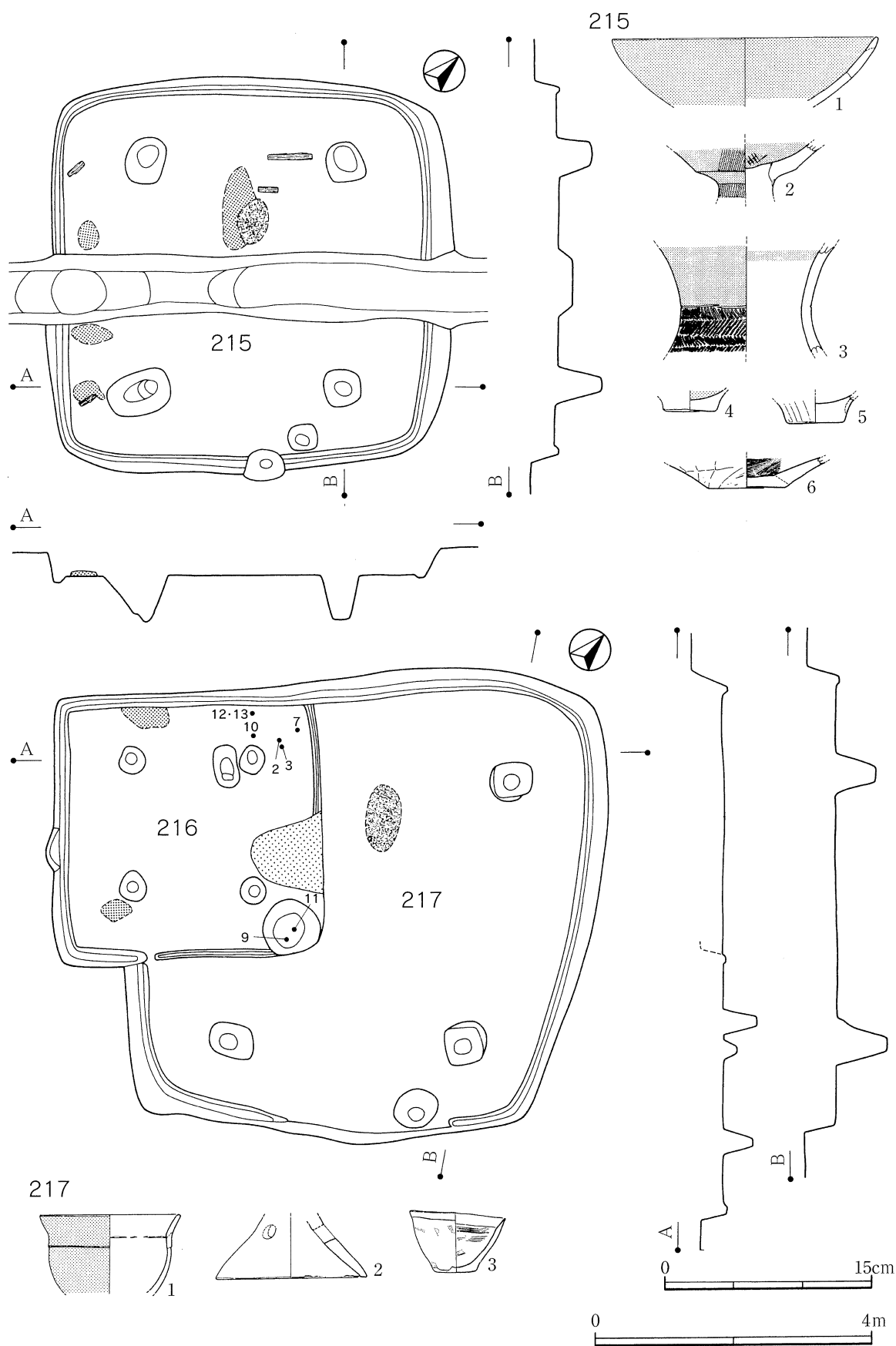
B地点1次北調査区北、グリッドH-26に位置する。東で213号住居跡を削平する。遺構の主軸と直交して奥壁1、左壁1、右壁2の4カ所の攪乱溝がある。

主軸上奥壁から85cmに75×50cmの炉がある。柱穴は四本柱の1本を検出した。深さ43cmの左前の柱穴のみで他は柱穴のあるべき所に攪乱溝があり検出できなかった。南コーナーに43×46cm、深さ65cmの隅円方形の貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第97図）10点の土器を図示した。1は完形の碗で、内外面を赤彩している。2～4は埴の破片で、3・4は内外面を赤彩している。5は波状口縁で頸部に段のある甕で底部欠損。6は高杯杯部、内外面を赤彩している。7は小形の甕で下部を欠損。8は甕口縁部。9は壺口縁部。10は完形の埴で、胴内を除き内外面を赤彩している。貯蔵穴の脇の床面で1の碗が出土している。

(227) 213号住居跡 第97図・第6図 図版30-1

B地点1次北調査区北、グリッドIJ-26に位置する。西を212号住居跡、東を3号溝が削平する。



第98図 215～217号住居跡と215・217号住居跡出土土器

212号住居跡南東で南西壁を検出した。床面が若干残り遺物も数点検出されている。

出土遺物（第97図） 1は甕下部欠損。2は壺の上部で、胴内を除き内外面を赤彩している。212・213号住居跡の土器については212号住居跡の5の甕だけが時期が異なり、これが213号住居跡の遺物で、他の遺物は212号住居跡に所属するものと考えられる。

(228) 215号住居跡 第98図 図版30-4

主軸5.80m、直交5.80m、深さ0.30mの隅円方形で、主軸方位は西に48度を測る。

B地点1次北調査区西、グリッドGH-24に位置する。中央を3号溝が削平する他は重複はない。

主軸上奥壁から160cmに70×42cmの炉がある。上に120×50cmの焼土が乗っている。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに41・51・65・65cm、柱間は奥284・右330・前278・左336cm。南東壁中央にかかって床面からの深さ27cmの出入口ピット、南東壁際右寄りに38×48cm、深さ27cmの貯蔵穴がある。壁溝は全周する。炉周辺、南西壁際に焼土、炭化材が多く残され焼失住居である。

出土遺物（第98図） 6点の土器を図示した。1は高杯杯部。2は高杯接合部で、いずれも内外面を赤彩している。3は壺頸部で、沈線で区画し羽状縄文を施す、施文部以外の外面と内面の上を赤彩している。4・5は壺底部。6は甕底部。3の壺は本遺構に伴わない。

(229) 216号住居跡 第98図 図版30-5～8

主軸3.96m、直交3.93m、深さ0.33mの方形で、主軸方位は東に46度を測る。

B地点1次北調査区西、グリッドG-23に位置する。北東で217号住居跡を削平する。217号住居跡と重複している部分では壁溝が狭くなり途切れるところもあるが本来はカマドと貯蔵穴の間を除いて全周していたものとする。

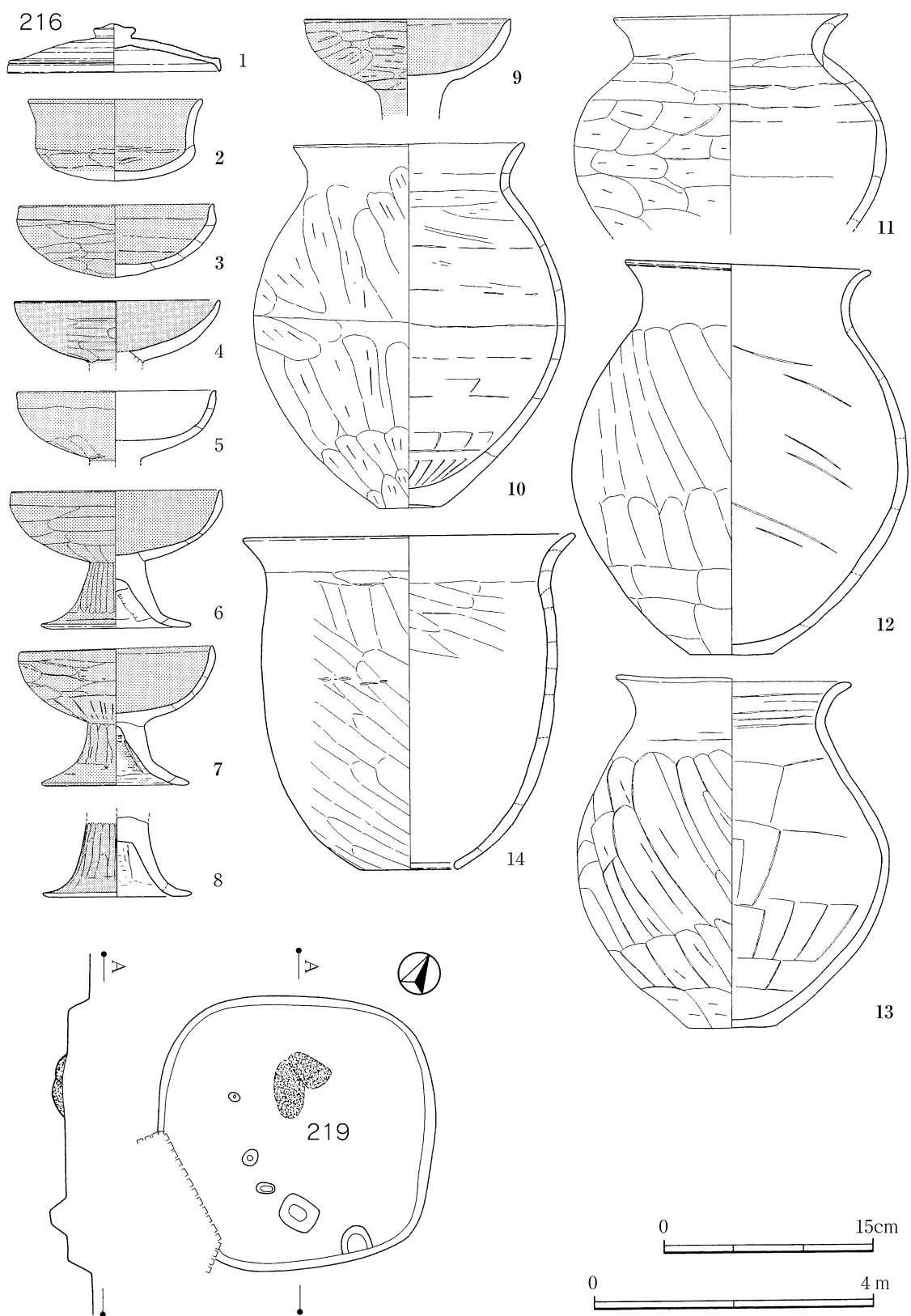
カマド（第138図）は、北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに45・56・55・40cm、柱間は奥194・右176・前186・左176cm。カマド右のコーナー部分に径83×78cm、深さ35cmの円形の貯蔵穴がある。壁溝はカマド右脇で途切れる。カマドの反対側南西壁に壁を半円形に掘り込んだ段状の施設がある。出入口に関係するものかもしれない。北西壁際に90×30cm、南西に45×42cmの焼土がある。

出土遺物（第99図） 14点の土器を図示した。1は完形の須恵蓋坏でつまみが付く。2は完形の模倣坏で、底部外面を除き内外面を赤彩している。3は完形の丸底坏で、内外面を赤彩。4は高杯杯部で、内外面を赤彩。5は高杯杯部で、外面を赤彩。6・7は完形の高杯で、脚内を除き内外面を赤彩。8は高杯脚部で、外面を赤彩。9は脚の一部が残る、高杯杯部で、内外面を赤彩。10・12・13は完形の甕。11は下部欠損の甕。14は完形の甗である。貯蔵穴内で11の甕内に9の高杯を入れた状態で出土。左奥の柱穴の外に2・3の坏、7の高杯、10・12・13の甕が出土している。

(230) 217号住居跡 第98図 図版30-5

主軸6.93m、直交7.00m、深さ0.45mの隅円方形で、主軸方位は西に40度を測る。

B地点1次北調査区西、グリッドGH-23に位置する。南西を216号住居跡が削平する。



第99図 219号住居跡と216号住居跡出土土器

奥の柱穴の間の右寄りに98×50cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに45・61・65・65cm、柱間は奥416・右370・前340・左386cm。南東壁際右寄りに58×66cm、深さ37cmの貯蔵穴がある。壁溝は南東壁中央で280cm途切れる以外全周すると思われる。

出土遺物（第98図）3点の土器を図示した。1は埴の胴部破片で、外面を赤彩している。2は器台脚部。3は完形の碗である。

(231) 219号住居跡 第99図 図版31-7

主軸3.96m、直交3.96m、深さ0.40mの小判形で、主軸方位は西に28度を測る。

B地点1次北調査区北、グリッドI-24に位置する。北東で220号住居跡と接する。南西側は大きく攪乱されている。全体図作成後の精査で検出した遺構で他の遺構との関係を正確に記録した位置図がなく、写真などから全体図中に収めた。

主軸上の84×40cmの楕円形の炉に65×36cmの炉が重複している。南西側にピットが3基あるが浅くいずれも柱穴とはならない。主軸上前から60cmに深さ22cmの出入口ピット、南東壁右寄りに35×40cm、深さ13cmの貯蔵穴がある。壁溝はない。

土器は特に図示すべきものはなく、土器以外の遺物として第155図14の軽石が出土している。

(232) 218号住居跡 第100図 図版31-1～6

主軸4.30m、直交3.58m、深さ0.45mの縦長の方形で、主軸方位は東に42度を測る。

B地点1次北調査区西、グリッドFG-22に位置する。他の遺構との重複はない。単独の検出で攪乱も少ない。北西側で3号溝が218号住居跡を避けるように屈曲している。

カマド（138図）は、北東壁中央に造られる。柱穴はなかった。カマド右コーナーに径70cm、深さ40cmの円形の貯蔵穴がある。南東壁寄りに深さ18・12cmのピットがある。出入口に関する施設かもしれない。壁溝は南東壁下以外に確認された。貯蔵穴内に30cmほどの厚さで貝層がある。北西壁北に45×30cm、床面と同レベルの半円形の突出部、南東壁左寄りに小ピットがある。南東壁際に110×42cmの焼土がある。

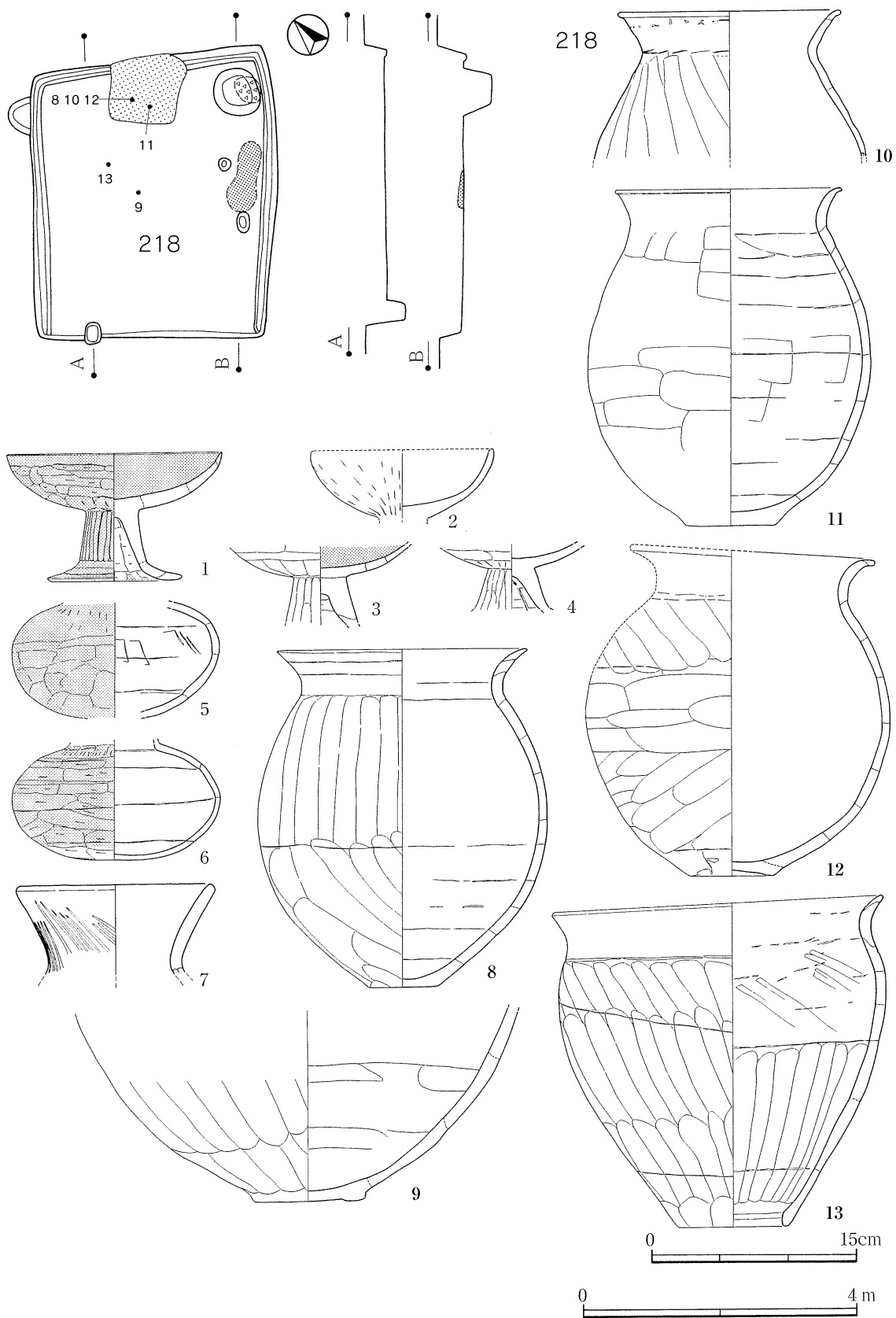
出土遺物（第100図）13点の土器を図示した。1は完形の高杯で、脚内を除き内外面を赤彩。2は高杯杯部。3は高杯接合部、坏内を赤彩。4は高杯接合部。5は上下欠損の埴で、外面を赤彩。6は頸部以上欠損の埴で、外赤彩。7は壺口縁部。8は完形の甕。9は甕上部欠損。10は甕下部欠損。11・12は完形の甕。13は完形の甕。8・11の完形の甕2点はカマド内、9の甕下半と13の甕はカマドの前1mほどの床面から出土している。

(233) 236A号住居跡 第101図 図版32-1・2

主軸5.33m、直交5.17m、深さ0.5mの方形で、主軸方位は東に65度を測る。

B地点2次調査区東、グリッドQ-14<15に位置する。北で241号住居跡を削平し、北東を236B号住居跡が削平、南西に2号地下式塙が造られる。南西側は調査区域外となり、前2本の柱穴は2号地下式塙内と区域外になる。

カマド（238図）は、北東壁中央に造られる。柱穴は四本柱の2本を検出した。深さは左奥53cm、



第100図 218号住居跡と出土土器

右奥45cm、柱間は270cm。南東壁際に深さ20cmの出入口ピットがある。壁溝は全周する。

出土遺物（第102図）12点の土器を図示した。1・2は須恵蓋坏で中央を欠損。3は平底坏で中央を欠損し、底部は薄くなっている。4は完形で格子状の暗文のある坏。5は完形の丸底坏、6は丸底坏破片。7は模倣坏破片。8～11は甕下部欠損、12は甕上部欠損。南東壁溝上に5・6の坏、8～10・12の甕が並んで出土している。カマド左脇には支脚が4点出土している。

土器以外の遺物として第143図16～19の4点の土製支脚がカマドの左側の壁際に並んでいた。16は頂部のみ、17は頂部と中央部が接合した。18・19は接合しないが色調、胎土から同一個体である。

(234) 236B号住居跡 第101図 図版32-1

主軸2.8m以上、直交2.8m以上、深さ0.50m、主軸方位は西に21度を測る。

B地点2次調査区東、グリッドQ-15に位置する。北西で241号住居跡、東で236A号住居跡を削平する。南西に2号地下式墳が造られる。236A号住居跡中に大部分が構築されているため規模は不明。カマド右で壁がゆがんでいるのは本遺構の影響である。左側柱穴2本は2号地下式墳で削平されている。

カマド（第238図）は、北西壁に造られる。柱穴は四本柱の右側2本を検出した。深さ右奥26cm、右前22cm、柱間は右145cm。236A号住居跡左奥柱穴と重複するピットがある。壁溝はない。

土器以外の遺物として2号地下式墳出土の軽石（第155図13）は、落下した天井より上の検出で本遺構に伴うものである。出土遺物は236A号住居跡のものと分離できていない。出土位置の分かる遺物は236A号住居跡の物のみである。

(235) 241号住居跡 第101図 図版32-3

主軸6.70m、直交5.70m、深さ0.25mの縦長の小判形で、主軸方位は西に51度を測る。

B地点2次調査区東、グリッドQ-15に位置する。南東を236号住居跡、北西243号住居跡、東を5号台地整形区画に削平される。後世各時代の遺構に周囲を削平されるが遺構本体はよく残っている。北東に拡張されており右の柱穴、出入口ピット、貯蔵穴はそれぞれ2基ある。

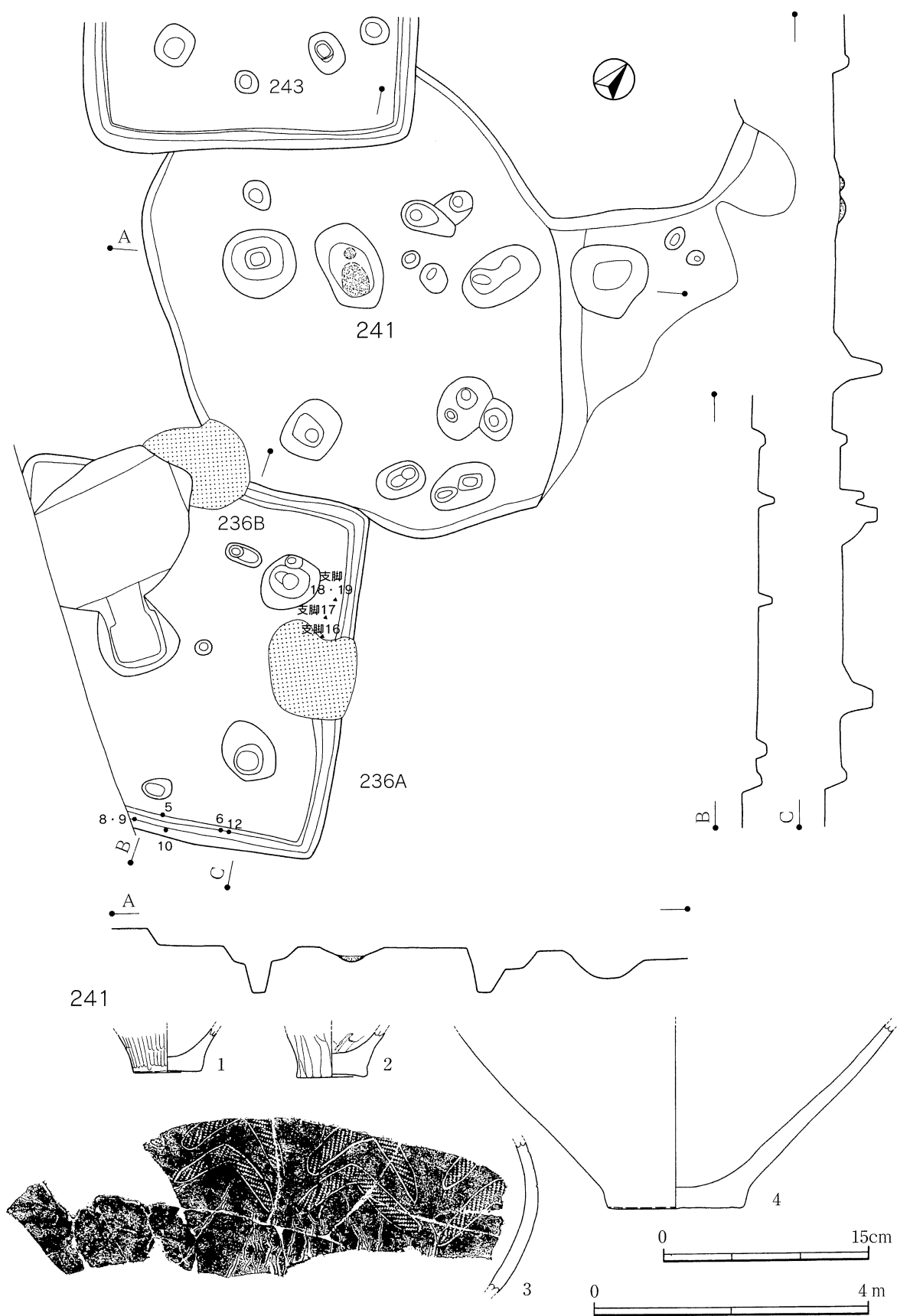
炉は135×82cmの掘形内に北側に径16cm、南に52×40cmの焼土がある。柱穴は四本柱全てを検出した。北東側の2本は外に拡張されている。拡張前、深さは左奥から右回りに70・74・66・68cm、柱間は奥238・右298・前228・左270cm。出入口ピット深さ40cm、貯蔵穴深さ40cm。拡張後、深さは右奥65・右前59cm、柱間は奥302・右322・前264cm。出入口ピット深さ38cm、貯蔵穴深さ33cm。壁溝はない。北東側のピットはほぼ同位置で外に建て替えられている。

出土遺物（第101図）4点の土器を図示した。1・2は甕底部、3は壺の胴部破片で、への字に沈線で区画し縄文で埋めた文様が2段残っている。4は大形壺の底部である。

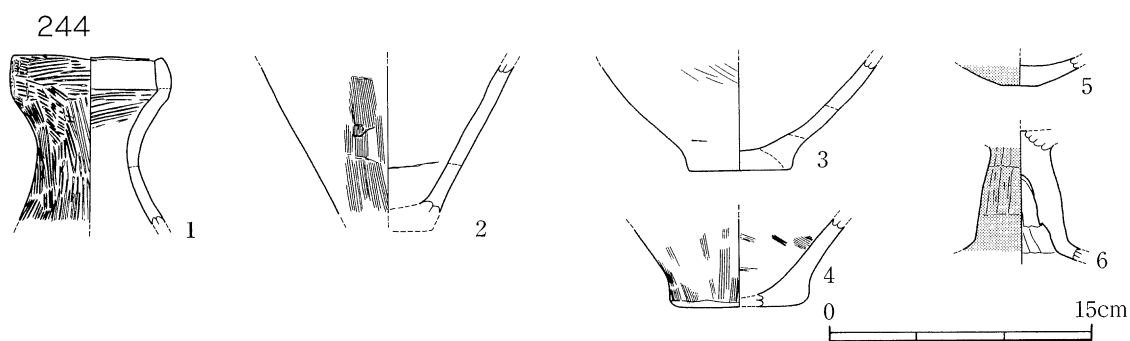
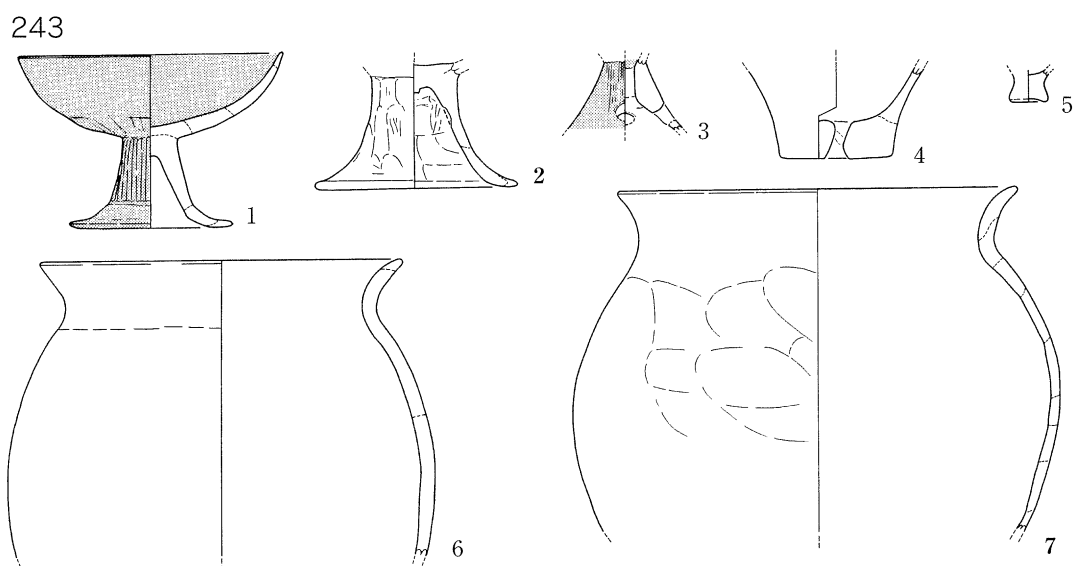
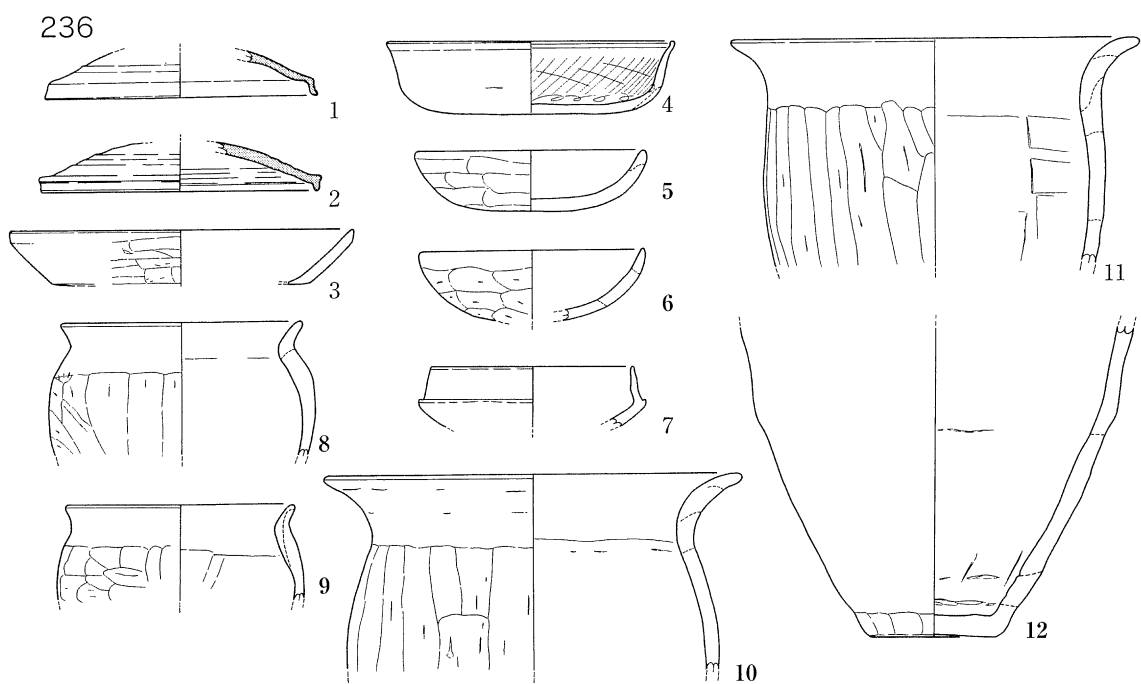
(236) 243号住居跡 第103図 図版32-4

主軸4.90m、直交4.77m、深さ0.45mの方形で、主軸方位は西に35度を測る。

B地点2次調査区東、グリッドPQ-15>16に位置する。東で241号住居跡、北西で244号住居跡を削平する。244号住居跡の柱穴がある以外遺構はよく残っており床面も硬い。



第101図236A・B・241号住居跡と241号住居跡出土土器



第102図 236・243・244号住居跡出土土器

カマド（第138図）は北西壁やや右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに52・52・60・51cm、柱間は奥228・右220・前220・左216cm。主軸上南東壁から80cmに深さ17cmの出入口ピットがある。壁溝は全周する。

出土遺物（第102図）7点の土器を図示した。1は完形の高杯で、脚内を除き内外面を赤彩している。2は高杯脚部でカマド内出土。3は器台脚部で、外面を赤彩。4は甑の底部。5は手捏土器底部。6・7は下部欠損の甕で7はカマド左前出土である。3・4は重複する244B号住居跡の遺物である。

土器以外の遺物として第143図20の土製支脚が出土している。カマド内で使用されていた状態で出土しているが、下部は崩れてしまった。図示した部分は頂部で高杯脚部を載せていたものがカマドの熱で焼けて土器と一体化したものである。

(237) 244A号住居跡 第103図 図版32-5

主軸6.58m、直交5.50m、深さ0.19mの縦長の小判形で、主軸方位は西に56度を測る。

B地点2次調査区東、グリッドPQ-15>16に位置する。南東を243・247号住居跡、西を248号住居跡、北を246号住居跡に削平される。246・248号住居跡と重複する部分は掘り上げていない。南西は243号住居跡に削平されている。南東2本の柱穴、出入口ピットはそれぞれ2基確認され南東に拡張されたものと考えられる。

奥から170cm奥柱穴間やや右寄りに90×82cmの掘形内に42×40cmと径30cmの焼土の炉がある。四本柱全てを検出した。前の2本は外に建て替えられている。左前の柱穴は243号住居跡右奥の柱穴と重複し北東と南に挟むように検出された。拡張前、深さは左奥から右回りに65・71・58・79cm、柱間は奥238・右290・前250・左288cm。南東壁際右寄りに49×43cm、深さ23cmの貯蔵穴。主軸上前壁から75cmに深さ54cmの出入口ピットがある。拡張後、深さ右前41cm、左前69cm、柱間は右290・前308・左326cm。南東壁際右寄りに52×45cm、深さ23cmの貯蔵穴。主軸上前壁から60cmに深さ53cmの出入口ピットがある。壁溝は全周する。遺構内に3カ所炭化物があるが焼失住居といえるほどの規模ではなく、床面も特に焼けた様子はなかった。

出土遺物（第102図）6点の土器を図示した。1は壺の頸部以上の破片で南東壁下から検出された。2は甕底部。3・4は壺底部。5は埴の底部で、外面を赤彩。6は高杯脚部で、外面を赤彩している。5の埴は244B号住居跡、6の高杯は243・246号住居跡のいずれかの遺物である。

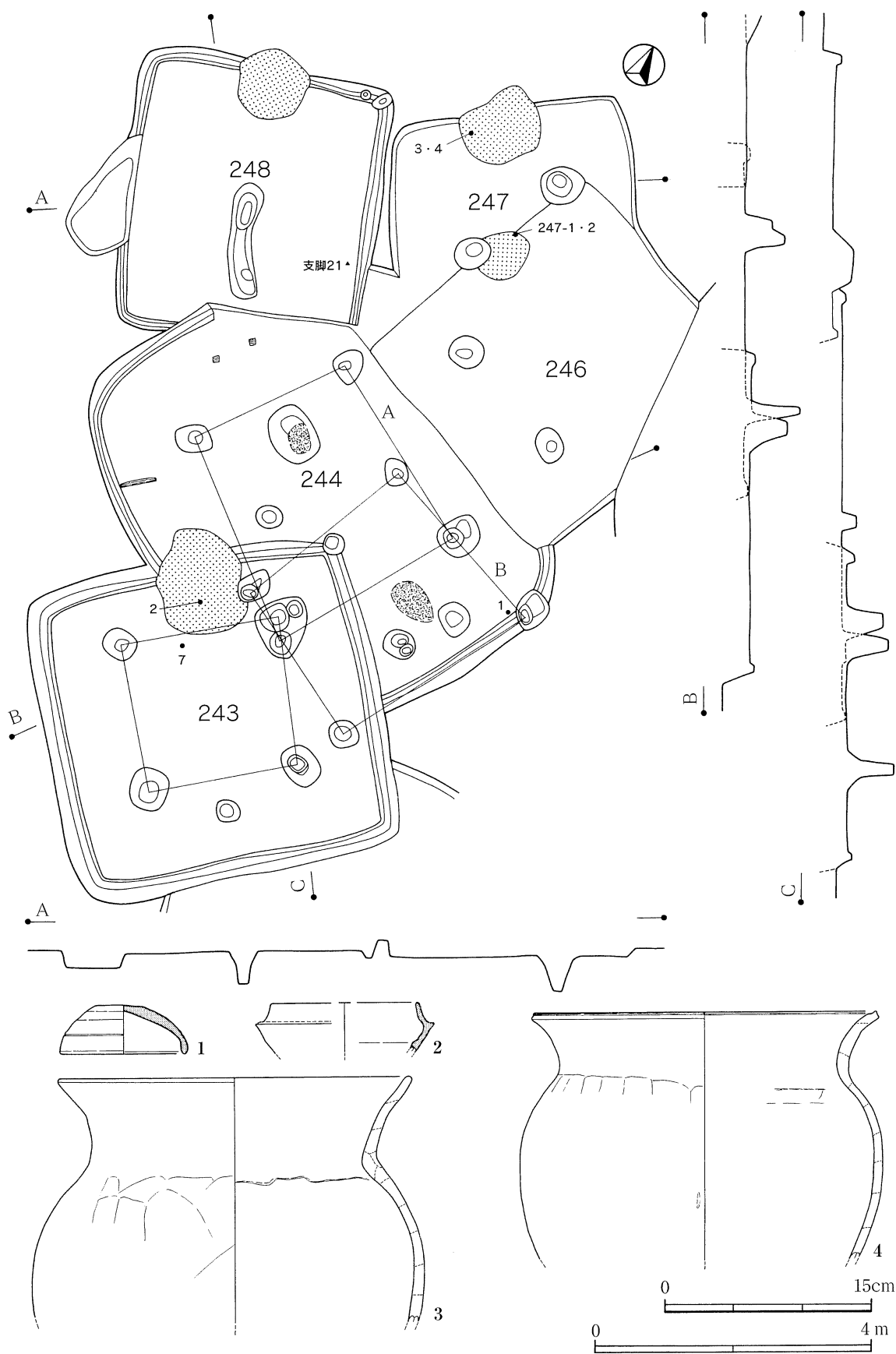
土器以外の遺物として第155図15の軽石が出土している。

(238) 244B号住居跡 第103図 図版32-5

主軸3.8m以上、直交3.7m以上。主軸方位は東に116度を測る。

B地点2次調査区東、グリッドPQ-15<16に位置する。北を246号住居跡、南東を243号住居跡が削平する。244A号住居跡の柱穴配置等を調べると炉を含めて住居跡1軒分が余ることがわかり、出土遺物の中に時期の異なるものがあり、遺構確認の際に軟弱な床面を掘りすぎてしまったものと判断した。

炉は244A号住居跡の出入口ピットと貯蔵穴に挟まれる位置にあり、73×44cmの楕円形である。柱穴は四本柱全てを検出した。遺構南東壁にあるのが左奥で、243号住居跡北東壁際が右奥、243号住居



第103図 243・244A・B・246～248号住居跡と247号住居跡出土土器

跡カマド脇が右前、244号住居跡北東中央に左前の柱穴がある。深さは左奥から右回りに48・63・55・42cm、柱間は奥310・右246・前274・左280cm。前2本の柱穴の中間やや炉に寄って、深さ54cmの出入口ピット。243号住居跡カマド北東に38×36cm、深さ42cmの貯蔵穴がある。

(239) 246号住居跡 第103図 図版32-6

主軸4.15m、直交3.96m、深さ0.21mの方形で、主軸方位は西に64度を測る。

B地点2次調査区東、グリッドPQ-16に位置する。南で244号住居跡に貼床し、北西で247号住居跡、4号台地整形区画が削平する。四本柱の配置で右側の2本が検出されていない。実測図に攪乱等は書き込まれていないことからこのような柱穴配置なのか探し足りないのかは不明である。

カマドは北西壁右寄りに造られ、カマド上部を247号住居跡が削平。柱穴は四本柱の2本を検出した。深さは左奥39cm、左前47cm、柱間は左184cm。壁溝その他の施設はない。

(240) 247号住居跡 第103図 図版32-6

主軸2.3m以上、直交3.58m、深さ0.20mの方形で、主軸方位は西に27度を測る。

B地点2次調査区東、グリッドPQ-16に位置する。南で244号住居跡、南東で246号住居跡を削平する。四本柱の配置で左奥と右前の2本が検出されていない。

カマド(第139図)は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱の2本を検出した。深さ右奥53・左前28cm。壁溝はない。

出土遺物(第103図)4点の土器を図示した。1は完形の須恵蓋坏。2は須恵坏破片。3・4は下半欠損の甕でカマド左側から出土している。246号住居跡カマド痕跡上から1・2の須恵器が出土している。カマドの袖の基部に埋められていたものであれば246号住居跡に所属するものになる。

土器以外の遺物として第145図13の管状土鍾が出土している。3片が接合し1/2弱が残る。

(241) 248号住居跡 第103図 図版32-7

主軸4.23m、直交3.73m、深さ0.25mの縦長の方形で、主軸方位は西に19度を測る。

B地点2次調査区東、グリッドP-16に位置する。南東で244号住居跡を貼床し、南西で土坑と重複する。左側土坑と前の244号住居跡上では壁をとらえることができなかった。

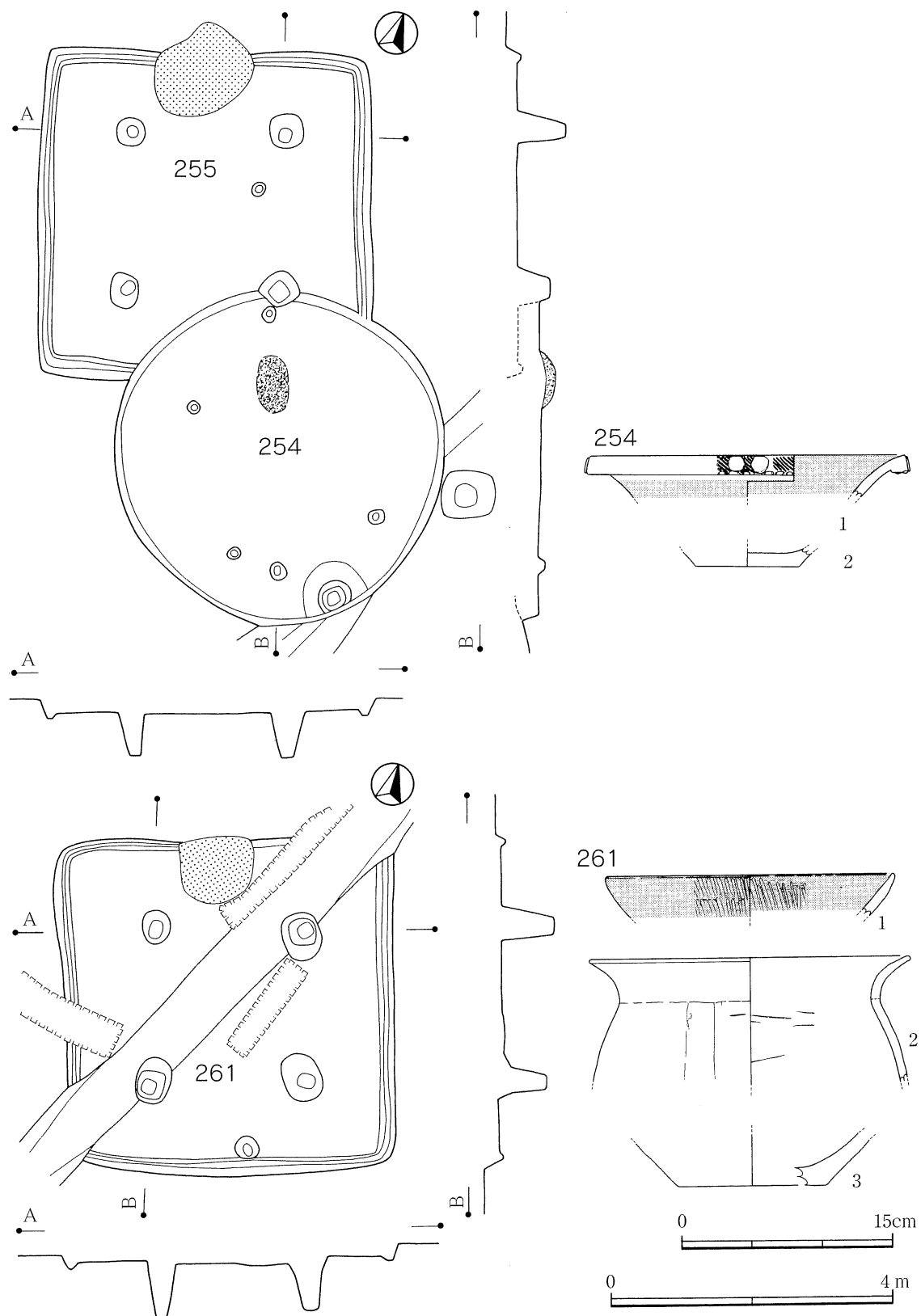
カマド(第139図)は北西壁中央に造られる。遺構中央と南東壁際に2基のピットがあり二つが溝でつながっている。遺構中央の一本柱と出入口ピットと考えられる。深さ中央47cm、出入口ピット26cm。壁溝は全周する。

土器には特に図示すべきものはなかったが、土器以外の遺物として第143図21の土製支脚が出土している。南西部壁寄りの出土で中央部の破片である。

(242) 254号住居跡 第104図 図版32-8・33-1

主軸4.82m、直交4.65m、深さ0.51mの円形、主軸方位は西に20度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドO-17に位置する。北西で255号住居跡が貼床し、東を7号溝が削平する。遺構の残りはよく床面は硬いが柱穴は3本しか確認できなかった。配置としてはおかしい



第104図 254・255・261号住居跡と254・261号住居跡出土土器

が炉奥壁際にあるピットが柱穴になる可能性もある。

奥壁から80cmに82×44cmの炉がある。柱穴は四本柱の3基を検出した。炉奥のピットを柱穴として、深さは左奥から右回りに9・14・19・18cm、柱間は奥166・右338・前206・左216cm。主軸上南東壁から56cmに深さ7cmの出入口ピット、南東壁際に29×34cm、深さ23cmの隅円方形の貯蔵穴がある。貯蔵穴の周囲を高さ6cmの土手状の突帯が囲む。壁溝はない。

出土遺物（第104図）2点の土器を図示した。1は折り返し口縁壺の口縁部、口唇部に縄文を施し2個一組のボタン状貼付がある。折り返し口縁の外側を除き内外赤彩を赤彩している。2は底部である。

(243) 255号住居跡 第104図 図版32-8・33-1

主軸4.77m、直交4.77m、深さ0.22mの方形で、主軸方位は西に20度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドO-17に位置する。南東で254号住居跡上に貼床する。254号住居跡から掘り始め遺構周辺の貼床が軟弱だったため掘りすぎている。

カマド（第139図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに60・67・42・56cm、柱間は奥215・右225・前214・左226cm。壁溝は全周する。左奥柱穴の南に深さ55cmのピットがある。

(244) 261号住居跡 第104図 図版33-3・4

主軸4.83m、直交4.82m、深さ0.15mの方形で、主軸方位は西に15度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドP-18に位置する。北東から南西に7号溝に削平される。住居跡との重複はない。西壁、北東コーナーに攪乱溝がある。

カマド（第139図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに74・66・47・62cm、柱間は奥216・右216・前224・左226cm。南東壁際右寄りに深さ17cmの出入口ピットがある。壁溝は全周する。

出土遺物（第104図）3点の土器を図示した。1は埴口縁。2は甕の上半。3は底部である。

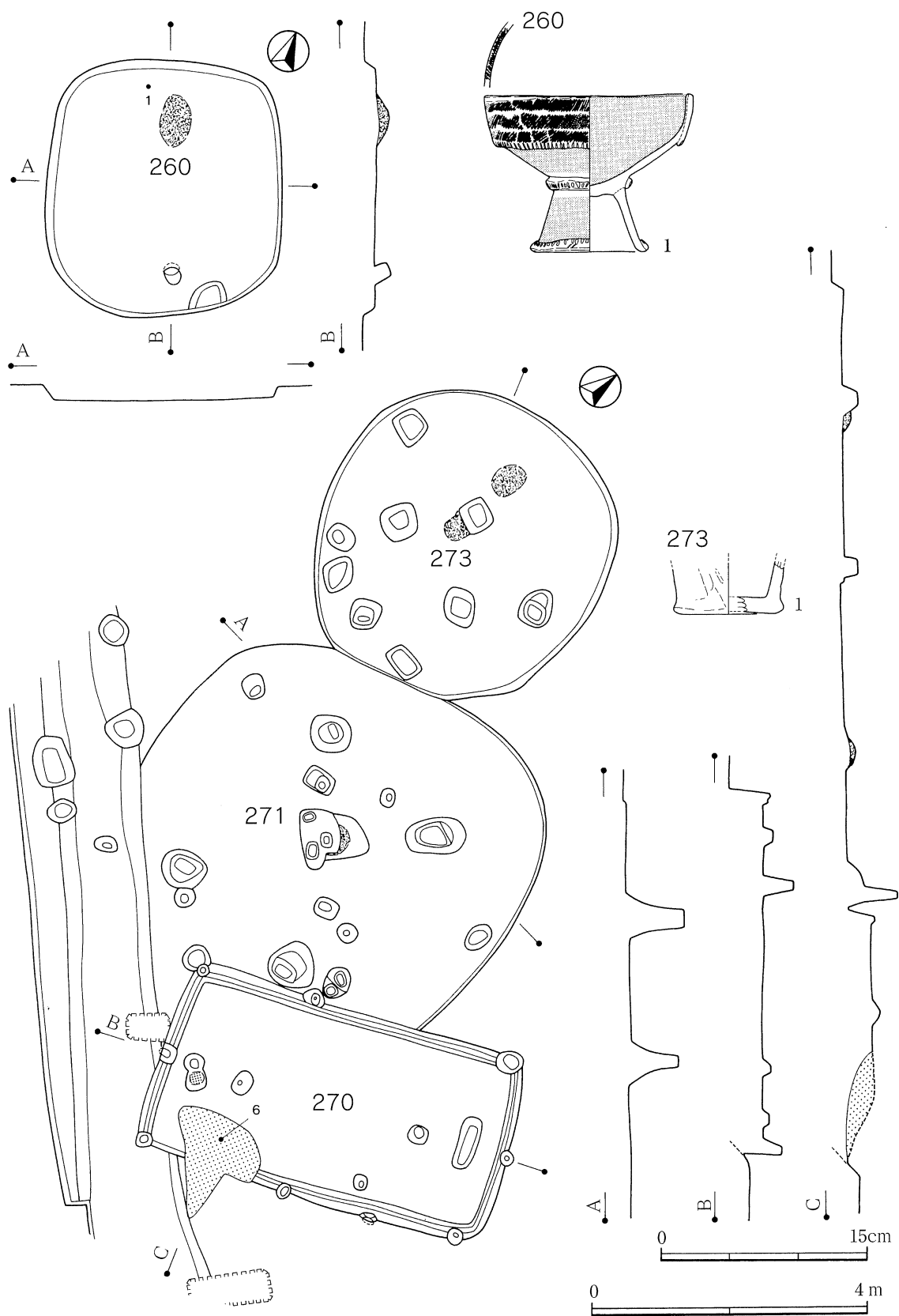
(245) 260号住居跡 第105図 図版33-2

主軸3.72m、直交3.42m、深さ0.21mの縦長の小判形で、主軸方位は西に17度を測る。

B地点2次調査区中央、NO-16に位置する。他の遺構との重複、攪乱もなく遺構はよく残っている。

奥壁から40cmに76×46cmの炉がある。柱穴はない。主軸上南東壁から45cmに南東に傾斜する深さ20cmの出入口ピットがある。南東壁際右寄りに36×56cm、深さ11cmの半円形の貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第105図）1は完形の台付鉢。口縁を折り返し、脚との接合部、脚端に粘土紐を巻き付けそれぞれに刻みをつける。口唇と折り返し部に縄文を施し、文様部以外は赤彩する。炉の北西側で出土している。



第105図 260・270・271・273号住居跡と260・273号住居跡出土土器

(246) 270号住居跡 第105図 図版33-5~34-5

主軸2.92m、直交5.32m、深さ0.45mの横長の方形で、主軸方位は東に145度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドN-16>17に位置する。西で271号住居跡を削平し、南で9号溝が削平する。他の遺構と重複するが削平はごく浅く、遺構の残存状態はよかった。

カマド（第139図）は南東壁に造られる。柱穴は二本柱で深さは左43、右10cm、柱間268cm。壁柱穴、左深さ12cm、右6cmの補助柱穴の6本が一直線上に並ぶ。深さが床面と同レベルから25cmの壁柱穴が9本ある。壁溝はカマド右側を除き全周する。

出土遺物（第106図）6点の土器を図示した。1は高杯杯部。2は高杯脚部。3・4は甕下半欠損。5は甕底部。6は完形の甕。カマド内に6の甕を倒立し下部を焼土で埋めて支脚として使用している。

土器以外の遺物として第155図14の軽石が出土している。

(247) 271号住居跡 第105図 図版34-6

主軸5.7m以上、直交5.82m、深さ0.04mの楕円形で、主軸方位は西に3度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドM-16<17に位置する。北西で273号住居跡と重複し、南東を270号住居跡、南を9号溝が削平する。炉の奥を始め各所に新しいピットがある。

遺構中央近くに74×72cmの掘形に、44×30cmの焼土の炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに70・80・77・79cm、柱間は奥214・右292・前210・左290cm。炉から210cmに深さ40cmの出入口ピットがある。壁溝はない。

出土遺物（第106図）8点の土器を図示した。1は口唇に細かい刻みを施した甕下半欠損。2～4は口唇に刻みを施した甕口縁部。5は波状の沈線を施した壺胴部破片。6～8は沈線で区画した中に縄文を施す壺胴部破片である。

(248) 273号住居跡 第105図 図版34-7

主軸4.37m、直交4.23m、深さ0.13mの楕円形で、主軸方位は西に23度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドLM-17に位置する。南東で271号住居跡と重複する。掘り込みの割に床面が軟弱で、ピットも規則的に並ばず柱穴等は不明である。

奥に50×38cm、前に40cm以上×36cmの2基の炉がある。遺構内に9基のピットがあるが柱穴は不明である。壁溝は存在しない。

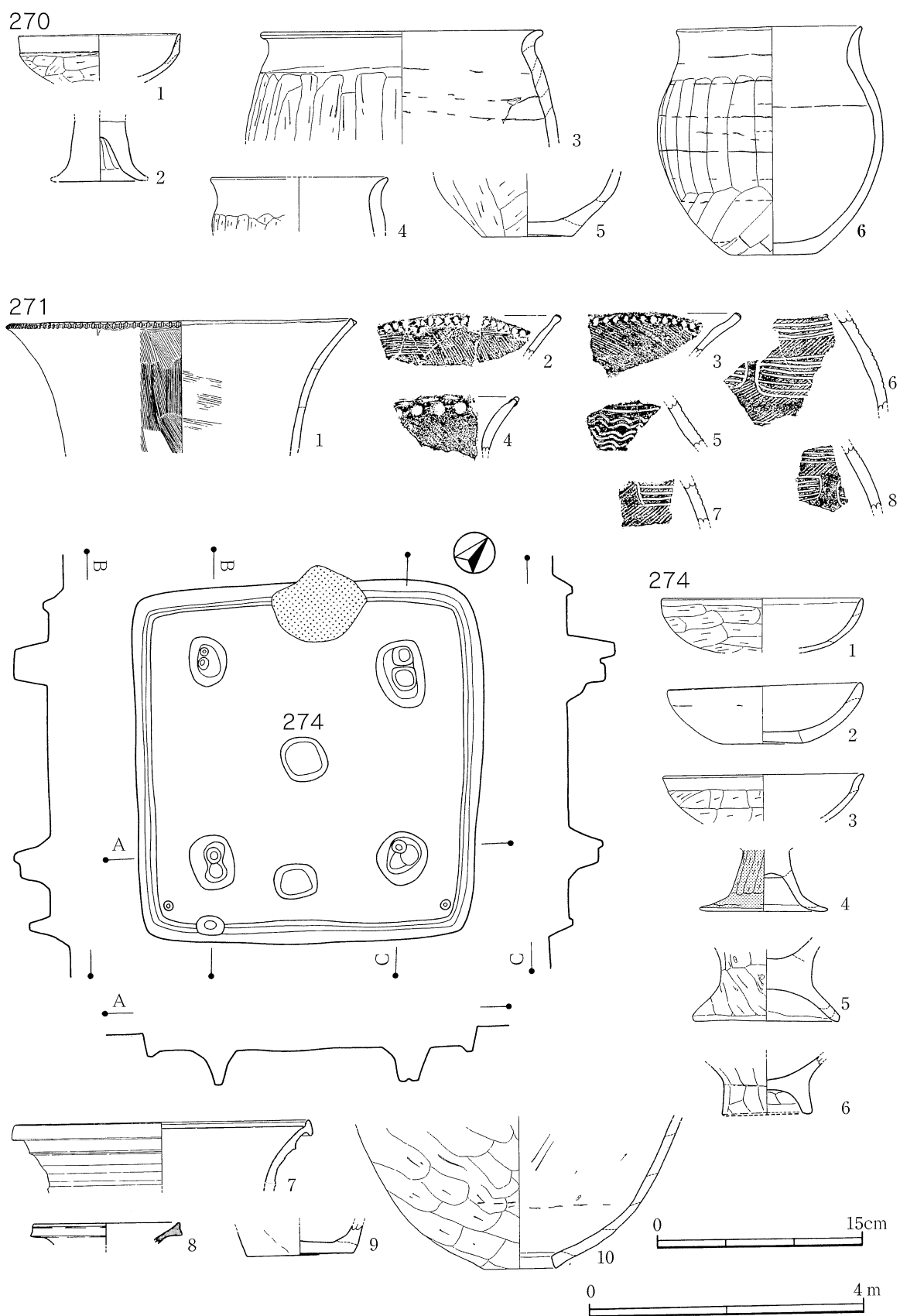
出土遺物（第105図）甕の底部が出土している。

(249) 274号住居跡 第106図 図版35-1~4

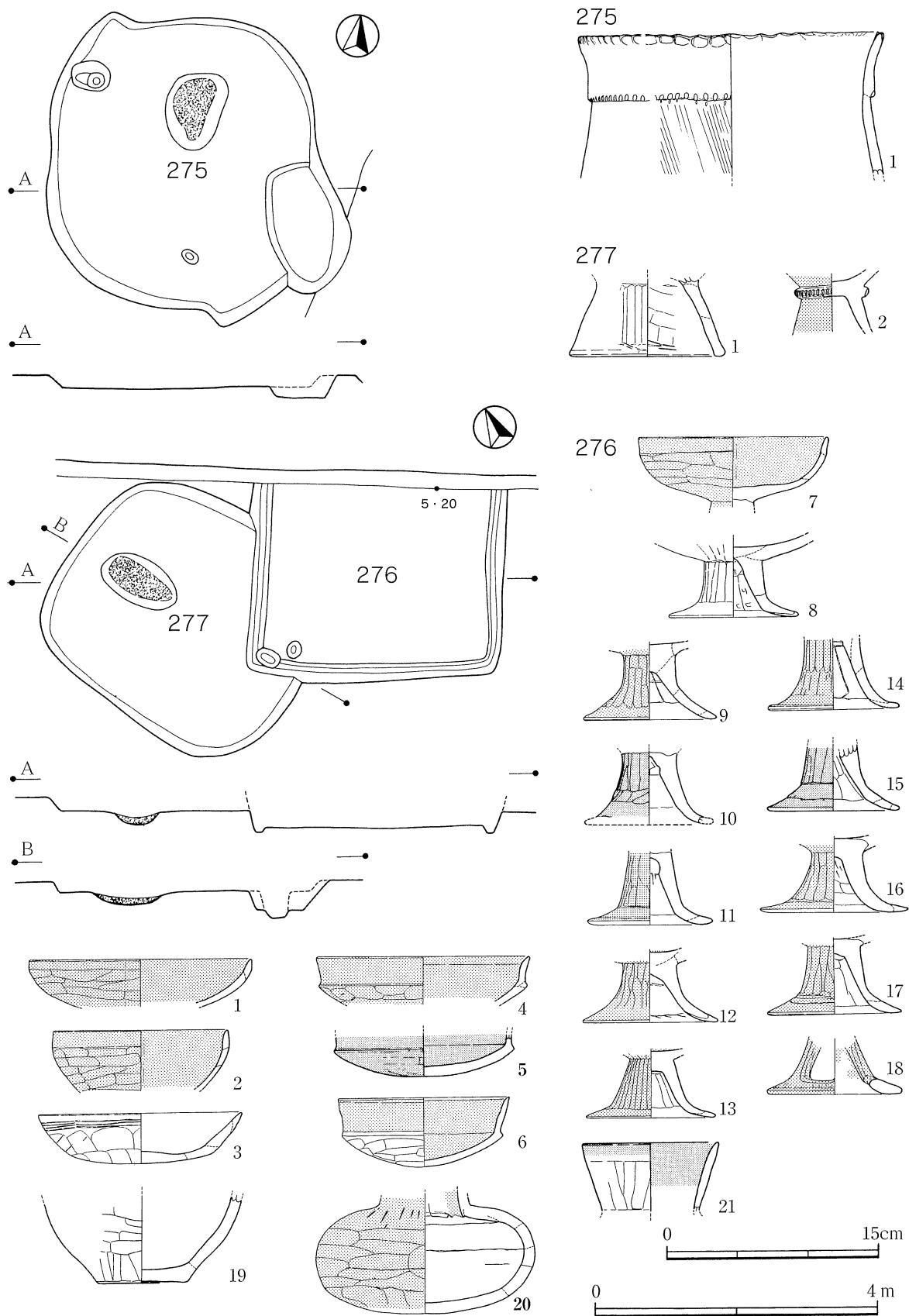
主軸5.35m、直交5.07m、深さ0.28mの方形で、主軸方位は西に41度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドM-17<18に位置する。他の遺構との重複はない。攪乱もなく遺構の全容を確認した。柱穴を建て替え、外に拡張されている。

カマド（第139図）は北西壁やや右寄りに造られる。四本柱全てを検出した。いずれも建て替えられている。拡張前、深さは左奥から右回りに52・54・48・50cm、柱間は奥295・右248・前266・左286cm。拡張後、深さ51・68・48・44cm、柱間は奥290・右296・前282・左324cm。前壁から65cmに



第106図 274号住居跡と270・271・274号住居跡出土土器



第107図 275~277号住居跡と出土土器

深さ21cmの出入口ピットがある。遺構中央に深さ44cmのピットがある。棟持柱と考えられる。東・南のコーナーに小ピットがある。壁溝は全周する。

出土遺物（第106図）10点の土器を図示した。1は底部欠損の坏。2は完形の坏で、わずかに上げ底になる。3は高杯杯部。4は高杯脚部で、外面を赤彩。5は台付甕の台。6は台付鉢の台。7は須恵広口甕の口縁部。8は須恵壺の口縁部。9は底部。10は上半欠損の甗である。

土器以外の遺物として第155図16・17の2点の軽石が出土している。

(250) 275号住居跡 第107図 図版35－5

主軸4.17m、直交3.78m、深さ0.15mの縦長の小判形で、主軸方位は西に3度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドMN-17<18に位置する。南東で土坑と重複するが、住居跡との重複はない。実測図の北西と南東の遺構のゆがみはセクションベルトをはずす際に掘りすぎているためである。

奥壁から70cmに115×80cmの掘形に88×52cmの焼土の炉がある。南壁から65cmに深さ15cmの出入口ピットがある。壁溝はない。北西コーナーにピットがある。

出土遺物（第107図）甕の口縁部破片、口縁に指頭による細かい押圧、頸部の段に刻みがある。

土器以外の遺物として第145図14・15の2点の管状土錘が出土している。14は裏側が一部欠損するがほぼ完形。15は中央部の破片である。

(251) 276号住居跡 第107図 図版35－6

主軸2.85m以上、直交3.65m、深さ0.22mの方形で、東に33度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドN-18に位置する。西で277号住居跡を削平する。北東側は調査区域外でカマドなどは調査できなかった。柱穴等は確認されていない。壁溝は遺構確認範囲で全周している。

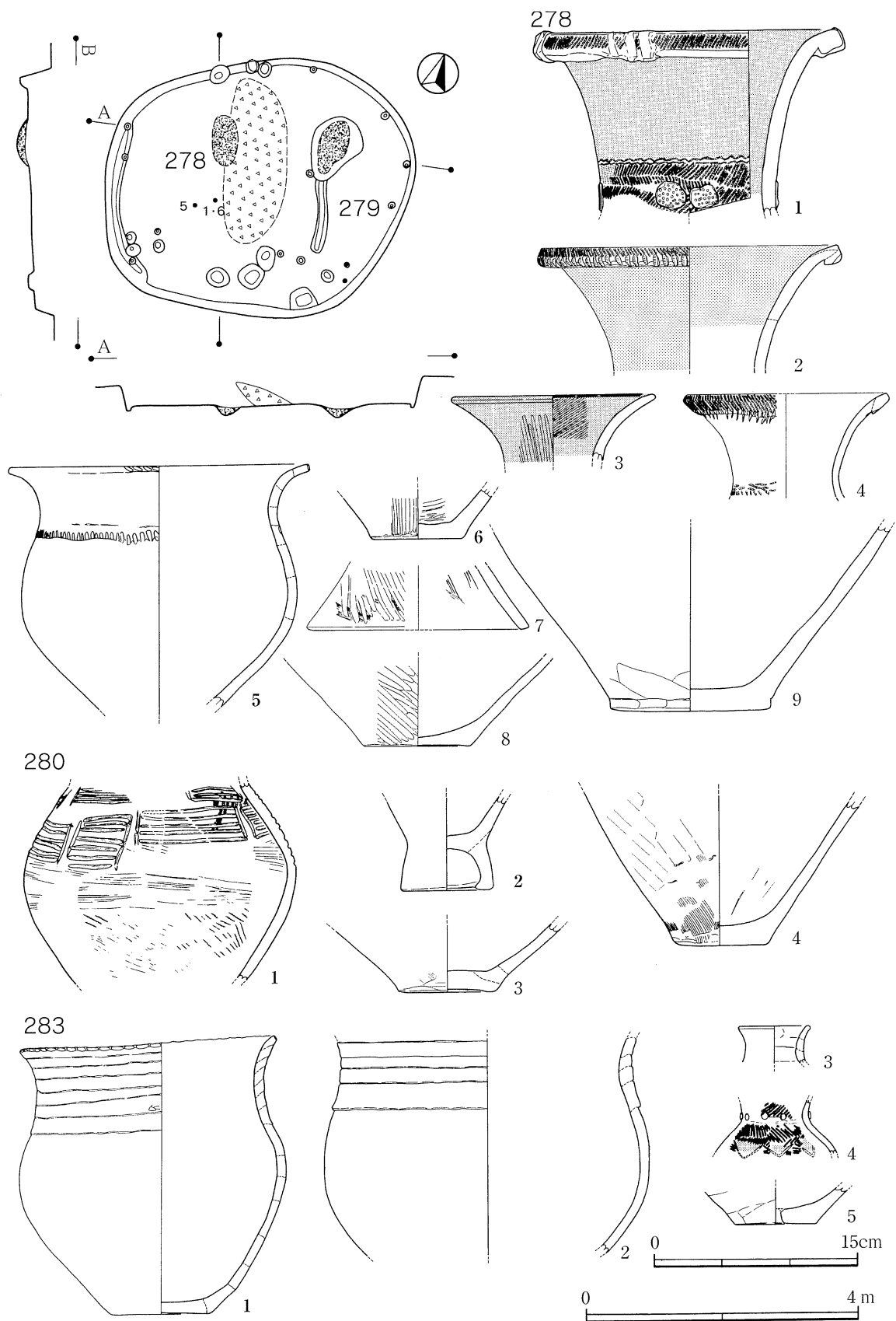
出土遺物（第107図）21点の土器を図示した。1は底部欠損の坏で、内外面を赤彩。2は底部欠損の碗で、内外面を赤彩。3は完形の平底坏。4は模倣坏で底部欠損、内外面を赤彩。5は模倣坏で口縁部欠損、内外面を赤彩。6は完形の模倣坏で、外面下を除き赤彩。7は高杯杯部で、内外面を赤彩。8～18は高杯の高杯脚部である。8を除き外面を赤彩している。18は須恵高杯を模倣した三角形のすかしが入る。19は上部欠損の甕。20は頸部以上欠損の埴で、外面を赤彩。21は埴の口縁部、口縁近くの内外面を赤彩している。北東カマドの右袖前に当たる位置に5・20が床面で出土している。

(252) 277号住居跡 第107図 図版35－6

主軸3.72m、直交3.33m、深さ0.22mの縦長の小判形で、主軸方位は西に27度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドMN-18に位置する。東側で出入口ピット・貯蔵穴から南東部を276号住居跡に削平される。

奥壁から35cmに116×66cmの掘形に97×42cmの焼土の炉がある。柱穴はない。前壁から30cmに深さ15cmの出入口ピット、右に深さ10cmの貯蔵穴が276号住居跡内で検出されている。壁溝その他の施設はない。



第108図 278・279号住居跡と278・280・283号住居跡出土土器

出土遺物（第107図） 2点の土器を図示した。1は台付甕台。2は台付鉢の接合部、粘土の突帯に刻みを施す。外面は施文部以外面を赤彩している。

土器以外の遺物として第156図18の軽石が出土している。

(253) 278号住居跡 第108図 図版35-7・8

主軸3.62m、直交3.28m、深さ0.40mの縦長の小判形で、主軸方位は西に17度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドLM-18に位置する。北東で279号住居跡と重複する。壁溝と279号住居跡炉との重複関係から279号住居跡より古いものとする。

奥壁から60cmに74×38cmの炉がある。壁際にピットが散在する。いずれも深さが10cm内外で主柱穴とはならない。主軸上前壁から20cmに深さ8cmの出入口ピット、その右に38×39cm、深さ8cmの貯蔵穴がある。壁溝は左壁下240cm、右壁下110cmで確認した。右壁下は北側を279号住居跡の炉で削平されている。

出土遺物（第108図） 9点の土器を図示した。1は折り返し口縁壺で頸部以下欠損している。口唇に3本一組の棒状貼付、頸部に2個一組のボタン状貼付があり施文部以外赤彩している。2は折り返し口縁壺で頸部以下を欠損する。内外面を赤彩。3は壺で頸部以下欠損、内外面を赤彩。4は折り返し口縁壺で頸部以下欠損。5は底部欠損の甕。6・8・9は底部。7は脚である。出入口ピットと炉の中間で1・5・6の土器が出土している。

(254) 279号住居跡 第108図 図版35-7・8

主軸3.86m、直交3m以上、深さ0.40mの小判形で、主軸方位は東に13度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドM-18に位置する。南西で278号住居跡と重複する。南西側は278号住居跡覆土内で壁は不明である。

奥壁から50cmに102×74cmの掘形に84×43cmの焼土の炉がある。前壁から50cmに深さ27cmの出入口ピット、南壁際に32×50cm、深さ14cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。遺構南西側245×95cmの範囲で貝層を確認した。

(255) 280A号住居跡 第109図 図版36-1

主軸6.4m以上、直交4.6m以上、深さ0.20mの小判形で、主軸方位は西に64度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドM-18に位置する。南で280B号住居跡と重複し、北を283号住居跡、15号方形周構墓が削平する。向きを変えて建て替えられている住居跡で、主軸方位が西に64度の本遺構が古く、32度のものが新しい。（図版36-1）によると280B号住居跡に貼床された部分がわずかに黒みを帯びていることが分かる。

炉は92×50cmの楕円形で、北側は283号住居跡に削平されている。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに66・56・68・57cm、柱間は奥246・右255・前228・左260cm。主軸上前壁から90cmに深さ19cmの出入口ピット、右に55×45cm、深さ24cmの貯蔵穴がある。壁溝は西壁で確認した。

(256) 280B号住居跡 第109図 図版36-1・2

主軸5.2m以上、直交5.6m以上、深さ0.15mの小判形で、主軸方位は西に32度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドM-18に位置する。北で280A号住居跡と重複し、東で15号方形周構墓に削平される。280A号住居跡壁溝上の貼床と左前柱穴付近の遺物出土状況から新旧を判断した。

炉は88×56cmで北側は283号住居跡に削平されている。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに59・60・58・55cm、柱間は奥274・右280・前272・左274cm。前壁右寄りに深さ11cmの貯蔵穴がある。壁溝は南側で確認した。

出土遺物（第108図）4点の土器を図示した。1は壺胴部、沈線によるはしご状の区画がある。2は台。3・4は底部である。左奥の柱穴を挟むように1・4、左前の柱穴近くに2が出土している。

(257) 283号住居跡 第109図 図版36-1

主軸5.19m、直交4.43m、深さ0.30mの縦長の小判形で、主軸方位は西に53度を測る。

B地点2次調査区中央、グリッドM-18に位置する。南で280A・B号住居跡を削平し、中央を15号方形周構墓が削平する。他の遺構との重複が多いが、確認できなかったのは壁2カ所だけだった。

奥の柱穴の間やや右寄りに62×50cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに51・49・40・60cm、柱間は奥234・右204・前224・左208cm。前壁際右寄りに60×33cm、深さ5cmの貯蔵穴がある。壁溝は北東壁中央で220cmを確認した。

出土遺物（第108図）5点の土器を図示した。1は完形の甕。2は甕上下欠損。3は小型壺口縁部。4は小型壺頸部。5は底部。3・4は胎土、色調は同一個体のようなが接合できず、復元径が異なることから別にした。1の甕は右前の柱穴と貯蔵穴の間の床面から出土している。

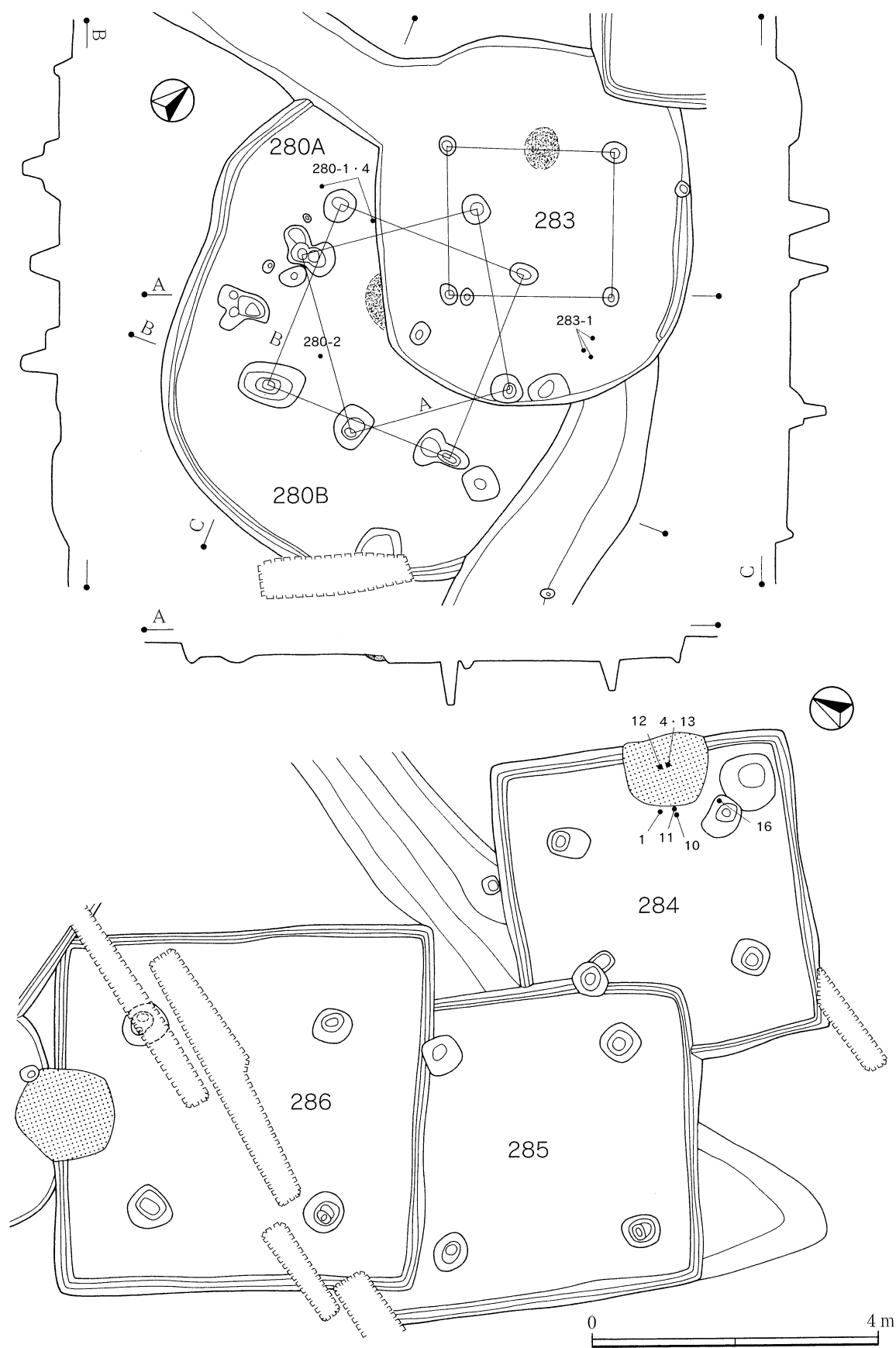
(258) 284号住居跡 第109図 図版36-3～8

主軸4.60m、直交4.18m、深さ0.23mの縦長の方形で、主軸方位は東に56度を測る。

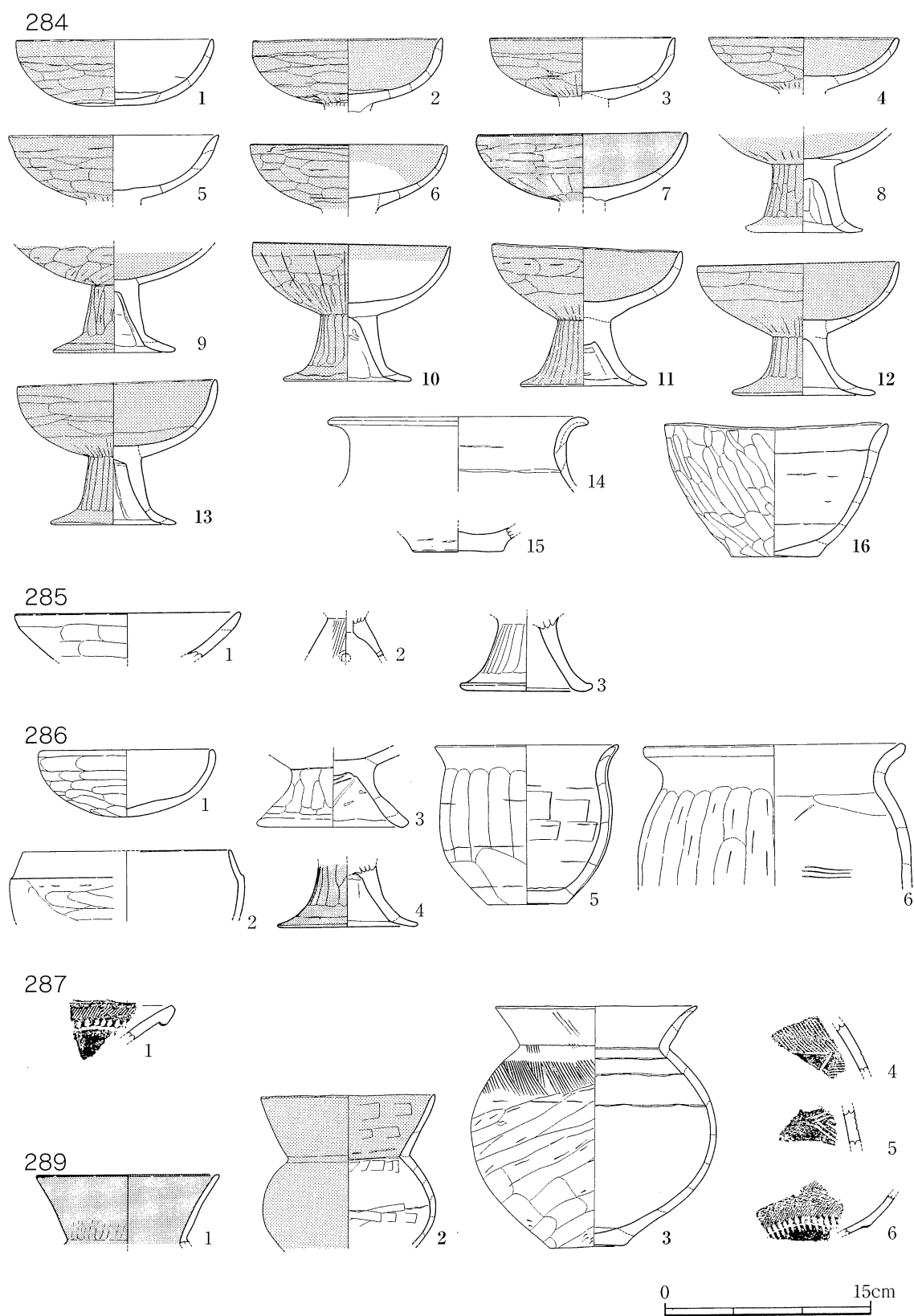
B地点2次調査区西、グリッドK-18に位置する。南西を285号住居跡、西を10号溝が削平する。現状で南西コーナーを285号住居跡に削平されるほか遺構はよく残っている。

カマド（第139図）は北東壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに58・60・62・62cm、柱間は奥234・右214・前226・左200cm。東コーナーに80×75cm、深さ62cmの貯蔵穴がある。壁溝は全周する。

出土遺物（第110図）16点の土器を図示した。1は完形の丸底坏で、外面を赤彩。2～7は高杯杯部で、3・5は外、他は内外面を赤彩。8・9は高杯脚部で坏の一部が残る。脚内以外を赤彩。10～13は完形の高杯である。外面はいずれも赤彩している。内面は10が口縁部だけで他は全面赤彩している。14は甕口縁部。15は底部。16は完形の深鉢である。カマド内に4・12・13の高杯、カマド前に1の坏、10・11の高杯が、右奥の柱穴に接して16の深鉢が出土している。左袖に接近する13は下に粘土があり、支脚として使用されたものと考えられる。



第109図 280A・B・283～286号住居跡



第110図 284~287・289号住居跡出土土器

(259) 285号住居跡 第109図 図版37-2

主軸4.6m以上、直交4.56m、深さ0.27mの方形で、主軸方位は西に29度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドJK-18に位置する。北東で284号住居跡を削平し、北西で286号住居跡に貼床される。中央を10号溝が浅く削平する。カマドを含む北西側を296号住居跡に削平されている。貯蔵穴は通常カマドの右側コーナーにある例が多いのでカマドと共に286号住居跡の床下を精査すれば確認できたかもしれない。

柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに68・64・65・63cm、柱間は奥280・右250・前268・左264cm。壁溝は全周する。

出土遺物（第110図）3点の土器を図示した。1は高杯杯部。2は器台脚部。3は高杯脚部。2は本遺構に伴わない。

(260) 286号住居跡 第109図 図版37-3

主軸5.32m、直交5.18m、深さ0.27mの方形で、主軸方位は西に22度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドJ-18に位置する。北西で290号住居跡上にカマドを造る。南西で285号住居跡を貼床する。遺構内に斜めに4本の攪乱溝があるが、遺構の全容は残っている。

カマド（第140図）は北西壁中央に造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに71・74・49・59cm、柱間は奥266・右264・前270・左246cm。貯蔵穴等はない。壁溝は全周する。

出土遺物（第110図）6点の土器を図示した。1は完形の丸底坏。2は碗の口縁部破片。3は高杯脚部。4は高杯脚部、外面を赤彩。5は完形の甕。6は甕で下半を欠損する。

土器以外の遺物として第152図26の砥石が出土している。表裏に擦痕、条痕が多い。

(261) 287号住居跡 第111図 図版37-4

主軸4m以上、直交4.10m、深さ0.15mの小判形で、主軸方位は東に8度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドJ-18に位置する。南西で288号住居跡が貼床し、北西を289号住居跡が削平する。北西側半分以上を289号住居跡に削平、貼床される。炉がその貼床下から確認できたことから床面を剥いて調査すれば北西側の柱穴も確認できた可能性は強い。

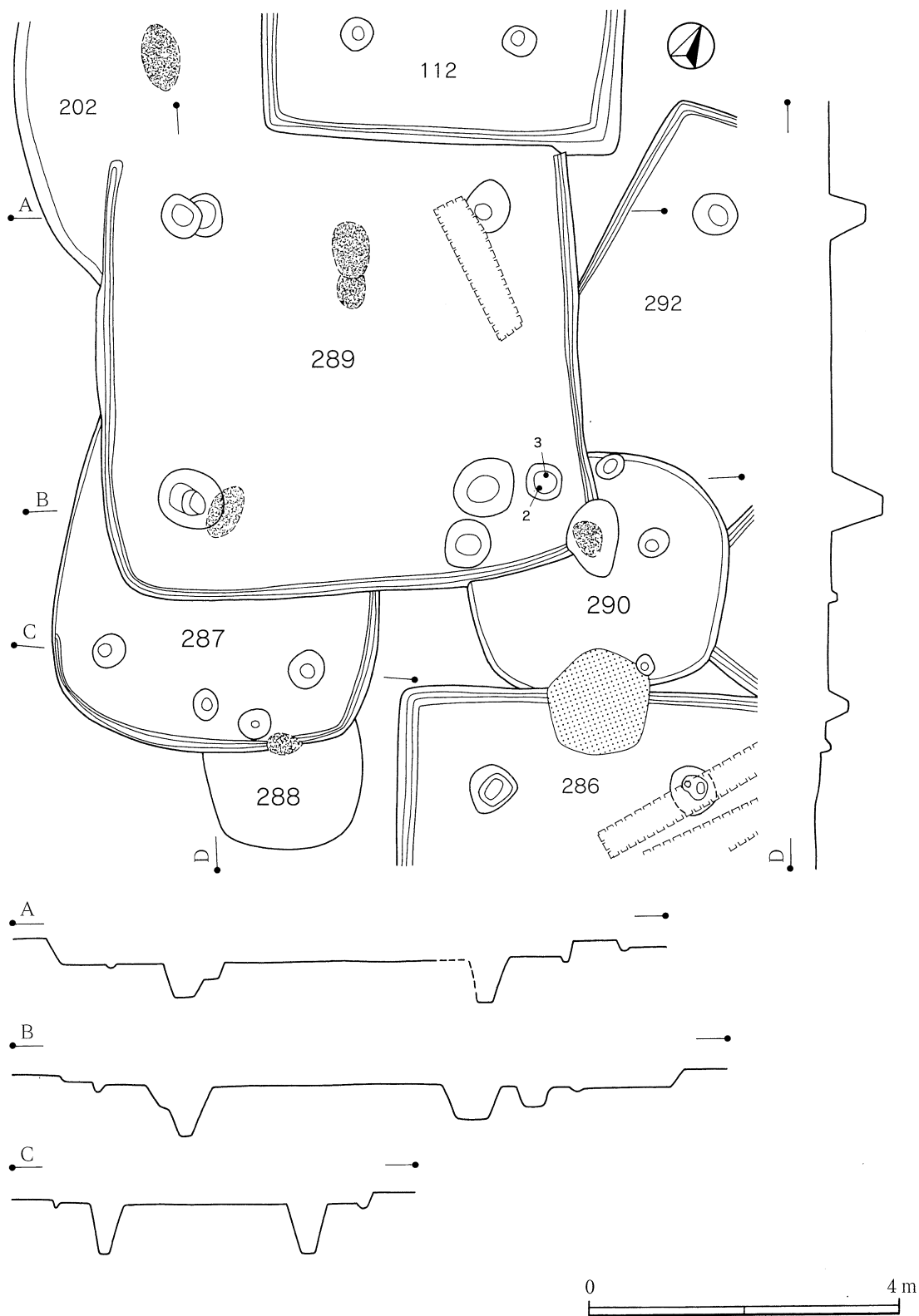
289号住居跡左前柱穴の壁面に焼土が検出され広げたところ287号住居跡の炉だった。70×40cmの楕円形で、一部を柱穴で削平される。柱穴は四本柱の2本を検出した。深さ右前54cm、左前54cm、柱間は前260cm。奥は289号住居跡床下で未確認。主軸線上壁から40cmに深さ23cmの出入口ピット。右に径40cm、深さ20cmの貯蔵穴がある。壁溝は確認部分で全周している。

出土遺物（第110図）折り返し口縁壺の口縁部破片が出土している。

(262) 288号住居跡 第111図 図版37-5

287号住居跡壁溝上に炉を検出。周囲1.6×2.0mの範囲で床を確認した。

B地点2次調査区西、グリッドJ-18に位置する。西で287号住居跡上に貼床する。図の範囲で床面を確認した。28×46cmの炉が287号住居跡壁溝上にありそれより新しい住居跡であることが分かる。



第111図 287~290号住居跡

(263) 289号住居跡 第111図 図版37-4・38-1・2

主軸6m以上、直交6.18m、深さ0.22mの隅円方形で、主軸方位は西に26度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドIJ-18<19に位置する。西で202号住居跡を削平し、南西で287号住居跡を貼床し、北東で291・292号住居跡を削平する。北西で112号住居跡に削平される。北西を1次、南東を2次調査と分けて調査した。北側では輪郭を検出できなかった。

奥の柱穴の間やや手前に75×50cm、48cm以上×37cmの炉2基が縦に並んでいる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに44・56・50・65cm、柱間は奥382・右366・前368・左370cm。東コーナーに42×34cm、深さ32cmと62×58cm、深さ40cmの2基の貯蔵穴がある。壁溝は壁確認部分で全周する。

出土遺物（第110図）6点の土器を図示した。1は埴で胴部欠損、内外面を赤彩。2は埴で底部欠損、胴内を除き内外面を赤彩。3は完形の甕。4～6は壺胴部破片。東側の貯蔵穴から2・3の2点が出土している。4・5・6は重複する202号住居跡に所属する遺物の可能性が高い。

土器以外の遺物として第146図17の土玉が出土している。

(264) 290号住居跡 第111図 図版38-3

主軸3.12m、直交3.32m、深さ0.43mの円形で、主軸方位は西に26度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドJ-19に位置する。北西で292号住居跡、西で289号住居跡、南西で286号住居跡、北東で291号住居跡に削平、貼床される。重複する遺構が多くその中で最古の遺構だが深く造られているために遺構は完存している。しかし289号住居跡床下と286号住居跡カマド下は、調査終了まで残されており完掘していない。

炉は82×45cmの楕円形の掘形に66×25cmの焼土がある。炉の東に深さ30cmのピットが1本ある。対になるピットが無く柱穴とは言い難い。南東壁右寄りに28×23cm、深さ10cmの貯蔵穴がある。

出土遺物（第112図）埴で胴部欠損、内外面を赤彩している。

(265) 291号住居跡 第112図 図版38-4

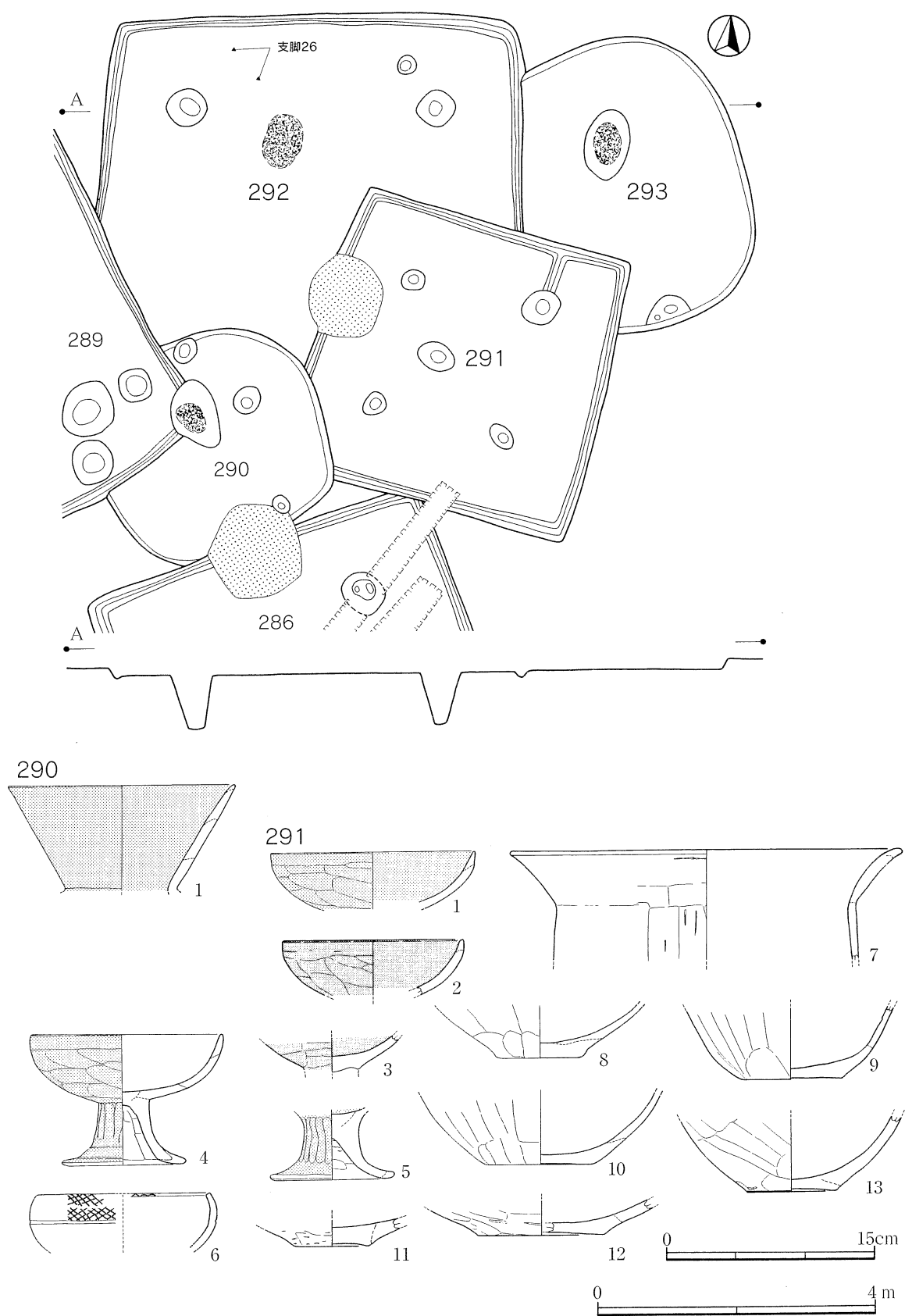
主軸4.32m、直交4.25m、深さ0.32mの方形で、主軸方位は西に81度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドJ-19に位置する。南西で290号住居跡を貼床し、北東で293号住居跡、西で292号住居跡を削平する。南西コーナーで290号住居跡上の貼床を検出できなかった。

カマド（第140図）は西壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに41・42・43・59cm、柱間は奥190・右196・前196・左190cm。貯蔵穴などはない。壁溝は全周し右前の柱穴から壁溝に間仕切り溝が延びている。

出土遺物（第112図）13点の土器を図示した。1・2は高杯杯部、内外面を赤彩。3は高杯接合部、内外面を赤彩。4は完形の高杯で、外面を赤彩。5は高杯脚部で、外面を赤彩。6は坏状の土器だが口唇と、口縁下に沈線から上に格子状の撚り糸文がある。重複する弥生時代の住居跡に所属する遺物である可能性が高い。7は甕で胴以下欠損。8～13は甕底部。

土器以外の遺物として第143図22の土製支脚が出土している。頂部の破片である。



第112図 291～293号住居跡と290・291号住居跡出土土器

(266) 292号住居跡 第112図 図版38-4

主軸5.4m以上、直交6.10m、深さ0.25mの隅円方形で、主軸方位は西に6度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドJ-19に位置する。南で290号住居跡、北東で293号住居跡を削平し、南西を289号住居跡、東を291号住居跡が削平する。南側は290・291号住居跡と重複し壁溝・貯蔵穴等は確認できなかったが柱穴は検出した。

奥柱穴間左手前に、77×52cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに80・76・75・82cm、柱間は奥350・右368・前352・左352cm。貯蔵穴などは確認できなかった。壁溝は壁を確認した部分で全周する。右奥柱穴の奥に小ピットがある。

出土遺物（第113図）10点の土器を図示した。1～6は埴で、1・4・6は内外面を赤彩している。7～9は器台脚部で、8は外面を赤彩している。9は器台脚部。10は甕で口縁を欠損する。

土器以外の遺物として表3-26の土製支脚が炉奥で出土しているが、崩れており実測できなかった。

(267) 293号住居跡 第112図 図版38-5

主軸4.28m、直交3.3m以上、深さ0.20mの楕円形で、主軸方位は西に28度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドJK-19に位置する。南西を292号住居跡、南を291号住居跡が削平する。西側は他の遺構との重複、東壁中央は攪乱のために確認できなかった。

奥壁から90cmに94×64cmの楕円形の掘形に66×34cmの焼土の炉がある。柱穴はない。南東壁に35×54cm、深さ27cmの半円形の貯蔵穴がある。壁溝その他の施設は確認できなかった。

(268) 295号住居跡 第113図 図版38-6

主軸3.50m、直交3.52m、深さ0.16mの隅円方形で、主軸方位は西に23度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドK-19に位置する。北東で296号住居跡と重複する。本遺構の方が新しいが296号住居跡上では貼床、輪郭を確認できなかった。南西コーナーに攪乱溝があるため遺構内の施設は皆無とはいき切れないが他の遺構からみてなかったものと思われる。

カマド（第140図）は北西壁中央に造られる。壁溝は南西・南東コーナー以外の壁下で検出した。

出土遺物（第113図）2点の土器を図示した。1は甕で上下欠損。2は甕で下半部を欠損する。

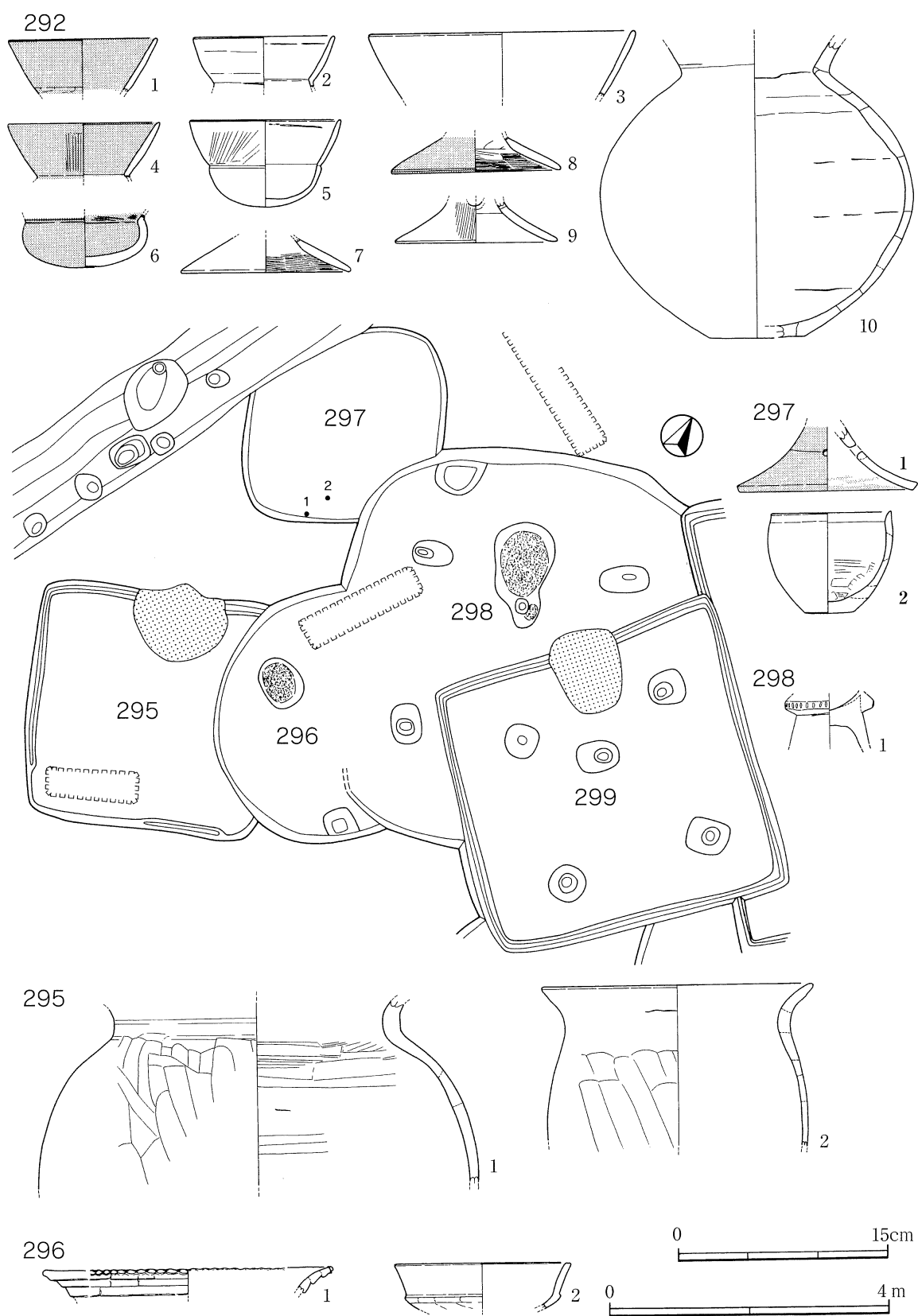
(269) 296号住居跡 第113図 図版38-7

主軸3.70m、直交3.5m以上、深さ0.23mの円形で、主軸は西に52度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドKL-18>19に位置する。北東で298号住居跡、西を295号住居跡が貼床する。遺構が半分ほどしか残らず、柱穴がないため、主軸は炉の位置から推定した。

奥壁から40cmに75×57cmの楕円形の掘形に56×43cmの焼土の炉がある。柱穴はない。南東壁際に38×43cm、深さ15cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第113図）2点の土器を図示した。1は小波状の甕口縁部。2は模倣坏破片で、重複する295号住居跡に所属する遺物であろう。



第113図 295～299号住居跡と292・295～298号住居跡出土土器

(270) 297号住居跡 第113図 図版38－8

主軸2.82m、直交2.84m、深さ0.14mの隅円方形で、主軸方位は西に22度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドK-19に位置する。南東で298号住居跡と重複し、西を10号溝に削平される。北西、南東の重複を除き全てを調査したが遺構内に炉を含めいっさいの施設がない。305号住居跡と同様の遺構である。

出土遺物（第113図）1は南壁際で出土した器台脚部で、外面を赤彩している。2は完形の深鉢で、1より遺構内側で出土している。

(271) 298号住居跡 第113図 図版39－1

主軸5.90m、直交5.1m以上、深さ0.25mの小判形で、主軸方位は西に22度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドKL-18<19に位置する。南西で296号住居跡、西で297号住居跡と重複し、東で299号住居跡が削平する。299号住居跡に削平されているが床面レベルがほとんど変わらないため輪郭を除き遺構のほぼ全てを確認した。

奥の柱穴の間中央に115×87cmの楕円形の掘形に94×68cmの焼土の炉がある。中央に新しいピットがあり焼土が分断されている。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに67・53・70・63cm、柱間は奥296・右260・前284・左254cm。北西壁左寄りとは位置は通常と反対だが、55×65cmの半円形の貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第113図）台付鉢接合部で、粘土帯を貼付し刻みをつけている。

(272) 299号住居跡 第113図 図版39－2

主軸4.40m、直交4.42m、深さ0.24mの方形で、主軸方位は西に47度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドL-18<19に位置する。西で298号住居跡、東で300号住居跡、北で301号住居跡を削平する。遺構中央に298号住居跡の柱穴があるほか遺構の全容を確認した。

カマド（第140図）は北西壁右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに65・65・69・66cm、柱間は奥210・右220・前214・左216cm。貯蔵穴等はない。壁溝は全周する。

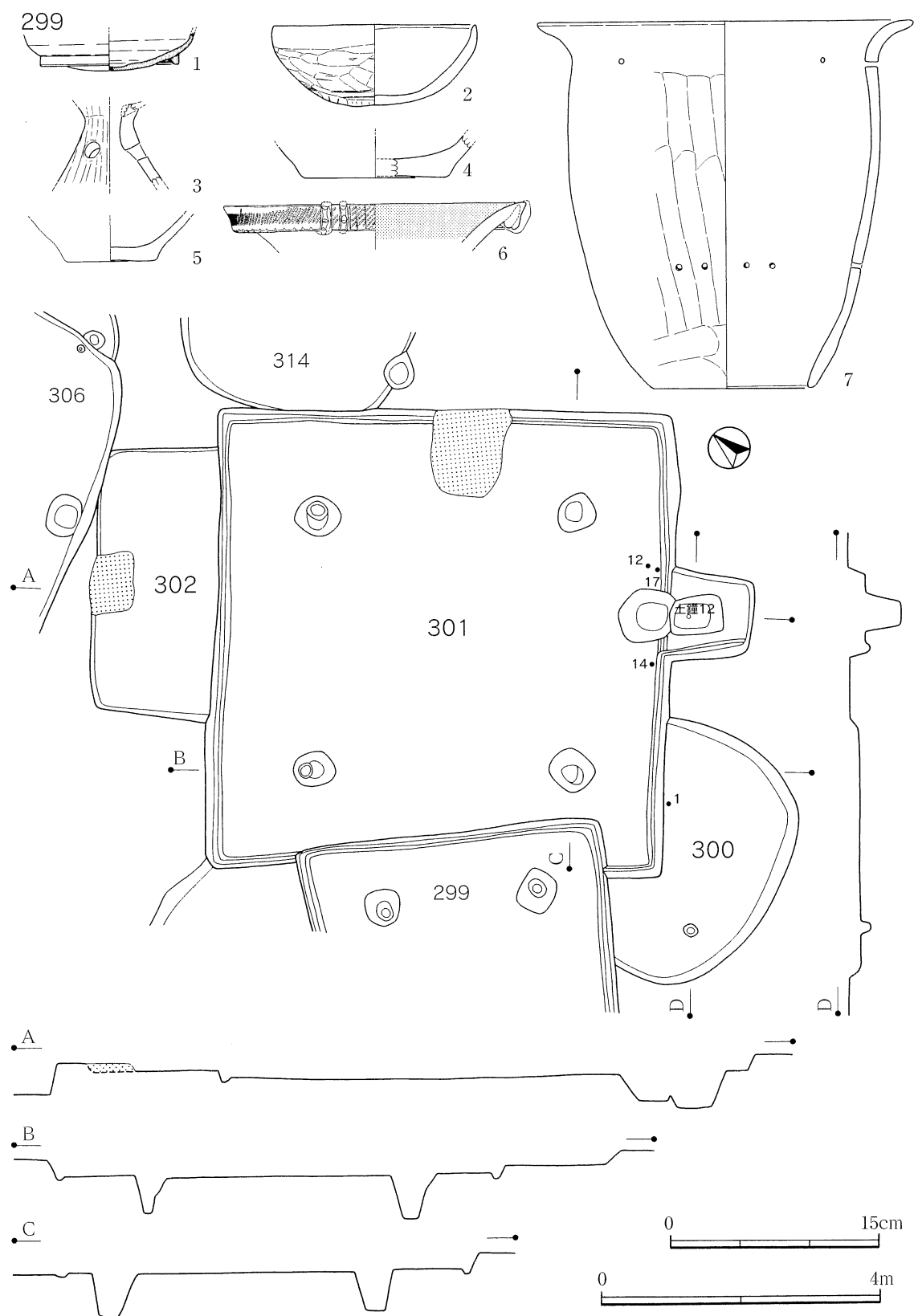
出土遺物（第114図）7点の土器を図示した。1は須恵高台付坏の底部。2は完形の坏で、やや平底になる。3は器台脚部。4・5は底部。6は折り返し口縁壺の口縁部で3本一組の棒状貼付がある。内面を赤彩している。7は完形の甗で、頸部と胴下部に焼成前の穿孔がある。3と6は本遺構に伴わない。6の壺は重複する300号住居跡の遺物である。

(273) 300号住居跡 第114図 図版39－4・6

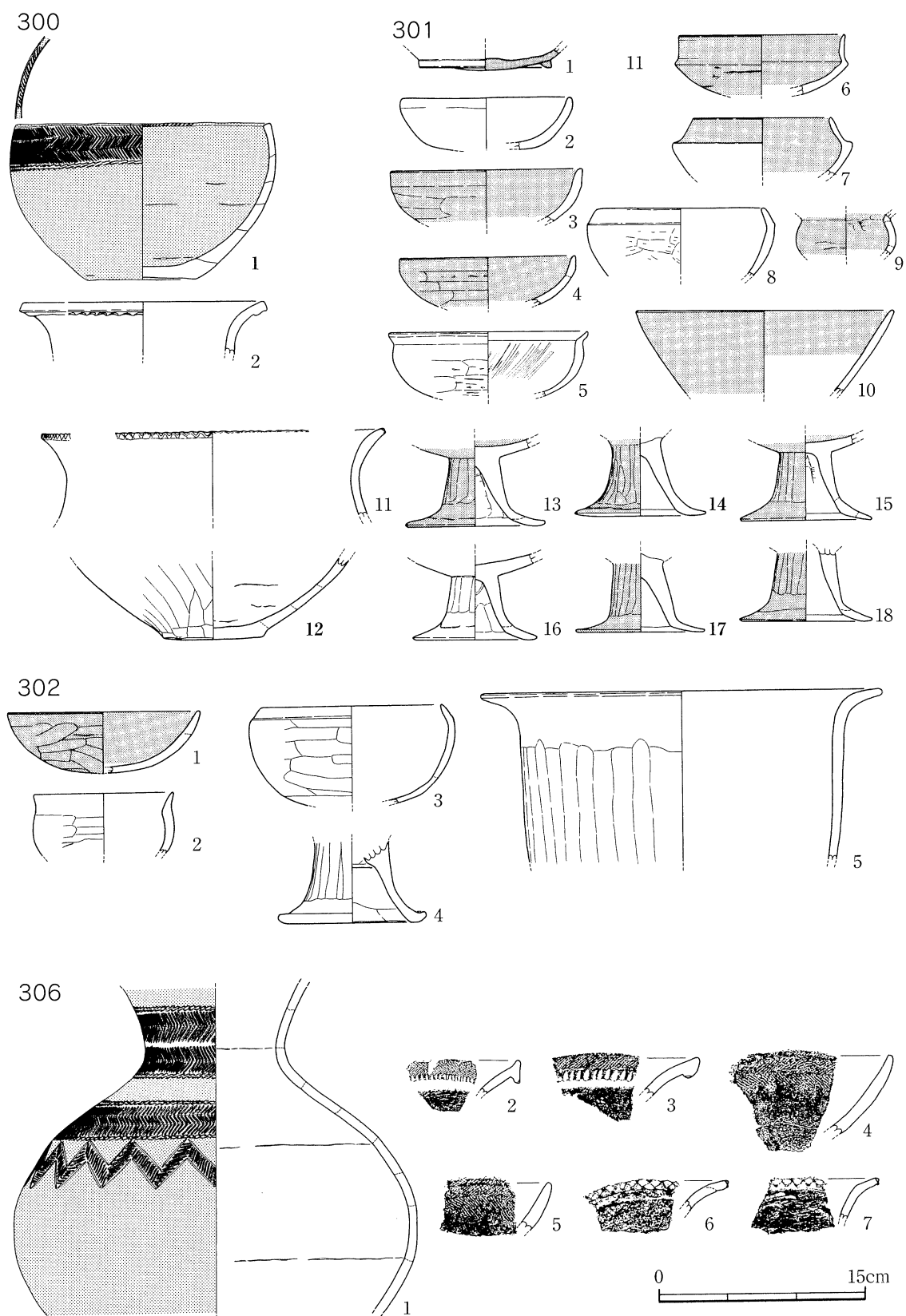
主軸2.7m以上、直交3.70m、深さ0.19mの円形で、主軸方位は西に9度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドL-18<19に位置する。北西を301号住居跡、西を299号住居跡に削平される。炉を含めて北西の半分近くをを299号住居跡、301号住居跡に削平される。南西に深さ13cmのピットがある。壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第115図）2点の土器を図示した。1は301号住居跡の壁際で出土した。完形の深鉢で、



第114図 300～302号住居跡と299号住居跡出土土器



第115図 300~302・306号住居跡出土土器

口唇に縄文、口縁下に結節で区画し羽状縄文を施す。施文部以外は内外を赤彩している。2は甕口縁部である。

土器以外の遺物として第156図19の軽石が出土している。

(274) 301号住居跡 第114図 図版39-5・7・8

主軸6.68m、直交6.62m、深さ0.29mの方形で、東に67度を測る。南東壁中央に140×115cmの張り出し部がある。

B地点2次調査区西、グリッドL-19に位置する。北東で314号住居跡、南東で300号住居跡を削平し、南で299号住居跡に削平され、北西302号住居跡に貼床される。

カマド（第140図）は北東壁やや右寄りに造られる。柱穴は四本柱全てを検出した。左の2本は底が2段になる。深さは左奥から右回りに53・54・61・50cm、柱間は奥370・右380・前380・左376cm。張り出し部内に70×80cm、深さ35cm。張り出し部前に55×75cm、深さ32cmの2基の貯蔵穴がある。壁溝は全周し張り出し部南西側にも延びる。その他の施設はない。

出土遺物（第115図）18点の土器を図示した。1は須恵高台付坏の底部破片。2は坏の破片。3・4は高杯杯部で、内外を赤彩。5は碗の破片。6・7は模倣坏破片で、7の外面上半を除き内外赤彩を赤彩している。8は碗。9は埴の胴部破片で、内外を赤彩。10は埴で頸部以下欠損、内外を赤彩。11は小波状口縁の甕の破片。12は底部。13～18は高杯脚部で、16を除き外を赤彩している。張り出し部前の貯蔵穴両側で、12の甕底部、14・17の高杯脚部が出土している。

土器以外の遺物として第145図12の管状土錘、第156図20の軽石が出土している。管状土錘は、張り出し内の貯蔵穴底から出土している。大形で側面が三角形に欠けている。

(275) 302号住居跡 第114図 図版40-3

主軸1.9m以上、直交4.00m、深さ0.06mの方形で、主軸方位は西に37度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドL-19に位置する。北西で306号住居跡と重複し、南西で301号住居跡に貼床する。301号住居跡上の貼床は弱く範囲は確認できなかった。

カマド（第140図）は北西壁中央に造られる。柱穴、壁溝その他の施設はない。

出土遺物（第115図）5点の土器を図示した。1は坏で底部中央を欠損、内外を赤彩。2・3は碗の破片。4は高杯脚部。5は甕で下部を欠損している。

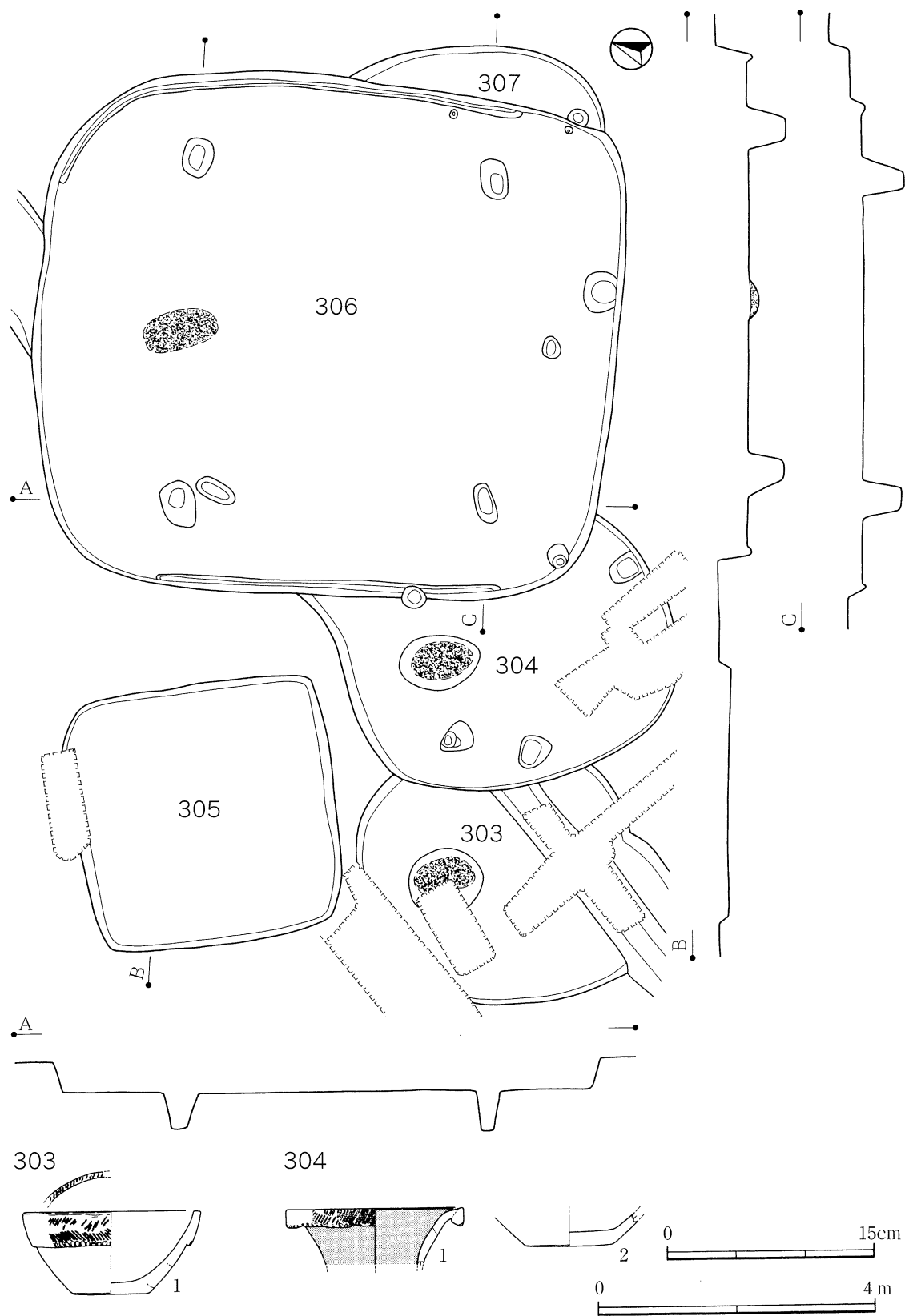
(276) 303号住居跡 第116図 図版40-4

主軸4.00m、直交3.8m以上、深さ0.13mの円形で、主軸方位は西に29度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドK-19に位置する。北東を304号住居跡、東を10号溝に削平される。北西、炉西、遺構中央に攪乱溝があり、斜めに10号溝が削平するため細部で不明瞭な部分がある。

奥壁から60cmに108×60cmの掘形に82×38cmの焼土の炉がある。西を一部攪乱される。南東304号住居跡内にある50×45cm、深さ20cmのピットが貯蔵穴の可能性はある。壁溝その他の施設は確認できなかった。

出土遺物（第116図）完形の鉢が出土している。折り返し部分と口唇に縄文を施す。



第116図 303～307号住居跡と303・304号住居跡出土土器

(277) 304号住居跡 第116図 図版40－5

主軸4.80m、直交3.7m以上、深さ0.25mの小判形で、主軸方位は西に34度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドK-19に位置する。南西で303号住居跡を削平し、北東を306号住居跡、中央を10号溝が削平する。遺構南側に攪乱溝が多く左前の柱穴が検出できなかった。また通常出入口ピットが存在する部分にも攪乱がある。

奥壁から70cmに、116×80cmの掘形に96×54cmの焼土の炉がある。柱穴は四本柱の内3本を検出した。深さは左奥から右回りに56・46・65cm、柱間は奥230・右216cm。南東壁際に45×37cm、深さ16cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設は確認できなかった。

出土遺物（第116図）2点の土器を図示した。1は壺の口縁破片で折り返した口縁に縄文と刻みを施し、内外を赤彩している。2は底部破片。

(278) 305号住居跡 第116図 図版46－6

主軸3.82m、直交3.83m、深さ0.20mの隅門方形で、主軸方位は西に27度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドK-19<20に位置する。北壁を一部攪乱される以外他の遺構との重複がないが、遺構内に炉を含め何の施設も存在しない。071・297号住居跡などが同様に遺構内に炉等のない遺構である。

(279) 306号住居跡 第116図 図版40－5・7

主軸8.42m、直交7.53m、深さ0.50mの縦長の小判形で、主軸方位は西に17度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドKL-19<20に位置する。南西で304号住居跡、北東で307号住居跡を削平する。他の遺構との重複は多いが遺構が深く、西で重複する10号溝は床面に至らず遺構の全てが確認できた。

奥柱穴間中央にやや西に向く106×56cmの炉がある。柱穴は四本柱全てを検出した。深さは左奥から右回りに50・52・58・58cm、柱間は奥500・右430・前470・左440cm。主軸上前壁から102cmに深さ18cmの出入口ピット。右に40×60cm、深さ16cmの貯蔵穴がある。壁溝は南西壁中央490cm、北東壁から北東コーナーにかけて約700cmの2カ所で検出した。南東部に小ピット2基があり同規模で壁からの距離もほぼ同じで対になって遺構内で機能していたのかもしれない。左奥柱穴の南に深さ24cmのピットがある。遺跡内の弥生期の住居跡で最大規模の大きさに攪乱も全くないにもかかわらず、出土遺物が少なかった。

出土遺物（第115図）7点の土器を図示した。1は壺で上下を欠損する。頸部に結節で上下を区画した中に縄文を4段に施文し、胴上部は結節の間に3段の縄文とその下は沈線による鋸歯状の中を縄文で埋める。外面は施文部以外を赤彩している。2・3は壺の口縁部。4・5は鉢の口縁部。6・7は甕の口縁部である。

(280) 307号住居跡 第116図 図版40－7

主軸3.7m以上、直交1.3m以上、深さ0.30mの楕円形で、主軸方位は西に21度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドL-20に位置する。西の大部分を306号住居跡に削平される。南東

に30×25cm以上、深さ20cmの貯蔵穴と思われるピットがあるほか壁溝その他の施設は確認できなかった。

(281) 308号住居跡 第117図 図版40－8

主軸3m以上、直交3.03m、深さ0.32cmの隅円方形で、主軸方位は西に5度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドK-20に位置する。北西で309号住居跡、北で310号住居跡と重複する。北西側が309号住居跡による削平のため不明。

前壁から175cmに116×85cmの掘形に73×48cmの焼土の炉がある。柱穴はない。主軸上前壁から50cmに深さ11cmの外傾する出入口ピットがある。その右に31×46cm、深さ14cmの貯蔵穴がある。壁溝その他の施設はない。遺構内部に幾つかのピットがあるが所属の判明しないものが多い。

出土遺物（第117図）3点の土器を図示した。1は台付甕の接合部で、脚内を除き赤彩。2は底部。3は甕胴部。炉東のピットから1の土器が出土している。位置、大きさから309号住居跡の貯蔵穴と考えられるピットで309号住居跡に所属する遺物である。炉の南で3の甕胴部が出土している。

(282) 309号住居跡 第117図 図版40－8

主軸3m以上、直交3.24m、深さ0.28mの隅円方形で、主軸方位は西に11度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドK-21に位置する。南東で308号住居跡、北東310号住居跡と重複する。308号住居跡との間にレベル差がほとんど無く新旧関係が不明瞭だが、実測原図に309号住居跡の南側に輪郭の推定線が書いてあることから調査中の土層観察などで新旧関係を見分けたと考えられる。また遺構の輪郭も308号住居跡がコーナーにやや丸みをもつものに対し、本遺構は明瞭なコーナーで新しい傾向が見られる。

奥壁から40cmに奥を310号住居跡の柱穴に削平された125×72cmの掘形に90×46cmの焼土の炉がある。南東部にある24×34cm、深さ18cmと、42×38cm、深さ17cmの2基が貯蔵穴と思われる。遺構内部に幾つかのピットがあるが所属の判明しないものが多い。壁溝その他の施設はない。

土器には特に図示すべきものはなかったが、308号住居跡1の土器が遺構に伴う遺物である。

土器以外の遺物として第156図21の軽石が出土している。

(283) 310号住居跡 第117図 図版41－1・2

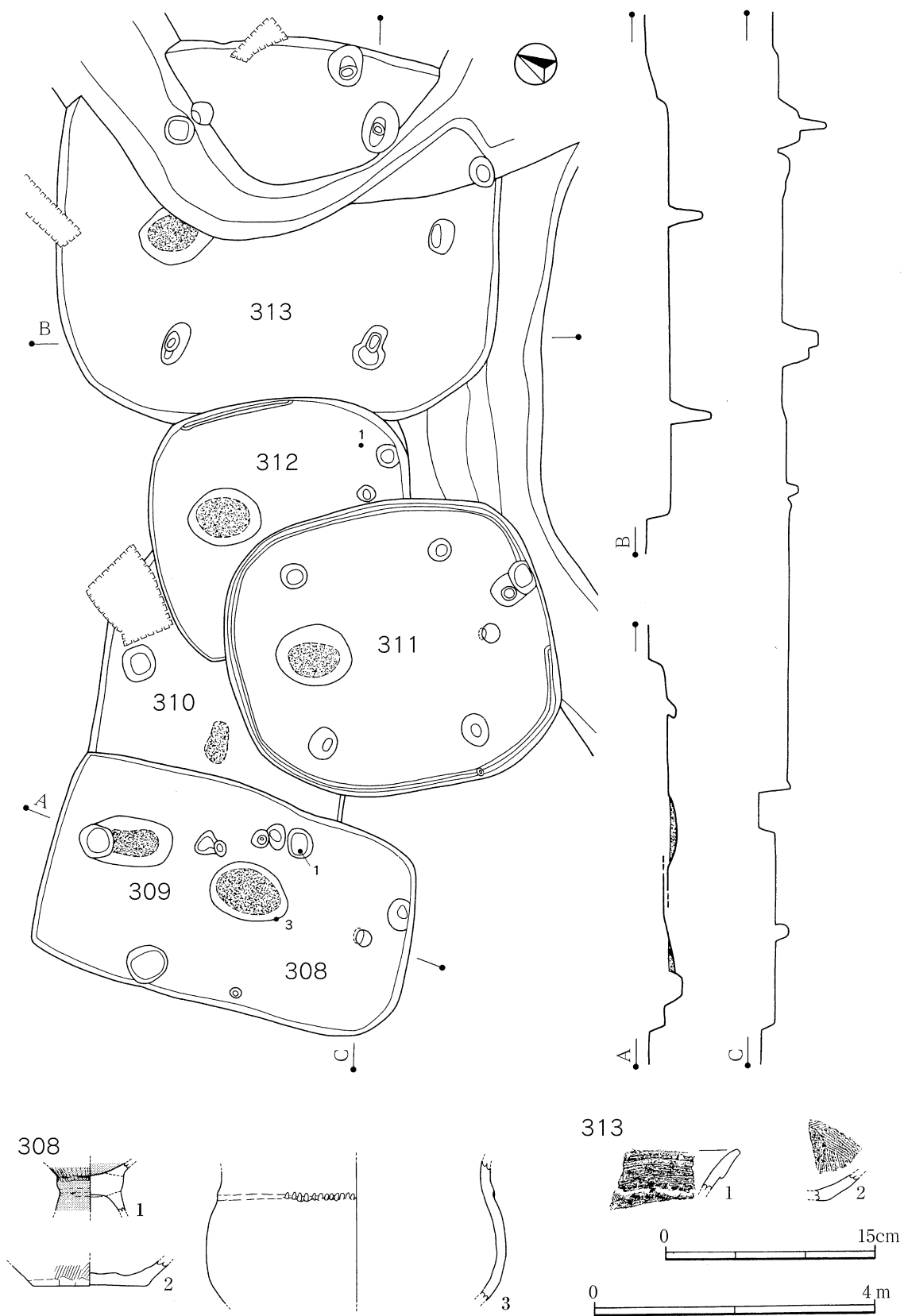
主軸3.76m、直交3.2m以上、深さ0.17mの隅円方形で、主軸方位は西に27度を測る。

B地点2次調査区西、グリッドK-21に位置する。南西で308・309号住居跡、北東で312・311号住居跡の重複する古い遺構の上で貼床を確認できず、遺構の輪郭をとらえることができなかった。

遺構のほぼ中央に、60×32cmの炉がある。粘土と焼土が混ざっていることから土製支脚があったものと考えられる。柱穴は、北西側に深さ34cm、37cmの2本を検出した。柱間258cm。対応する柱穴は308・311号住居跡内で検出できなかった。壁溝その他の施設は確認できなかった。

(284) 311号住居跡 第117図 図版41－1～3

主軸4.65m、直交4.18m、深さ0.46mの縦長の小判形で、主軸方位は西に38度を測る。



第117図 308～313号住居跡と308・313号住居跡出土土器